アダ　タガー　コヘン
Ada TAGGAR-COHEN

所属・職名	神学部神学科／神学研究科　教授 Faculty of Theology, Graduate School　Professor
研究分野	聖書学･古代近東･ユダヤ学 Hebrew Bible; Ancient Near Eastern studies; Judaism - History and religions
研究活動	Research group on “Jews and Judaism in Japan” at the CISMOR center, acting as a core member For research on the Hittites - traveling to the Oriental Institute at Chicago University, and the Hebrew University in Jerusalem
主要な業績（著作・論文・研究発表）	･Hittite Priesthood (Texte der Hethiter 26; Heidelberg: Winter Verlag) 2006 ･Hebrew Prepositions (Jerusalem: Academon), 2000. [English-Hebrew] 現代ヘブライ語テキスト:日本語を話す人々のための現代ヘブライ語:文章音読と会話練習、および文法解説、同志社大学、神学部　1-4 (2010-2012) ･Ed. CISMOR Conference on Jewish Studies: Proceedings of the Annual conference vol. 1-8 2004-2015 ･*Current Issues in Priestly and Related Literature: The Legacy of Jacob Milgrom and Beyond* (Resources for Biblical Study 82; Atlanta: SBL Press, 2015), ed. with Roy E. Gane
社会活動・その他	Society of Biblical Literature (SBL): Annual Meeting/ International Meeting - co-chair of Ritual in the Biblical world section
所属学会	Society of Biblical Literature (SBL,USA); National Association of Professors of Hebrew (USA); The Society of Near Eastern Studies in Japan (Japan); Japan Society of Jewish Studies (Japan); Japanese Association for Religious Studies (Japan); World Union of Jewish Studies (Israel); The Israeli Society for Assyriology and the Research of the ANE (Israel)
キーワード	Biblical Covenant、Hittite Priesthood、Modern Hebrew Prepositions

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104001/104001_Researcher.html
http://acohen.freya.weblife.me/mhw/index.html

エチ ゴ ヤ　アキラ
越後屋　朗

Akira ECHIGOYA

講演
研修
学術調査

所属・職名	神学部神学科／神学研究科　教授
研究分野	ヘブライ語聖書学（旧約聖書学）、古代イスラエル史、聖書考古学
研究活動	1. ヘブライ語聖書（旧約聖書）の成立過程の解明。ヘブライ語聖書は雪だるまのように時代を転がりながら今の形になりました。どのような層からなっているかを調べています。 2. ヘブライ語聖書に記されている内容の史実性の解明。本当に起こったことなのかどうなのかを主に考古学的資料を使って考察しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著作] (共著)『新共同訳　旧約聖書注解I』日本基督教団出版局、1996 (共著)『新共同訳　旧約聖書略解』日本基督教団出版局、2001 (共著)『聖書　語りの風景　−創世記とマタイによる福音書をひらいて−』キリスト新聞社、2006 [論文]「エフド物語（士師記3章12-30節）解釈　−エフドによるエグロン殺害状況についての一考察−」『基督教研究』70/2　17-33、2008
所属学会	旧約聖書学会、日本基督教学会、Society of Biblical Literature
キーワード	ヘブライ語聖書、旧約聖書、古代イスラエル、古代近東、考古学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/192001/192001_Researcher.html
http://theo.doshisha.ac.jp/education_research/teacher/echigoya.html

ハラ　マコト
原　誠

Makoto HARA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	神学部神学科／神学研究科　教授
研究分野	日本とアジアのキリスト教の歴史
研究活動	日本プロテスタント史を、東南アジアのキリスト教史との比較研究によってその特質を明らかにしようとします。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	著書『国家を超えられなかった教会−十五年戦争下の日本プロテスタント教会』（日本キリスト教団出版局、2005年）、共著『東南アジア史のなかの日本占領』「日本軍政とインドネシアのキリスト教」を執筆）（早稲田大学出版部、1997年）、監修『キリスト新聞で読む戦後キリスト教史』（キリスト新聞社、2003年）、共訳『アジア・キリスト教史（2）』（教文館、1985年）など。
所属学会	日本キリスト教学会、日本宣教学会、キリスト教史学会
キーワード	キリスト教、日本、アジア、歴史

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/194013/194013_Researcher.html
https://www1.doshisha.ac.jp/~mhara/

コ ハラ　カツヒロ
小原　克博

Katsuhiro KOHARA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	神学部神学科／神学研究科　教授
研究分野	キリスト教思想、宗教倫理、一神教研究
研究活動	病院の倫理委員会の委員長としての経験を生かし、生命倫理・医療倫理を論じたり、一神教が関係する神学的・政治的問題を論じてきました。また、京都・宗教系大学院連合（K-GURS）の共同設立者および議長（2013-15年）として、仏教・神道をはじめとする日本宗教および一神教の間の対話の促進に努めて、今も国内外の宗教間対話や平和活動にかかわっています。現在、同志社大学 良心学研究センター長として、人文社会系の学問と理系の境界を越えた実践的な研究ネットワーク作りに尽力しています。ICTを活用した教育にも長年取り組んでいます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『宗教のポリティクス−日本社会と一神教世界の邂逅』（晃洋書房）、『神のドラマトゥルギー——自然・宗教・歴史・身体を舞台として』（教文館）、『原理主義から世界の動きが見える——キリスト教・イスラーム・ユダヤ教の真実と虚像』（共著、PHP研究所）など
社会活動・その他	民医連中央病院 倫理委員会 委員長（2003年-）、京都・宗教系大学院連合（K-GURS）議長（2013-15年）
所属学会	American Academy of Religion、「宗教と社会」学会、宗教倫理学会、日本基督教学会、日本宗教学会
キーワード	キリスト教、宗教倫理、一神教、宗教、生命倫理、日本宗教、宗教間対話、良心、ICT

http://www.kohara.ac
https://www.youtube.com/user/kkohara
http://ryoshin.doshisha.ac.jp

ミヤケ　タケヒト
三宅　威仁

Takehito MIYAKE

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	神学部神学科／神学研究科　教授
研究分野	宗教哲学、宗教社会学
研究活動	現代の主に英語圏の宗教哲学・宗教社会学が研究分野です。近年は特に改革派認識論や哲学的有神論や神義論を研究対象としています。改革派認識論は証拠に基礎付けられずに抱かれたキリスト教的諸信念の合理性を弁証する学派です。哲学的有神論はベイズ確率論を用いて神の存在を帰納的に論証する哲学的・自然神学的営為です。神義論はこの世界に存在する悪を踏まえながら神の全知全能性と善性を弁護する理論です。こうした思想動向を社会的・文化的コンテキストに位置付け、欧米の思考パターンの一典型として理解することを目指しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	〔論文〕 「宗教的哲学としての改革派認識論――有神論的信念の認識論的地位を巡って――」『基督教研究』第65巻第1号、2003年9月 「ピーター・L・バーガーにおける社会学から神学への道」『基督教研究』第56巻第2号、1995年3月 「後期ハイデガーの思索における『神』の問題」『基督教研究』第45巻第2号、1983年8月
所属学会	日本基督教学会
キーワード	宗教哲学、宗教社会学、改革派認識論、哲学的有神論、神義論

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/194014/194014_Researcher.html

モリヤマ　テルアキ
森山　央朗

Teruaki MORIYAMA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	神学部神学科　准教授
研究分野	西アジア、ムスリム社会史
研究活動	中世西アジア・ムスリム社会におけるウラマー（イスラーム宗教知識人）、特に、ハディース（預言者ムハンマドの言行に関する伝承）を専門的に取り扱うハディース学者の知的実践と社会的影響力を社会史的に研究しています。あわせて、現代中東・イスラーム諸国の社会、文化、政治の動向にも目を配り、ウラマーとイスラーム主義者の政治的・社会的影響力とその背景を分析しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「イスファハーンの2篇の「歴史」:ハディース学者が同じような著作を繰り返し編纂した理由」『東洋史研究』72-4（2014年） 「シリアのプレ・モダンな社会構造とポスト・モダンな状況:名望家の持続と変質」平成25年度外務省外交・安全保障調研究事業（総合事業）『グローバル戦略課題としての中東:2030年の見通しと対応』、公益財団法人日本国際問題研究所（2013年）
社会活動・その他	2015年4月から日本中東学会事務局長 『日本経済新聞』の連載コラム「中東:解けないパズル」（2）で、チュニジアとエジプトの状況を分けた要因についてコメント（2014年12月12日） 千葉県野田市南部 梅郷公民館主催事業「平成 24 年度梅郷ふれあい大学」第1回講演「中東・イスラーム諸国が抱える問題と背景にある歴史と文化」
所属学会	日本中東学会、歴史学研究会、北米中東学会、史学会、日本イスラム協会、日本オリエント学会
キーワード	西アジア古典ムスリム社会、イスラーム宗教諸学、ハディース学、ウラマー、ハディースの徒、地方史人名録

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113018/113018_Researcher.html

ムラカミ　ミカ
村上　みか

Mika MURAKAMI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	神学部神学科　教授
研究分野	歴史神学、宗教改革史
研究活動	宗教改革の歴史と神学を研究の対象としています。ルターやカルヴァンの神学がどのような歴史的、神学的な背景のもとに形成されたのか、そのプロセスを追い、その意義を検証することを試みています。 一方、宗教改革急進派にも関心をもち、とくに再洗礼派の中から近代社会の成立に大きな影響を与える思想が生み出されていくことに注目し、その思想の形成について検証することを行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著作]『ヨーロッパ宗教改革の連携と断絶』(共著)森田安一編、 教文館 2009年 (「神学領域における宗教改革研究―その歴史的視点の欠如―」) 『牧師とは何か』(共著) 越川･松本編、日本基督教団出版局　2013年 (「歴史的に見た牧師像―宗教改革期を中心に」) [論文]「『歴史的』ルター研究の提唱:ゲルハルト･エーベリンク」 『基督教研究』第71巻第1号、2009年。 「メノ･シモンズにおける『国家と教会』―宗教改革期における政教分離思想の萌芽―」『人文学と神学』第8号、2015年。
社会活動・その他	日本基督教学会学会誌編集委員
所属学会	国際ルター学会、日本基督教学会、日本ルター学会、キリスト教史学会、西洋中世学会、宗教改革史研究会
キーワード	宗教改革、歴史、神学、ルター、カルヴァン、再洗礼派

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115003/115003_Researcher.html

ムラヤマ　モリヨシ
村山　盛葦

Moriyoshi MURAYAMA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	神学部神学科　准教授
研究分野	新約聖書学
研究活動	最初期のキリスト教をギリシア･ローマ世界の文化的、社会的文脈から考察します。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	共著に『聖書　語りの風景―創世記とマタイ福音書をひらいて』石川立他編(キリスト新聞社、2006年)、『牧師とは何か』越川弘英他監修(日本キリスト教団出版局、2013年)。論文に「シリア･フェニキアの女(マルコ7:24-30)についての一考察―イエスのユーモアの観点から―」(『基督教研究』2012年12月)、「コリント教会の聖餐と饗宴(シンポジウム)」(『基督教研究』2013年6月)、など。
社会活動・その他	日本キリスト教団正教師。
所属学会	日本新約学会、米国聖書文書学会、関西新約聖書学会
キーワード	新約聖書、イエス、パウロ、初期キリスト教、ギリシア･ローマ世界

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107026/107026_Researcher.html

ナカ ノ　ヤスハル
中野　泰治

Yasuharu NAKANO

講演
学術調査

所属・職名	神学部神学科　助教
研究分野	近現代の英米のキリスト教、クエーカー研究
研究活動	専門は近現代の英米のキリスト教史、およびクエーカー（フレンド派）の歴史・思想研究です。17世紀半ばから現代までのクエーカー神学における「自己」概念の変遷を辿り、20世紀以来の自由主義クエーカーの思想的特性を分析。また現在は、英米を中心とする英語圏のキリスト教における自由主義の歴史的発展と現状、その可能性と限界について「自己」と「共同体」という視点から研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「クエーカーの普遍贖罪論における自由意志の問題―R. バークレーのApology（『弁明』）を中心に―」（『基督教研究』、2005年） 'Elizabeth Bathurst's Soteriology and a List of Corrections in Several Editions of Her Works', Quaker Studies, 2008 「クエーカー研究における新ヘーゲル主義的前提について―self概念を巡るBarclay神学の評価―」（『ピューリタニズム研究』、2012年）など
所属学会	イギリス革命史研究会、日本ピューリタニズム学会、日本基督教学会
キーワード	英米のキリスト教史、クエーカー研究、キリスト教と自由主義、キリスト教と近現代日本思想

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112009/112009_Researcher.html

シ ノヘ　ジュンヤ
四戸　潤弥

Junya SHINOHE

講演
研修
コンサルティング
学術調査

所属・職名	神学部神学科／神学研究科　教授
研究分野	イスラーム学、イスラーム法、アラビア語文法学
研究活動	東アジア儒教圏（日本、中国、韓国）におけるイスラーム受容、イスラーム金融論を研究テーマとしてきましたが、過去2年以来、新たに、聖典『クルアーン』の構造分析を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	単著『現代アラビア語入門講座』（上巻、下巻）、『イスラーム世界とつきあう法-日常世界の法分析-』 共著『イスラーム信仰と現代社会』、『宗教における死生観と超越』 論文「イスラーム信仰の主体的構造」、「中国人陽明学左派思想家「李卓吾」とイスラーム」、寄稿「カリフ制とアラブの政治均衡の意味」、「ファーティハ章の構造的理解」など
社会活動・その他	2015/4/30～5/2　“Islamic Criminal Law Conference (Istanbul Medeniyet Univ., Sebahattin Zaim Univ, and the International Jurists Union)
所属学会	日本宗教学会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103032/103032_Researcher.html

トミ タ　ケン ジ
富田　健次

Kenji TOMITA

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	神学部神学科／神学研究科　教授
研究分野	地域研究(現代イラン研究)
研究活動	シーア派イスラームとイラン、その政治と宗教、対外関係、ならびに近代西欧の価値観とシーア派イスラームの相対化研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「アーヤトッラーたちのイラン－イスラーム体制の矛盾と展開」1993年、第三書館 R･M･ホメイニー著「イスラーム統治論･大ジハード論」翻訳と解説、2003年 「世界の教科書シリーズ22、イランのシーア派イスラーム学教科書」翻訳、2008年 「同上シリーズ36、イランのシーア派イスラーム学教科書」翻訳2012年 世界史リブレット人「ホメイニーイラン革命の祖」山川出版社2014年12月
社会活動・その他	同志社大学　東京講座 日本オリエント学会、第 51 回2009年次大会実行委員長 日本中東学会　第31回年次大会2015年5月16日･17日　実行委員長 千葉県市原市　国際交流協会　国際理解講座にて講演　「アラブの春か、イスラームの目覚めか?－イランの立場と視点 －」, 2015年11月29日 市原市にて
所属学会	The Society for Iranian Studies、日本オリエント学会、日本中東学会、日本国際政治学会
キーワード	イラン、シーア派、イスラーム、近代西欧

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103034/103034_Researcher.html

アカマツ　ノブヒコ
赤松　信彦

Nobuhiko AKAMATSU

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授
研究分野	英語教育、心理言語学
研究活動	心理言語学を専門としています。外国語学習を研究対象として、読解習得や語彙習得について研究しています。特に、日本人が英語を学ぶ場合、母語である日本語がどのような影響を与えるのかについて興味があり、日本人にとって効率的かつ有効的な英語学習法について研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書] Handbook of orthography and literacy. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum. 2006.(共著) Second language writing systems. London, UK: Multilingual Matters. 2005.(共著) [論文] The effects of word-recognition training on automatization in English as a foreign language. Applied Psycholinguistics, 29, 175-193. 2008.(単著) The effects of first-language orthographic features on second-language reading in text. Language Learning, 52, 207-231. 2003.(単著)
所属学会	関西英語教育学会、大学英語教育学会、小学校英語教育学会、日本教育心理学会、アメリカ応用言語学会
キーワード	英語教育、語彙学習、読解習得

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/100005/100005_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~nakamats/index.html

アキシノ　ケンイチ
秋篠　憲一

Kenichi AKISHINO

講演

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授
研究分野	中世英国ロマンス（騎士道物語）
研究活動	中世英国で人気を博したpopular romance（民衆的ロマンス）を研究しています。中世の人々の想像力の世界を知り、それぞれの作品の典拠となったテキストとの比較により、英国中世ロマンスの特徴を明らかにしたいと思います。作品としては、Auchinleck写本およびCodex Ashmole 61写本に収められている作品を取り扱っています。また特に人気があったアーサー王ロマンスも研究対象とし、キリスト教、騎士道、宮廷風恋愛の関係についても研究しています。研究成果は、学会、学術雑誌等で発表しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文] 「Amilounと"an euentour strong"」『中世英文学への巡礼の道』277-91 1993「Athelstan王のSir Guy of Warwickへの弔詞」『同志社大学英語英文学研究』79 1-22 2006「クレチアン・ド・トロワ作『荷車の騎士』の変容」『同志社大学英語英文学研究』89 1-38 2012「王妃グウィネヴィアの最期–マロリーと二つの原拠」『主流』75 1-24 2013
所属学会	日本中世英語英文学会、日本英文学会
キーワード	ロマンス、宮廷風恋愛、アーサー王と円卓騎士団、キリスト教

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/178006/178006_Researcher.html

デイビッド　チャンドラー
David John CHANDLER

講演
コンサルティング
学術調査
コメンテーター
日本の諸オペラ関係機関との連携

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授
研究分野	英国ロマン派文学、英国オペラ・ミュージカル、イタリア後期ロマン派オペラ
研究活動	英国ロマン主義の文学と文化を中心に研究をしてきました。近年は、主に英国およびイタリアのオペラやミュージカルを、とくに「ハイ・カルチャー」と大衆文化の関係性や、より広い文化システムにおける位置づけといった観点から分析しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	1) "'What means this wild, this allegorick Mask?': British Anticipations of Romantic Opera c. 1740" in *British Romanticism in European Perspective: Into the Eurozone*, ed. Tristanne Connolly and Steve Clark (Palgrave, 2015), 174-92 [essay in book]. 2) *Americans on Italo Montemezzi* (Durrant Publishing, 2014) [edited book]. 3) "'The Athens of England': Norwich as a Literary Center in the Late Eighteenth Century," *Eighteenth-Century Studies* 43/2 (winter 2010), 171-92 [journal article].
社会活動・その他	Trustee, Wordsworth Conference Foundation Director, Japan Association of English Romanticism Editorial Board, Essays in English Romanticism Director, Retrospect Opera
所属学会	Dickens Fellowship of Japan, George Borrow Society, Japan Association of English Romanticism.
キーワード	ロマン主義、文学、詩、演劇、ミュージカル、オペラ、英国

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/102004/102004_Researcher.html
http://www.davidjchandler.co.uk/

エングツ　カツヒロ
圓月　勝博

Katsuhiro ENGETSU

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授
研究分野	初期近代イギリス文学、英米詩
研究活動	ミルトン、バニヤン、ドライデンを中心に、西洋文化の根幹にある宗教や政治にも特別な注意を払いながら、ルネサンスから啓蒙主義にいたるイギリス近代文学を研究しています。さらに、日本現代文学にも大きな影響を与えた20世紀詩人であるT. S. エリオットやW. H. オーデンを手がかりにして、英米詩の現代的意義についても研究をしています。最近は、大学教育に関する学術活動もしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]『モダンにしてアンチモダン―T. S. エリオットの肖像』(研究社、2010、共著) 『イギリス王政復古演劇案内』(松柏社、2009、編著) A Concise Companion to Milton (Blackwell, 2007, 共著) The Cambridge Companion to John Dryden (Cambridge UP, 2004, 共著) 『学生と楽しむ大学教育』(ナカニシヤ出版、2013)
社会活動・その他	日本私立大学連盟FD推進ワークショップ運営委員会委員長 大学基準協会基準委員会委員長 京都三大学教養教育運営協議会専門委員 文部科学省　英語力評価及び入学選抜における英語の資格検定試験の活用促進に関する連絡協議会委員 関西大学外部評価委員、中央大学外部評価委員
所属学会	日本ミルトン協会、バニヤン国際学会、十七世紀英文学会、T.S.エリオット協会、日本英文学会、大学教育学会
キーワード	英米詩、イギリス近代文化、ルネサンス、ピューリタニズム、啓蒙主義、大学教育

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/182009/182009_Researcher.html

フジ イ　ヒカル
藤井　光

Hikaru FUJII

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科　准教授
研究分野	現代アメリカ文学の研究および翻訳
研究活動	1980年代から21世紀にかけてのアメリカ文学を中心に、アイデンティティの問題を研究しています。主なテーマとしては、(1)アメリカ作家たちが描こうとする「アメリカ」の姿を、時間と空間という枠組みから理解すること、(2)アメリカの外に生まれ、英語で創作する作家たちが、ハイブリッドな自己のありようをどのように描き出そうとしているのか、という二つがあります。また、アメリカ小説を中心にした翻訳活動の実践と並行して、翻訳理論の研究も行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	(単著)Outside, America: The Temporal Turn in Contemporary American Fiction. New York and London: Bloomsbury, 2013. (共著)「災害の「いま」をめぐって――アメリカと物語・戦争・動物」『災害の物語学』中良子編、世界思想社、2014年。(論文)「十字路とアメリカ:リチャード・パワーズと多和田葉子における「交点」の文学について」『れにくさ』(東京大学現代文芸論研究室)5-2号(2014年)、その他。
社会活動・その他	文芸誌『早稲田文学』の編集委員を務めているほか、翻訳の紹介を中心として、文芸誌『新潮』『文學会』『GRANTA Japan』などに寄稿しています。海外作家を招いてのトークイベント、日本語作家とのトークイベントのほか、英語学習雑誌、新聞、NHKラジオテキストへの寄稿、文庫本の解説などを執筆しています。
所属学会	日本英文学会、日本アメリカ文学会、日本アメリカ学会
キーワード	現代アメリカ文学、アイデンティティ、移民・難民、文芸翻訳

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/109018/109018_Researcher.html

ハヤシ　イ チ ロウ
林　以知郎

Ichiro HAYASHI

講演
研修
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授
研究分野	植民地時代から19世紀前半に至るアメリカ文学
研究活動	植民地時代から19世紀前半に至るアメリカ文学・文化を研究テーマとしています。文学作品、特に歴史ロマンスと呼ばれる散文物語を中心に、政治・社会・宗教文脈の上に位置づけて捉える、いわゆる文化文脈的なアプローチをとります。したがって、研究拠点は文学部英文学科とともに、本学における地域研究機関であるアメリカ研究所での研究活動に長くかかわってきました。大学以外の領域においても地方自治体職員研修セミナーや講演会での講師も務めています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	編著書　『独立の時代ーアメリカ古典文学は語る』(世界思想社、2009年)、『葛藤する米英文学ー表象と生のはざまで』(南雲堂、2004年) 論文　「難船体験とアメリカとの遭遇」、『災害の物語学』(世界思想社、2015年)
所属学会	アメリカ学会、日本アメリカ文学会、日本英文学会
キーワード	アーリー・アメリカン、ジェイムズ・フェニモア・クーパー、ジャクソン時代、歴史ロマンス、海洋小説、ピューリタニズム

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/175009/175009_Researcher.html

イシヅカ　ノリ コ
石塚　則子

Noriko ISHIZUKA

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授
研究分野	19世紀―20世紀アメリカ文学
研究活動	近代化とともにアメリカが大国として発展していく19世紀―20世紀前半の小説を中心に、その社会変化や文化的特徴がどのようにテクストに反映しているかを研究しています。女性作家の作品とフェミニズム、20世紀転換期の小説とモダニティ、文学市場の発達と活字メディアとしての文学作品などが主な研究テーマです。現在は女性作家の創作と私的・公的空間の創出を世紀転換期に発展していく建築との関係性から考えています。アメリカ文学作品を社会や文化のダイナミズムの文脈で捉え直す学際的な試みもしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	(論文)「ウォートンの著述業と建築ー作家としての自己形成と家づくり」『同志社大学英語英文学研究』94(2014):35−65 (論文)「ウォートンの過去を振り返るまなざしー最後の幽霊物語「万霊節」」『アメリカ文学における「老い」の政治学』松籟社　55−76頁　2012年 (論文)「シャーロット・パーキンス・ギルマンのメディア戦略ー雑誌『フォアランナー』とユートピア小説『ハーランド』ー」『メディアと文学が表象するアメリカ』英宝社　97−120頁　2009年
所属学会	日本アメリカ文学会、日本アメリカ学会、日本英文学会、MLA、Edith Wharton Society
キーワード	アメリカ文学、19世紀ー20世紀、フェミニズム、アメリカ文化、活字文化

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/193003/193003_Researcher.html

カナ ツ　カズ ミ
金津　和美

Kazumi KANATSU

講演

所属・職名	文学部英文学科　准教授
研究分野	イギリス・ロマン派及び18世紀研究
研究活動	18世紀末～19世紀初頭は出版文化における、John Clare、James Hoggを始めとする農民詩人・労働者階級詩人の著作活動を研究対象としています。*London Magazine*や*Blackwood's Edinburgh Magazine*を始めとした文芸誌を中心に、ClareやHoggといった農民詩人とロンドン及びスコットランドの文壇との複雑な関係を考察。特に太平洋横断的な思想の環流を視野を入れるとともに、イギリス・ロマン派研究において重要性を増す環境批評の観点から、ClareやHoggを中心とした農民詩人を再評価することを目的としています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	共著:「『ピーターの手紙』におけるスコットランド啓蒙主義とイギリス・ロマン主義」『十八世紀イギリス文学研究――共鳴する言葉と世界:第5号』(日本ジョンソン協会　編)　東京　開拓社　2014年7月　163-180 共著:「分身――ジェイムズ・ホッグと芥川龍之介」『幻想と怪奇の英文学』東京　春風社　2014年4月　28-53 編集および解説:『スコットランドの旅――18-19世紀旅行記・案内書コレクション復刻集成』　ユーリカ・プレス　2012年
所属学会	イギリスロマン派学会、日本カレドニア学会、日本ジョンソン協会、日本スコットランド協会、日本英文学会
キーワード	18・19世紀の英文学・文化、環境思想

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103008/103008_Researcher.html

カナヤ　マスミチ
金谷　益道

Masumichi KANAYA

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科　教授
研究分野	英米小説研究、芸術創作理念研究
研究活動	19･20世紀イギリス小説、リアリズムなどの創作理念、創作理念と認識論哲学との関係性、文学と音楽の関係性、Sister Arts論などの研究をしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]「マーガレット･シュレーゲルと『おぞましきもの』―『ハワーズ･エンド』における動物性の問題」『英国小説研究　第25冊』(共著)英宝社　2015 「血と病と男たちの欲望―トマス･ハーディ『グリーブ家のバーバラ』の彫像」『幻想と怪奇の英文学』(共著)春風社　2014 [論文]「"A Faithful Artist"それとも"an Ironist"?―ハーディとポストモダニズム」『ハーディ研究』　2010
所属学会	日本英文学会、日本ハーディ協会、日本ブロンテ協会、同志社大学英文学会
キーワード	イギリス小説、創作理念、英米の音楽、英米の映画

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/195017/195017_Researcher.html

カツヤマ　タカユキ
勝山　貴之

Takayuki KATSUYAMA

講演
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授
研究分野	ルネッサンス英国演劇、シェイクスピア
研究活動	近代初期の英国演劇、特にシェイクスピア演劇を研究しています。当時の地図製作の過程を辿ることにより、権力者の思惑と演劇の関係を考察してきました。また、東地中海におけるイスラム教世界が、当時の英国演劇の中にどのように描き出されたかに関心を持ち、東方旅行記を解読する研究も進めています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	著書『英国地図製作とシェイクスピア演劇』(福原記念英米文学賞受賞)英宝社2014.、論文「王の奇跡と『マクベス』」『シェイクスピア時代の演劇世界―演劇研究とデジタルアーカイヴズ』、九州大学出版会2015.、論文「『アントニーとクレオパトラ』とエジプト―近代初期英国におけるエジプト表象」『主流』第75号　2013.、論文「歴史劇と初期資本主義経済―*Richard II*における"property,""credit,""bankruptcy"―」、*Shakespeare News* Vol. 53 No.1 2013.
所属学会	日本英文学会、日本シェイクスピア協会、関西シェイクスピア研究会
キーワード	シェイクスピア、英米演劇、ポスト･コロニアル批評、16世紀イスラム教世界、ルネッサンス期東方旅行記、新歴史主義批評、16･17世紀英国地図、ミュージカル批評

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/188001/188001_Researcher.html

カワシマ　タケシ
川島　健

Takeshi KAWASHIMA

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科　准教授
研究分野	英文学
研究活動	20世紀イギリス演劇 20世紀アイルランド文学 文学理論 BBC(British Broadcasting Corporation)研究
主要な業績(著作・論文・研究発表)	単著『演出家の誕生――演劇の近代とその変遷』(彩流社) 単著『ベケットのアイルランド』(水声社) 共編著『ベケットを見る八つの方法――批評のボーダレス』(水声社) 共編著『サミュエル・ベケット!――これからの批評』(水声社)
社会活動・その他	日本英文学会関西支部　会計監査 東京工業大学外国語研究教育センターFLC 言語文化論集『ポリフォニア』外部査読委員 『文芸ひろしま』　小説・シナリオ部門審査員 日本英文学会中国四国支部　事務局長 International Samuel Beckett Symposium Tokyo 2006 at Waseda 事務局 東大比較文学会『比較文学研究』　書評委員
所属学会	International Federation for Theatre Research, International Comparative Literature Association
キーワード	イギリス文学、イギリス演劇、アイルランド演劇、アイルランド文学、20世紀、BBC、ラジオ、メディア

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114007/114007_Researcher.html

キク タ　チ ハル
菊田　千春

Chiharu KIKUTA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授
研究分野	言語学、統語論、認知言語学
研究活動	言語の変化のメカニズムを理論的な視点から分析することを研究テーマにしています。具体的な言語現象としては、複合述語の形成と意味変化、日本語の格表示の変化などを分析しています。もともとHPSGという統語理論を使った分析をしていましたが、近年はそれと関連性の深い構文文法の枠組みを用いて、言語の変化の裏に潜むを多角的に明らかにしようと試みています。研究の成果は学会発表や論文として公開しています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	[著書]Complex Predicates in Japanese, Garland, 1994.、『現代の言語学』(共著)金星堂, 1996.、『大学生のための論理的に書き、プレゼンする技術』(共著)東洋経済新報社, 2006.、『現代英語学へのアプローチ』(共著)英宝社, 2014.、『英語学パースペクティヴ』(共著)南雲堂, 2015. [論文]「複合動詞テミルの非意志的用法の成立:語用論的強化の観点から」『日本語文法』11巻2号 43-59, 2011. 、「テミル条件文にみられる構文変化の過程」『認知言語学論考』 No. 11, 163-198, 2013.
所属学会	アメリカ言語学会、日本英語学会、日本言語学会、日本認知言語学会、日本語文法学会、関西言語学会
キーワード	認知言語学、構文、言語変化

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/195016/195016_Researcher.html

リオ　J．ラヴデイ
Leo J.
LOVEDAY

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授 Faculty of Letters, Department of English / Graduate School of Letter　Professor
研究分野	applied linguistics; sociolinguistics; onomastics、; anthropological linguistics、
研究活動	I have published 20 books (4 of my own) and numerous papers in academic journals. I have given seven presentations at international conferences. I am on the scientific board of the committee for organizing the 2015 conference at Craiova University (Romania) : Comparativism, Identity and Communication (2015).
主要な業績（著作・論文・研究発表）	BOOKS: 1.CONTEXTUAL IDENTITIES: A COMPARATIVE AND COMMUNICATIONAL APPROACH（共著）　Cambridge Scholars Press.2015 LANGUAGE CONTACT. Oxford U Press.1996.(単著) EXPLORATIONS IN JAPANESE SOCIOLINGUISTICS（単著） Amsterdam: John Benjamins　1986 THE SOCIOLINGUISTICS OF LEARNING AND USING A NON-NATIVE LANGUAGE（単著）　Oxford: Pergamon Press　1982
社会活動・その他	American Name Society International Association for Semiotic Studies
所属学会	American Name Society
キーワード	sociolinguistics、onomastics、discourse analysis、identity politics、im/politeness、Japanese minorities

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/181011/181011_Researcher.html

ナカ イ　サトル
中井　悟

Satoru NAKAI

講演
研修

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授
研究分野	理論言語学、心理言語学、神経言語学
研究活動	MITのNoam Chomskyによって提唱された生成文法を研究テーマとしています。Chomskyは言語学は自然科学であり、自然科学と同じ方法で研究すればよいと言っています。本当に言語学は自然科学と同じ方法で研究できるのか、科学哲学の観点から生成文法の方法論を検討してきました。現在は、人間の言語処理（人間は脳内でどのように言語を産出したり理解しているのか）という脳内にある文法と脳の言語処理機構の関係を研究しています。また、生成文法理論の枠組み内での日本語の文法の研究も長年の研究テーマです。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	単著 『言語学は自然科学か―生成文法の方法論―』昭和堂1999年、『言語の生得性とモジュール性―誰も覚えていない言語獲得の秘密―』昭和堂2008年 共著書 『現代言語学序説』山口書店1984年、『現代英語学要説』南雲堂1987年、『生成文法を学ぶ人のために』世界思想社2004年、『英語学パースペクティヴ』南雲堂2015年
社会活動・その他	特になし
所属学会	日本英語学会、日本言語学会、日本認知科学会、言語科学会、関西言語学会
キーワード	生成文法、心理言語学、神経言語学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/173008/173008_Researcher.html

ノ トハラ ヨシユキ
能登原 祥之

Yoshiyuki NOTOHARA

学術調査

所属・職名	文学部英文学科　准教授
研究分野	英語教育学、コーパス言語学
研究活動	英語母語話者コーパス、学習者コーパス、教科書コーパス、各種コーパスを利用した調査をふまえ、現在の英語教育の教育内容を改めて見直す研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	赤野一郎・堀正広・投野由紀夫（編著）『英語教師のためのコーパス活用ガイド』（共著）大修館書店、2014、話し言葉に見られる典型的なイベントスキーマと文型『中国地区英語教育学会研究紀要』No.44 107-116 2014、中学校の英語教科書に見られるイベントスキーマと文型、『中国地区英語教育学会研究紀要』No.41 11-20、2011、日本人英語学習者のイベントスキーマと文型への親密度 - JEFLL Corpus の分析を通して -『英語コーパス研究』No17、33-48、2009
所属学会	英国応用言語学会、英語コーパス学会、日本認知言語学会、全国英語教育学会
キーワード	学習者コーパス、教科書コーパス、CEFRレベルの基準特性

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112010/112010_Researcher.html

オオヌマ ユ フ
大沼 由布

Yu ONUMA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科　准教授
研究分野	中世英文学
研究活動	専門分野は中世英文学で、10～15世紀の英文学のなかで、ギリシア・ローマ文学がどのように受け入れられ、使われてきたかに関心があります。最近では、特に、中世の人たちが「驚異」や超自然現象をどのように認識していたかについて研究しています。ヨーロッパ中世の人たちにとって、異世界に等しい遠方の地であった東方には、特にそういった不思議が満ち溢れていると想像されていたため、現実・架空双方の旅行記や地理誌、当時の知識の結晶である百科事典や博物誌などを主な研究対象としています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	論文:“Through the Eyes of Travellers: Classical and Medieval Views of Exotic Marvels.” *Studies in Medieval English Language and Literature* 27 (2012): 59-78. 「マンデヴィルと旅行記」、『中世イギリス文学入門』、髙宮利行・松田隆美編（雄松堂、2008）、139-41頁 発表:「英仏版*Mandeville's Travels*とイングランド像」日本英文学会第87回全国大会 シンポジウム「中世イングランド文学におけるフランス」2015年 “Literary Migration of the Amazons through Contact Zones.” 第9回日独先端科学シンポジウム 2012年
所属学会	日本中世英語英文学会、日本中世英語英文学会西支部、日本英文学会、西洋中世学会
キーワード	中世英文学、旅行記、古典の受容、驚異、博物誌、百科事典

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/109017/109017_Researcher.html

ルーク　ヘネシー　ローランド
Luke Hennessy ROWLAND

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科　助教 Faculty of Letters, Department of English　Assistant Professor
研究分野	Social semiotics; Applied linguistics; TESOL
研究活動	1) Language on public signage and 2) the discursive representation of international sports teams online.
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Rowland, L.H. (2015). Examining the “Tools of the Trade”: A Knowledge Process Approach to Materials Analysis and Materials Evaluation. In W. Cope & M. Kalantzis (Eds.), A Pedagogy of Multiliteracies. Basingstoke; Palgrave Macmillan.
キーワード	linguistic landscapes、sports、discourse

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/english/researchersHtml/115137/115137_Researcher.html

サイトウ　ノブヨシ
斉藤　延喜

Nobuyoshi SAITO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授
研究分野	イギリス小説研究
研究活動	「19世紀イギリス小説研究――表象文化の歴史学に向けて――」という統一テーマのもと、研究論文発表、その他を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Nobuyoshi Saito, “The Disappearance of the Real: Obscurity in *Jude the Obscure*”『同志社大学英語英文学研究』95号[2015]17-68頁.) Nobuyoshi Saito, “‘Within’ and ‘Without’: Crossing the Limits of the Worlds in Emily Brontë’s Poems”『同志社大学英語英文学研究』90号[2013]119-148頁.
キーワード	小説言語と視覚イメージ、視覚文化、イギリス19世紀思想史

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/179002/179002_Researcher.html

シモクス　マサヤ
下楠　昌哉

Masaya SHIMOKUSU

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授
研究分野	アイルランド文学、幻想文学
研究活動	ジェイムズ・ジョイスで博士号を取得した後、アイルランドの小説家を中心に研究活動を行っています。近年は、日本において西洋由来の超自然的な題材がどのように消化され、再発信されているかを、ポップカルチャーも含めて検証しています。海外のSF作品を中心に、翻訳も行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『幻想と怪奇の英文学』共編著　春風社（2014） イアン・マクドナルド『旋舞の千年都市』上・下、東京創元社（翻訳、2014）など。 その他、海外の論文集に複数寄稿
社会活動・その他	全日本柔道連盟広報委員（2010-2013） 全日本柔道連盟広報特別委員（2009）
所属学会	イアシル・ジャパン（国際アイルランド文学協会日本支部）、日本アイルランド協会、日本英文学会など
キーワード	英文学、アイルランド文学、幻想文学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108037/108037_Researcher.html

スガハラ　マ リ コ
菅原 真理子

Mariko SUGAHARA

講演
学術調査

所属・職名	文学部英文学科　准教授
研究分野	English and Japanese prosody
研究活動	2012-2015.「英語学習者の母語の韻律特性が英語の強勢パターンの知覚判断に及ぼす影響」　科学研究費補助金・基盤研究（C）（一般） 2006-2008.「英語の語強勢の音響特性の知覚：日本語母語英語学習者と英語母語話者の比較」　科学研究費補助金・若手研究（B）
主要な業績（著作・論文・研究発表）	2014.『音韻論：朝倉日英対照言語学シリーズ3』朝倉書店 2012. Phonetic evidence for prosodic word prominence in American English. Prosody Matters: Essays in Honor of Elisabeth Selkirk. Equinox. 2011. Identification of English primary stress and bias toward strong word-initial syllables: native vs. Japanese listeners. Proceedings of the XVIIth IICPhS 2011. 2009. (with A. Turk.) Durational correlates of English sublexical constituent structure. Phonology 26.
所属学会	日本英文学会、日本英語学会、日本言語学会、日本音声学会、日本音韻論学会、関西言語学会
キーワード	prosody、phonology、phonetics、English Linguistics、Japanese Linguistics

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105031/105031_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~msugahar

タツ キ　マサアキ
龍城　正明

Masaaki TATSUKI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授
研究分野	選択体系機能言語学･音声学･音韻論･日本語学、日本語選択体系機能言語学
研究活動	選択体系機能言語学(SFL)の枠組みで、日英語の分析研究をしており、現在、日本機能言語学会会長、関西言語学会会長として、機能言語学の観点から言語分析を行っています。特に、現代日本語の談話構造の分析を含む言語構造に関して、龍城を中心として分析を進めている「the Kyoto Grammar」と名付けた枠組みで、現代日本語の形容詞を含む過程構成(Transitivity) ネットワークの構築と日本語テクストのテーマ構造を分析しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「The Kyoto Grammar と日本語分析」『日本語学』明治書院 「意味拡張テクストに見る語彙変化コンテクストから見た意味変化とSET (Semantically Expanded Text)」龍城　正明『同志社大学英語英文学研究』89 65―88 2012 『ことばは生きている　選択体系機能言語学序説』くろしお出版 『英語学パースペクティヴ』南雲堂
所属学会	日本機能言語学会、日本英語学会、日本音声学会、日本言語学会、関西言語学会
キーワード	The Kyoto Grammar、伝達的単位(Communicative Unit)、スープラテーマ(Supra Theme)、過程構成、SET(Semantically Extended Text)

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/182008/182008_Researcher.html

D. ランドル　ターヒューン
D. Randall TERHUNE

所属・職名	文学部英文学科　准教授 Faculty of Letters, Department of English / Graduate School of Letters　Associate Professor
研究分野	First/Second Language Acquisition, Bilingualism
研究活動	First/Second Language Acquisition, Bilingualism
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Redfield, M., & Terhune, D. R. (2012). Comparing TEFL education and business administration learners' to EFL teaching. Osaka Keidai Ronshu, 63(1), 133-148. Redfield, R., Terhune, D. R., & Yang, Y. (2013). Comparing Chinese and Japanese learners' attitudes to EFL teaching. Osaka Keidai Ronshu, 63(5), 127-141.
社会活動・その他	Osaka International School PTA President Osaka International School Vice-President Osaka International School Parent Advisory Committee Member
所属学会	JALT, PALE (program chair), @PLE

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/198001/198001_Researcher.html

ウスイ　マサミ
臼井　雅美

Masami USUI

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部英文学科／文学研究科　教授
研究分野	英米文学、英語圏文学、女性文学、比較文学、比較文化
研究活動	イギリス、アメリカ、およびその他の英語圏における現代文学を中心に研究しています。特に女性やマイノリティーによって創造された文学が、現代社会においてどのように構築されてきたかということが研究のテーマです。コロニアルからポストコロニアルな時代にかけて沈黙から自己表現へと変遷を遂げてきた文学を、グローバルな時代において政治的、社会的、文化的、さらには科学的というように多角的側面から論じます。ブロンテ姉妹やヴァージニア・ウルフからカズオ・イシグロまで、またハワイや北米のアジア系作家に至るまで、時代と空間を超えて文学の有り方を追求しています。イギリス、ドイツ、ハンガリー、クロアチアなどヨーロッパやアメリカ、カナダだけでなく中国、韓国、台湾、マレーシア、シンガポールにおいて開催された国際学会での発表や、海外における出版、現代作家の招聘にも力をいれています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[共著]*Virginia Woolf and War*(Syracuse UP, 1991) [共著]*Asian American Playwrights*(Greenwood P, 2002) [共著]『アジア系アメリカ文学を学ぶ人のために』(世界思想社、2011) [共著]*Literature in English* (Stauffenburg, 2013) [共著]*Virginia Woolf and 1910*(Illuminati Books, 2014) [共著]『幻想と怪奇』(春風社、2014)
社会活動・その他	女性の社会参画(旧広島女性会議) 伝統文化活動、特に華道(池坊)、茶道(裏千家)、書道(現創会書展、読売書法展)
所属学会	Modern Language Association、International Virginia Woolf Society、American Studies Association 等
キーワード	英米文学、フェミニズム、比較文学・文化

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/199009/199009_Researcher.html

アタラシ　シゲユキ
新　茂之

Shigeyuki ATARASHI

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部哲学科／文学研究科　教授
研究分野	プラグマティズム、形式論理学、科学哲学、ケア倫理学
研究活動	19世紀中葉に米国で生まれたプラグマティズムに興味を持っています。その創始者であるチャールズ・サンダース・パースの考え方を卒業論文でとりあげてから、いまに至るまで、その視点の奥深さに興味は尽きていません。どのような理論も、将来に向けた活動を推進していく力と、それによってわたしたちが獲得する果実とによって評価しなければなりません。プラグマティズムは、わたしたちに実際的であることを求めています。プラグマティズムのほかに、その影響を少なからず受けている、ケアという発想にも関心があります。気づかいと係わりあいを大切にするケアの観点は、関係のなかでしか生きていけないわたしたち人間の姿を的確に捉えています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『パース「プラグマティズム」の研究―関係と進化と立論のカテゴリー論的整序の試み―』、晃洋書房、2011年
社会活動・その他	(特筆すべき事項なし)
所属学会	日本デューイ学会、日本イギリス哲学会、日本論理哲学会、教育哲学会、同志社哲学会
キーワード	プラグマティズム、科学的探究、形式的論理、ケア、経験主義

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108033/108033_Researcher.html

ハヤシ　カツ キ
林　克樹

Katsuki HAYASHI

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部哲学科／文学研究科　教授
研究分野	カントを中心としたドイツ近現代哲学
研究活動	中心的に研究しているのはカント『純粋理性批判』における「超越論的対象」の概念です。テーマはミクロですが、そこから見えてくるものは大きいです。この概念が思考の内に現れるのは、主観が自己自身を見ようとする自己超越の運動が生起しているからです。そこから、カント哲学の全体を宗教哲学として捉える展望が開かれてきます。ところで、真宗大谷派の近代教学者曽我量深は、最晩年にカント論を書きたいと言ったそうです。曽我師の真意を探りたいところです。仏教とカント、親鸞とカントは私の畢生の課題です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	〔論文〕「カントにおける神の理念と内在的超越のキリスト」『文化學年報』64,79-100 2015 「イデアと身体―ショーペンハウアーにおける意志の自己認識―」『哲学論究』29, 55-72 2015 「仏教における行と業、それらと身体の関係―現象学的解明の試み―」『人文學』177, 1-22 2005 〔著書〕『奥行の生と世界―フッサール主観性理論の研究―』晃洋書房 1-190,2002
所属学会	日本哲学会、日本カント協会、関西倫理学会、西田哲学会、同志社哲学会、日本フィヒテ協会、日本現象学会
キーワード	哲学、倫理学、カント、ショーペンハウアー、仏教、親鸞

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/100007/100007_Researcher.html

ナカガワ　アキトシ
中川　明才

Akitoshi NAKAGAWA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部哲学科　准教授
研究分野	哲学、ドイツ古典哲学
研究活動	私が主要な研究テーマとしているのは、これまで「カントとドイツ観念論」として総括されてきたドイツ古典哲学における自我と世界です。この主題を、魂と身体、自己と他者、自由と強制、精神と自然、理性と歴史といった、種々の問題軸と重ね合わせることで、実践の哲学――さらには哲学の実践――の可能性を問うとともに、エゴイズムやニヒリズムといった今日的な思想状況を踏まえながら、そうした問いへの応答を、私たちの公共生活に相応しい対話の形に還元し、成果を公表するよう務めています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「個体的自己意識を制約するもの――フィヒテ『自然法の基礎』第一部の一解釈――」『文化學年報』64 119-137 2015 [著書]『フィヒテ知識学の根本構造』晃洋書房 2004 [翻訳]ギュンター・ツェラー『フィヒテを読む』晃洋書房 2014
所属学会	Societas Philosophiae Doshisha、日本フィヒテ協会（委員）、国際フィヒテ協会、日本哲学会、関西哲学会
キーワード	ドイツ観念論、ドイツ古典哲学、フィヒテ、超越論哲学、道徳哲学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/109019/109019_Researcher.html
http://philosophy.doshisha.ac.jp/staff/nakagawa.html

ナカムラ　タク ヤ
中村　拓也

Takuya NAKAMURA

所属・職名	文学部哲学科　助教
研究分野	現代ドイツ哲学(現象学)
研究活動	カント以来の超越論哲学の系譜のなかでフッサール現象学を読み解くことを試みています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	「無意識的なもののの現象学」 「フッサール『危機』における原自我」 「時間意識の最深層への問い」 「『ベルナウ草稿』における時間と自我」
所属学会	日本現象学会、関西哲学会、関西倫理学会、Societas Philosophiae Doshisha(同志社哲学会)

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113017/113017_Researcher.html

ニワ タ　シゲヨシ
庭田　茂吉

Shigeyoshi NIWATA

所属・職名	文学部哲学科／文学研究科　教授
研究分野	フランス近、現代哲学
研究活動	現在の研究テーマは、レヴィナスとアンリにおける時間と身体と他者の問題です。アンリについては『現象学と見えないもの』において既に一部問り上げましたが、ここ数年はレヴィナスの哲学を身体の問題から取り上げ、「時間と身体と他者」の問題を全体的に論究する試みを続けています。今は初期レヴィナスの身体論について、終わりの段階まで考察を終えたところです。今後、最晩年の著作、論文について随時取り上げていく予定です。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	著書;『現象学と見えないものーミシェル・アンリの「生の哲学」のためにー』、晃洋書房、2001。 論文:「もう一つの近代、あるいはデカルトとレヴィナス」『同志社哲学年報』第38号、2015。 「現在の瞬間と時間ー初期レヴィナスにおける身体の問題(3)ー」、『文化学年報』第64輯、2015。
社会活動・その他	特になし。
所属学会	日仏哲学会、日本フィヒテ協会、日本哲学会、日本現象学会、関西倫理学会、関西哲学会
キーワード	感情、共同体、他者、時間、日常の中の哲学、知恵の探求

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/100006/100006_Researcher.html

タバタ　ノブヒロ
田端　信廣

Nobuhiro TABATA

講演
研修
学術調査

所属・職名	文学部哲学科／文学研究科　教授
研究分野	哲学、哲学史
研究活動	研究しているのは、1780年頃から1810年頃までのドイツ哲学の発展史です。カント、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルの主要著作は、ほぼすべてこの期間に成立しています。研究活動上の関心は、この哲学的展開に認められる連続性と断絶を明確にすることです。また、当時の大学制度や出版界の実情など文化・社会史的側面にも関心を持っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	著作『ラインホルト哲学研究序説』萌書房　2015年 雑誌論文「<認識>の生成論とその運命（上）（下）」『哲学論究』第9,10号、1991年、1993年 雑誌論文「精神の究極的な自己知としての『絶対知』」『同志社哲学年報』第14号、1992年 著作論文「思想としての戦後」（茅野・藤田編『転換期としての日本近代』ミネルヴァ書房、1999年） 著作論文「戦後思想のゆくえ」（藤田正勝編『知の座標軸』晃洋書房、2000年）
社会活動・その他	とくになし
所属学会	Societas Philosophiae Doshisha、日本フィヒテ協会、日本哲学会、関西倫理学会、関西哲学会
キーワード	ヘーゲル、初期ドイツ観念論史、戦後思想

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/182007/182007_Researcher.html

ダテ　タツアキ
伊達　立晶

Tatsuaki DATE

講演
学術調査

所属・職名	文学部美学芸術学科／文学研究科　教授
研究分野	文芸学、芸術学
研究活動	西洋近代の文学運動と造形美術運動との相互作用を中心的な研究テーマにしていますが、分析対象を近代のみに絞るのではなく、古典詩学や古典弁論術の伝統がどのように変容して新たな芸術運動が生まれてきたのか、古代以来の制作論や思想的変遷を広く見ようと心がけています。研究成果を論文にまとめるほか、古典弁論術の主要著作であるクインティリアヌスの『弁論家の教育』を共同で翻訳し、順次刊行しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文] 「推論形式と芸術運動－西洋近代芸術再考の試み」『人文学』191号 1-29　2013 「ボードレールのパリ万博評と近代芸術への影響について」『文芸学研究』16号16-37　2012 「『夏の夜の夢』における「イマジネーション」概念再考」『文化学年報』61輯 149-195　2012
所属学会	美学会、美学芸術学会
キーワード	文芸学、詩論、イマジネーション論、想像力論、古典弁論術、近代芸術

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105032/105032_Researcher.html

エチゼン　トシ ヤ
越前　俊也

Toshiya ECHIZEN

講演
学術調査

所属・職名	文学部美学芸術学科／文学研究科　教授
研究分野	現代芸術論、博物館学
研究活動	広島平和記念公園における建築及び美術表現ならびに京都における博物館や美術館の成立と展覧会の歴史を調査対象として、美術における公共性とは何かという問いを研究課題にしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	'Hiroshima 1999, About projection', Krzysztof Wodiczko Public Projections 1996-2004, Krakow, 2005, pp.61-63. 「丹下健三『広島プロジェクト』と原爆ドーム」『文化学年報』第61輯（2012） 「イサム・ノグチ《広島の亡き人々のための記念物》再考」『美術史』179号（2015）
社会活動・その他	広島芸術学会第20回総会<シンポジウムI>「ヒロシマの記憶と痕跡のかたち」パネリスト（2006）、国際シンポジウム「アートと戦争」（横浜北仲アートスクール）ラウンドテーブル3コーディネーター（2011）、国際セミナー「color」（ブラジル、サンパウロ大学）パネリスト（2013）、京都国際現代芸術祭Parasophiaプロフェッショナルアドバイザリーボード（2013-2015）
所属学会	美術史学会、美学会
キーワード	現代美術、博物館学、公共性、記念碑、色彩論

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104081/104081_Researcher.html

キシ　フミカズ
岸　文和

Fumikazu KISHI

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部美学芸術学科／文学研究科　教授
研究分野	芸術学、美学、美術史学、視覚文化論、メディア論
研究活動	絵画や写真、ポスターといった視覚的メディアについて、説示的／表出的／指令的な機能を分析しています。2013年度から、科学研究費・基盤研究（C）「広告のレトリック:視覚文化論の視点から」を行っていますが、2014年度と2015年度については、サントリー文化財団から「人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成」を受け、「東アジアにおける大衆的図像の視覚文化論:広告図像に見る幸福のかたち」というテーマで、大正時代を中心として日本・中国・韓国で流通していた広告について、国際シンポジウムを開催しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『絵画行為論:浮世絵のプラグマティクス』醍醐書房　2008、「テレビCMの芸術学」『危機における共同性』風媒社　2012、「テレビCMの物語論:スライス・オブ・ライフ型を中心に」『京都美学美術史学』第11号　2012年、「広告図像の修辞学」『経済学論叢』第64巻4号　2013、「行楽への勧誘――吉田初三郎の鳥瞰図に見る〈パノラマ的眺望〉」『自然に向かう眼』風媒社　2015、「吉祥の図像学――民画と幸福」鄭炳模編『韓国の彩色画――宮廷絵画と民画の世界』第2巻「花鳥画」ダハルメディア（韓国）2015
社会活動・その他	一般社団法人美術フォーラム21の理事として、美術史学に関する一般向けのシンポジウムを開催したり、専門雑誌である『美術フォーラム21』を編集したりしています。
所属学会	美術史学会、美学会、大正イマジュリィ学会、国際浮世絵学会、日本映像学会
キーワード	視覚コミュニケーション／メディア、浮世絵、宣伝／広告、テレビCM

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/195018/195018_Researcher.html

キヨセ　ミサヲ
清瀬 みさを

Misao KIYOSE

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部美学芸術学科／文学研究科　教授
研究分野	西洋美術史　芸術思想史　日本近代建築史
研究活動	1. 西洋における「美術」という概念の生成をパラゴーネ（諸学芸比較論争）や美術家列伝を軸として解明すること。 2. 17世紀の画家ニコラ・プッサンの作品と思想について解明すること。 3. 西洋芸術およびその思想が日本近代建築および都市景観形成に与えた影響を検証すること。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「古都の記憶と西洋文化の形　ー奈良基督教会の和風ー」『カルチャー・ミックス』晃洋書房　2014年 「カスティリオーネの『宮廷人』におけるパラゴーネ」『人文学』第195号　2015年 「ベネデット・ヴァルキのパラゴーネをめぐる一考察　—パラゴーネの調停と「美術」概念の生成について—」『美學・藝術學』第13号 1998年 「プッサン作〈詩人の霊感〉–図像解釈の試み」『文化學年報』第54輯 2005年 「旧奈良県庁舎建設と古都のゲニウス・ロキ　ー長野宇平治の可及的建築」『人文学』第193号　2014年
所属学会	意匠学会、日仏美術学会、美学会、美術史学会
キーワード	西洋美術史、芸術思想、パラゴーネ、美術家列伝、ルネサンス、都市景観、日本近代建築

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103020/103020_Researcher.html

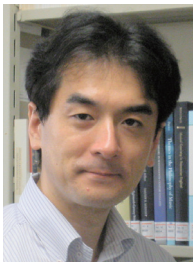
コウ ノ　ミチフサ
河野　道房

Michifusa KONO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部美学芸術学科／文学研究科　教授
研究分野	山水画史、文人画史、中国墳墓壁画史、画論史
研究活動	中国を中心とする東アジアの絵画史、特に山水画史、文人画史、画論史、魏晋南北朝時代を中心とする墳墓壁画の歴史等を研究しています。 作品の調査に重点を置き、作品やそれにかかわる事物を調査・検分し、文献的考証を進め、それらに基づく作品の鑑識を基礎とした絵画史、美術史、ひいては東アジア文化の総体を意識した研究を心がけています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「北斉婁叡墓壁画考」『中国中世の文物』137-180、1993 「謝時臣筆《山水図》研究」『美術フォーラム21』28号28-33、2013 「『古今著聞集』と中国画論」『人文学』195号39-58、2015
社会活動・その他	美術史学会西支部事務局長、大正イマジュリー学会常任委員
所属学会	美学会、美術史学会、大正イマジュリー学会、説話文学会、美学芸術学会
キーワード	東アジア美術、中国絵画、山水画、文人画、画論、墳墓壁画、魏晋南北朝

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113011/113011_Researcher.html
http://ea-art-history.jp/



オオアイ　タカハル
大愛　崇晴

Takaharu OAI

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部美学芸術学科　准教授
研究分野	音楽学(音楽美学、西洋音楽史、西洋音楽理論史)
研究活動	16～18世紀のヨーロッパにおける音楽理論と数学の関係を研究しています。音程関係が数比によって定められることは古代ギリシャから知られており、そのことは18世紀に至るまでの西洋の音楽理論において重要な意味を持っていました。音の協和が単純な数比に規定されるという事実は音楽の神秘的な性格を証すものに他ならなかったからです。このように音楽を数理的な視点から捉える数理的音楽観が、自然観に大きな変化が生じた近代の黎明期にどのような展開をみせたのかを、当時の音楽理論家や科学者による著作の分析を通じて解明しています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	[論文]大愛　崇晴、「ピエトロ・メンゴリの音程知覚論―科学革命期における聴覚への数学的アプローチ」、『音楽学』第56巻1号(日本音楽学会)、2010年、pp.1-13。 [論文]大愛　崇晴、「トマス・ウィリスの「音楽的な耳」と音楽の快の知覚―科学革命期の英国における神経生理学と聴覚的感性―」、『美学』240号(美学会)、2012年、pp.133-144。 [論文]大愛　崇晴、「トマス・サモンの純正律ヴィオル」、『人文学』第194号(同志社大学人文学会)、2014年、pp.(392) 1 - (364) 29。
社会活動・その他	2008年10月～2009年3月:NHK文化センター柏教室講師。 2004年11月～2010年3月:NHK FM「バロックの森」番組構成と出演。 2010年11月:NHK FM「サンデークラシックワイド」番組構成と出演。 2012年7月:NHK FM「ベストオブクラシック」番組構成と出演。 2013年～現在:桐朋アカデミー・オーケストラ特別演奏会・定期演奏会(富山市)の曲目解説執筆。
所属学会	日本音楽学会、美学会
キーワード	音楽美学、西洋音楽史、バロック音楽、音楽理論、科学革命と音楽、モンテヴェルディ、ルネサンス音楽、音律

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113012/113012_Researcher.html

ハットリ　オサム
服部　伸

Osamu HATTORI

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部文化史学科／文学研究科　教授
研究分野	近代ドイツ史、医療社会史、オルタナティヴ医療史
研究活動	科研基盤研究(C)「近現代ドイツにおけるホメオパシー信奉者団体の活動と通俗医学書」(2012～2016) 同志社大学人文科学研究所第18期研究「近代社会における身体と環境の「知」と大衆:「マニュアル」からの比較史」(2013～2016) 科研基盤研究(C)(一般)「近代ドイツにおける治療者・患者関係の社会史的研究」(2000～2004)
主要な業績(著作・論文・研究発表)	[著書]『近代医学の光と影』山川出版社　2004、『ドイツ[素人医師]団』講談社　1997、『「マニュアル」の社会史』(編著)人文書院　2014、Japan and Japanese people: views from a transcultural perspective(編著) Bunka: Tübinger interkulturelle und linguistische Japanstudien 2010 [論文]「銃後における健康と医療」山室信一他編『総力戦(現代の起点第一次世界大戦2)』岩波書店 2014、「一九世紀末ドイツの家庭医学書の「科学化」」松塚、俊三・八鍬友広編『識字と読書:リテラシーの比較社会史』、昭和堂 2010
社会活動・その他	『西洋史学』編集委員、『ゲシヒテ』編集委員
所属学会	日本西洋史学会、ドイツ現代史学会、ドイツ現代史研究会、史学研究会
キーワード	近代ドイツ史、医療社会史、資格社会史、専門職史、医師・患者関係史、オルタナティヴ医療史

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/102001/102001_Researcher.html

ホリ イ　ユタカ
堀井　優

Yutaka HORII

講演
学術調査

所属・職名	文学部文化史学科／文学研究科　准教授
研究分野	中世・近世イスラーム史、中東・ヨーロッパ関係史
研究活動	中世・近世の東地中海（レヴァント）における、イスラーム圏とキリスト教圏との間の接触を研究しています。とりわけマムルーク朝（1250−1517）およびオスマン帝国（1299−1922）とヨーロッパとの間の関係を基礎づけた商業特権や条約体制、そしてヨーロッパ商人を受容したイスラーム圏の海港社会に注目しています。こうした問題に関連する中東および西欧の史料、とくにヴェネツィア史料の分析をつうじて、異文化接触の秩序構造を長期的、広域的、体系的に理解することを目指しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]“The Mamlūk Sultan Qānṣūh al-Ghawrī (1501-16) and the Venetians in Alexandria,” *Orient*, 38 (2003),178-199 [論文]「16世紀オスマン帝国の条約体制の規範構造―ドゥブロヴニク、ヴェネツィア、フランスの場合―」『東洋文化』91 (2011),7-24
所属学会	日本中東学会、地中海学会、史学会、日本オリエント学会、歴史学研究会、文化史学会
キーワード	東地中海、条約体制、海港社会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/110009/110009_Researcher.html

イノウエ　マサ オ
井上　雅夫

Masao INOUE

講演
研修
コンサルティング
コメンテーター

所属・職名	文学部文化史学科／文学研究科　教授
研究分野	西洋中世史
研究活動	カノッサ事件に象徴されるドイツ王（皇帝）ハインリヒ四世とローマ法王グレゴリウス七世の関係を中心にして、西洋中世における皇帝権と法王権の関係について研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『西洋中世盛期の皇帝権と法王権　ハインリヒ三世・グレゴリウス七世・ハインリヒ四世をめぐって』　関西学院大学出版会、平成24年 『カノッサへの道　歴史とロマン』　関西学院大学出版会、平成25年
所属学会	文化史学会、西洋史学会
キーワード	皇帝権、法王権、カノッサ事件、統治の秩序と救いの秩序、ハインリヒ四世、グレゴリウス七世

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/175010/175010_Researcher.html

イシザカ　ナオタケ
石坂　尚武

Naotake ISHIZAKA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部文化史学科／文学研究科　教授
研究分野	ルネサンス文化史、黒死病の歴史
研究活動	イタリア・ルネサンスの文化と社会を研究しています。ヒューマニズム思想のほか、黒死病とルネサンスの関係、中近世の宗教思想の展開などを研究しています。ルネサンスに先立つ中世の時代にも言及し、比較研究をおこなっています。黒死病の研究の関連から中近世のキリスト教徒の神観念の変化、宗教改革の原因、ペスト除け聖人の研究もおこなっています。ヨーロッパ、特にイタリアの教会の美術について、その様式、テーマ、聖人などについて、フィールドワークもおこなっています（これまでイタリアだけで700を越える教会の調査を実施しました）。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『ルネサンス・ヒューマニズムの研究：「市民的人文主義」の歴史理論への疑問と考察』晃洋書房 平成6年。「イタリアの黒死病関係史料集」（1）～（10）平成15～26年　『人文学』第174号、第176号、第179号、第180号、第181号、第182号、第184号、第186号、第187号、第194号。「≪峻厳な神≫とペスト的心性の支配 ：一五世紀フィレンツェの立法・政策・判決に心性を読む 」平成25年　『人文学』第191号。
社会活動・その他	豊中市中市民会館秋の講座 （ 蛍池公民館 ）。星美学園教養講座。FM841古典音楽担当。
所属学会	文化史学会、西洋史学会、西洋中世学会、イタリア学会、史学会。
キーワード	ルネサンス、黒死病、ペスト、文化史、心性史、ヒューマニズム、宗教改革、美術史、聖人研究

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/195022/195022_Researcher.html

コバヤシ　タケヒロ
小林　丈広

Takehiro KOBAYASHI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部文化史学科／文学研究科　教授
研究分野	日本近現代史、地域史
研究活動	日本列島を対象に近世から近代にかけての社会の変容、近現代社会の展開について研究しています。とくに、京都を中心にいくつかのフィールドで、歴史研究だけでなく、まちづくりや史料保存なども含めた活動を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	主な著書・編書 『明治維新と京都―公家社会の解体―』臨川書店、1998年 『京都町式目集成』京都市歴史資料館、1999年 『近代日本と公衆衛生―都市社会史の試み―』雄山閣出版、2001年 『都市下層の社会史』解放出版社、2003年 『京都における歴史学の誕生―日本史研究の創造者たち―』ミネルヴァ書房、2014年など
社会活動・その他	地域を対象とする歴史学研究のあり方を検討する京都歴史研究会、史料調査や整理などの活動を行う京阪奈史料調査会などを通じて、歴史学と地域との関わりを模索しています。
所属学会	日本史研究会、明治維新史学会など
キーワード	社会史、公共性、史料保存、歴史認識、都市研究、明治維新、自治

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114005/114005_Researcher.html

マツフジ　カズ ト
松藤　和人

Kazuto MATSUFUJI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部文化史学科／文学研究科　教授
研究分野	東アジアの先史考古学(旧石器時代考古学)
研究活動	中国、韓国、日本をフィールドに旧石器時代人類の拡散、地域間交流の問題を考古資料を駆使しながら国際的並びに自然科学分野との学際的研究によって究明します。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	単著『西日本後期旧石器文化の研究』(1998年、学生社)、編著『旧石器考古学辞典』(2000年、学生社)、編著『シンポジウム 旧石器時代の考古学』(1994年、学生社)、編著『東アジアにおけるレス-古土壌と旧石器編年』(2008年、雄山閣)、単著『検証 旧石器発掘捏造事件』(2010年、雄山閣)、単著『日本と東アジアの旧石器考古学』(2010年、雄山閣)、単著『日本列島人類史の起源』(2014年、雄山閣)、共著『旧石器が語る「砂原遺跡」』(2014年、ハーベスト出版)
所属学会	日本旧石器学会、日本考古学協会、旧石器文化談話会
キーワード	旧石器第四紀地質時代考古学、日本最古の人類文化の探求、レス-古土壌編年、地質考古学、前期旧石器、日本最古の砂原遺跡、瀬戸内技法、古環境変動、韓国の旧石器、中国の旧石器

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/196001/196001_Researcher.html

ナカ イ　ヨシアキ
中井　義明

Yoshiaki NAKAI

講演
研修
学術調査
討論

所属・職名	文学部文化史学科／文学研究科　教授
研究分野	古代ギリシア史
研究活動	①前5世紀から4世紀にかけて相次いで現れたアテナイの帝国やスパルタの帝国について社会史や文化史の視点から研究しています。 ②花粉などのデータから先史時代ギリシアの自然環境の変化や文明の興隆や衰退について研究して来ました。 ③現在は歴史の中の記憶を古代と近代の両方の観点から研究しています。特に記憶の可塑性、想像力、近代の民族意識に注目しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Memory of the Past: Nation, Society and Identity, Scienze e Lettere, 2014. 「アクロポリス:近代ギリシアの象徴と記憶」『文化学年報』63、2014. 「東西世界のはざまとしてのミレトス　−ある境界都市の歴史−」『境界域から見る西洋世界』ミネルヴァ書房、2012.
社会活動・その他	少年補導委員会 自治連合会
所属学会	西洋史学会、西洋古典学会、文化史学会
キーワード	歴史、ヨーロッパ、古代、ギリシア、歴史と記憶、近代の自己意識、文明と自然環境、外交政策と国内政治の連動、ペルシアとポリス世界、古代史とオリエンタリズム

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/195021/195021_Researcher.html

ニシオカ　ナオ キ
西岡　直樹

Naoki NISHIOKA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部文化史学科／文学研究科　教授
研究分野	日常史、日記論、日本近世民衆文化史、日本近世民衆生活史、日本近世演劇観客論
研究活動	人間一人ひとりの日常＝日々は、どれだけ同じようにみえても、その日々を生きる一人ひとりにしか存在しません。人が生きる意味を問うため、これまでの「普遍化」という作法ではなく、一人ひとりが一日一日を生きた、その日々に寄り添って、彼の日常の全体像をみつめることを出発点とし、その像から多くの人びとの日常を照らしかえそうとしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	・「〈日常〉のなかの近世・出仕への道」同志社大学『人文学』180 ・「〈日常〉のなかの近世・恋する日々」同志社大学『人文学』171 ・「日記のなかの〈i日常〉」同志社大学『文化学年報』48 ・「片山小左衛門と〈下の見物〉」『歌舞伎・研究と批評』6 ・「17世紀後半における一下級武士の芸能享受の位相」同志社大学『文化学年報』63
所属学会	文化史学会、日本史研究会、日本思想史学会、日本演劇学会、歌舞伎学会、芸能史研究会
キーワード	人の日常をみつめる、日記を考える、観客論、17世紀後半の紀州武士社会、18世紀前後の京四条河原芝居町、史料論

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/184002/184002_Researcher.html

イワツボ　タケシ
岩坪　健

Takeshi IWATSUBO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部国文学科／文学研究科　教授
研究分野	源氏物語の享受
研究活動	中世から近世にかけて、源氏物語がどのように享受されたかについて、調査しています。具体的には源氏物語の注釈書、梗概書、源氏絵、源氏流いけばな、源氏香、源氏物語の意匠のほか、源氏物語の影響を受けた中世王朝物語についても研究中です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『「しのびね物語」注釈』和泉書院　2015・12 『冷泉家時雨亭叢書』第99巻の解説　朝日出版社　2015・6 『源氏物語の受容一注釈・梗概・絵画・華道一』和泉書院　2013・2 『ウラ日本文学』新典社　2011・10 『錦絵で楽しむ源氏絵物語』和泉書院　2009・1 『光源氏とティータイム』新典社　2008・10
社会活動・その他	源氏物語の講座を、長岡京市中央生涯学習センターで2008年から開始（現在も継続）。今年度は同志社大学東京オフィス（全5回）でも実施。そのほか朝日カルチャーセンター、兵庫県高等学校 教育研究会 国語部会、宝塚市文化振興財団、JR西日本ジパングなどで講演。
所属学会	中世文学会、中古文学会、和歌文学会
キーワード	源氏物語、源氏絵、源氏小鏡、源氏香、源氏流いけばな

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103004/103004_Researcher.html

カキ ミ　シユウジ
垣見　修司

Shuji KAKIMI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部国文学科　准教授
研究分野	日本上代文学
研究活動	高岡市万葉歴史館研究員を経て、2013年から現職。萬葉学会編輯委員。美夫君志会理事。 日本上代文学、とくに『万葉集』の長歌や、『古事記』『日本書紀』の歌謡を中心に研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	共著:高岡市万葉歴史館編『風土の万葉集』、同『美の万葉集』、同『越中万葉をたどる―60首で知る大伴家持がみた、越の国。』、同『越中万葉を楽しむ―:越中万葉かるた100首と遊び方』、河添房江・皆川雅樹編『唐物と東アジア　船載品をめぐる文化交流史』など。 論文:「調使首作歌と調使家記」(『同志社国文学』81号)、「やまとの一本薄考」(『同志社国文学』80号)など。
社会活動・その他	奈良県立万葉文化館研究協力員、奈良県立万葉文化館友の会理事、平成27年度万葉の大和路を歩く会講師。
所属学会	萬葉学会、美夫君志会、上代文学会
キーワード	万葉集、古事記

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113009/113009_Researcher.html

キ ラ　フミアキ
吉良　史明

Fumiaki KIRA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部国文学科　助教
研究分野	日本近世文学、日本思想史
研究活動	近世後期から明治初期にかけての国学史の研究。近世国学が基盤の一つとなり明治期の人文学系の諸学問が構築されたことに着眼して、国学の何が近代の学問に受け継がれ、他方何が切り捨てられたか、国学から明治の諸学問への移行の実体解明を試みています。 目下、幕末長崎を舞台として活躍した国学者中島広足の文事に焦点を当て、幕末国学の諸相の解明に取り組んでいます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	1.広足と宣長―『後の歌がたり』に見られる宣長批判の内実―　吉良史明　近世文藝 81 33-48 2005 2.社家文事の地域史 思文閣出版 87-107　297-313 2005共著 3.近世後期長崎和歌撰集集成 雅俗の会 122 2012 4.長崎・東西文化交渉史の舞台−ポルトガル時代オランダ時代 勉誠出版 2014共著 5.中島広足『樺島浪風記』の変容―幕末国学者の文芸と思想―　吉良史明　國語國文 80 4 18-41 2011
社会活動・その他	プロジェクト型学習を大学教育においても導入するにあたり、その試みの一つとして、地域に伝存する史跡・文学遺跡の踏査を授業の一環として行い、さらにその調査成果を地域に還元し、また国内外へ発信するための具体的な方法論を模索しています。
所属学会	日本近世文学会
キーワード	幕末長崎、紀行文、異文化融合、幕末歌壇、幕末国学史の再構築、文学遺跡踏査

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115132/115132_Researcher.html

ニシカワ　アツ コ
西川　貴子

Atsuko NISHIKAWA

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部国文学科／文学研究科　教授
研究分野	日本近現代文学
研究活動	文学作品と同時代文化との交叉のあり方に注目し、幸田露伴や泉鏡花、佐藤春夫などの作品を主に取り上げ研究をしています。例えば、絵画や写真と文学作品との関わりや、文学作品が実際の事件や実在の建築物をどのように虚構化しようとしていたのかなど、諸ジャンルの研究にまたがって調査をしています。日本の近代化の諸問題に「文学」がどのように関わり距離をとろうとしていたのか。文学作品の意義を解明しようとしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	【著書】2009年6月 『スポーツする文学―1920−30年代の文化詩学』青弓社（共著）「「わたし」と「わたしたち」の狭間―「走ることを語ること」の意味」 【論文】・2002年5月:「「冒険」を語り出す場―泉鏡花「黒百合」試論―」『日本近代文学』第66集・2005年1月:「「詩」という「場」―「天うつ浪」試論」『文学』第6巻第1号・2013年3月「明治の浦島物語―幸田露伴「新浦島」試論―」『同志社国文学』第78号
所属学会	日本文学協会、日本近代文学会、昭和文学会、泉鏡花研究会、大正イマジュリィ学会
キーワード	日本近現代文学、幸田露伴、泉鏡花、佐藤春夫、美術と文学、建築と文学、歴史と文学、探偵小説・怪異小説

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104067/104067_Researcher.html

タ ナカ　レイ ギ
田中　励儀

Reigi TANAKA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部国文学科／文学研究科　教授
研究分野	日本近代文学
研究活動	日本近代幻想文学の代表作家・泉鏡花の文学を中心に研究しています。鏡花と同じく、尾崎紅葉門下の小栗風葉・前田曙山の文学や、鏡花文学の愛読者でもあった無頼派作家・太宰治や田中英光の文学にも研究の幅を広げています。また、丹羽文雄・菊池寛・岩田豊雄らを取り上げ、戦時下文学の実態を追及するとともに、「台湾愛国婦人」「緑旗」「文学界」など雑誌の研究もしています。作家の著作目録や参考文献目録を編むなど、書誌学的研究もつづけています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]『泉鏡花文学の成立』双文社出版、1997、[編著]『泉鏡花「高野聖」作品論集』クレス出版、2003、『新編泉鏡花集』全10巻・別巻2、岩波書店、2003〜2006（共編）、『初稿山海評判記』国書刊行会、2014、『鏡花紀行文集』岩波書店、2013、『田中英光事典』三弥井書店、2014（共編）、『京都近代文学事典』和泉書院、2013（共編）、[論文]「泉鏡花と同時代出版物―明治期ボール本・園芸書など」（「国語と国文学」87-5、2010）、「菊池寛「昭和の軍神西住戦車長伝」考―伝記小説・演劇・映画」（「日本文学」60-11、2011）
所属学会	全国大学国語国文学会、日本文学協会、日本近代文学会、昭和文学会、泉鏡花研究会、無頼文学会
キーワード	日本近代文学、幻想文学、無頼派文学、戦時下文学、雑誌、書誌

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/185003/185003_Researcher.html

ウエ キ　トモ コ
植木　朝子

Tomoko UEKI

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部国文学科／文学研究科　教授
研究分野	日本中世文学
研究活動	日本の古代から中世の歌謡を文学的観点から研究しています。対象となる主な作品は催馬楽、『梁塵秘抄』、『閑吟集』、『宗安小歌集』、隆達節歌謡などです。関連する領域として、白拍子、曲舞、能、狂言などの芸能も視野に入れています。古典歌謡が近代文学にどのように受容されたかについても興味があります。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『梁塵秘抄』ちくま学芸文庫 2014、『風雅と官能の室町歌謡』角川学芸出版 2013、『コレクション日本歌人選　今様』笠間書院 2011、『梁塵秘抄の世界』角川学芸出版 2009、『梁塵秘抄』角川ソフィア文庫 2009、『中世小歌　愛の諸相』森話社 2004、『梁塵秘抄とその周縁』三省堂 2001
社会活動・その他	高槻市立生涯学習センター講座 宇治市源氏物語ミュージアム講座 八幡市リカレント教育推進講座 朝日カルチャーセンター講座 金剛能楽堂能解説
所属学会	中世文学会、和歌文学会、日本文学協会、日本歌謡学会
キーワード	中世歌謡、催馬楽、今様、梁塵秘抄、小歌、閑吟集、宗安小歌集

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105024/105024_Researcher.html

ヤマ ダ　カズヒト
山田　和人

Kazuhito YAMADA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文学部国文学科／文学研究科　教授
研究分野	日本近世の文学と芸能
研究活動	江戸時代前後の日本近世芸能・演劇の研究に従事、国内外の人形芝居の調査も行なっています。人形浄瑠璃や歌舞伎の演技・演出に関する研究に取り組み、古典籍の書誌調査、伝承の実地踏査を行っています。近年は、からくり人形の調査・研究に意欲的に取り組んでいます。大津祭（滋賀県の大津市）や潮干祭（愛知県半田市）の文化財指定のための総合調査にも従事しています。大学教育では、PBL推進支援センター長として、全国のPBL実践校とのネットワーク構築に邁進しており、講演・シンポジウム・フォーラムを企画・推進しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]『古浄瑠璃の研究と資料』和泉書院　2000 [編著]『豊竹座浄瑠璃集』(三)国書刊行会　1995 [共編]「人形・からくり」『岩波講座歌舞伎・文楽』8巻　225-244　1998 [論文]「竹田からくり関連の絵画資料」『国語と国文学』76号11巻　1999、「からくり人形と絵画資料」『藝能史研究』190号　2010、「竹田からくりの演目と分類」『西鶴と浮世草子』(5)笠間書院　2011、「アクティブ・ラーニングとしてのPBL～「同志社大学プロジェクト科目」(テーマ公募制・教養教育科目)の試み」『大学教育と情報』147号　2014
社会活動・その他	日本近世文学会常任委員、芸能史研究会評議委員、日本文学協会委員、近松研究所評議委員、長浜市文化財審議委員、文楽劇場公演専門委員(2011-2013)、PBL推進支援センター長
所属学会	国際浮世絵学会、日本文学協会、日本演劇学会、日本近世文学会、歌舞伎学会、芸能史研究会、説話・伝承学会
キーワード	近世、芸能、演劇、人形浄瑠璃、歌舞伎、からくり、見世物、PBL、大学教育、アクティブ・ラーニング、FD・SD

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/186001/186001_Researcher.html
http://kokubun.doshisha.ac.jp/professor/yamada.html

カク　ホウ
郭　芳

GUO Fang

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学研究科　助手
研究分野	中国高齢者福祉、民間介護サービス
研究活動	日本の高齢者福祉政策の経験を中国に移転できるのではないかという大きな問題関心をもち、これまで日本の高齢者福祉サービスを参考に中国の高齢者福祉サービスのあり方を探ることを目的に研究をおこなってきました。最近、中国の介護市場に進出した日本式介護サービスへの国際的評価に関する課題に取り込んでいます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	〔著書〕『中国農村地域における高齢者福祉サービス―小規模多機能ケアの構築に向けて―』、明石書店、2014 〔論文〕「中国高齢者福祉施設の不足と制約―日本との比較を通して」、日中社会学会『21世紀東アジア社会学』6号、pp.138-155、2014年 〔論文〕「小規模多機能型居宅介護事業の到達点と問題点―地域で住み続けられるケアをめざして―」、同志社大学社会福祉学会『同志社社会福祉学』25号、pp.29-38、2011
社会活動・その他	京都自立就労サポートセンターワーキングチームメンバー
所属学会	日本社会福祉学会、社会政策学会、日中社会学会、同志社大学社会福祉学会
キーワード	介護市場、国際比較

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115168/115168_Researcher.html

リ　ソン ヘ
李　善恵

LEE Sun-hye

講演
学術調査

所属・職名	社会学研究科　助手
研究分野	社会福祉学　歴史及び思想、ソーシャルワーク論
研究活動	今までの研究は、賀川豊彦の社会福祉実践・思想が韓国に及ぼした影響に関するものでしたが、現在の研究テーマは、日本における「組合運動」と「子どもの権利」に及ぼした賀川豊彦の思想や実践です。特に「キリスト教」と「社会福祉」との関係を探るため、国際比較（日本、韓国、アメリカ）の視点も入れています。さらに「同志社社会事業史」や「自殺予防」にも幅広く研究しており、研究の内容を公表していくため、毎年、学会の発表や論文の投稿を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	【著書】『自殺をケアするということ-「弱さ」へのまなざしからみえるもの-』（共著）、ミネルヴァ書房、2015 【論文】「大学生の自殺予防教育プログラムに向けた「悩みとその対処方法」に関する調査-相談することへの抵抗感に着目して-」（共著）、『人間福祉学研究』第7巻第1号　115-127　2014 「賀川豊彦と韓国とのかかわりに関する研究」『日本キリスト教社会福祉学研究』第46号　25-38　2014
社会活動・その他	人文科学研究所兼担研究員、社会福祉法人イエス団評議員、日本キリスト教社会福祉学会理論研究委員会、公益財団法人愛恵福祉支援財団奨学性選考委員会
所属学会	日本キリスト教社会福祉学会、日本社会福祉学会、賀川豊彦学会、韓国社会福祉学会
キーワード	キリスト教、賀川豊彦、国際比較、メンタルヘルス

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114154/114154_Researcher.html

デブナール　ミロシュ
DEBNAR Milos

講演
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部社会学科　助教
研究分野	現代の移民パターンと多様化、とりわけ「白人の移民」
研究活動	日本在留ヨーロッパ人の調査:聞き取り調査を中心にしたが、これからは質問紙調査を行う予定もある(2009年～2013年、来年より再開) 国際学会において、多様な移民パターンに関するセッションのオーガナイザー:1. "Who lives with whom", DEBNAR Milos (chair), DENIS Ann, 18th ISA World Congress of Sociology, Yokohama, July 2014 2. "Young skilled migrants: hopes and struggles in new global trends", with M. MATSUTANI, 3rd ISA Forum of Sociology, Vienna, July 2016
主要な業績 (著作・論文・研究発表)	"Compétences et "blancheur de la peau" des immigrés européens au Japon",　Migrations Société, Vol. 27(157) 「グローバル化時代の移民現象における動機の多様化・複雑化・偶発化―在日ヨーロッパ人移住者の経験から」、『同志社社会学研究』、第19巻 "Contemporary family in Slovakia: demography, values, gender and policy", Guráň, P., Filadelfiová, J., Debnár, M., in Zsombor T. Rajkai ed., Family and social change in socialist and post-socialist countries, Brill
所属学会	国際社会学会、ヨーロッパ日本研究協会、ヨーロッパ社会学会、日本社会学会、関西社会学会
キーワード	移民、エスニシティ、人種、白人、グローバル化、ポスト社会主義、社会変動

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114146/114146_Researcher.html

モリカワ　マ キ オ
森川 眞規雄

Makio MORIKAWA

コメンテーター

所属・職名	社会学部社会学科／社会学研究科　教授
研究活動	グローバル社会において、様々な文化を理解することは必要不可欠なことです。その中でも全世界にいる華人の社会構造、行動様式、文化、民族性をはじめ、異文化同士の文化的な差異や普遍性を社会学的な視点から研究しています。 また、他国の文化を知るためには自国の文化との比較も必要です。社会学という学問上、森羅万象全てが研究対象ではあるが、特に、伝統産業の着物で栄えた京都西陣地域や町家をはじめ、京都のあらゆる文化現象が研究対象です。
主要な業績 (著作・論文・研究発表)	香港における社会人類学的調査(1979～現在) カナダにおけるアジア移民調査(1988～現在) P.ウィンチ「社会科学の理念」新曜社(単独訳)等の翻訳楽洛キャンパス講演　“町家で暮らす・町家で商う「祭り」をめぐるネットワーク”等
所属学会	世界海外華人研究学会、日本カナダ学会、日本民族学会、日本社会学会、関西社会学会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/179011/179011_Researcher.html

オ ジマ　フミアキ
尾嶋　史章

Fumiaki OJIMA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部社会学科／社会学研究科　教授
研究分野	社会階層・社会移動、教育社会学
研究活動	研究の中心となっているのは、教育機会の不平等、広くは社会階層・社会移動研究で、1955年以来10年ごとに実施されている「社会階層と社会移動（SSM）全国調査」データを用いた計量的な研究を一貫して行っています。高校生の進路意識と生活意識に関して、同一高校の3年生に対する調査をこの30年間で3回実施し、高校生の変化も追っています。 近年は学業達成や世代間所得移動などの国際比較・国際共同研究に積極的に取り組んでいます。ワールドカップ2002をテーマにした共同研究に参加したこともあります。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]『現代高校生の計量社会学　ー進路・生活・世代ー』（編著）ミネルヴァ書房、2002 『現代の階層社会[1]格差と多様性』（編著）　東京大学出版会、2011 [論文]“Family Background, School System and Academic Achievement in Germany and in Japan”（共著）in *Quality and Inequality of Education: Cross-National Perspectives* edited by Jaap Dronkers :Springer, 2010 ”Intergenerational earnings mobility in Japan among sons and daughters : Levels and trends”,（共著）*Journal of Population Economics*, Vol.27(1), 2014
所属学会	日本教育社会学会、日本社会学会、関西社会学会
キーワード	階層、教育、高校生、国際比較

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/199005/199005_Researcher.html

ウ カイ　コウゾウ
鵜飼　孝造

Kozo UKAI

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部社会学科／社会学研究科　教授
研究分野	社会学理論、社会ネットワーク、政治社会学
研究活動	資本主義の社会学的研究。新自由主義やグローバリゼーションの由来について、学説史的及び社会経済システム的な視点から考察を続けています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	・「グローバリゼーションと自由主義の交差」第34回社会・経済システム学会大会「意味・思想とコンフリクト」部会での研究報告（2015.10.24 法政大学） ・「反リベラルの運動理論ーネオコンと資源動員ー」第88回日本社会学会大会テーマセッション「パイオニアとしての社会学理論」での研究報告（2014.11.22 神戸大学） ・「社会システムから社会デザインへー「社会」教育方法試論ー」第33回社会・経済システム学会大会「教育とデザイン」部会での研究報告（2014.10.26 京都大学）
所属学会	Asia Pacific Sociological Association、日本NPO学会、日本社会学会、社会経済システム学会、関西社会学会
キーワード	社会学理論、集合的行為、社会運動、政治社会学、社会ネットワーク、社会関係資本、資本主義、新自由主義、グローバリゼーション

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105001/105001_Researcher.html
http://kozoukai.com/uzemis/
https://www.facebook.com/kozo.ukai

キハラ　カツノブ
木原　活信

Katsunobu KIHARA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部社会福祉学科／社会学研究科　教授
研究分野	社会福祉学
研究活動	福祉思想・福祉哲学、社会福祉とキリスト教（スピリチュアリティ）、死生臨床（自殺、ターミナル）、精神保健福祉領域、児童養護・虐待を研究しています。連携例としては、国や自治体、企業と自殺予防、社会福祉実践、政策等で連携するほか、社会福祉法人の理事、評議員として実践現場において施設運営方法や、福祉実践の専門性について助言するなどです。講演例「文化多様性のなかのポストモダン・ソーシャルワークの可能性―現代日本の「無縁社会」、「孤独死」、自殺をめぐる現状から―」
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『社会福祉と人権』ミネルヴァ書房2014、『「弱さ」の向うにあるもの』いのちのことば社2015、『J・アダムズの社会福祉実践思想の研究』川島書店1998、『対人援助の福祉エートス』ミネルヴァ書房2003、「自殺予防における「福祉モデル」の提唱」『社会福祉研究』115号 2012、「福祉原理の根源としての「コンパッション」の思想と哲学」『社会福祉学』vol.46-2、2005、“Social Work Education in Japan: Historical perspective”, Social Work Education in Countries of the East: Issues and Challenges. Nova Science Pub..
社会活動・その他	社会福祉法人京都基督教福祉会理事 社会福祉法人イエス団評議員 京都市精神保健福祉審議会委員 文部科学省　教科書検定調査審議会臨時委員 公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー監事
所属学会	日本社会福祉学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本社会事業史学会、NACSW
キーワード	キリスト教、福祉哲学・思想、ナラティヴモデル、ソーシャルワーク、死生臨床、自殺予防

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/106009/106009_Researcher.html
http://joe0918.blogspot.jp/
http://www.geocities.jp/kihara0918/

クガ　ヒロト
空閑　浩人

Hiroto KUGA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部社会福祉学科／社会学研究科　教授
研究分野	ソーシャルワーク論　社会福祉実践論　社会福祉専門職養成
研究活動	介護や子育てをはじめとして現代社会におけるさまざまな生活上の課題や問題に対して、人とその生活、そしてそれへの援助のあり方という観点から、研究を進めています。特に、専門的な社会福祉援助活動としてのソーシャルワークを中心とした研究を行っており、社会福祉士等の専門職養成や研修等の活動も行っています。人々が直面する生活問題が多様化・複雑化するなかで、人々の生活を支える専門職養成とその実践活動に寄与する研究を行っていきたいと思っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『ソーシャルワーク入門―相談援助の基盤と専門職―』ミネルヴァ書房 2009 『ソーシャルワーカー論―かかわり続ける専門職のアイデンティティー』ミネルヴァ書房 2012 『ソーシャルワークにおける「生活場モデル」の構築―日本人の生活・文化に根ざした社会福祉援助』ミネルヴァ書房 2014
社会活動・その他	社会福祉法人京都国際社会福祉協力会理事 関西社会福祉学会（日本社会福祉学会関西支部）　理事 特定非営利活動法人アレルギーネットワーク京都ぴいちゃんねっと理事長
所属学会	日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会
キーワード	社会福祉、ソーシャルワーク、対人援助、社会福祉施設、介護職員、ケアワーク、ソーシャルワーカー、社会福祉専門職

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104065/104065_Researcher.html

マーサ　メンセンディーク
Martha MENSENDIEK

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部社会福祉学科　准教授
研究分野	多文化社会福祉、ジェンダー、マイノリティ
研究活動	世界人権問題研究センター、研究員 「国際・多文化ソーシャルワークにおけるCBPRの有効性に関する実践的研究」(科学研究費助成、基盤研究(B))
主要な業績（著作・論文・研究発表）	武田丈　(研究代表者)『多文化・国際ソーシャルワークに共通するセルフヘルプ活動に関する国際比較研究』基盤研究(C)、研究成果報告書、2010 Comafay, N. & Mensendiek, M.「在日フィリピン人コミュニティの自助組織」、『ソーシャルワーク研究』、35(3)、pp. 17-25、2009. 黒木保博(研究代表者)、「ソーシャルワークと東アジアモデルの構築に関する研究」基盤研究(B)研究成果報告書、253-258、2008. Mensendiek, M. “Human Trafficking in Japan”, Disciples World, 9 (1), pp. 18-20. 2010.
社会活動・その他	京都YWCA　会員　(外国人のための電話相談窓口) 社会福祉法人　イエス団　評議員 神戸女学院　理事 日本キリスト教社会福祉学会　理事
所属学会	NASW、同志社大学社会福祉学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本社会福祉学会
キーワード	多文化社会福祉、マイノリティ、人権、ジェンダー、国際社会福祉、移住者の人権、コミュニティー　オーガナイゼーション、人身取引

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/196016/196016_Researcher.html

モリグチ　ヒロ ミ
森口　弘美

Hiromi MORIGUCHI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター
インターネット放送による動画での情報発信

所属・職名	社会学部社会福祉学科　助教
研究分野	社会福祉学、障害者福祉
研究活動	・同志社大学社会福祉教育・研究支援センターのプロジェクトとして「エピソード記述」に関する研究会を実施(2013～) ・平成27年度三菱財団社会福祉事業・研究助成「障害のある人から学ぶまちづくり協働研究－障害のあるリサーチャーおよび学生サポーターの育成－」(2015～)
主要な業績（著作・論文・研究発表）	単著『知的障害者の「親元からの自立」を実現する実践:エピソード記述で導き出す新しい枠組み』ミネルヴァ書房 2015
社会活動・その他	一般財団法人たんぽぽの家「ケアする人のケア」プロジェクト・アドバイザー
所属学会	日本社会福祉学会、同志社大学社会福祉学会、日本ソーシャルワーカー協会、日本ソーシャルワーク学会
キーワード	障害者福祉、障害者の自立、エピソード記述、ケアする人のケア

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112148/112148_Researcher.html
http://caringsociety.net/

アベ　ヤスヒト
阿部　康人

Yasuhito ABE

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部メディア学科　助教
研究分野	メディア・コミュニケーション学
研究活動	市民がデジタルメディアなどのニューメディアを用いて、どのように身の回りの環境や社会をよくすることができるかといった研究をしています。単なるデジタルメディアそのものの研究にとどまらず、マスメディアを分析の対象にするのはもちろんのこと、その背後にある歴史や政治経済、社会や文化についても研究対象としています。現在は、福島第一原子力発電所事故以降に、市民がどのように放射線を測定し、インターネットやSNNを用いて市民メディア(Civic Media)として社会に発信していたかという研究をまとめています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文:英文]Abe, Y.(2015). Measuring for What: Networked citizen science movements after the Fukushima nuclear accident. Dissertation(University of Southern California)、Abe, Y.(2014). Safecast or the production of collective intelligence on radiation risks after 3.11. Japan Focus. Link to full text: http://www.japanfocus.org/-Yasuhito-_Abe_/4077、Abe, Y.(2013). Risk assessment of nuclear power by Japanese newspapers following the Chernobyl nuclear disaster. International Journal of Communication, 1968-1989. Link to full text: http://ijoc.org/index.php/ijoc/article/view/1848/982 [著作:英文] Abe, Y.(2014). Pray for Japan: Reinventing "Japanese national character" after the Tohoku earthquake, tsunami, and nuclear crisis. In L. Cui., & M.H. Prosser(Eds). Social media in Asia. Oswego, OR: World Dignity University Press, 351-376. [論文:和文]阿部康人(2014)「米西海岸での『フクシマ』報道 市民の声より『影響軽微』反復」『ジャーナリズム 1月号No. 284』(84-90 頁)、詳細はhttps://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115133/115133_Researcher.html
社会活動・その他	京都メディア懇話会事務局長
所属学会	International Communication Association　National Communication Association　日本マスコミュニケーション学会
キーワード	コミュニケーション、ニューメディア、デジタルメディア、マスメディア、市民メディア、市民データ、インフラストラクチャー

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115133/115133_Researcher.html

イケ　ダ　ケンイチ
池田　謙一

Kenichi IKEDA

学術調査

所属・職名	社会学部メディア学科／社会学研究科　教授
研究分野	メディア学、社会心理学、政治学
研究活動	政治社会心理学に認知科学的なアプローチを展開する研究を発展させてきました。世界価値観調査(WVS)、アジアン・バロメータ(ABS)、選挙制度の効果の国際比較研究(CSES)などの国際比較調査の代表を多く務めてきました。また、ソーシャル・ネットワークを通じたソーシャルなメディアやネットワークの形成・普及過程、インターネット・コミュニティの実証研究に長らく関わっています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	池田謙一編(2015)震災から見える情報メディアとネットワーク、東洋経済新報社. 池田謙一(2013)新版・社会のイメージの心理学、サイエンス社. Ikeda,K.& Richey,S.(2011)Social Networks and Japanese Democracy. Routledge. Wolf,M.R., Morales,L.and Ikeda, K.(Eds)(2010)Political Discussion in Modern Democracies. Routledge. 池田謙一(2007)政治のリアリティと社会心理、木鐸社. 池田謙一(2000)コミュニケーション、東京大学出版会.
社会活動・その他	2012-2016年度 日本学術振興会 東日本大震災学術調査実施委員会委員(兼)調査研究班統括責任者
所属学会	日本社会心理学会、国際コミュニケーション学会、日本政治学会他多数
キーワード	国際比較研究、政治参加、ソーシャルネットワーク、インターネット、ソーシャルリアリティ

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113013/113013_Researcher.html

イトウ　タカシ
伊藤　高史

Takashi ITO

講演
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部メディア学科／社会学研究科　教授
研究分野	表現の自由の社会学的研究、ジャーナリズムの影響力及び現実構成機能について、メディア産業、コンテンツ産業の動向と課題
研究活動	表現に関する自主規制の研究で博士号を取得。その後、調査報道が国家権力を行使する立場にある人に対して影響力を及ぼすプロセス、メカニズムを実証的に研究しました。現在では、ジャーナリズムがつくりあげる「現実」の歪みとその生成過程を社会理論的に明らかにする作業に取り組んでいます。あわせてメディア産業の課題についての研究も進めています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『「表現の自由」の社会学:差別的表現と管理社会をめぐる分析』(八千代出版、2006年) 『ジャーナリズムの政治社会学:報道が社会を動かすメカニズム』(世界思想社、2010年)
所属学会	日本マス・コミュニケーション学会
キーワード	表現の自由、ジャーナリズム、メディア産業、コンテンツ産業

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115007/115007_Researcher.html

カワサキ　ヨシノリ
河崎　吉紀

Yoshinori KAWASAKI

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部メディア学科／社会学研究科　准教授
研究分野	メディア研究
研究活動	メディア業界への人材供給について、歴史社会学の観点から研究しています。新聞記者はいつから高学歴となり、採用制度はどのように整備され、専門性や資格についていかなる議論を経てきたのでしょうか。近年はイギリスとの国際比較を進めています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	著書『制度化される新聞記者:その学歴・採用・資格』柏書房　2006 論文「社会現象としてのジャーナリズム教育:イギリスにおける高等教育の拡大を中心に」『評論・社会科学』102号　2012
所属学会	日本マス・コミュニケーション学会、日本教育社会学会、メディア史研究会
キーワード	ジャーナリスト

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104069/104069_Researcher.html
http://ykawasak.doshisha.ac.jp/

オグロ　ジュン
小黒　純

Jun OGURO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部メディア学科／社会学研究科　教授
研究分野	ジャーナリズム研究
研究活動	▽映像ジャーナリズム(特に社会派ドキュメンタリーの制作過程) ▽市民による調査報道 ▽ジャーナリスト教育
主要な業績(著作・論文・研究発表)	▽『権力 VS.調査報道』旬報社　2011(高田昌幸氏との共著) ▽「「ニュースの格付け」と通信社　−地方紙の紙面作りに与える影響」駒村圭吾・鈴木秀美編『表現の自由Ⅱ　−状況から』尚学社　2011
社会活動・その他	▽NPO法人「情報公開クリアリングハウス」で、情報公開制度を活用してジャーナリズムを活性化させる活動をしています。 ▽スマホを使って簡単に動画コンテンツを作れるアプリの開発を夢見ています。ご関心がある方はぜひお声かけください。
所属学会	日本マス・コミュニケーション学会、日本オーラル・ヒストリー学会、AEJMC、AMIC
キーワード	ジャーナリズム、マスメディア、調査報道、情報公開、ドキュメンタリー、取材、報道、編集、ライティング、授業開発、権力、マスメディア、メディア、ジャーナリスト教育

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112015/112015_Researcher.html

サエキ　ジュンコ
佐伯　順子

Junko SAEKI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部メディア学科／社会学研究科　教授
研究分野	メディア学、ジェンダー論、女性史、文化史
研究活動	明治女性史、近代女性史と関連づけ、新聞、雑誌記事、文学、映画、ドラマ等のメディアに描かれる女性像/男性像を研究しており、図書の出版、国内外での学会発表、新聞・雑誌記事の執筆(デジタル紙面含む)、講演、関連するテレビ・ラジオの教養番組への出演等を行っています。また、同志社大学京都と茶文化研究センターセンター長として、京都と茶に関する産学官の連携研究会を実施しています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	『男の絆の比較文化史――桜と少年』(岩波現代全書)『美少年尽くし』(平凡社ライブラリー)『明治<美人>論―メディアは女性をどう変えたか』(NHKブックス)、『「女装と男装」の文化史』(講談社メチエ)、『「愛」と「性」の文化史』(角川選書)、『「色」と「愛」の比較文化史』(岩波人文書セレクション、サントリー学芸賞、山崎賞)、共著に『愛と経済のバトルロイヤル――経済×文学から格差社会を語る』(対談・橘木俊詔、青土社)ほか
社会活動・その他	上記研究活動に関連する講演、執筆等のほか、祖母が能楽師であり、古典芸能関連の随筆等も執筆しているため、芸能文化関係の講演や、行政の委員、審査員等もつとめています。 シンポジウム「古典の美が創る京都の魅力」 NHKカルチャーラジオ「明治大正のハンサム・ウーマン　メディアが伝えた働く女性」 女子力ラボ(日本文化デザインフォーラム) シンポジウム「八重と裏千家」、ほか
所属学会	日本マス・コミュニケーション学会、日本近代文学会
キーワード	女性史、文化史、メディア、ジェンダー、テレビドラマ、映画、文学、文化史、古典芸能、能、茶、比較文化

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/102005/102005_Researcher.html

タケウチ　オサ ム
竹内　長武

Osamu TAKEUCHI

講演

所属・職名	社会学部メディア学科／社会学研究科　教授
研究分野	児童文化、漫画史
研究活動	手塚治虫を中心とした漫画史、および児童文化を研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	マンガと児童文学の<あいだ>　大日本図書　1989 手塚治虫論　平凡社　1992 戦後マンガ50年史　筑摩書房　1995 子どもマンガの巨人たち　三一書房　1995 マンガ表現学入門　筑摩書房　2005 手塚治虫−アーチストになるな−　ミネルヴァ書房　2008 マンガ批評大系（共編）　平凡社　1989 アニメへの変容（共編）現代書館　2006 現代漫画博物館1945-2005（共編）小学館　2006 マンガ学入門（共編）ミネルヴァ書房　2009 マンガ・アニメ文献目録（監修）　日外アソシエーツ　2014
社会活動・その他	児童文学学会評議員、大阪国際児童文学財団評議員
所属学会	日本アニメーション学会、日本児童文学学会、日本マンガ学会、日本マスコミュニケーション学会
キーワード	漫画、児童文化、手塚治虫

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/101005/101005_Researcher.html
http://www8.plala.or.jp/otakeuch/index.html

ア ガタ　ケン ジ
阿形　健司

Kenji AGATA

学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部産業関係学科／社会学研究科　教授
研究分野	教育社会学、職業社会学
研究活動	労働市場における職業資格の意義を調査データに基づいて追究しています。とくに、女性や非大卒者など、どちらかというと労働市場で不利な立場にある人にとって、資格がどのような役割を果たすかを研究しています。最近は、職業とは直接結びつかない、資格取得という行為自体が人びとにもたらす意義についても検討しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「職業資格の効用をどう捉えるか」『日本労働研究雑誌』第594号、2009年 「生涯学習における職業資格の二側面」『日本生涯教育学会年報』35号、2014年 [著書]『青少年・若者の自立支援―ユースワークによる学校・地域の再生』（共著）世界思想社、2009年
社会活動・その他	愛知県義務教育問題研究協議会　専門部会委員 財団法人大幸財団　教育実践助成選考委員
所属学会	日本教育社会学会、日本社会学会、中部教育学会
キーワード	教育、職業、資格

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105004/105004_Researcher.html

フク ダ　ジュン
福田　順

Jun FUKUDA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部産業関係学科　助教
研究分野	コーポレート・ガバナンス、ワークライフ・バランス
研究活動	私はこれまでコーポレート・ガバナンスに関する研究を行ってきました。特に配当、買収防衛策の導入、雇用調整速度への株主構成への影響を統計的に明らかにしました。さらにワークライフ・バランスの分野では子育て世代の親の近居が、女性の就労にどのような影響を与えるかについて、明らかにしました。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	福田　順［2015］「女性の就労からみる親子近居の実態と課題」『2015年度都市住宅学会関西支部記念シンポジウム「親子近居は政策化され得るか？～その実態と課題から考える～」』関西学院大学、招待講演 福田　順［2012］『コーポレート・ガバナンスの進化と日本経済』京都大学学術出版会 福田　順・久本憲夫［2012］「女性の就労に与える母親の近居・同居の影響」『社会政策』第4巻第1号、p. 111-122（査読付き）
社会活動・その他	福田　順［2013］「TPPと教会論」『福音と世界』2013年6月号。
所属学会	進化経済学会、経済理論学会、社会政策学会
キーワード	コーポレート・ガバナンス、ワークライフ・バランス、企業年金

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114135/114135_Researcher.html
http://researchmap.jp/fukudajun09/
http://jfukuda.doshisha.ac.jp/index.html

ヒ グチ　ジュンペイ
樋口　純平

Jumpei HIGUCHI

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部産業関係学科　准教授
研究分野	人的資源管理論、労使関係論
研究活動	企業組織における人材の育成、評価、処遇といった人材マネジメント分野の研究をしています。過去には日本企業とアメリカ企業の国際比較分析をテーマとして、また直近では多国籍企業におけるグローバル人材マネジメントの行方をテーマとして企業調査を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	［著書］『人事制度の日米比較-成果主義とアメリカの現実-』（共著）、ミネルヴァ書房, 2009
所属学会	日本労務学会、組織学会、日本労使関係研究協会
キーワード	人事制度、国際比較、グローバル経営

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113010/113010_Researcher.html
http://ir.doshisha.ac.jp/profile/10.html

ミツヤマ　マサ コ
三山　雅子

Masako MITSUYAMA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部産業関係学科／社会学研究科　准教授
研究分野	日本の非正社員労働問題
研究活動	研究の中心は日本の非正社員労働問題です。しかし、この問題を考えることは、非正社員の中心をなしている女性の労働問題を考えることにほかなりません。したがって最近は、日本のシングルマザーの雇用状況も研究しています。また、昨年から日独韓のスーパーを対象に、パート労働の国際比較も行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「誰が正社員から排除され、誰が残ったのか―雇用・職業構造変動と学歴・ジェンダー」藤原千沙・山田和代編『労働再審3 女性と労働』所収、2011 [論文]「自由であることを禁ず ―― シングルマザー・労働・貧困」女性労働問題研究会編『女性労働研究』No.58所収、2014
所属学会	社会政策学会
キーワード	非正社員、ジェンダー、パート

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/195023/195023_Researcher.html

トミ タ　ヤスノブ
冨田　安信

Yasunobu TOMITA

所属・職名	社会学部産業関係学科／社会学研究科　教授
研究分野	労働経済学
研究活動	労働経済学に関する調査研究
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「中小企業における右腕従業員」三谷直紀他『マイクロビジネスの経済分析』東京大学出版会（2002年）、 「職場における男女平等」久本憲夫他『ワーク・ライフ・バランスと社会政策』法律文化社（2010年）、 「高齢者と若者がともに活躍する職場づくり」『OSAKA雇用開発REPORT』2014年（Vol.33）
社会活動・その他	とくになし
所属学会	日本労務学会
キーワード	労働経済学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105005/105005_Researcher.html

ウラサカ　ジュンコ
浦坂　純子

Junko URASAKA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部産業関係学科／社会学研究科　教授
研究分野	労働経済学、教育経済学
研究活動	学校と社会の結節点である新卒労働市場を中心に、労働者の持続的なキャリア形成を分析することによって、社会における適材適所の達成を研究しています。これまで特に注目された業績として、高校教育や大学入試のあり方と所得・昇進等の就業パフォーマンスを関連づけた論考や、文系・理系出身者の所得に関する比較分析等が挙げられます。その他、就業の場としてのNPOや高校・大学におけるキャリア教育など研究対象は多岐にわたっており、得られた知見を現場にフィードバックするべく、高校等への講演活動にも力を注いでいます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]『なぜ「大学は出ておきなさい」と言われるのかーキャリアにつながる学び方ー』ちくまプリマー新書099、2009 [著書]『経済学者に聞いたら、ニュースの本当のところが見えてきた』(共著)日本経済新聞出版社、2013 [論文]"How do Parents' Educational Background and Subjects Good at in School affect Income and Career Promotion of University Graduates:An Empirical Study in Japan,"(共著) Japanese Economic Review, Vol.57, No.4, 2006
社会活動・その他	公益財団法人淡海文化振興財団評議員、公益財団法人電通育英会理事・奨学生選考委員、公益社団法人日本看護協会看護労働委員会委員、京都府公益認定等審議会委員 、大阪府同和問題解決推進審議会委員、滋賀県特定非営利活動法人指定委員会委員
所属学会	日本経済学会、日本NPO学会、社会政策学会、国際教育学会、日本キャリアデザイン学会、日本労務学会
キーワード	雇用、労働、就職活動、キャリアデザイン、キャリア教育、NPO

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/198010/198010_Researcher.html
http://www.jurasaka.com/

イノウエ　トモヨシ
井上　智義

Tomoyoshi INOUE

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	社会学部教育文化学科／社会学研究科　教授
研究分野	教育心理学、言語心理学
研究活動	講演可能なテーマ:「多様なニーズをもつ子どもたちとのコミュニケーション」、「苦労せずに外国語を身につけるには」、「依頼の断りの心理学:ストレスの少ない対人関係の構築」、「子どもをバイリンガルに育てるには」、「誤解の理解:語用論と言語心理学の知見から」
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『発達と教育』『教育の方法』(いずれも樹村房)、『高座心理学:落語にみるこころの科学』『誤解の理解:対話115例で解説するコミュニケーション論』(いずれも、あいり出版)、『福祉の心理学』(サイエンス社)、『視聴覚メディアと教育方法』(北大路書房)
所属学会	ろう教育科学会、日本心理学会、日本教育心理学会、日本認知心理学会、異文化間教育学会
キーワード	言語心理学、認知心理学、教育方法学、bilingualism、異文化コミュニケーション

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/192002/192002_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~tinoue

カネ コ　クニヒデ
金子　邦秀

Kunihide KANEKO

研修
コメンテーター

所属・職名	社会学部教育文化学科／社会学研究科　教授
研究活動	メディア・シンフォニックを用いた社会系の教材開発を行っています。最近では、小中の社会系教科で使用可能なOSフリーの教材ソフトとそれを使用した授業モデル案をまとめ、その論文が全国学会の会誌に採択されました。また、高齢者施設活性化もプロジェクト科目で実施しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「メディア・オーケストレーション電子教科書の開発(3)『ドイツ』」金子邦秀 評論社会科学106 71-140 2013 「社会科メディア・シンフォニック電子教科書の開発=小学校高学年／中学校用国際単元ソフト『世界の国々』　金子邦秀　社会科研究82 1-12 2015
社会活動・その他	・現在、小学校向きの『絵本おはなし日本の歴史』全24巻（岩崎書店）の監修をしています。 ・昨年、雑誌『Synapse』35に、インタビュー形式で開放制の教員養成についての私見を『中学・高等学校教員養成における質的向上の取り組み』として論じました。
所属学会	日本グローバル教育学会、全国社会科教育学会、教育文化学会
キーワード	電子教科書、歴史教育、グローバル教育、社会科教育、プロジェクト科目

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/177001/177001_Researcher.html

アラ イ　キヨウ
新井　京

Kyo ARAI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部法律学科／法学研究科　教授
研究分野	国際人道法
研究活動	国際人道法 武力紛争法 対テロ戦争 サイバー戦 非国際的武力紛争 海戦 占領
主要な業績（著作・論文・研究発表）	武力紛争法におけるテロリストの位置づけ、国際法外交雑誌108巻2号 pp.28-56　出版年:2009年8月 「テロとの戦争」における武力紛争の存在とその性質、同志社法学61巻1号（通巻334号）pp.1-54　出版年:2009年5月 イラクにおける占領法規の適用について―占領法規の現代的意義―、同志社法学　58巻2号（通巻314号）（安藤仁介教授古稀記念論集） pp.455-490　出版年:2006年6月
所属学会	アメリカ国際法学会、世界法学会、国際人権法学会、国際法協会（日本支部）、国際法学会
キーワード	武力紛争法、中立法、国際刑事法

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/106002/106002_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~karai/

フナ ツ　コウ ジ
舩津　浩司

Koji FUNATSU

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部法律学科　准教授
研究分野	会社法、金融商品取引法、金融監督法
研究活動	企業グループを巡る会社法上の諸問題を主たる研究対象としていますが、その他、とりわけ以下のような金融法分野の研究にも従事しています。インサイダー取引規制、コーポレートガバナンスコード、金融グループのコンプライアンス体制・リスクマネジメント体制、情報技術の進展に伴う法制度の変容（とりわけ商業登記制度および証券取引制度）です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	舩津浩司『「グループ経営」の義務と責任』（商事法務、2010年） 舩津浩司「キャッシュ・アウト」神田秀樹編『論点詳解 平成26年改正会社法』（商事法務、2015年）171-190頁 舩津浩司「欧州における企業グループ法制の動向と日本の法制のあり方」神田秀樹＝宮島英昭責任編集『フィナンシャル・レビュー』121号（2015年）108-134頁 舩津浩司「給付反対給付均等原則の法的再定位」生命保険論集189号（2014年）99-126頁 神田秀樹＝黒沼悦郎＝松尾直彦編著『金融商品取引法コンメンタール2』（商事法務、2014年）391-413頁
社会活動・その他	2015年5月-12月:金融審議会専門委員（金融グループを巡る制度のあり方に関するワーキング・グループ委員） 2015年7月-2016年1月:金融庁金融研究センター特別研究員
所属学会	日本私法学会、日本保険学会
キーワード	企業グループ、会社法、金融商品取引法、コーポレートガバナンス、金融監督法、ドイツ法、ヨーロッパ法

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107040/107040_Researcher.html

ハマ　シンイチロウ
濱　真一郎

Shinichiro HAMA

講演
研修
学術調査

所属・職名	法学部法律学科／法学研究科　教授
研究分野	法哲学、法思想史
研究活動	英国の思想史家アイザィア・バーリンが提示する「価値多元論」を研究しています。この立場は、現代社会における価値の多元化を認識した上で、それぞれの民族や文明が、自らの価値観を保持した上で共存する道を模索するものです。そういったバーリンの価値多元論の検討を通じて、多元的社会における自由と人権のあり方を検討することが、私のここ数年来の研究テーマです。 「法とは何か」「法と道徳の関係は何か」「法的推論はどのようなものか」「権利とは何か」といった法哲学上の重要問題にも取り組んでいます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書] 『法実証主義の現代的展開』(成文堂、2014年) 『バーリンの自由論――多元論的リベラリズムの系譜』(勁草書房、2008年) [共編著] 『よくわかる法哲学・法思想〔第2版〕』(深田三徳と共編著、ミネルヴァ書房、2015年) 『ドゥオーキン――法哲学と政治哲学』(宇佐美誠と共編著、勁草書房、2011年)
社会活動・その他	日本法哲学会理事
所属学会	日本法哲学会、法哲学・社会哲学国際学会連合(IVR)日本支部、日本法社会学会、イギリス哲学会
キーワード	リベラリズム、価値多元論、自由論

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/199021/199021_Researcher.html

イシバシ　ヒデノリ
石橋　英典

Hidenori ISHIBASHI

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部法律学科　助教
研究分野	民事手続法
研究活動	民事手続における「裁判官の裁量」を研究テーマにしています。社会の紛争が多様化する中、民事訴訟法においては、より柔軟で、より迅速な裁判を実現するため、裁判官の裁量について注目が集まっています。裁判官の裁量には、柔軟性や迅速性を確保できるメリットがある一方で、手続の不透明性や手続の安定性を害するというデメリットも指摘されています。このように、裁判において諸刃の剣となりうる「裁量」は何故認められ、どこに存在するのかという観点から、裁量を根本的に問うことが私の研究課題です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「民事裁判官の裁量に関する基礎的考察―ドイツにおける裁量をめぐる議論をてがかりとして―」同志社法学367号、35-178頁2014年、「確定判決の効力を受ける第三者による再審の際の独立当事者参加」同志社法学373号、219−243頁2015年、「別除権協定の解除条件に関する合意の内容と協定失効後の効果」同志社法学378号、559-581頁、2015年
所属学会	日本民事訴訟法学会、仲裁ADR法学会
キーワード	民事訴訟法、裁量、倒産法、民事執行法

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115149/115149_Researcher.html

カイノウ　ミチヒロ
戒能　通弘

Michihiro KAINO

講演
コメンテーター

所属・職名	法学部法律学科／法学研究科　教授
研究分野	法思想史
研究活動	近代英米の法思想、ジェレミー・ベンサムの法思想について研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	イギリス、アメリカの裁判をめぐる思想、法の支配、あるいは、英米それぞれの社会と法との関係について研究しています。また、18-19世紀のイギリスの思想家、ジェレミー・ベンサムの思想についても研究を進めてきました。
所属学会	国際法哲学社会哲学学会連合（IVR）、イギリス哲学会、法社会学会、国際功利主義学会（ISUS）
キーワード	イギリス法思想史、コモン・ロー、ベンサム、功利主義、法の支配

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104005/104005_Researcher.html

カミタニ　ユウ
神谷　遊

Yu KAMITANI

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部法律学科／法学研究科　教授
研究分野	民法、家族法
研究活動	現代の家族関係と法制度とのかかわりについて研究をしています。家族をめぐる法的問題は、離婚や相続など多岐にわたります。これらは、わが国に限らず、外国にも共通する問題です。これまでは、「離婚法における破綻主義」や「成年後見制度の改革」といったテーマを中心に研究に取り組んできましたが、外国法、とくにドイツ法との比較研究を通じて、わが国の立法や法解釈の特質を把握し、そこから課題を析出した上で、日本法の今後のあり方について検討を進めています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]　『新版注釈民法（25）』（共著）（有斐閣）2004年 『基本法コンメンタール（第5版）親族』（共著）（日本評論社）2008年 [論文]　「任意後見の比較法的検討」判例タイムズ1030号2000年 「遺留分および遺留分侵害額の算定方法」『遺言と遺留分　第2巻』（日本評論社）2011年 「離婚原因と破綻主義」戸籍時報694号2013年
社会活動・その他	痴呆性老人等権利擁護検討委員会（滋賀県） 広島家庭裁判所家事調停委員 広島市男女共同参画審議会委員 広島県情報公開・個人情報保護審査会委員 京都家庭裁判所家事調停委員 京都府社会福祉審議会委員
所属学会	日本家族＜社会と法＞学会、日本成年後見法学会、日独法学会、比較法学会、私法学会
キーワード	民法、家族法、離婚法、破綻主義、成年後見、相続法、親子法

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107022/107022_Researcher.html

カワモト　テツロウ
川本　哲郎

Tetsuro KAWAMOTO

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部法律学科／法学研究科　教授
研究分野	刑事法
研究活動	刑事法全般を研究していますが、とくに、精神障害者の犯罪、交通犯罪、法人犯罪、犯罪被害者支援、感染症と人権などのテーマに取り組んできました。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	【著作】「精神医療と犯罪者処遇」(2002年、成文堂)(単著)、「テキスト刑法各論　補訂第2版」(2007年、青林書院)(共著)、「交通犯罪対策の研究」(2015年、成文堂)(単著) 【論文】「フランスにおける法人の刑事責任」刑法雑誌35巻3号(1996年)、「感染症対策における介入の根拠および解釈」保健師ジャーナル67巻11号(2011年)、「犯罪被害者支援の今後の課題」同志社法学377号(2015年)
社会活動・その他	京都府・京都市・新型インフルエンザ対策専門家会議委員(2006年4月～)、法と精神医療学会理事(2006年3月～)(2015年度からは理事長)、日本被害者学会理事(2002年6月～)、京都市・精神医療審査会委員(1999年4月～)、京都市・感染症審査協議会委員(1999年4月～)、京都府・感染症審査協議会委員(2015年4月～)
所属学会	日本刑法学会法、法と精神医療学会、日本被害者学会、司法精神医学会
キーワード	精神障害犯罪、交通犯罪、犯罪被害者、感染症と人権、医療観察法、罰金刑、死刑、性犯罪、精神障害者の人権

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112006/112006_Researcher.html

カワムラ　ヒロシ
河村　博

Hiroshi KAWAMURA

講演
研修
コメンテーター

所属・職名	法学部法律学科／法学研究科　教授
研究分野	刑事訴訟法を中心とする刑事法の現代的課題
研究活動	刑事関係の実務と共に刑事法、司法制度等の各種の法・制度改正の企画・立案作業等に関わって参りましたので、社会の実体を踏まえ、社会諸活動のグローバル化、ボーダーレス化の中でのわが国の刑事法とそれを支える制度の在り方を研究しております。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	共編著　条解刑事訴訟法(弘文堂)、同　条解刑法(弘文堂)、同　大コンメンタール刑事訴訟法(青林書院)、同　大コンメンタール刑法(青林書院)、同　注釈刑事訴訟法(立花書房)、同　裁判例コンメンタール刑事訴訟法(立花書房)、単著　刑法概説(実務法規)
社会活動・その他	旭硝子株式会社及び株式会社石井鐵工所社外監査役
所属学会	刑法学会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115017/115017_Researcher.html

カワサキ　トモ ミ
川崎　友巳

Tomomi KAWASAKI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部法律学科／法学研究科　教授
研究分野	刑法、経済刑法、犯罪学
研究活動	企業犯罪は、個人による犯罪を圧倒的に凌ぐ重大な被害をもたらしますが、現在のわが国の刑法において、積極的に企業に対して刑事責任を問うのは困難です。そこで、このような企業犯罪に対して刑法上いかなる対応をすべきなのか、特に、企業自体に積極的に刑事責任を課すためにいかなる理論づけが可能なのかを、諸外国の動向も踏まえながら、検討しています。また、企業犯罪に限らず、現在の私たちの生活に密接する経済活動の中で生じる犯罪およびその規制に対しても視野を広げ、研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『企業の刑事責任』(成文堂、2004) 『犯罪タイポロジー』(成文堂、第2版、2014) 『会社法罰則の検証』[分担執筆](日本評論社、2015) 「法人処罰論の今日的展開」『大谷實先生喜寿記念論文集』363-402 2011 「アメリカ経済刑法におけるコンスピラシー罪の意義」同志社法学63 1 475-526 2011 「アメリカ経済刑法における郵便詐欺罪・通信詐欺罪の意義」同志社法学66 1 1-66 2014 「イギリスにおける執行猶予」論究ジュリスト14 57-72 2015
社会活動・その他	法務省入国管理局西日本地区入国者収容所等視察委員会委員、京都地方裁判所委員会委員、京都府留置施設視察委員会委員、日本刑法学会理事、日本被害者学会理事
所属学会	日本刑法学会、日本被害者学会、法と精神医療学会
キーワード	経済犯罪、企業犯罪、ホワイトカラー犯罪、金融犯罪、証券犯罪、環境犯罪

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/198015/198015_Researcher.html

カワシマ　シ ロウ
川嶋　四郎

Shiro KAWASHIMA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部法律学科／法学研究科　教授
研究分野	民事訴訟法、倒産法、救済法、司法制度論
研究活動	広く民事訴訟法領域の諸問題について、法的救済を重視し人のために法を生かす基本的な立場から、研究しています。これは、民事訴訟法を中心として、救済法および法比較の視点から、民事執行・保全法、倒産法、ADR(裁判外紛争解決手続)、裁判法、環境訴訟法などをも包含する「民事救済法」の法領域を構想したうえで、日本の民事司法における法的救済のあり方について研究を行うものです。大規模な差止請求訴訟事件から、通常の訴訟事件、少額訴訟事件、家事事件、執行・倒産事件などについて、そのあるべき具体的な法的救済過程の研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]『民事訴訟過程の創造的展開』弘文堂 2005,『差止救済過程の近未来展望』日本評論社 ,『民事救済過程の展望的指針』弘文堂 2006,『アメリカ・ロースクール教育論考』弘文堂 2009,『日本人と裁判』法律文化社 2010,『民事訴訟法概説』弘文堂 2013,『民事訴訟法』日本評論社 2013,『公共訴訟の救済法理』有斐閣(近刊), (共著)『民事手続法入門〔第4版〕』有斐閣 2012,『レクチャー日本の司法』法律文化社 2014,『テキストブック現代司法〔第6版〕』日本評論社 2015 等
社会活動・その他	日本学術会議、法務省法務総合研究所JICA法整備支援、盲導犬ボランティア。労働委員会公益委員、情報公開委員、司法委員、弁護士会懲戒委員、法科大学協会専門委員、他大学専門評価委員、法律雑誌編集委員、高等学校等出前授業、公開講座、e-サポート研究会代表等を経験。
所属学会	日本民事訴訟法学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会、臨床法学教育学会、アメリカ法学会、アジア法学会
キーワード	民事訴訟法、倒産法、救済法、法学教育、司法制度、環境法

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108032/108032_Researcher.html

クロサカ　ノリ コ
黒坂　則子

Noriko KUROSAKA

所属・職名	法学部法律学科　教授
研究分野	行政法、環境法(日米両国における環境規制の比較)
研究活動	私は、行政法的アプローチから環境問題を捉え、環境規制手法のあり方を研究することを主たる研究テーマとしています。環境規制のあり方を考えるうえで、特にアメリカにおける土壌汚染問題に対する政策手法を中心に研究してきました。現在も引き続き日米における土壌汚染対策問題を研究しつつ、さらにより広い視点から、土地利用規制における環境問題も研究したいと考え、研究の緒に就いたところです。わが国においては、現在、汚染土壌ではない、建設発生土をはじめとした土砂の埋立て等の規制条例を中心に研究しています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	(分担執筆著書)『環境法のフロンティア』黒川哲志・奥田進一編(2015年)「第2章基本理念・基本原則・政策手法」、「第13章鉱物資源」 (論文)「土砂埋立て等の規制に関する条例の現状と課題」『日本不動産学会誌』113号(2015年) 111-116頁 (論文)「近時の京都市における産業廃棄物行政-産廃処理・3R等優良事業場認定制度(産廃チェック制度)を中心に」『環境管理』50巻1号(2014年)48-53頁 (判例評釈)「[開発負担に関する事例]　Koontz v. Johns River Water Management District, 133 S. Ct. 2586(2013)」『アメリカ法2014−1号』(2014年)206頁-209頁　など
社会活動・その他	京都府建築士審査会、京都府国土利用計画審議会、京都府環境影響評価審査会、大阪府公害審査会、兵庫県建築審査会、大阪市環境影響評価専門委員会、京都府公共事業評価審査会、西宮市建築審査会、尼崎市情報公開・個人情報保護審査会委員、尼崎環境審議会、京都市美観風致審議会、奈良市法令審査会、高槻市環境審議会、川西市景観審議会、大阪市港湾審議会、京都市3R推進協議会など
所属学会	公法学会、環境法政策学会、日本不動産学会、日本地方自治学会
キーワード	土壌汚染、環境法、環境規制、土地利用規制

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/109001/109001_Researcher.html

マツバラ　ヒサトシ
松原　久利

Hisatoshi MATSUBARA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部法律学科／法学研究科　教授
研究分野	刑法学
研究活動	(1)個人責任、個別行為責任を基本原則とする刑法において、法人企業犯罪に刑事責任を問うことができるのか、(2)実行行為と犯罪構成要素の「同時存在の原則、(3)医療の安全のために刑法が果たすべき役割について研究しています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	「犯罪論における同時存在の原則と自招侵害」川端博先生古稀記念論文集(上巻)(2014年、成文堂)119頁−146頁 「医療の安全と刑法」同志社法学370号(2014年)1頁−20頁
社会活動・その他	社団法人京都犯罪被害者支援センター会員
所属学会	日本刑法学会、日本被害者学会、法と精神医療学会
キーワード	刑法、企業犯罪、同時存在の原則、医療の安全

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107020/107020_Researcher.html

ナガイ　ノリアキ
永井　智亮

Noriaki NAGAI

研修
コンサルティング
コメンテーター

所属・職名	法学部法律学科　教授
研究分野	ビジネス法務(会社法・金融商品取引法)、法と経済分析、国際仲裁
研究活動	会社法や金融商品取引法などを中心に、企業の経済活動に関連する法制度(企業法務)の研究をしています。企業の経営や法務実務等の経験から、経済的分析を踏まえた法学研究の重要性を痛感しています。学生には実学としての法学のあり方を説き、具体的・実証的で科学的な法的討論ができるよう指導しています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	「座談会　役員報酬の再検討」商事法務2075号(2015.8/5-15号)(伊藤靖史、柴田寛子、永井智亮ほか)、(著作)「金商法大系I―公開買付け(1)」・「公開買付け(2)」(商事法務)証券法研究会編、編集代表 神田秀樹・永井智亮・武井一浩、「金融商品取引法セミナー/公開買付け・大量保有報告編」(有斐閣)(池田唯一、岩原紳作、神田秀樹、武井一浩、永井智亮、藤田友敬、三井秀範、山下友信　共著)、(論文)「委員会等設置会社における株主総会」ジュリスト1271号、など
社会活動・その他	経営法友会評議委員
所属学会	国際商取引学会
キーワード	企業法務、法と経済分析、国際商事仲裁

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115135/115135_Researcher.html

サカイ　タケオ
坂井　岳夫

Takeo SAKAI

講演
学術調査

所属・職名	法学部法律学科　准教授
研究分野	社会保障法
研究活動	社会保障法の基礎理論に関心をもっており、社会保険の適用構造、および、社会保障と私的制度という観点から研究しています。社会保険の適用構造に関しては、社会保険制度における労働者(被用者)、非正規労働者、従属的自営業者などの取扱いについて研究しています。また、社会保障と私的制度に関しては、現在はとくに企業年金の法規制について取り組んでおり、企業年金の支給をめぐる法律関係、企業年金の減額に対する法的規律について研究しています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	「高年齢の労働者に関する雇用政策・年金政策」村中孝史ほか編『労働者像の多様化と労働法・社会保障法』(有斐閣、2015年)、「ドイツ国内法へのEU法の影響――移動の自由・サービス提供の自由とドイツの補足的年金制度」社会保障法28号(2013年)、「企業年金の受給者減額に関する一考察――社会保障法における企業年金の位置付けに関連して」同志社法学61巻5号(2009年)
社会活動・その他	公益社団法人京都勤労者学園理事
所属学会	日本社会保障法学会、日本労働法学会、日本労使関係研究協会
キーワード	社会保障、社会保険、公的年金、企業年金

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/110021/110021_Researcher.html

シラ イ　マサカズ
白井　正和

Masakazu SHIRAI

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部法律学科　准教授
研究分野	商法
研究活動	商法の中でも会社法を専門とし、特に企業買収の場面における法制度の研究をしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『友好的買収の場面における取締役に対する規律』（単著、商事法務、2013年） 『M&Aにおける第三者委員会の理論と実務』（共著、商事法務、2015年） 『有斐閣ストゥディア 会社法』（共著、有斐閣、2015年） 『数字でわかる会社法』（共著、有斐閣、2013年）
社会活動・その他	日本証券業協会キャピタルマーケットフォーラム研究委員 日本証券経済研究所M&A制度研究会委員
所属学会	日本私法学会
キーワード	会社法、企業買収

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115001/115001_Researcher.html

タカスギ　ナオシ
髙杉　直

Naoshi TAKASUGI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部法律学科／法学研究科　教授
研究分野	国際私法、国際取引法
研究活動	国際取引や国際結婚など、国際的な経済活動や私的生活から生ずる法律問題について研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	松岡博（著）・高杉直（補訂）『国際関係私法講義（改題補訂版）』（法律文化社、2015） 野村美明・高杉直・久保田隆編『ケーススタディー国際関係私法』（有斐閣、2015） 澤田壽夫・柏木昇・杉浦保友・高杉直・森下哲朗・増田史子編『マテリアルズ国際取引法（第3版）』（有斐閣、2014年） 曽野裕夫・沖野眞已・藤田友敬・小塚荘一郎・森下哲朗・高杉直『私法統一の現状と課題』別冊NBL144号（商事法務、2013）など
社会活動・その他	家庭裁判所参与員、調停委員
所属学会	国際私法学会、国際法学会、日本国際経済法学会、国際商取引学会
キーワード	国際取引、仲裁・調停、国際結婚

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104002/104002_Researcher.html

ウエ ダ　タツ コ
上田　達子

Tatsuko UEDA

講演
学術調査

所属・職名	法学部法律学科　教授
研究分野	労働法、社会保障法
研究活動	雇用社会の変化に対して、どのように労働法や社会保障法が対応すればよいかを研究しています。たとえば、近年、仕事上の過労やストレスにより精神障害（うつ病等）を患ったり、その結果として自殺に至った場合に、被災労働者・遺族が労災保険給付請求や企業（使用者）に対して安全配慮義務違反を問う民事損害賠償請求を行う事案が増加しています。こうした事案を分析しながら、日本における労災補償（保険）制度のあり方、労災予防の観点も含めて使用者責任のあり方等について研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「マルチジョブホルダーの現状と法的課題」村中孝史ほか編『労働者像の多様化と労働法・社会保障法』（有斐閣、2015年）288～303頁 「過労自殺」土田道夫・山川隆一編『労働法の争点』（有斐閣、2014年）137～138頁 「労災保険の給付法に関する一考察」同志社法学364号35～69頁（2013年）
社会活動・その他	京都府男女共同参画審議会委員（2010年7月～） 京都紛争調整委員会委員（2012年4月～）
所属学会	国際労働法社会保障学会、日本労働法学会
キーワード	労働法、社会保障法

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/195008/195008_Researcher.html

イチカワ　ヨシタカ
市川　喜崇

Yoshitaka ICHIKAWA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部政治学科／法学研究科　教授
研究分野	行政学、地方自治、日本の中央−地方関係
研究活動	中央−地方関係や地方自治制度などを研究しています。主な研究課題は、日本の中央−地方関係の歴史的形成過程、分権改革と平成の大合併の政治過程、道州制などです。日本の中央−地方関係の歴史的形成過程に関しては、戦前の集権体制が残存したとする通説であった「温存説」を批判し、「変容説」を唱えています。分権改革や道州制については、国会等で公述人や参考人として発言しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]『日本の中央−地方関係――現代型集権体制の起源と福祉国家』（法律文化社, 2012年）日本公共政策学会2013年著作賞受賞 [論文]「『昭和の大合併』再訪」『自治総研』437号（2015年） 「都道府県による市町村の『補完』を考える」『都市とガバナンス』20号（2013年） 「都道府県の性格と機能――公的ガバナンスにおける政府間関係」新川達郎編『公的ガバナンスの動態研究――政府の作動様式の変容』（ミネルヴァ書房, 2011年）
社会活動・その他	京都市情報公開・個人情報保護審査会委員（第2部会長）（2012−） （財）日本都市センター「地方自治将来展望研究会」委員（2006-07） 京都府広域制度検討プロジェクトチーム委員（2005-06） （財）自治総合センター「21世紀地方自治制度研究会」委員（2004-07） 吹田市自治基本条例研究会委員（2004年8月より会長）（2003-05） 寝屋川市補助金検討委員会委員（2003-05）
所属学会	日本行政学会、日本公共政策学会、日本地方自治学会、日本政治学会
キーワード	地方自治、中央−地方関係、道州制、都道府県

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/100002/100002_Researcher.html
http://yichikaw.doshisha.ac.jp/

イイ ダ　タケシ
飯田　健

Takeshi IIDA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部政治学科　准教授
研究分野	政治行動論、政治学方法論
研究活動	・日本とアメリカにおける選挙・世論の実証分析。とりわけ、両国の政権交代のメカニズムおよび対外政策世論の決定要因に関心をもっています。 ・社会科学における因果推論。とりわけ調査観察データおよび実験を用いて、政治・社会におけるさまざまな因果関係を厳密に検証する方法論について研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	・山田真裕・飯田健編著. 2009年.『投票行動研究のフロンティア』おうふう. ・田中愛治・河野勝・日野愛郎・飯田健・読売新聞世論調査部. 2009年.『2009年、なぜ政権交代だったのか:読売・早稲田の共同調査で読みとく日本政治の転換』勁草書房. ・飯田健. 2013年.『計量政治分析』共立出版 ・Takeshi Iida and Tetsuya Matsubayashi. 2010. “Constitutions and Public Support for Welfare Policies. ”Social Science Quarterly, 91-1, 42-62.
所属学会	アメリカ政治学会、日本選挙学会、日本政治学会、アメリカ学会、公共選択学会
キーワード	選挙、投票行動、世論、計量政治分析、因果推論、アメリカ政治、日本政治

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113008/113008_Researcher.html
http://txpolisci.sakura.ne.jp/

モチヅキ　シ フミ
望月　詩史

Shifumi MOCHIZUKI

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部政治学科　助教
研究分野	近現代日本政治思想史
研究活動	近代日本を代表する言論人の一人である石橋湛山の思想・哲学について研究しています。これまで軽視されてきた要素（ナショナリズム、愛国心、宗教観等）に着目しています。上記研究に加えて、郷土史研究（山梨）にも力を入れています。「郷土」から「日本」を捉える視座は有益です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	①論文 ・「石橋湛山の二つの問い」（「第1回石橋湛山平和賞」最優秀賞）2012 ・「石橋湛山の一九二〇年代における対外論の再検討」（2013年度政治思想学会研究奨励賞）2014 ・「「対米自主」の思想」（出原政雄編『戦後日本思想と知識人の役割』（法律文化社）所収）2015 ②研究発表 ・「石橋湛山の「小日本主義」の再検討」政治思想学会第21回研究大会、2014・5 ・「石橋湛山の議会政治論」、石橋湛山研究学会第1回大会、2014・12
所属学会	山梨郷土研究会、政治思想学会、日本ピューリタニズム学会、日本思想史学会、石橋湛山研究学会
キーワード	思想、哲学、ジャーナリズム、地方

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115150/115150_Researcher.html

ムラ タ　コウ ジ
村田　晃嗣

Koji MURATA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部政治学科／法学研究科　教授
研究分野	外交史、安全保障政策論
研究活動	第二次世界大戦後のアメリカの東アジア政策とその決定過程、日米安全保障関係の歴史と課題などを研究テーマにしています。歴史といっても、まさにliving historyなので、アメリカの情報公開法による資料の開示や日米双方の政策担当者へのインタビューを精力的におこなっています。また、単なる歴史研究にとどまらず、安全保障問題の現状分析や政策提言も意図しており、国際会議への出席や総合雑誌・新聞への寄稿も折にふれておこなっています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「共和党リアリストの退潮と復権」『アメリカ外交の潮流』129-151 2007 「リアリズム」『日本の国際政治学1　学としての『国際政治』』41-60 2009 [著書]『レーガン　いかにして「アメリカの偶像」となったか』中公新書 2011
社会活動・その他	公益財団法人大学基準協会理事、一般社団法人日本私立大学連盟常務理事、公益財団法人大学コンソーシアム京都副理事長、公益財団法人東京財団理事、財団法人平和・安全保障研究所研究委員、京都日米協会副会長、公益財団法人アメリカ研究振興会評議員
所属学会	国際安全保障学会、アメリカ学会、日本国際政治学会
キーワード	映画、外交、大統領

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/100012/100012_Researcher.html
https://www1.doshisha.ac.jp/~kmurata/index.html

ニシザワ　ヨシタカ
西澤　由隆

Yoshitaka NISHIZAWA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部政治学科／法学研究科　教授
研究分野	選挙過程、政治行動、計量政治学
研究活動	有権者の政治参加（選挙における投票や、デモなどの選挙以外の政治的な活動への関わり）について研究をしています。そのために、有権者の政治意識と政治的態度を私は手がかりとします。そして、政治意識や態度は世論調査を用いて調べます。従来、世論調査は面接調査が中心でしたが、現在では、それがネット調査などに変わろうとしています。コンピュータを駆使した、最新の調査方法の開発に取り組んでいます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「面接調査におけるSocial Desirability Bias:その軽減へのfull-scale CASIの試み」〔共著　栗山浩一〕『レヴァイアサン』46号、51-74、2010. [編著書] Electoral Survey Methodology: Insight from Japan using computer assisted personal interviews, with Masaru Kohno, Routledge, Forthcoming.
社会活動・その他	京都市選挙管理委員会　京都市明るい選挙推進協議会委員、日本選挙学会理事長（2010-12）
所属学会	アメリカ政治学会（APSA）、日本政治学会、日本選挙学会
キーワード	政治参加、選挙、政治意識、計量政治、世論調査

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/197001/197001_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~ynishiza/index.html

リキヒサ　マサユキ
力久　昌幸

Masayuki RIKIHISA

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	法学部政治学科／法学研究科　教授
研究分野	イギリス現代政治
研究活動	イギリス政治のさまざまな側面を研究の対象としていますが、特にEUなどヨーロッパとの関係やイギリス国内での地域分権およびスコットランドにおける分離独立運動に関心を持っています。最近では、スコットランドにおける2014年分離独立住民投票の研究や、スコットランドと同様に分離独立を目ざすナショナリズム政党を持つウェールズ政治について研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[単著]『イギリスの選択:欧州統合と政党政治』木鐸社, 1996年 [単著]『ユーロとイギリス:欧州通貨統合をめぐる二大政党の政治制度戦略』木鐸社, 2003年 [共編著]『グローバル時代の法と政治:世界・国家・地方』成文堂, 2009年 [共編著]『イギリス現代政治史』ミネルヴァ書房, 2010年 [共編著]『現代イギリス政治』成文堂, 2014年
所属学会	アイルランド政治学会、イギリス政治学会、日本EU学会、日本国際政治学会、日本政治学会、日本比較政治学会
キーワード	イギリス現代政治、地域分権、分離独立、ナショナリズム、政党政治

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105025/105025_Researcher.html

ハッタ　エイジ
八田　英二

Eiji HATTA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	産業組織論、計量経済学
研究活動	それぞれの産業を、その市場構造、市場行動、市場成果の側面から産業組織理論を用いて実証的に分析し、仮説検定を行います。これにより、各市場に競争を回復、あるいは促進させるための政策提言を行うことを目的としています。検証手法としては、数理統計学を基礎とした計量経済学手法を用います。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『日本経済の新地平』(編著)、晃洋書房、2013年 『日本経済の探求−変化から転換へ』(編著)、晃洋書房、2010年 『日本経済の構造と変化』(編著)、晃洋書房、2007年
社会活動・その他	文部科学省大学設置・学校法人審議会委員、全日本野球協会副会長、日本学生野球協会会長、日本高等学校野球連盟会長、日本学術振興会学術システム研究センター運営委員、京都府公立大学法人経営審議会委員、大学監査協会副会長、与信管理協会副会長
所属学会	日本経済学会、日本経済政策学会、日本統計学会
キーワード	産業組織、寡占産業、日本経済、大学監査、与信管理

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/174011/174011_Researcher.html

イタバ　ヨシオ
伊多波　良雄

Yoshio ITABA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	幸福の経済学、財政学、地方財政学、政策評価
研究活動	私立学校共済事業団研究助成研究におけるスポーツと健康に関するアンケート調査の実施、幸福度に関するアンケート調査の実施、地方自治体の事業評価の実施、幸福感分析を用いたスポーツおよび各種事業などの政策評価、幸福感分析を用いた政策立案。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	編著『公共政策のための政策評価手法』中央経済社　2009 編著『スポーツの経済と政策』晃洋書房　2011 共著『貧困と社会保障制度』晃洋書房　2011 「マクロ経済学入門　スポーツの経済効果をどのように測るか」『経済セミナー』2013年4･5月号 “What do People think about Basic Income in Japan?” in *Basic Income in Japan*,Vanderborght and Yamamori(eds.),Palgrave Macmillan,2014
社会活動・その他	地方自治体の各種委員会、地方自治体の事業評価、アンケート解析など。
所属学会	日本財政学会、日本地方財政学会、日本経済学会、日本保険学会
キーワード	幸福感分析、政策評価、スポーツ、健康、アンケート、年金、都市規模

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/182012/182012_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~yitaba/

カサ イ　タカ ト
笠井　高人

Takato KASAI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科　助教
研究分野	経済学説、経済思想史、幸福感分析
研究活動	カール・ポランニーの社会経済思想を福祉思想として明らかにするとともに、その思想の形成過程の解明をテーマとしています。彼が活躍した20世紀中葉という激動の時代（政治的不安）と思想の開花・発展という観点から、社会科学としての経済学に焦点を当てています。 また幸福感分析やその学史的地位についても興味があります。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	【論文】笠井高人（2013）「カール・ポランニーの19世紀文明批判と『二重の運動』論:経済的自由主義と社会政策をめぐって」『経済学論叢』第65巻第1号, pp.321-347. 【学会報告】Takato Kasai “The Cause of War and Role of People by Karl Polanyi: A Change in Realm of International Relations after *The Great Transformation*.” 4th ESHET-JSHET Joint Conference, Otaru University of Commerce, 11-13, September, 2015.
所属学会	経済学史学会、Association for Evolutionary Economics
キーワード	カール・ポランニー、福祉、幸福感

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115151/115151_Researcher.html
https://sites.google.com/site/takatokasai01

カワシマ　ノブ コ
河島　伸子

Nobuko KAWASHIMA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター
学内創造経済研究センターとしても連携可

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	文化政策論、文化産業論
研究活動	文化芸術を維持保存、発展させるための経済基盤、文化芸術を活用したまちづくり、創造性に根差した経済社会の構築のためのビジネス環境、政策基盤の整備などを研究しています。特にイギリスの文化政策研究に長年携わってきました。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『コンテンツ産業論』（ミネルヴァ書房 2009） 『変貌する日本のコンテンツ産業』（共編著、ミネルヴァ書房 2013） 『イギリス映画と文化政策』（共編著、慶應義塾大学出版会 2012） 『グローバル化する文化政策』（共編著、勁草書房 2009） など
社会活動・その他	文化経済学会〈日本〉会長、日本文化政策学会理事、国際文化政策研究学会学術委員、文部科学省政策評価有識者会議委員、文化庁「文化審議会政策部会」委員、滋賀県文化振興評議会評価部会委員など。
所属学会	国際文化政策学会、日本広告学会、文化経済学会<日本>、日本文化政策学会、著作権法学会
キーワード	文化、経済、政策、コンテンツ、芸術、まちづくり、創造経済、クール・ジャパン

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/199001/199001_Researcher.html

キム　サンスク
金　仙淑

KIM Sunsook

学術調査

所属・職名	経済学部経済学科　助教
研究分野	経済政策(交通と環境)
研究活動	アジア地域における主な航空会社を対象に財務データを元にした分析の結果、費用構造の面で異なる特性を有するにも関わらず、ネットワーク戦略において同一の特性を持つ航空会社がありました。また、2000年度と2009年度に焦点を当てた分析では、研究対象のフルサービス航空会社に独自の費用構造に基づく個別の変化が部分的にあったことがわかりました。 現在は、欧米に比べて航空貨物輸送のシェアが大きいアジアの航空会社の特徴に着目した地方空港の活性化と新規航空会社の役割に関する国際比較研究に取り組んでいます。
主要な業績 (著作・論文・研究発表)	1.「アジアのフルサービスネットワーク航空会社の費用構造」金仙淑『交通学研究』第55号 pp. 193～202. 2011 2.「国際線ネットワークと営業費用の変化からみたアジアの主要航空会社の特徴」金　仙淑『港湾経済学』第51巻 pp. 165～178. 2012 3.「国際航空分野における排出量取引制度の課題――EU-ETSとICAO-ETSの比較を通じて―」金　仙淑『経済学論叢』第61巻 第1号 pp. 131～146. 2009 4.「アジア･太平洋地域における航空市場の規制緩和」金　仙淑『経済学論叢』第65巻 第1号 pp.293～320. 2013
所属学会	日本交通学会、日本港湾経済学会、日本環境経済･政策学会、日本都市学会、日本海運経済学会
キーワード	航空産業

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114142/114142_Researcher.html

キタガワ　マサアキ
北川　雅章

Masaaki KITAGAWA

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	金融政策、マクロ経済学、日本経済
研究活動	マクロ経済学の諸学派の経済に対する見方･考え方や理論構造の違いと、そこから導かれる政策的含意を検討しつつ、金融政策を有効に運営するために、その効果波及経路や効果の程度、時間的遅れなどについて、理論的･計量的に分析するのが、私の研究テーマです。
主要な業績 (著作・論文・研究発表)	[論文] 「ゼロ金利政策、量的金融緩和政策と名目GDP目標政策、物価水準目標政策―シミュレーション分析による評価―」龍谷大学経済学論集 45 2 77-97 2005 [著書] 『日本経済の新地平』晃洋書房 185-239 2013
社会活動・その他	京滋地区私立大学学長懇談会事務局長 枚方市学校規模等適正化審議会委員
所属学会	日本経済学会、日本金融学会、日本経済政策学会、日本ファイナンス学会、行動経済学会
キーワード	金融政策、マクロ経済学、日本経済

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/194019/194019_Researcher.html

ミヤザキ　コウ
宮崎　耕

Ko MIYAZAKI

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	情報学･教育工学
研究活動	ICTを活用した教育の高度化、情報教育カリキュラムの開発
主要な業績（著作・論文・研究発表）	･「マルチスクリーンを活用した高効率で効果的なアクティブラーニングの実践」『大学ICT推進協議会2013年度年次大会』2013 ･「経済学部における情報教育」『オフィス･オートメーション』1997 ･「世界マクロ経済統計データベースシステム」『経済経営研究年報』1991 ･「国際通信ネットワークによるリアルタイムモデルシミュレーション」『国民経済雑誌』1990
社会活動・その他	･京都高度技術研究所バーチャルラボ「観光とコンピューティング京都研究所」2010-2012 ･ITコンソーシアム京都「観光情報基盤検討部会」2010-2011 ･京都高等教育研究センター「連携型教育システム研究プロジェクト」2005-2008 ･大学コンソーシアム京都「e-University研究会」2002-2005 ･大学コンソーシアム京都「遠隔講義研究会」2001-2002
所属学会	日本情報経営学会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/195024/195024_Researcher.html

ミヤザワ　カズトシ
宮澤　和俊

Kazutoshi MIYAZAWA

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	公共経済学、人口経済学、マクロ経済学
研究活動	International Institute of Public Finance にて、祖父母の育児協力と出生率に関する研究報告をしました(2015年). Western Economic Association International にて、財政と人口の持続可能性に関する研究報告をしました(2015年).
主要な業績（著作・論文・研究発表）	著書「人口高齢化と再分配政策:社会的対立効果の理論分析」『政治経済学の新潮流』所収 勁草書房 2012 論文「Growth and Inequality: A Demographic Explanation」 JPOP 2007
社会活動・その他	京都市公共事業評価委員会　委員 社会福祉法人名古屋文化キンダーホルト　理事
所属学会	American Economic Association, International Institute of Public Finance、日本経済学会
キーワード	少子高齢化、家族の経済学、年金、介護、経済成長、所得格差

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107017/107017_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~kmiyazaw/

モミ　タケシ
茂見　岳志

Takeshi MOMI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	ミクロ経済学、一般均衡理論、社会的選択理論
研究活動	ミクロ経済理論を研究しています。ひとつは一般均衡理論です。とくに、証券市場が十分に整備されていない不完備市場と呼ばれる状況で生じる問題を一般均衡理論の視点から分析しています。もうひとつは社会的選択理論です。とくに、交換経済においてどのような性質をもった財配分メカニズムが望ましいか、またそのようなメカニズムを構築できるかということを理論的に分析しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	“Note on social choice allocation in exchange economies with many agents”, Journal of Economic Theory, vol.148, pp.1237-1254, 2013 “Failure of the index theorem in an incomplete market economy”, Journal of Mathematical Economics, vol.48, pp437-444, 2012 “Excess demand functions when new assets are introduced”, Journal of Economic Theory, vol.144, pp.1832-1843, 2009
所属学会	日本経済学会
キーワード	一般均衡理論、不完備市場、社会的選択理論、メカニズムデザイン

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103021/103021_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~tmomi/

ニイゼキ　ミキヨ
新関　三希代

Mikiyo NIIZEKI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	(行動･計量)ファイナンス
研究活動	金融市場における価格決定メカニズム、とりわけそのリスクについて「投資家は全て合理的に行動している」と仮定されていますが、現実にはこの仮定では説明できない現象があります。いわゆるアノマリーの存在が確認されています。そこで、株式市場におけるアノマリーについて、投資家行動の観点から分析を行うことで、現存するアノマリーを実証的に解明することを目的にしています。心理学と実験経済学に基づいたファイナンス理論に着目し、そこで考えられている理論モデルを用いたアノマリーの分析を行うことが研究目的です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]“A Comparison of Short-Term Interest Rate Models: Empirical Tests of Interest Rate Volatility”, Applied Financial Economics, Routledge, Vol. 8, No. 5, 1998 「中国における第3者割当増資の実証分析」,『経済学論叢』, 64巻2号, 2012 [著書]『マクロ経済学の視点』(共著), 八千代出版社, 2007
社会活動・その他	中学生への特別授業(経済知力フォーラム主催) 京都市金融機関選定委員 京都市開発審査会委員 京都市景観政策検証システム研究会委員 エネルギー懇話会委員(関西電力株式会社大阪北支店)
所属学会	日本経済学会、日本統計学会、日本金融･証券計量･工学学会、行動経済学会
キーワード	株、金融、行動ファイナンス、企業分析、計量分析

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/197017/197017_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~mniizeki/

ニシオカ　ミキ オ
西岡　幹雄

Mikio NISHIOKA

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	日英米欧の比較経済思想
研究活動	「日本経済思想史学会」(幹事);「近現代都市と社会をめぐる経済思想の会(MET-MCS)」(発起人)
主要な業績（著作・論文・研究発表）	(1)『マーシャル研究』晃洋書房(1997). (2)『徂徠学派以降の三倉論における経済社会安定化論』(2008). (3)「正統派」経済学の成立と大学教育拡張運動』(1998). (4)"Economic Thought and Public Welfare in Early Modern Japan"The Japanese Society for the History of Economic Thought, June 2010. (5)"Eentrepreneurship and agglomeration"(2013). (6)"The Economic Thought at the End of Shogunate and the System of Political Economy of 'Enriching the Country'"(2014)
社会活動・その他	"Centre and Periphery", The 6th International Symposium, University of Bucharest;Invitation Lecture ;Chairman, "Globalisation and Reorganisation of Regions";Presentation, "Globalisation and Reorganisation of Regional Economies", March 2016;Visiting Professor (University of Bucharest), Ideas and Economy in Japan, February- March 2016
所属学会	経済学史学会、日本経済思想史学会
キーワード	比較経済思想、企業家、関西経済、Innovation and Tradition in Japan、日英米欧の経済学の制度化、東欧における日本研究

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/184007/184007_Researcher.html

オチアイ　ヒト シ
落合　仁司

Hitoshi OCHIAI

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	数理社会論
研究活動	マクロ的な社会構造とミクロ的な相互行為の関係を数理モデルで思考しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	2015「コールマン・ボートとマクロ・ミクロ・リンク」『理論と方法』30巻1号 2015「コールマン・ボートと随伴関手」
所属学会	アメリカ社会学会数理社会学分会、数理社会学会
キーワード	社会構造、相互行為、マクロ圏、ミクロ圏、コールマン・ボート、数理社会論

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/182004/182004_Researcher.html

オクダ　イアリ
奥田　以在

Iari OKUDA

所属・職名	経済学部経済学科　准教授
研究分野	近代日本都市史
研究活動	中世以来の伝統を持つ京都の都市コミュニティである「町（チョウ）」が、近代における都市化の進行によってどのように変容していったのかという問題を研究しています。近代におけるコミュニティの変容から、都市化や都市社会構造の変化の実相を明らかにしたいと思っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	・「近代京都山鉾町における紛擾と自治」、単著、『社会経済史学』（社会経済史学会）、第76巻第1号、2010年 ・「近代京都山鉾町における町自治−住民自治から『適任者』自治へ−」、単著、『経済学論叢』（同志社大学経済学会）、第62巻第3号、2010年 ・「京都市三大事業と町財政−烏丸通拡築事業と手洗水町−」、単著、『経済学論叢』（同志社大学経済学会）、第64巻第4号、2013年
所属学会	社会経済史学会、政治経済学経済史学会、都市史学会、日本史研究会
キーワード	都市史、コミュニティ、「町」、町内会、近代日本都市史、京都

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114016/114016_Researcher.html

オ　ノヅカ　ヨシミツ
小野塚　佳光

Yoshimitsu ONOZUKA

コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	国際政治経済
研究活動	覇権安定論、国際政策協調論、国際通貨制度改革論争、通貨・経済危機、移民論争、グローバル・ガバナンス
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「覇権安定論とアジアをめぐる考察−国際秩序の移行期−」『経済学論叢』第64巻　第4号　2013年3月 「アイスランドとラトビアの金融危機−調整過程に及ぼす国際システムとイデオロギーの影響−」『経済学論叢』第66巻　第2号　2014年9月
所属学会	国際経済学会
キーワード	国際政治経済、覇権安定論、国際通貨制度改革、通貨危機、移民論争

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/194021/194021_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~yonozuka/

サ サ キ　マサユキ
佐々木 雅幸

Masayuki SASAKI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科　特別客員教授
研究分野	創造都市論、創造経済論、文化経済学
研究活動	日本における創造都市論の第1人者で、グローバルな視点から都市と地域のあり方を研究しています。国際的にはユネスコ創造都市ネットワークのアドバイザーを務め、2015年5月に金沢市で開催された同年次総会で基調講演を行っています。国内では創造都市ネットワーク日本の立ち上げに尽力し、顧問を務めています。前任の大阪市立大学においては大学院創造都市研究科と都市研究プラザの立ち上げに携わり7年間、所長を務め、2007年から5年間は文科省のGCOEプログラムの拠点リーダーを務めました。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	主要著書 『創造都市への挑戦』佐々木 雅幸 著、岩波現代文庫、2012年 『創造都市と社会包摂』、佐々木 雅幸 他編著、水曜社、2009年 『グローバル化する文化政策』佐々木 雅幸 他編著、勁草書房、2009年 『価値を創る都市へ』佐々木 雅幸 他編著、エヌティティ出版、2008年 『創造都市への展望』佐々木 雅幸 他編著、学芸出版社、2007年 『創造都市への挑戦』佐々木 雅幸 著、岩波書店、2001年 『創造都市の経済学』佐々木 雅幸 著、勁草書房、1997年 『創造農村』佐々木雅幸他編著、学芸出版社、2014年
社会活動・その他	文化庁文化芸術創造都市振興室長を兼任して、日本における創造都市事業を推進するとともに、創造都市ネットワーク日本の顧問としてその発展のために尽力しており、2020年東京オリンピックパラリンピックの文化プログラムを全国展開するための支援を行っています。
所属学会	文化経済学会<日本>元会長、日本経済政策学会理事、日本地域経済学会元理事など
キーワード	創造都市論、創造経済論、文化経済学、創造産業

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114102/114102_Researcher.html
http://www.creativecity.jp

サ タケ　ミツヒコ
佐竹　光彦

Mitsuhiko SATAKE

学術調査

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	マクロ経済学の実証研究、計量経済学の応用
研究活動	日本経済についての実証研究を行っています。特に、貨幣の中立性や金利によるインフレ予測性に関連する、マクロ経済学で重要なテーマのひとつと考えられるフィッシャー仮説の検証を行ってきました。さらに、金融政策の有効性を検証するために、金利の期間構造の検証を最近行っています。それと共に、共同研究で、マクロ経済変数に関するリミット・サイクルの検証を試みています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	分担執筆:2013年8月『日本経済の新地平』八田英二・廣江満郎 編著, 晃洋書房[第1章, 第2章分担] 単著論文:2014年3月「日本におけるフィッシャー仮説の検証 −構造変化を考慮した共和分分析−」『経済学論叢』(同志社大学)第65巻第4号, pp. 667 − 683. 共同論文:Nishigaki Y., D. Maki, and Satake, M. (2015), “Capital Adjustment and Limit Cycle: Estimation Based on Threshold Autoregressive Model,” International Journal of Economic Behavior and Organization, Vo. 3, No. 2-1, pp.52 − 59.
社会活動・その他	特になし。
所属学会	日本経済学会、日本経済政策学会、日本統計学会、行動経済学会
キーワード	インフレ期待、非線形モデル、金利の期間構造、リミットサイクル

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107016/107016_Researcher.html

シカ ノ　ヨシアキ
鹿野　嘉昭

Yoshiaki SHIKANO

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	金融論、銀行論、貨幣史
研究活動	不良債権問題と銀行経営、金融業の将来展望、財務諸表からみた日本の中小企業の姿のほか、金融史研究にも取り組んでいます。最近では、江戸時代に地方通貨として広く利用されていた藩札の流通実態の解明に加えて、明治初年に発行された太政官札の流通実態や為替会社の歴史的意義の再検討などにも取り組んでいます。そうした研究成果を踏まえて時折、新聞・雑誌にも寄稿しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『日本の銀行と金融組織』、東洋経済新報社、1994年（第35回エコノミスト賞（毎日新聞社）受賞）。 『日本の中小企業―CRDデータにみる経営と財務の実像―』、東洋経済新報社、2008年。 『藩札の経済学』、東洋経済新報社、2011年。 『日本の金融制度（第3版）』、東洋経済新報社、2013年。
所属学会	日本経済学会、日本金融学会、日本ファイナンス学会、社会経済史学会
キーワード	メインバンク関係、銀行経営、不良債権問題、中小企業経営、両替商、藩札、太政官札、為替会社

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/199016/199016_Researcher.html

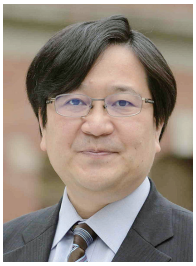
スゲ　イツ キ
菅　一城

Ikki SUGE

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	近現代イギリス社会経済史、都市史、経営史
研究活動	19世紀後半から20世紀にかけてのイギリスの郊外開発や企業間関係などを研究しています。ここ数年はウェールズをフィールドとしており、とくに最近は、1つの製鉄会社の史料から第一次世界大戦下の戦時経済体制の見直しをすすめ、人類が初めて経験したグローバルな戦争のもとで政府と市民社会の関係がどのように変化したのかを研究しています。中央政府の公文書館だけでなく、地方の公文書館に所蔵されている企業文書なども精力的に渉猟して、草の根レヴェルでの経済活動の日常的な変化を鮮明にしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文] I. Suge, “The Dowlais Iron Company and railway companies in South Wales, 1860-1900” in K. Kondo (ed.) History in British History, (AJCH, 2015) 菅一城「GKNと軍需省―第一次世界大戦下の英国の軍需統制―」『経済学論叢』第67巻第1号（2015）
所属学会	社会経済史学会
キーワード	ウェールズ、第一次世界大戦、製鉄会社、郊外開発

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/106019/106019_Researcher.html



タケヒロ　リョウジ
竹廣　良司

Ryoji TAKEHIRO

学術調査

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	産業組織、企業経済（企業の組織および行動と企業間関係に関する実証分析）
研究活動	産業組織、企業経済の分野での研究を行っています。特に、企業の組織・行動と、企業グループを中心とする企業間関係に関する研究を中心に、継続的に取り組んでいます。規模や産業・業種といった企業属性がグループ経営やその多様性に与える影響や、企業間信用などを通じた企業間の連携や、内部市場の存在など企業グループの組織的なあり方が雇用やファイナンス、多角的事業展開といった種々の企業行動に与える影響について、企業の財務データを用い、計量経済学の手法を用いて実証的に分析しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「企業間信用のパネル推定」『日本経済研究』第28 号, 1995 年3 月, pp. 53―75. (大日康史氏との共著) “Total Labor Cost and Employment Adjustment Behavior of Large Japanese Firms,”in Labor Markets and Firm Benefit Policies in Japan and the United States, eds. S.Ogura, T. Tachibanaki, and D. A. Wise, The University of Chicago Press, September, 2003, pp.135―155.(中田喜文氏との共著)
社会活動・その他	現在、日本経済政策学会理事。 2012年度には、京都府「新しい地方行政の未来研究会～地方公共団体の未来戦略～」、「新しい行政組織の未来研究会」のメンバーをつとめました。
所属学会	日本経済学会、日本経済政策学会
キーワード	産業組織、企業経済、企業組織、企業行動、企業間信用、企業グループ、財務データ、マイクロデータ、実証分析、経営戦略

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/195025/195025_Researcher.html

タ ナカ　ヤスヒト
田中　靖人

Yasuhito TANAKA

学術調査

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	純粋および応用ミクロ経済学、ゲーム理論、寡占理論、国際経済学
研究活動	純粋および応用ミクロ経済学、ゲーム理論とその応用、特に寡占理論とその国際経済学への応用
主要な業績（著作・論文・研究発表）	“Irrelevance of the choice of strategic variables in duopoly under relative profit maximization”, Economics and Business Letters, vol. 2, No. 2, pp. 75-83, 2013. など（その他の詳細は、同志社大学「研究者データベース」をご参照ください）。
所属学会	日本経済学会
キーワード	ミクロ経済学、ゲーム理論、寡占理論、産業組織論、国際経済学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103030/103030_Researcher.html
http://yatanaka.doshisha.ac.jp

タニムラ　トモ キ
谷村　智輝

Tomoki TANIMURA

コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	グローバル資本主義の危機と構造変化
研究活動	現代資本主義のグローバル化にともなう構造変化に関して、とくに、先進資本主義諸国（地域）の停滞の原因と近年の金融危機の頻発について理論的に研究します。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	谷村智輝（2014）「再生産論と恐慌論」守健二編『恐慌論の論点と分析』（創風社）所収 谷村智輝（2014）「資本の再生産過程と資本主義の停滞」『経済学論叢』（同志社大学）第65巻第4号 谷村智輝（2002）『個別資本の再生産過程と産業循環』同志社大学経済学研究双書
所属学会	経済学史学会、経済理論学会
キーワード	現代資本主義論、政治経済学、恐慌、所得格差

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/199014/199014_Researcher.html

ツノ イ　マサユキ
角井　正幸

Masayuki TSUNOI

所属・職名	経済学部経済学科　教授
研究分野	アメリカ経済史、農業史
研究活動	歴史を学ぶための方法は様々ありますが、その中のひとつに経済理論や統計学の手法を応用する歴史分析法があります。これを私たちは「クリオメトリックス」または「計量経済史」と呼んでいます。 この「計量経済史」という手法を分析道具として、19世紀合衆国の農村および農業部門を対象とした研究を行っています。これまで、「合衆国の農村は平等社会であったのか?」や「合衆国の農産物市場は世界の市場に統合されていたのか?」といった問題について研究してきましたが、直近では農産物の国内市場統合の問題に軸足を置いています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「南北戦争後の空間的市場統合に関する分析−共和分アプローチによる合衆国豚市場の実証研究−」『社会科学』6, 111-138, 1999年 「1860年の合衆国北部農村における不動産保有規模格差と経営規模格差の比較−タイルのエントロピー指標を用いた分析−」『経済学論叢』66-3, 21-54, 2014年
所属学会	アメリカ学会、日本国際経済学会、日本経済学会、社会経済史学会
キーワード	計量経済史（クリオメトリックス）、アメリカの農業（農村）、西漸運動、格差、市場統合

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/199015/199015_Researcher.html

ウエ ダ　ヨウ コ
上田　曜子

Yoko UEDA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	タイの経済発展
研究活動	これまで、民間部門における華人資本の形成という観点から、タイ経済の研究を行ってきました。最近は、自動車産業における現地資本の成長に関心を持ち、タイ資本の部品メーカーの調査を行っています。日本資本依存型のタイ経済の将来性についても、研究を進めています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著作] Local Economy and Entrepreneurship in Thailand: A Case Study of Nakhon Ratchasima. Kyoto University Press. 1995. [研究ノート] 「『タイプラスワン』(タイ+1)としてのラオス――日本の製造業にとっての可能性――」同志社大学経済学会『経済学論叢』第66巻4号（2015年3月）pp.43-63.
社会活動・その他	The Education for Development Foundation（NGO)にて翻訳のボランティアとして活動
所属学会	アジア政経学会
キーワード	タイ経済、自動車産業、タイプラスワン

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104070/104070_Researcher.html

ワ ダ　ヨシヒコ
和田　喜彦

Yoshihiko WADA

講演
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	エコロジー経済
研究活動	エコロジカル・フットプリント指標、持続可能性評価指標、核エネルギー利用・鉱山開発・アブラヤシ開発の社会環境影響
主要な業績（著作・論文・研究発表）	和田喜彦. 2015.「マレーシアでのレアアース資源製錬過程による環境問題」『環境情報科学』第43巻第4号. pp. 32-38. 和田喜彦. 2013.「基調論文:エコロジカル・フットプリント開発の背景とその意義」『ビオシティ』56号.pp.13-19. 和田喜彦. 2012.「ウラン鉱山・製錬所による環境影響と課題」『化学物質と環境』No.113. pp.8-10. Justin Kitzes, Alessandro Galli, Yoshihiko Wada, et al. 2009. “A research agenda for improving national Ecological Footprint accounts.” Ecological Economics. No. 68, Vol. 7. pp. 1991-2007. 泉留維, 三俣学, 室田武, 和田喜彦. 2007.『テキストブック 環境と公害』日本評論社.
社会活動・その他	NPO法人エコロジカル・フットプリント・ジャパン　理事・会長（エコロジカル・フットプリント指標の日本国内、アジアでの普及活動） NPO法人「環境・持続社会」研究センター（JACSES）理事 エントロピー学会世話人
所属学会	環境経済・政策学会、エントロピー学会
キーワード	エコロジカル・フットプリント、核エネルギー、レアアース、劣化ウラン、放射能汚染、社会環境影響

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103019/103019_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~yowada/research.html
http://www.ecofoot.jp/top.html

ヤ ギ　タダシ
八木　匡

Tadashi YAGI

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	公共経済学、文化経済学
研究活動	現在、創造経済研究センターを運営し、ビッグデータ研究会、伝統文化の現代的創造研究会、St Core研究会、創造都市形成研究会、スポーツと幸福感に関する研究会等の研究会活動を進めております。これらの研究会では、人間性と共感に基づいた創造経済の構築のための政策を立案する作業を進めております。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『教育と格差』日本評論社 2009 『スポーツの経済と政策』晃洋書房 2011 『スポーツの組織文化と産業』晃洋書房 2012 Yagi, T. “Determinants of Movie Review Ratings: New method by using Big Data” (with Seiya Murata), Journal of Business and Economics, February 2015, Volume 6, No. 2, pp. 231-243. Yagi, T., “Knowledge Creation by Consumers and Optimal Strategies of Firms,” Journal of Knowledge Economy, DOI 10.1007/s13132-014-0195-6, Published on line Feb. 27, 2014.
所属学会	文化経済学会<日本>、日本経済学会
キーワード	創造経済、文化経済、創造都市、共感

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/198013/198013_Researcher.html
http://tyagi.doshisha.ac.jp

ヨコ イ　カズヒコ
横井　和彦

Kazuhiko YOKOI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	中国における「新常態」と国有企業改革
研究活動	「企業改革の日中比較」（復旦大学日本研究中心第24回国際シンポジウム、2014年11月2日） 「日本的国有企業民営化改革」（2011中国国有経済発展論壇、2011年10月22日）
主要な業績（著作・論文・研究発表）	共著『市場経済の多様化と経営学―変わりゆく企業社会の行方』ミネルヴァ書房、同『グローバリゼーションとアジア―21世紀におけるアジアの胎動』ミネルヴァ書房、 同『国有経済論叢2010』吉林大学出版社
社会活動・その他	平成22年度ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI 公益財団法人大学基準協会大学評価委員会幹事 関西文化学術研究都市6大学連携市民公開講座2013　第2回　日中比較から読み解く中国経済のゆくえ
所属学会	アジア政経学会、アジア経営学会、中国経済経営学会、日本比較経営学会、日本現代中国学会
キーワード	中国企業、国有企業改革、中国社会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/102012/102012_Researcher.html

ヨコヤマ　テル キ
横山　照樹

Teruki YOKOYAMA

講演
研修

所属・職名	経済学部経済学科／経済学研究科　教授
研究分野	古典派経済学
研究活動	古典派経済学者の1人であるマルサスの経済学の研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『初期マルサス経済学の研究』　有斐閣　1998年 「マルサスにおける価値と地代」『マルサス学会年報』　第19号 「マルサス『経済学原理』における価値尺度論の展開」『経済学論叢』67巻・2号
社会活動・その他	特になし
所属学会	マルサス学会、社会経済史学会、経済学史学会
キーワード	リカードウ、マルサス

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/179003/179003_Researcher.html

アオキ　マミ
青木　真美

Mami AOKI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　教授
研究分野	交通政策、鉄道政策、都市交通、都市計画
研究活動	実務的な分野との連携に関する活動としては、まちづくりについての連携として、京都伏見の商店街活性化委員会（京都市）、京都河原町パレット商店街のバリアフリー化工事完成時の検証（経産省、ワークショップ・踏査とアンケート調査）などです。 講演としては、2013年2月の交通協力会の「鉄道の将来展望」シンポジウムにおける基調講演「都市鉄道の課題―持続可能な発展の道を探る」です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「シュッツットガルトのSバーン整備とまちづくり」『鉄道史学第30号』2012 「公共交通の持続可能性について―3つのシームレス化の必要性」近畿大学『商経学叢』第57巻3号　2011 「都市交通機関と社会性」関西都市学会講演　2010
社会活動・その他	京都市バリアフリー検討会議 国土交通省大都市交通センサス委員会、中部部会 （財）運輸政策研究機構　評議員 （公財）鉄道総合技術研究所　理事
所属学会	土木学会、日本交通学会、鉄道史学会
キーワード	都市交通、TDM、公共交通、まちづくり、都市観光、まち歩き、高齢化と都市交通

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103026/103026_Researcher.html
http://maoki.doshisha.ac.jp/

フジワラ　ヒデオ
藤原　秀夫

Hideo FUJIWARA

講演
研修
学術調査
コメンテーター
起業家志望者・中高生の金融リテラシー教育

所属・職名	商学部商学科／商学研究科　教授
研究分野	金融論、貨幣論、銀行論、信用理論、国際経済学、マクロ経済学
研究活動	マクロ金融経済の未解決の問題の理論的解決を果たして、ワルラス法則を制約としてマクロ金融経済の標準理論を構築することを至高の目標として、約40年間、研究を進めてきました。金融危機をはじめとした金融現象を整合的に説明し、政策や規制の在り方を提言するためには、この標準理論が必要です。そのために、近年、資金循環とマクロ信用膨張の研究に取り組んでいます。学会・研究会、出版物の刊行が、研究活動の中心です。各国中央銀行・金融機関のヒアリング調査もこれまで同様進めていきます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[単著]『マクロ経済分析における貨幣と証券』千倉書房　1988『マクロ金融政策の理論』晃洋書房　1995『為替レートと対外不均衡の経済学』東洋経済　1999『マクロ貨幣経済の基礎理論』東洋経済　2008『マクロ金融経済の基礎理論』晃洋書房　2013『マクロ金融経済と信用・貨幣の創造』2015、[論文]「マクロ的枠組みの下での貨幣と銀行信用の基本的問題について」『金融経済』2011「利子率政策とケインジアン・モデルおよびマネタリスト・モデル」『研究年報経済学』（東北大学経済学会）2009 、他共著・論文多数
社会活動・その他	2010-14年、所属学会（日本金融学会）会長の仕事として、日韓学術交流を中心として日韓民間人交流に貢献しました。 2011年3月以降、震災復興金融研究会を設立し、東北大震災復興を学術面から支援しました。 京都府中堅職員の経済学研修、川西市生涯学習センターでシニア対象の経済学教育に貢献しました。
所属学会	日本金融学会、ケインズ学会、信用理論研究学会、日本国際経済学会
キーワード	貨幣錯覚、信用創造、為替レート・為替相場、インフレ目標政策、デフレーション、資金循環、直接金融・間接金融、金融財政政策、中央銀行、ワルラス法則、ケインジアン対マネタリスト、量的緩和政策、ゼロ金利政策、貨幣乗数

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/176012/176012_Researcher.html
http://hfujiwar.doshisha.ac.jp

ホン　ソンボン
洪　性奉

HONG Seong Bong

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学研究科　助手
研究分野	経営戦略論、多国籍企業論、国際経営論、東アジア地域論
研究活動	インド家電市場に注目し、多国籍企業とインド現地企業の成長と経営戦略の変貌について解明を試みています。本研究における学術的特色は、世界経済のパラダイムが大きく変化するなか、中国とともにアジア経済の地位を高める重要な役割を果たしているインド経済を取り上げ、中国市場との比較及びマクロ的な分析を行うことで、インド市場が持つ特徴と潜在力を明らかにする点にあります。さらに、近年、日系企業を急速に追い上げている主要なインド現地家電メーカーの経営戦略を多国籍企業論の視点から明確にすることを目指しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「インド家電市場におけるインド企業の成長と展望―インド国内大手家電メーカーVideoconを中心に― 」『同志社大学大学院商学論集』第48巻第2号pp.1-24、2014年。 「インド経済成長と農村市場の潜在力―外資系企業の地域販売ネットワーク戦略を中心に― 」『同志社大学大学院商学論集』第49巻第1号pp.1-27、2014年。 [研究報告]「インド家電市場における多国籍企業の競争と現地企業の台頭」日本経営学会第89回全国大会（於熊本学園大学）2015年9月4日。
社会活動・その他	特定非営利活動法人あめんど理事（ADHD子供特別支援活動）
所属学会	日本経営学会、日本比較経営学会、アジア経営学会
キーワード	インド家電市場、アジア家電市場、経営戦略、現地化戦略、LG電子、Boeing社

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115169/115169_Researcher.html

イマニシ　コウ ジ
今西　宏次

Koji IMANISHI

学術調査

所属・職名	商学部商学科／商学研究科　教授
研究分野	コーポレート・ガバナンス、企業と社会
研究活動	現代社会における企業の役割に関する研究、コーポレート・ガバナンス、「企業と社会」に関する研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「ミーンズと『近代株式会社と私有財産』」三戸浩編『バーリ=ミーンズ』文眞堂 2013 「金融危機とアメリカのコーポレート・ガバナンス」『年報財務管理研究』23号2012 「コーポレート・ガバナンスと企業観」『社会と企業』千倉書房 2010 『株式会社の権力とコーポレート・ガバナンス』文眞堂 2006 「株式会社の本質及び目的と巨大株式会社のガバナンス」日本経営学会（第89回大会、統一論題）2015
所属学会	日本経営学会、日本経営倫理学会、日本経営財務研究学会、日本財務管理学会、組織学会、証券経済学会
キーワード	コーポレート・ガバナンス、企業と社会、企業の社会的責任

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107027/107027_Researcher.html

イナミ　トオル
稲見　亨

Toru INAMI

学術調査

所属・職名	商学部商学科／商学研究科　教授
研究分野	会計学
研究活動	会計基準の国際的統合（コンバージェンス）問題にかかわって、欧州連合（EU）、そのなかでも特にドイツの会計制度改革の現状を分析しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書（単独執筆）]『ドイツ会計国際化論』森山書店、2004 [著書（分担執筆）]『ドイツ会計現代化論』森山書店、2014
所属学会	国際会計研究学会、日本会計研究学会
キーワード	ドイツ会計、国際会計

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107001/107001_Researcher.html

イオキベ　シンゴ
五百旗頭　真吾

Shingo IOKIBE

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　准教授
研究分野	国際金融論、国際マクロ経済学、マクロ経済学
研究活動	2007−09年の世界金融危機や2010−12年のユーロ圏国家債務危機（ギリシャ危機）のような国際金融危機の原因となる国際資本フローの特徴の解明と危機防止策の検討を行っています。経常収支、資本収支、為替レートの変動要因の理論・実証分析、望ましい資本規制の探究を中心に研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	1）“Do Faster Growing Economies Run Current Account Deficits?”『同志社商学』, 2013年。　2）“Patterns of Current Account Reversals: Shift-type vs V-shaped”『社会科学』, 2013年。　3）“The US Current Account Deficit and the Dollar” The International Economy, Vol.10, 2007.
所属学会	日本金融学会、日本国際経済学会
キーワード	国際資本フロー、経常収支、為替レート、世界金融危機、ユーロ圏債務危機、資本規制

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107008/107008_Researcher.html

イシ ダ　ノブヒロ
石田　信博

Nobuhiro ISHIDA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　教授
研究分野	交通経済学、地域経済学、港湾経済論、物流論
研究活動	物流インフラとしての港湾・空港・道路整備と地域経済の関係について、日本を含むアジアの国々を対象に、実証的に研究しています。 同時に、港湾荷役設備の大規模化・IT化に伴う港湾労働問題について研究を進めています。 また、都市地域で行われる祭礼と地域社会との関係についても研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『インターモーダリズム』(共著)勁草書房、1999年 『コールドチェーン』(共著)晃洋書房、2013年 『内航海運』(共著)晃洋書房、2014年 「海運政策の転換と海運産業・港湾都市―カボタージュ規制緩和の効果―」『都市研究』第10号、2010年 「伝統的まつりの変容と地域社会への寄与―地域資源としての岸和田だんじり祭―」『国際文化政策』第2号、2011年
社会活動・その他	大阪地方労働審議会　会長 大阪地方労働審議会　港湾労働部会　部会長 港湾労働安定協会技能研修高度化委員会　委員 岸和田市国民健康保険運営協議会　会長 岸和田市廃棄物減量等推進審議会　委員
所属学会	日本交通学会、日本港湾経済学会、日本交通政策研究会、近畿都市学会、応用地域学会
キーワード	港湾整備と地域経済、港湾労働、物流インフラ、アジアの経済成長と物流、祭礼と地域経済

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103027/103027_Researcher.html

カワミツ　ナオ キ
川満　直樹

Naoki KAWAMITSU

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　准教授
研究分野	経営史
研究活動	パキスタンを含む途上国の経済発展において、財閥は大きな役割を担っています。そして、財閥傘下企業の多くがその国を代表する企業であることは言うまでもありません。また、財閥の形成・発展過程は、その国あるいは地域の歴史、文化、宗教、民族といった多くの要素が入り混じり実に複雑になっています。そのような財閥を研究することにより、その国の歴史、文化、宗教、民族などといったことも自然に見えるようになります。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「パキスタン、パンジャービー系財閥の所有と経営に関する一考察―アトラス財閥を中心として―」『同志社商学』第63巻第6号(2012年)、「パキスタン財閥の所有と経営に関する一考察―ビボジー財閥のケースを中心に―」『経済学論叢』第64巻第4号(2013年)、「パキスタン財閥の所有と経営に関する一考察―ラークサン財閥のケースを中心として―」『同志社商学』第66巻第1号(2014年)、「パキスタン財閥傘下企業と財閥一族についての考察――一族、傘下企業による株式所有を中心に―」『同志社商学』第66巻第6号(2015年)
社会活動・その他	経営史学会 評議員(2013-)
所属学会	経営史学会、社会経済史学会、日本南アジア学会、経済社会学会
キーワード	経営史、比較企業経営史、経済史

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107006/107006_Researcher.html

コ ジマ　ヒデノブ
小島　秀信

Hidenobu KOJIMA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　助教
研究分野	社会経済学・社会思想（市場の経済哲学）
研究活動	専門は経済思想史・社会思想史で、特に自由市場経済と個人主義・共同体主義との関係について、社会学や哲学などの学際的な知見を応用しつつ、考察を進めています。現在は、十八世紀イギリスの経済学の父たるアダム・スミスや、彼の親友であったエドマンド・バーク、そして二十世紀におけるF・A・ハイエクの自由市場思想を中心に研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	小島秀信、「市場と共同性の経済思想――初期マルクスとハイエクの社会哲学を中心として――」、『経済社会学会年報』、経済社会学会、第27号、pp.93-107、2005年9月17日 小島秀信、「伝統・市場・規範性――エドマンド・バークとF・A・ハイエク」、『政治思想研究』、政治思想学会、第11号、pp.340-370、2011年5月1日〔第2回 政治思想学会研究奨励賞受賞〕
社会活動・その他	経済社会学会西部部会幹事
所属学会	経済社会学会、経済学史学会、政治思想学会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114019/114019_Researcher.html

ナガヌマ　ケン
長沼　健

Ken NAGANUMA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　准教授
研究分野	国際電子商取引・貿易商務論
研究活動	近年、国際商取引で使用される運送書類の使用に変化が起きています。私の研究の目的は、これらの運送書類を対象に、その使用率の変化がなぜ起きているのか、また、それらが各国や地域で異なっている理由とは何なのか、さらには今後この変化が（その電子化を含めて）どのような経緯を辿るのかといった点を明らかにすることです。そのために、運送人（船会社やフォワーダー）および荷主（製造業者や卸売業者など）への「聞取り調査」と「アンケート調査」から入手した詳細な情報を活用して理論的そして実証的に研究を進めています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書] 『国際運送書類の歴史的変遷と電子化への潮流』（文眞堂、2015） [論文] 「サレンダーB/Lの使用要因に関する実証的研究」『国際商取引学会年報』16号（2014）、31-44頁 「国際商取引における電子運送書類の必要性とその普及理論」『同志社商学』66巻1号（2014）、302-324頁 「コミュニケーション・ツールとしての運送書類」則定隆男・椿弘次・亀田尚己編著『国際ビジネスコミュニケーション-国際ビジネス分析の新しい視点-』（丸善出版、2010）、181-191頁
所属学会	国際商取引学会、日本貿易学会、国際ビジネスコミュニケーション学会
キーワード	国際運送書類、サレンダーB／L、国際電子商取引、商慣習、ソフトロー

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107030/107030_Researcher.html

ナカゾノ　ヒロユキ
中園　宏幸

Hiroyuki NAKAZONO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　助教
研究分野	経営戦略、イノベーション・マネジメント
研究活動	私はオープン・イノベーション戦略を遂行しようとする企業の研究開発組織を研究しています。具体的には、社外の技術を探索・獲得しようとする組織と、実際に技術開発を遂行する組織との関係について事例研究を行っています。そこでは、ある技術に対する戦略的評価と組織的評価が異なるという、経営戦略の論理と組織の論理の不整合がしばしば観察されます。すなわち、経営戦略の変化に対して組織の変化が対応していない、あるいは対応関係に問題があるのです。私はこうした経営戦略と組織の関係性の変化を研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文] 「パナソニックにおける企業グループ構造とイノベーション・プロセスの変化」『工業経営研究』95-104 2014 [著書] “Corporate Groups and Open Innovation: The Case of Panasonic in Japan”(共著) in Open Innovation through Strategic Alliances: Approaches for Product, Technology, and Business Model Creation edited by Refik Culpan :Palgrave MacMillan, 2014
所属学会	組織学会、日本経営学会、工業経営研究学会、日本ベンチャー学会
キーワード	オープン・イノベーション、技術経営

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115166/115166_Researcher.html

オオ タ ハラ　ジュン
太田原　準

Jun OTAHARA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　教授
研究分野	経営史、工業経営論
研究活動	研究分野は下記の3分野 ・産業史・経営史 ・組織能力 ・イノベーション 上記に共通する焦点は、組織図が縦の仕事軸とするならば、組織図からはみえない横の仕事軸。人間能力の引き出し方から産業の歴史を問い直しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『アジア企業間競争』文眞堂、2015年3月(共著) 『企業家活動でたどる日本の自動車産業史』白桃書房、2012年3月(共著) 『講座日本経営史5　経済大国への軌跡』ミネルヴァ書房、2010年9月(共著) 『ものづくりの国際経営戦略ーアジアの産業地理学ー』有斐閣、2009年4月(共著)
社会活動・その他	愛知県史編纂調査執筆委員(経済産業部会) 日本貿易振興会アジア経済研究所・研究委員 社団法人産業と環境の会　研究委員
所属学会	日本経営学会、経営史学会、Business History Conference
キーワード	経営史、産業史、自動車産業

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107029/107029_Researcher.html

サカ イ　アヤ ミ
酒井　絢美

Ayami SAKAI

所属・職名	商学部商学科　助教
研究分野	財務会計、監査論
研究活動	監査人の交代理由に関する総合的研究 「コーポレート・ガバナンスは固定資産の減損処理にどのような影響を及ぼすか?」について研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	平成26年3月「期中における監査人の交代に対する資本市場の反応」『現代監査』第24号,pp.103-114. 平成26年7月「監査人の交代とゴーイング・コンサーン」『會計』第186巻第1号, pp.94-104. 平成26年12月「監査事務所を対象とする事例研究の展開」『同志社商学』第66巻第3・4号, pp.516-529. 平成27年3月「大手監査法人の監査契約締結に関する検討 ―期中における監査事務所の交代事例を通じて―」『現代監査』第25号, pp.191-201. 平成27年6月「株式公開時におけるIFRSの任意適用とアンダープライシング」『同志社商学』第67巻第1号, pp.79-92.
所属学会	日本会計研究学会、日本監査研究学会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114138/114138_Researcher.html

サクライ　タカノリ
櫻井　貴憲

Takanori SAKURAI

研修
学術調査

所属・職名	商学部商学科　准教授
研究分野	財務会計
研究活動	財務会計情報に基づく投資戦略について研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	桜井貴憲（2010）「PBRに基づく株式投資と投資成果―絶対リターンの獲得のために―」同志社商学, 第62巻第1・2号, 26-70頁。 桜井貴憲（2014）「破綻型上場廃止率と実現リターン―PBRを利用した株式投資の視点から―」『同志社商学』, 2014年3月, 218-263頁。
社会活動・その他	関西社会人大学院連合・専門セミナー「財務諸表分析入門」講師
所属学会	日本会計研究学会
キーワード	財務会計、株式投資

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107003/107003_Researcher.html

サ トウ　セイ ジ
佐藤　誠二

Seiji SATO

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　特別客員教授
研究分野	財務会計、国際会計、EU会計、大学財政、公会計
研究活動	近年、急速に進展している資本市場指向の会計改革が、会計の役割と構造にどのような変化をもたらしているのか、会社法、金融商品取引法、法人税法等の法制との関わりのなかで検討しています。国際的視野から、主として欧州(EU)とその代表国であるドイツを対象に研究してきたが、現在では日本の会計制度を加えて比較制度論の視点から研究を進めています。それ以外にも、大学の制度改革や大学経営、また地方自治体の行政改革に関わってきた経験から財務運営を含めた広い意味での公会計についての研究も最近では手がけています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	【著書】『国際的会計規準の形成』森山書店 2011、『グローバル社会の会計学』（編著）森山書店 2009、『EU･ドイツの会計制度改革』（編著）森山書店 2007 【論文】「IFRSの欧州化についての考察」『會計』1-15　2015、「国際化する財務報告制度における会計責任の変容と課題」『財務管理研究』58−64 2012
社会活動・その他	文部科学省　国立大学法人会計基準等検討会議　委員、文部科学省　独立行政法人評価委員会(高等教育部会)有識者会議委員、国立大学協会　調整企画会議委員、国立大学協会政策研究所　客員研究員、静岡県藤枝市指定管理選定委員会　委員長、静岡県焼津市指定管理選定委員会　委員、等
所属学会	日本会計研究学会、国際会計研究学会、日本経営財務学会
キーワード	会計、グローバル化、EU、IFRS(国際財務報告基準)、行政改革、大学運営

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115101/115101_Researcher.html

スズ キ　ヨシ ジ
鈴木　良始

Yoshiji SUZUKI

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科／商学研究科　教授
研究分野	経営戦略、生産管理、人的資源管理、経営組織論、組織能力論
研究活動	主として、「日本のものづくり論」、「職場と企業の活性化に必要な組織条件と経営慣行」の2つの領域に関心を持って研究しています。日本のものづくり論の領域では、ジャスト･イン･タイム生産方式のための整流化と作業改善による生産性効果の関係に関心を持って、論理的整理を試みています。「職場と企業の活性化に必要な組織条件と経営慣行」では、リーダーシップのあり方、成果主義賃金慣行のあるべき姿、社員全員が当事者意識を持つ組織の条件などに関心を持って研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『日本的生産システムと企業社会』北海道大学図書刊行会、1994年 『日本のものづくりと経営学』(共編著)ミネルヴァ書房, 2009年 “Structure of the Japanese Production System: Elusiveness and Reality,” Asian Business and Management, Vol.3, No.2, June 2004 「成長するアジアとグローバル化における日本企業の経営課題」『同志社商学』第64巻第5号、2013年 「三層のものづくり組織能力とグローバリゼーションの新段階」『工業経営研究』第24巻, 2010年
社会活動・その他	文部科学省「地域貢献型社会起業家養成プログラム」講師(経営管理) 川西市生涯学習短期大学講師「産業･技術の現代的パラダイムと日本製造業」 川西市生涯学習短期大学講師「日本のものづくりと三層の組織能力」
所属学会	アジア経営学会、労務理論学会、工業経営研究学会、日本労務学会、日本経営学会
キーワード	モチベーションと経営慣行、開発と生産のグローバル化、半導体産業における開発と生産、経営戦略と経営組織、生産管理、生産システム、人的資源管理、経営理念と組織文化、自動車産業における生産管理

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/100017/100017_Researcher.html
http://ysuzuki.doshisha.ac.jp/index.html

タグチ　サトシ
田口　聡志

Satoshi TAGUCHI

講演
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　教授
研究分野	企業会計、監査論
研究活動	会計不正や国際的な会計調和化を背景にして、現代企業会計においては、「制度を如何に選ぶか」「人間の意図に如何に対処すべきか」という視点が重要になっています。私は、これらの視点をゲーム理論と経済実験により斬る新しい会計制度研究（「実験制度会計論」）の構築を目指しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	田口聡志『実験制度会計論』中央経済社、2015年。
所属学会	American Accounting Association（AAA）、日本会計研究学会、日本簿記学会、日本会計史学会
キーワード	企業会計、実験会計学、行動ファイナンス、実験比較制度分析、ゲーム理論、心理学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107004/107004_Researcher.html

タカハシ　ヒロユキ
髙橋　広行

Hiroyuki TAKAHASHI

学術調査
コメンテーター
学生との産学連携

所属・職名	商学部商学科　准教授
研究分野	マーケティング
研究活動	消費者行動を理解し、その理解にもとづき企業のマーケティング戦略に展開することを主な研究領域にしています。最近の関心領域は、ブランドの本物感の研究、農水産物の6次産業化を通じた地域ブランド化、消費者視点の業態研究、リテール・ブランド、ソーシャルプロダクツ（エシカル商品）の普及などです。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『カテゴリーの役割と構造:ブランドとライフスタイルをつなぐもの』関西学院大学出版会, 髙橋広行, 2011年（日本商業学会 学会賞, 日本広告学会賞）。 『ケースで学ぶケーススタディ』（共著）同文舘出版, 2015年。 『ケースに学ぶマーケティング』（分担執筆）有斐閣, 2015年。 『小売マーケティング研究のニューフロンティア』（分担執筆）関西学院大学出版会, 2015年 『1からのリテール・マネジメント』（分担執筆）碩学舎, 2012年
社会活動・その他	学生との産学連携（ゼミ活動） 伊勢丹（ルクアイーレ）様とのコラボ商品企画開発（2015年6月から2015年10月まで） 丸亀製麺（株式会社トリドール様）への企画提案活動（2015年10月～現在）
所属学会	日本商業学会、日本消費者行動研究学会、日本マーケティング学会、日本広告学会、他
キーワード	消費者行動、マーケティング、ブランド

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115008/115008_Researcher.html
http://takahashi.cafe.coocan.jp/

タニモト　アキラ
谷本　啓

Akira TANIMOTO

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　准教授
研究分野	経営学
研究活動	顧客が企業のイメージを決める「真実の瞬間」をいかにコントロールするかが、顧客満足にとって重要な要素となります。そしてその「真実の瞬間」は顧客に最前線で接する従業員が担っています。その従業員をいかに活用するか、また同時に産業としてどのような課題を有しているかを分析・考察することを研究としています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「ザ・リッツ・カールトン・ホテルのキャリア開発　-企業理念の神道と実践のためのキャリア形成-」『アメリカの経営・日本の経営』（ミネルヴァ書房）2010　163-185 「ザ・リッツ・カールトン・ホテルにおける人材活用の構造」『同志社商学』第64巻第5号　2013・3/15　371-399
所属学会	労務理論学会、日本中小企業学会、日本労務学会、日本経営学会
キーワード	人的資源管理、労務管理、サービス産業、飲食業・宿泊業、ホテル・旅館、ホスピタリティ

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/100016/100016_Researcher.html

ツジムラ　モト オ
辻村　元男

Motoh TSUJIMURA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　准教授
研究分野	リアルオプション
研究活動	戦略的な意思決定へのファイナンス理論からの接近
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Pollutant Abatement Investment under Ambiguity in a Two-Period Model, International Journal of Real Options and Strategy, 3, 13-26, 2015. Real Options in a Duopoly Setting: Investment on the Project with Operational Options and Fixed Costs, *Journal of Applied Operational Research*, 2, 22-32, 2010.(with M. Goto and R. Takashima) An Impulse Control of a Geometric Brownian Motion with Quadratic Costs, European Journal of Operational Research, 168, 311-321, 2006. (with M. Ohnishi)
所属学会	INFORMS、IAEE、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本ファイナンス学会、日本リアルオプション学会
キーワード	リアルオプション、ファイナンス、資源・環境経済学、確率制御、コーポレート・ファイナンス

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/111009/111009_Researcher.html
http://mtsujimu.doshisha.ac.jp/

ウエ ダ　ヒロフミ
植田　宏文

Hirofumi UEDA

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科／商学研究科　教授
研究分野	金融論
研究活動	現在、金融市場は国際化・自由化が急速に進展し多くの注目を集めています。それにともない金融市場での参加主体である中央銀行・金融仲介機関・企業・家計・海外部門の金融取引は活発化し、金融変数をはじめ実物経済に大きな影響を及ぼしています。金融取引とマクロ経済活動は相互に関連し、その要因を金融不安定性の観点から分析しています。 これに関連して、望ましい金融政策と金融制度のあり方について理論・実証的に分析を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]『金融不安定性の経済分析』晃洋書房,2006年 (共著)『エッセンシャル金融論』中央経済社,2015年 『金融システム改革と現代経済』人文科学研究所編,晃洋書房，第2章所収 「貨幣・信用とマクロ経済の安定性」2010年 (共訳書)『現代マクロ金融論』晃洋書房,2004年
社会活動・その他	日本金融学会理事
所属学会	日本金融学会、ファイナンス学会、日本経済学会、生活経済学会、証券経済学会
キーワード	クレジット・ビュー、金融不安定性理論、資産選択理論

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/194024/194024_Researcher.html

ウエ ダ　マサヒロ
上田　雅弘

Masahiro UEDA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　教授
研究分野	計量経済学、産業組織論
研究活動	産業組織論の実証分析をテーマに研究しています。経済理論を用いて現実の経済をモデル化し、計量経済学の手法を用いて実証するスタイルです。具体的な産業として私が注目しているのは、1990年代から大型合併が相次いでいる製紙業界です。合併前後の価格水準や企業利益率の変化、また生産性や効率性の変化などを経済理論に基づいた実証分析により検証しています。また、多変量解析の手法を用いて企業行動や消費者行動の質的データ分析も試みています。理論・実証・政策（戦略）というのが、私の研究における基本姿勢です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「製紙業界合併なかりせば：シミュレーション・データとDEAによる合併効率の評価」『同志社商学』66(5)、851-869、2015年。 [論文]「Network Dynamic DEAを用いた製紙業における企業合併の工場別効率性評価」『同志社商学』66(1)、218-239　2014年。 [論文]「動学的要素需要関数による製紙企業の規模と範囲の経済性」『社会科学』42(4)、155-176、2013年。
社会活動・その他	京都府産業教育審議会委員
所属学会	日本経済学会、日本経済政策学会、経済社会学会、社会経済システム学会
キーワード	産業組織論、計量経済学、製紙業、実証分析

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107028/107028_Researcher.html

ウエ ダ　サトシ
上田　慧

Satoshi UEDA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科／商学研究科　教授
研究分野	多国籍企業の世界的再編と公益事業ネットワーク
研究活動	[研究課題]多国籍企業とアメリカ経済、多国籍企業と北米・アジアの輸出加工区、公益事業ネットワーク [科研費による研究]北米における多国籍企業の輸出加工戦略と国境経済圏の研究
主要な業績（著作・論文・研究発表）	上田慧『多国籍企業の世界的再編と国境経済圏』同文舘 2011 上田慧・桜井徹編著『競争と規制の経営学』ミネルヴァ書房 2006 奥村皓一・夏目啓二・上田慧編『多国籍企業論』ミネルヴァ書房 2006　他
社会活動・その他	日本学術振興会審査第三部会社会科学小委員会委員 独立行政法人造幣局 非常勤研修講師
所属学会	日本経営学会常任理事、公益事業学会理事、労務理論学会、日本比較経営学会
キーワード	多国籍企業、国際経営、M&A（企業合併・買収）、産軍複合体、輸出加工基地、公益企業、ネットワーク、航空規制緩和、航空宇宙産業、米国金融再編

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/197019/197019_Researcher.html

ヤマウチ　ユウ キ
山内　雄気

Yuki YAMAUCHI

所属・職名	商学部商学科　准教授
研究分野	経営史
研究活動	[講演] 「絹の大衆化と昭和モダン―大衆商品模様銘仙の誕生」染織品と染織文化財研究会 2012 「女子高等教育と日本のビジネスの近代化」欧州経営史学会・日本経営史学会共済国際会議 2012年 8月30日-9月1日 パリ
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「女子高等教育による新しい社会と家庭の実現――日本女子大学校に対する支持と尽力」『渋沢栄一と人づくり』2013
所属学会	日本経営学会、社会経済史学会、経営史学会
キーワード	ファッションビジネス

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/110030/110030_Researcher.html

ヨシカワ　エイイチロウ
吉川 英一郎

Eiichiro YOSHIKAWA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科　教授
研究分野	国際商取引、国際取引法、国際私法、国際民事手続法、労働法（ハラスメント問題）、交渉学
研究活動	国際商取引紛争の予防と解決、国際取引契約、ハラスメント問題などを研究テーマにしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書] 『現代国際商取引』文眞堂23-25/32-53/57-89/222-248 2013 『国際関係私法入門(第3版)』有斐閣 354-426 2012 『レクチャー国際取引法』法律文化社 268-292 2012 『慰謝料算定の理論』ぎょうせい271-297 2010
社会活動・その他	中央労働委員会西日本区域地方調整委員長、大阪大学大学院国際公共政策研究科招へい教員。中央労働委員会主催労使関係セミナーでハラスメント問題等につき講演・コーディネーターを務めました。ボードゲーム“MONOPOLY”を用いた小学生向け交渉体験教育のボランティア活動もしています。
所属学会	国際ビジネスコミュニケーション学会、国際私法学会、日本国際経済法学会、日本経営倫理学会、日米法学会他。
キーワード	国際取引、ハラスメント、交渉学、国際私法

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/110028/110028_Researcher.html

ユ　リ　ノ　マサヒロ
百合野 正博

Masahiro YURINO

講演
研修
コンサルティング
コメンテーター

所属・職名	商学部商学科／商学研究科　教授
研究分野	説明責任と情報の公開および会計専門職による独立監査の重要性
研究活動	上場会社のディスクロージャーやコンプライアンス、コーポレートガバナンスとの関連では、粉飾決算や企業不祥事、企業倒産に関するコメントを行っています。アカウンタビリティの重要性は企業以外にも広げることが可能なので、尼崎市議会議員のカラ出張や大阪府の裏金に代表される公的部門の不祥事についてもコメントしています。また、学生支援センター長の経験から現代学生気質についての講演やコメントも行っています。さらに、半世紀近い同志社大学での生活から芽生えた個人的関心から校祖新島襄についての研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[主要著書]『日本の会計士監査』森山書店 1999年 [主要編著書]『アカウンティングプロフェッション論』同文舘 2013年 [主要翻訳書]『ウオーレスの監査論』同文舘 1992年、『会計原則の展開』森山書店 1981年 [最新論文]「大学の監査から得られる一つのヒント」『會計』2014年、「わが国の公認会計士像と『プロフェッション』論」『同志社商学』2014年、『会計学』領域における『監査論』の位置づけ」『會計』 2012年
社会活動・その他	公認会計士試験　試験委員 公益財団法人　日本郵趣協会　監事
所属学会	日本会計研究学会、日本監査研究学会、日本社会関連会計学会
キーワード	公認会計士監査、説明責任の検証

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/176022/176022_Researcher.html
https://www1.doshisha.ac.jp/~myurino/

アダチ　ミツオ
足立　光生

Mitsuo ADACHI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	資本市場政策、ベンチャー政策、証券投資理論、デリバティブ理論、ファイナンス理論(M&A等)
研究活動	○1998−2001　特別研究員奨励費研究(日本学術振興会特別研究員DC1)『金融デリバティブ商品市場(とりわけ金融オプションモデル)に関する考察』に従事。 ○2002−2005　若手研究(B)『証券取引市場における市場慣行が、価格形成に与える影響の解明』に従事。 ○2005　財団法人全国銀行学術研究振興財団の助成を受けて『M&Aにおける資金調達スキームの戦略的開発-オプション理論の視点から-』に従事。 ○2011−2014 基盤研究(C)『資本市場における政策が及ぼす影響ー頑健な市場収益率モデリングを基盤として』に従事。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	(単著の著書) 『テキストブック　資本市場』東洋経済新報社 2010 『金融派生商品の価格付けに関する戦略的考察』多賀出版 2005 『金融工学を勉強しよう』日本評論社 2004
社会活動・その他	2014年は、関西社会人大学院連合で社会人受講生を対象に「株式市場入門〜今こそおさえておきたい市場の基礎知識と勘どころ〜」を3回にわたり講義を行いました。
所属学会	国際ビジネス研究学会、日本ファイナンス学会、日本経済学会、日本金融・証券計量・工学学会、日本金融学会
キーワード	株式市場、資本市場、デリバティブ、証券投資、M&A、ファイナンス、IPO、企業経営、ベンチャー企業、ベンチャー政策

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107033/107033_Researcher.html

オフエル　フエルドマン
Ofer FELDMAN

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	政治心理学
研究活動	人間の政治的行動と心理的な要因の関係について、比較文化的側面からの研究を行っています。具体的には投票やリーダーシップといった日本人の政治行動とその理由や結果について研究を行い、他の先進国のそれと比較しています。さらに日本のメディアの政治における役割に焦点を当て、特に政治報道の内容と影響、政治におけるシンボルや言語とその特徴、また日本の政治過程の中でもテレビのインタビュー番組での質問はどういった特徴があるか、日本の政治家などがどのように幅広い質問に答えているのかといった研究の中心課題にしています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	1. Feldman, O. (共同編集) "Politische Psychologie: Handbuch fur Studium und Wissenschaft" Nomos Verlagsgesellschaft, Germany: Baden-Baden(2015) 2. Feldman, O. et al. "Culture or Communicative Conflict? The Analysis of Equivocation in Broadcast Japanese Political Interviews." Journal of Language and Social Psychology, 34(1), pp. 65-89(2015) 3. オフェル・フェルドマン『政治心理学』ミネルヴァ書房(2006)
社会活動・その他	新聞・雑誌への寄稿・インタビューとテレビ・ラジオ等への出演や制作協力、一般向けの教科書あるいは辞書や辞典の執筆し、インターネットにおけるホームページを立ち上げ自身の研究や講義に関しての紹介を行い、オランダ科学研究機構および英国のレイヴァーフーム基金研究プロジェクトのレフェリーとドイツ・ノモス出版社・政治心理学シリーズの共同編集長をつとめています。
所属学会	国際政治心理学、国際政治学会、国際コミュニケーション学会
キーワード	政治行動、政治的言語、コミュニケーション、レトリック、ディスコース・アナリシス、ニュース・メディア、日本、国会、国会議員、永田町、政治的リーダーシップ、政治的イメージ、文化、シンボル

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104025/104025_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~ofeldman

イグチ　ミツグ
井口　貢
Mitsugu IGUCHI

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	文化経済学、文化政策学
研究活動	1. ゼミ生を伴って持続的に連携した（連携している）自治体【京都市、近江八幡市、米原市、京丹波町、京都府、滋賀県など】 2. 井口が座長、委員長として関わった自治体の基本計画等【米原市、近江八幡市、宝塚市、関市、津島市、岡崎市など】 3.「日韓次世代学術フォーラム諮問教授」就任予定 4. 講演「美術・博物館とまちつむぎ」（三重県立博物館）「淡海文化とまちつむぎ」（京都新聞社）
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『京都・観光文化への招待』ミネルヴァ書房、『入門　文化政策』ミネルヴァ書房、『観光文化の振興と地域社会』ミネルヴァ書房、『まちづくり・観光と地域文化の創造』学文社、『地域の自律的蘇生と文化政策の役割』学文社、『観光学への扉』学芸出版社、『観光文化と地元学』古今書院、『くらしのなかの文化・芸術・観光～カフェでくつろぎまちつむぎ』法律文化社（2014年）、『観光学事始め～「脱観光的」観光のススメ』法律文化社（2015年）、「"サードプレイス"そこは自己を再創造する場」『大阪保険医雑誌』大阪府保険医協会（2015年5月）、「まちつむぎと人文知～文化政策の教育と実践から」『同志社時報』学校法人同志社（2015年10月） 「22世紀の子どもたちに「観光」を伝えるために～くらしのなかでつむがれる文化と人文知～」『経済月報』十六総合研究所（2015年12月）
社会活動・その他	しがぎん経済文化センター文化講座講師
所属学会	地域経済学会、文化経済学会、日本文化政策学会、現代民俗学会
キーワード	地域文化、観光文化

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107032/107032_Researcher.html

イマガワ　アキラ
今川　晃
Akira IMAGAWA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター
学生と共に各種座談会の開催

所属・職名	政策学部／総合政策科学研究科　教授
研究分野	地方自治、コミュニティ政策、行政苦情救済
研究活動	住民自治が、自治体政府、国の政府、さらには国際社会にどのような役割を果たすのかについて、各地域の実態分析（定性）を行いつつ研究を続けています。また、市民を主人公とした手段としての市民参加、協働を補完する仕組みとして、行政苦情救済の重要性を指摘するとともに、地方自治に関する民主的な制度設計にチャレンジしています。さらには、ひとりでも多くの市民が主人公として活躍できるような環境設定（気づきの提供、話し合いの場づくり等）についても、研究・活動を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書] 『分権時代の地方自治』三省堂（共編著）2007 『市民のための地方自治入門（新訂版）』（共編著）実務教育出版2009 『個人の人格の尊重と行政苦情救済』（単著）敬文堂、2011 『地域公共人材をつくる』（共編著）法律文化社、2013 『地方自治を問いなおす』（編著）法律文化社、2014
社会活動・その他	愛知地方自治研究センター理事長、一般財団法人行政管理研究センター理事、近畿管区行政評価局行政苦情救済推進会議委員、公益財団法人京都府市町村振興協会評議員、滋賀県基本構想審議会委員、米原市自治基本条例推進委員会委員長、全国大学政策フォーラムin登別顧問、芦屋市市民参画・協働推進アドバイザー会議委員長、等多数。
所属学会	日本地方自治学会、日本協働政策学会、日本オンブズマン学会、日本行政学会
キーワード	住民自治、住民参加、協働、行政苦情救済、広域連携、コミュニティの活性化

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104026/104026_Researcher.html
http://policy.doshisha.ac.jp/faculty/imagawa-info.html

イノウエ　ツネ オ
井上　恒男

Tsuneo INOUE

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	社会保障政策
研究活動	社会保障政策について、個別分野からの狭い切り口からではなく、年金と雇用、障害者福祉と就労支援等の制度横断的な観点からの研究に心がけるとともに、高齢者介護問題においては特に介護者支援に関心を持っています。また、日本の社会保障政策の課題を相対的に評価する観点から、英国社会保障の政策動向を継続的に実施し、折に触れて現地調査に出向いています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文] 「「介護者支援政策」再考−日英政策展開の比較−」、同志社政策科学研究、7 1 13-26 2005 [著書] 『英国所得保障政策の潮流−就労を軸とした改革の動向−』、ミネルヴァ書房、2014
社会活動・その他	京都介護･福祉サービス第三者評価等支援機構副会長 京田辺市国民健康保険運営協議会委員
所属学会	日本公共政策学会、日本社会福祉学会、社会保障法学会、社会政策学会
キーワード	社会保障、介護、英国

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103005/103005_Researcher.html

カキモト　アキヒト
柿本　昭人

Akihito KAKIMOTO

講演
研修
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	身体論、モダニズム／モダニティ論
研究活動	これまでの研究では、具体的な事象を題材に、その事象が出現するに至る諸力の重なり合いを腑分けしながら身体をモダニズム／モダニティにおける構造的な問題として議論する土俵を整備することを行ってきました。その対象としてきたのは、流行病、社会は実在なのか関係なのか、科学における「科学」性、強制収容所における労働、価値づけられる生命、認知症における責任能力、誰が大人なのかを巡る議論の紛糾等です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『健康と病のエピステーメー』ミネルヴァ書房、1991年。 『社会の実存と存在』(嶋守さやかと共著)社会思想社、1998年。 『アウシュヴィッツの〈回教徒〉』春秋社、2005年。 「〈老い〉の不在がもたらす軋み」『同志社政策研究』第2号(2008年) 「運転免許のレヴィアタン――認知症と交通事故」『同志社政策研究』第4号(2010年) 「大人／子供――古代ギリシアからの眺め」『同志社政策研究』第5号(2011年) 「新幹線を取り巻く安全神話――安全と神話」『同志社政策科学研究』第16巻第1号(2014年)
所属学会	社会思想史学会、社会学会
キーワード	身体、流行病、認知症、安全

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103036/103036_Researcher.html

カワ イ　ケイ ジ
川井　圭司

Keiji KAWAI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	スポーツ法、スポーツ政策
研究活動	スポーツの法律問題をめぐる国際比較をテーマに研究をしています。特にアメリカのプロリーグにおける労使関係の動向を追ってきました。これに加えて、スポーツ事故、大学スポーツの商業化、そしてスポーツ賭博、ドーピングなどのインテグリティにかかわる問題に関心を持っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	川井圭司『プロスポーツ選手の法的地位』(成文堂、2003年)全469頁 Glenn W. Wong･川井圭司『スポーツビジネスの法と文化　−アメリカと日本−』(成文堂、2012年)全372頁 Keiji Kawai and Matt Nichol, 'Labor in Nippon Professional Baseball and the Future of Player Transfers to Major League Baseball' (2015) 25(2) Marquette Sports Law Review 491.
社会活動・その他	日本スポーツ法学会理事 日本スポーツ仲裁機構仲裁人候補 NBL(日本バスケットボールリーグ)理事
所属学会	日本スポーツ法学会、日本スポーツ産業学会、日本労働法学会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104037/104037_Researcher.html

カワウラ　アキヒコ
川浦　昭彦

Akihiko KAWAURA

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	公共選択
研究活動	「一票の格差の予算配分への影響」について研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	"A tale of two duopolies: Collusion and exit in a local airline industry" Applied Economics Letters, Vol. 22, No. 8, 2015, pp. 664-667. 「クリーブランド大統領による銀購入法撤廃:政策の選択肢と政治的リーダーシップの関係の考察」『同志社政策科学研究』第16巻(第1号)、2014年9月　61頁〜69頁. "Legislator incentives in a fragile democracy: Evidence from budget allocation in Thailand" Contemporary Economic Policy, Vol. 29, No. 3, July 2011, pp. 407-415.
所属学会	アメリカ経済学会、国際経済学会、日本経済学会、(米国)西部経済学会
キーワード	公共選択論

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105017/105017_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~akawaura/

カザマ　ノリオ
風間　規男

Norio KAZAMA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター
学生と自治体・地域協働による政策開発

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	公共政策論、政策過程分析、ガバナンス論、政策ネットワーク論
研究活動	政治学の立場から、防災政策・環境政策などをめぐり官民のアクター間にどのような関係が築かれているのか、その関係性が政策の形成・実施にどのような影響を及ぼしているのかについて、ネットワーク分析の手法で研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「『原子カムラ』研究序説」『季刊行政管理研究』150号（2015） 「公的ガバナンスと政策ネットワークー複雑系理論を手がかりとしてー」新川達郎編著『公的ガバナンスの動態研究』2011 「防災政策ネットワークの研究ーガバナンス時代のリスク管理ー（博士論文）」（早稲田大学大学院政治学研究科提出）2004
社会活動・その他	自治体職員向け政策形成研修（兵庫県・山口県・京都府他多数） 市民向けまちづくりや地域防災についての講演活動 日本私立大学連盟研修委員会委員長、京都市政策評価委員会副委員長、生駒市情報公開個人情報審議会副委員長他
所属学会	日本公共政策学会、日本政治学会、日本行政学会
キーワード	政策過程論、政策ネットワーク論、公共施策論、ガバナンス論、防災政策、環境政策、洋楽評論

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104029/104029_Researcher.html
http://kazamaseminar.web.fc2.com/

キバ　サヤ
木場　紗綾

Saya KIBA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科　助教
研究分野	東南アジア政治、日本の東南アジア外交、援助政策、国際協力における民軍調整、NGOや社会運動の研究
研究活動	フィリピンとタイを中心とした東南アジアの選挙、社会運動、政治体制に関する研究をしています。また、非伝統的安全保障分野（災害救援や国境を越える犯罪など）における軍組織と文民組織との協力や調整に関する調査分析、日本の国際協力政策に関する研究も行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「災害救援を通じた東南アジアの軍の組織変容:民軍協力への積極的姿勢の分析」、『国際協力論集』第23巻第1号、2015. 'Regional Cooperation on Civil-Military Coordination in Disaster Response – Crisis or Opportunity?' in Security Sector Reform: Modern Defense Force, Ateneo De Manila University, 2014
社会活動・その他	（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構・研究調査本部　委員（2010-2012） NewsPicks社　NewsPicks　プロピッカー（2015年10月～）
所属学会	IUS on Armed Forces and Society, 比較政治学会
キーワード	東南アジア政治、非伝統的安全保障、民軍協力、国際協力政策、災害救援、フィリピン、タイ

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115153/115153_Researcher.html

クボ　マコト
久保　真人

Makoto KUBO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	組織心理学、産業心理学
研究活動	教員、介護士、看護師などの公的サービス職や、営業職やホテルのフロント、小売り業の店員など顧客とのやり取りが業務の中心となるサービス職、これらの職業に共通するのは、その人の知識・技術にもとづく無形の成果、つまり、サービスを顧客に提供することで、その代償として賃金を受け取っていることです。このような職業（ヒューマンサービス職）の組織や労働環境について、バーンアウトや感情労働という視点から研究をおこなっています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	著書『バーンアウトの心理学』サイエンス社 2004、『感情マネジメントと癒しの心理学』朝倉書店 2011、『介護サービスマネジメント』ナカニシヤ出版 2013、『社会政策の統計の見方と活用』朝倉書店 2015 論文「Long Term Care Insurance and market for aged care in Japan」2014
社会活動・その他	全国社会福祉協議会からの要請で社会福祉法人理事長を対象に講演「社会福祉の職場における ストレスマネジメント」 中部産業・労働政策研究会からの委託で「仕事と生活の調和の実現に向けた働く人達の意識調査」 介護実践リーダー研修にて「介護現場の環境を整える方策」（2009～）
所属学会	産業・組織心理学会、日本心理学会、日本社会福祉学会
キーワード	バーンアウト、感情労働、ヒューマンサービス、サービス産業

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104039/104039_Researcher.html

マス ダ　トモナリ
増田　知也

Tomonari MASUDA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科　助教
研究分野	地方自治論、研究方法論
研究活動	市町村合併と適正規模、迷惑施設と住民運動、政策広報などのテーマについて研究しています。研究においては質的・量的研究を必要に応じて組み合わせる方法をとり、研究方法論についても専門としています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『地域公共人材をつくる―まちづくりを担う人たち』（共著）法律文化社 2013年 『地方自治を問いなおす―住民自治の実践がひらく新地平』（共著）法律文化社　2014年 「市町村の人口と面積が歳出額に与える影響」『季刊行政管理研究』第128号
社会活動・その他	茨木市（仮）自治基本条例市民検討会議　アドバイザー （公財）大学コンソーシアム京都　京都市市民生活実感調査分析　アドバイザー・分析担当 （公財）草津市コミュニティ事業団『市民活動団体等に関するアンケート報告書』分析担当
所属学会	日本行政学会、日本公共政策学会、日本オンブズマン学会
キーワード	市町村合併、広報、広聴、迷惑施設、NIMBY、住民自治、自治意識、住民運動、住民参加、政策広報

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115165/115165_Researcher.html

マ ヤマ　タツ シ
真山　達志

Tatsushi MAYAMA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	行政学、政策実施研究
研究活動	講演タイトルとしては、「公民館活動とまちづくり」「これからの広域行政」「市職員に求められる政策形成能力」「災害時における自治体・議会・自主防災組織の在り方を考える」など。 学術論文以外の原稿としては「個人情報保護と防災」「自治体の意思決定のプロセス」など。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『政策形成の本質―現代自体の政策形成能力』（単著）、『ローカル・ガバメント論―地方行政のルネサンス』（編著）、『地域力再生の政策学―京都モデルの構築に向けて』（共編著）、『スポーツ政策論』（共編著）、「危機管理に必要な自治体の能力」『自治体危機管理研究』第7号など。
社会活動・その他	一般社団法人大阪公共サービス政策センター理事長、京都府少子化対策総合戦略委員会委員、京都市外郭団体経営評価専門員、京田辺市個人情報保護審査会会長、東近江市情報公開・個人情報保護審査会会長、近江八幡市行政改革推進委員会会長、湖南市政治倫理審査会会長、長浜市人権尊重審議会会長、枚方市上下水道経営委員会委員長ほか。
所属学会	日本公共政策学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本自治体危機管理学会、日本行政学会、自治体学会
キーワード	政策形成、政策実施、地方自治、危機管理、公共サービス

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/191008/191008_Researcher.html
http://www.mayama.jp/

ム サシ　カツヒロ
武蔵　勝宏

Katsuhiro MUSASHI

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	立法過程論、シビリアンコントロール
研究活動	議院内閣制では、議会の多数派が内閣を構成することから、内閣は議会に提出した法案を与党の協力によって容易に成立させることが可能となります。しかし、第二院である上院で与党が多数派であることは保証されず、分裂議会（ねじれ国会）がしばしば生じます。この場合、上院の権限の強弱によって、内閣の提出した法案成立の成否が影響を受けます。そこで、中程度に強い二院制の日本と中程度に強い二院制と弱い二院制の中間のイギリス、強い二院制のオーストラリアとの比較分析を行うことで、二院制の問題の解決方法を研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	武蔵勝宏,立法過程の変化―野田政権から安倍政権へ，北大法学論集,第64巻第6号,2252-2288頁,2014年 武蔵勝宏，政権交代後の立法過程の変容，国際公共政策研究,17巻2号,11-27頁,2013年 武蔵勝宏，民主党連立政権下の立法過程，北大法学論集，61巻第6号2161-2196頁,2011年
社会活動・その他	衆議院安全保障委員会参考人（2015年4月） 参議院外交防衛委員会参考人（2015年5月）
所属学会	日本公共政策学会元理事、日本法社会学会会員
キーワード	二院制、安保法制

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104061/104061_Researcher.html

ナカガワ　キヨシ
中川　清

Kiyoshi NAKAGAWA

講演
学術調査

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	社会政策、生活構造論
研究活動	生活変動と生活問題、そして社会政策の関係を日本の経験にそくして考えています。 具体的には、日本の近代から現在に至る生活変動の実態と構造を実証的に分析し、生活変動によって引き起こされる生活問題の特徴を時系列的に整理しています。その上で、生活問題に対応する社会政策の展開と課題を、長期的な視点から解明するつもりです。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『日本の都市下層』勁草書房 、1985年 『明治東京下層生活誌』(編集･解説)岩波文庫 、1994年 『日本都市の生活変動』勁草書房、2000年 “Ambitions,‘Family-Centredness’and Expenditure Patterns in a Changing Urban Class Structure: Tokyo in the Early Twentieth Century”, Continuity and Change,Vol.15, No.1, Cambridge University Press, 2000. 『改訂版　現代の生活問題』放送大学教育振興会、2011年
社会活動・その他	一般社団法人生活福祉研究機構理事
所属学会	社会政策学会、日本社会福祉学会
キーワード	生活変動、生活問題、社会政策、生活支援、生活構造論

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104030/104030_Researcher.html

ニイカワ　タツロウ
新川　達郎

Tatsuro NIIKAWA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	行政学、公共政策論、地方自治論
研究活動	行政の在り方に関心を持っており、行財政改革、道州制導入、大都市制度改革、あるいは地方分権改革などについて研究するとともに、社会的にも発信しています。政策領域としては、災害復興、環境問題、情報通信などの分野についてそのガバナンスと決定過程、そして政策の効果(評価)に関心があります。また、政府組織だけではなく市民参加による決定や協働によるまちづくり、住民自治や地域自治にも研究対象を広げており、つまるところ民主主義が大切だと考えています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『政策学入門』(編著)法律文化社　2013、『京都の地域力再生と協働の実践』(編著)法律文化社　2013、『公的ガバナンスの動態研究』(編著)ミネルヴァ書房　2011、『持続可能な地域実現と協働型政策形成』(編著)日本評論社　2011
社会活動・その他	全国知事会地方自治先進政策センター頭脳センター専門委員 関西広域連合協議会副会長 地方公共団体情報システム機構代表委員
所属学会	日本公共政策学会、日本計画行政学会、日本NPO学会、日本政治学会、社会情報学会、日本自治学会、日本行政学会
キーワード	行政改革、行政管理、地方制度、市民参加、パートナーシップ、ガバナンス

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/199002/199002_Researcher.html

オカダ　アヤ
岡田　彩

Aya OKADA

講演
研修
学術調査

所属・職名	政策学部政策学科　助教
研究分野	NPO・NGO論、ソーシャル・マーケティング論、国際開発学、災害マネージメント論
研究活動	NPO・NGOによる戦略的コミュニケーションを研究しています。NPO・NGOは、多くの人々に取り組んでいる問題について知ってもらい、寄付やボランティアなど、解決に向けた具体的なアクションを起こしてもらうべく、様々な情報発信を行っています。情報が溢れる現代社会では、問題の重要性を懸命に述べても、人々の心には届きません。より説得力のある、戦略的な情報発信が求められているのです。国際協力や震災復興に従事する団体を主な対象としながら、NPO・NGOが情報を発信する際の「切り取り方」「見せ方」「流し方」を研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]Okada, A., Ishida, Y. & Yamauchi, N. (forthcoming). Effectiveness of Social Media in Disaster Fundraising: Mobilizing the Public towards Voluntary Actions. International Journal of Public Administration in the Digital Age. [著書(章)]Svedin, L. (2015). Ethics and Risk Management. Civil Society Organizations and Risk Management: The Case of Japan (Ch.8). Information Age Publishing. [講演]日本NPO学会第17回年次大会「公開シンポジウム　NPOは情報をどう使いこなすべきか」パネリスト.
所属学会	ARNOVA、ISTR、日本NPO学会
キーワード	NPO・NGO、コミュニケーション、戦略性、情報発信、寄付、ボランティア

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113139/113139_Researcher.html
http://aokada.doshisha.ac.jp

オカモト　ユミコ
岡本　由美子

Yumiko OKAMOTO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	国際経済、国際開発、イノベーションの経済学
研究活動	①平成27年度から平成29年度までの3年間、科学研究費助成事業「伝統的知識・技術を基盤とする産業の特徴と今後の発展可能性―ミャンマーを事例として」を遂行しています。 ②現在、単独で、「グローバル・バリュー・チェーン革命の功罪とガバナンス体制に関する研究」を遂行しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Okamoto, Y.(2015), 'A New Approach to 'Low-Tech' Industries, Innovation, and Development: Capacity Building through Tourism Promotion,'In Emerie, A., et al.(Eds):Partnerships for Innovation-Based Development. Addis Ababa University, pp. 275-298. Okamoto, Y.(2014), 'Japan's Innovation Strategy toward Asia', Public Policy Review 10(No.1), pp. 77-108.
社会活動・その他	①日本イーストウェストセンター同友会関西支部事務局長を務めています。 ②財団公益法人日本国際フォーラムの一員として東アジア研究所連合の国際会議に出席をし、政策提言を行っています。
所属学会	日本国際経済学会 Globelics
キーワード	国際開発・国際協力、ミャンマー経済、地域経済統合、イノベーション・システム

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104032/104032_Researcher.html

オオタ　ハジメ
太田　肇

Hajime OHTA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	組織論(個人を活かす組織論)
研究活動	人材派遣会社や保険会社と連携し、社員を「ほめる」研究プロジェクトを実施しています。また企業と連携し、日本表彰研究所を設立しました。主な講演タイトルとして、「社員のやる気とやりがいを引き出すには」「公務員の組織改革」「認めることの効果」などです。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書] 『社員の潜在能力を引き出す経営』中央経済社 2015 『がんばると迷惑な人』新潮新書 2014 『組織を強くする人材活用戦略』日経文庫 2013 『「見せかけの勤勉」の正体』PHP 2010 『公務員革命』ちくま新書 2011 『承認とモチベーション』同文舘出版 2011 『表彰制度』東洋経済 2013　他多数あり。
社会活動・その他	自治体の委員、学校運営協議会委員など。
所属学会	日本労務学会、日本経営学会、組織学会
キーワード	個人尊重、モチベーション、組織改革、承認欲求、プロフェッショナル、企業不祥事、公務員の人事管理

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104034/104034_Researcher.html
http://www.eonet.ne.jp/~ohtahajime/

セキネ　チカ
関根　千佳

Chika SEKINE

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科　教授
研究分野	ユニバーサルデザイン、ジェロントロジー
研究活動	大学院のソーシャル・ビジネスのクラスでは、実際に起業するプロセスを体験したり、企業やNPOと連携しながら現場を観る目を養っています。学部の授業では、京都府庁職員と共に、京都観光UDガイドブックの作成にかかわり、広報の在り方についての提案を行っています。高齢化の中でオリパラ以降を見据えて、各自治体で、ユニバーサルデザインについての勉強会が増え、講師として呼ばれることが多くなりました。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	情報社会のユニバーサルデザイン　NHK出版　広瀬洋子・関根千佳著　2014 ソーシャルイノベーションが拓く世界　法律文化社　11、12、21章執筆　2014 ジェンダー白書9『アクティブシニアが日本を変える』ムーブ編　p91-p103「アクティブシニアと生涯学習」2013 学士会会報　897　p84-p88「ジェロントロジーとユニバーサルデザイン」2012
社会活動・その他	京都観光ユニバーサルデザインガイドブック作成のための委員会で座長を務める他、内閣府、国交省などの省庁や、多くの自治体でユニバーサルデザインに関する委員を務めています。
所属学会	ヒューマンインターフェイス学会、福祉のまちづくり学会、HCD－NET
キーワード	ユニバーサルデザイン、ジェロントロジー、ソーシャルイノベーション、高齢社会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112136/112136_Researcher.html

タ ダ　ミノル
多田　実

Minoru TADA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	経営科学、感情科学
研究活動	コトラーが提唱する価値主導型マーケティング（マーケティング3.0）による新しいまちづくりや地域活性化の研究を行っています。その具体的な活動として、長野県豊丘村役場と協働開催する音楽イベント「とよろく」、広告コミュニケーションや各種メディア関連のゲストスピーカーを招聘して学生や一般にも公開するトークイベント「裏イブ」の開催などがあります。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『文系のための理系的問題解決～Excelで実践する数理的・統計的分析アプローチ』オーム社　2005、『大学教育と地域―地域力再生学生宣言（「情報メディア教育と地域」担当）』公人社　2011、『同志社ブックレット3 巻』（「特筆すべき資源がなくても地域活性化は可能か　―価値主導型マーケティングの可能性」）学芸出版社 2014 など
社会活動・その他	木津川市観光商工課委員（「当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会」会長）、大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム総合コーディネーター
所属学会	日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本数理科学協会、日本知能情報ファジィ学会
キーワード	組合せ最適化、オペレーションズリサーチ、統計学、マーケティングリサーチ、地域活性化／まちづくり、IMC、O2O

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104035/104035_Researcher.html
http://www.consortium.or.jp/special/wch_PBL/course/nijo.html

ツキムラ　タ ロウ
月村　太郎

Taro TSUKIMURA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	バルカン地域研究、地域紛争研究
研究活動	もともと、ハプスブルク帝国の民族問題の研究を志していましたが、1990年代初頭の旧ユーゴ解体以後、研究対象はいつのまにか、バルカン地域研究と民族紛争や地域紛争の比較へと変化してきています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[単著]『民族紛争』岩波書店　2013、『ユーゴ内戦』東京大学出版会　2006 [編著]『地域紛争の構図』晃洋書房　2013
社会活動・その他	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター共同利用・共同研究拠点運営委員会運営委員、兵庫自治学会評議員
所属学会	ロシア東欧学会、日本国際政治学会、日本政治学会、日本比較政治学会、東欧史研究会
キーワード	バルカン、地域紛争、民族紛争

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108002/108002_Researcher.html

ヤマ ヤ　キヨ シ
山谷　清志

Kiyoshi YAMAYA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	政策学部政策学科／総合政策科学研究科　教授
研究分野	政策評価、行政責任論
研究活動	政府や地方自治体の活動を「管理」「評価」「アカウンタビリティ」の視点で分析します
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『政策評価の理論とその展開－政府のアカウンタビリティー』晃洋書房 1997 『政策評価の実践とその課題－アカウンタビリティのジレンマー』萌書房 2006 『政策評価』ミネルヴァ書房 2012 『男女共同参画政策』（編著）晃洋書房 2015
社会活動・その他	日本評価学会認定・上級評価士 内閣府本府　政策評価有識者懇談会、座長（2006年～）。 経済産業省　政策評価懇談会、座長（2012年～）。 防衛省政策評価に関する有識者会議、委員長（2012年～）。 海上保安庁　船舶等評価委員会、委員長（2010年～）。 独立行政法人・京都市立病院評価委員会、委員長（2010年～）。
所属学会	国際開発学会、日本公共政策学会、日本政治学会、日本行政学会、日本評価学会
キーワード	政策評価、アカウンタビリティ、男女共同参画政策

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104036/104036_Researcher.html
http://www.geocities.jp/a16389jp/rireki.html

ミ ヨシ　ヒロアキ
三好　博昭

Hiroaki MIYOSHI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	総合政策科学研究科　教授
研究分野	技術公共政策
研究活動	新しい技術を社会に普及させるための政策並びにその効果を、経済学の考え方を用いて分析しています。研究にあたっては、政府や産業界の課題解決に資することを基本姿勢として取り組んでいます。最近の研究テーマは、 1）自動走行車の普及プロセスの研究 2）次世代自動車普及による大気汚染物質削減効果の研究 などです。目下、自動車技術を分析対象としていますが、分析手法は、様々な技術に応用可能です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	H. Miyoshi and M. Kii eds., Technological Innovation and Public Policy: The Automotive Industry,Palgrave Macmillan, 2011 三好博昭・谷下雅義編著『自動車の技術革新と経済厚生：企業戦略と公共政策の効果分析』白桃書房，2008 小豆川裕子・三好博昭編著『知識資産経営と組織パフォーマンス：人材・知識・ICTの融合の時代』白桃書房, 2009
社会活動・その他	公益社団法人自動車技術会　ITS部門委員会委員 公益社団法人交通事故総合分析センター（ITARDA）　客員研究員
所属学会	ITS JAPAN、自動車技術会、国際地域学会、応用地域学会、日本経済学会
キーワード	自動車、次世代自動車、自動運転、交通事故、大気汚染、温室効果ガス、公共経済、イノベーション

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108035/108035_Researcher.html

ユ　ソ セイ
兪　祖成

YU Zucheng

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	総合政策科学研究科　助手
研究分野	NPO政策、ローカル・ガバナンス
研究活動	文献調査、実地調査、事例研究および比較研究などの研究手法を用いて、中国共産党一党支配という統治体制と親和性を持った中国特有のNPO（非営利組織）セクターの形成要因について研究を展開しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	・〔論文〕兪祖成「中国におけるNPOセクターの現状と課題」『同志社政策科学研究』第17巻（第2号）、2015年。 ・〔論文〕兪祖成「現代中国における国家的公共性の形成と非営利部門の再編」『同志社政策科学研究』第16巻（第1号）、2014年。 ・〔論文〕兪祖成「日本NPO法人制度的最新改革及啓示」『国家行政学院学報』2013第6期。（中国語） ・〔著書〕兪祖成「日本非営利組織参与公共服務供給的制度安排」梁暁勇編著『中国民間組織報告（2015年）』社会科学文献出版社、2015年。（中国語）
所属学会	日本行政学会、日本公共政策学会、日本NPO学会、日本協働政策学会、日本オンブズマン学会
キーワード	NPO政策、地方自治、市民社会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115163/115163_Researcher.html

フクダ　トモコ
福田　智子

Tomoko FUKUDA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター
ご要望に応じる。

所属・職名	文化情報学部文化情報学科／文化情報学研究科　准教授
研究分野	平安文学　平安･鎌倉の和歌文学
研究活動	同志社大学所蔵『伊勢物語御歌かるた』(江戸後期作成)を、富士ゼロックス京都と大石天狗堂の御協力により、復元複製しました。最新のコピー技術と、創業二百年を誇る老舗の伝統技術との結びつきは、京都ならではの特色をもちます。複製は、実際に遊戯に使用することにより、学内の研究･教育のみならず、一般を対象とするイベントなどでも、日本の伝統文化を肌で感じさせてくれる重要なアイテムとなっています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	歌合･定数歌全釈叢書18『順百首全釈』(筑紫平安文学会著)風間書房 2013年5月 「題と本文の間―『古今和歌六帖』諸本の本文異同と『万葉集』―」『同志社国文学』第78号 2013年3月 「『古今和歌六帖』と嘉暦伝承本『万葉集』―『万葉集』の訓の生成と流布について―」『社会科学』(同志社大学人文科学研究所)第44巻第1号 2014年5月
所属学会	中古文学会、九州大学国語国文学会、全国国語国文学会、和歌文学会、福岡女子大学国文学会
キーワード	和歌、歌人、伝本、表現、八代集、データマイニング、文字列解析、変体仮名、古典教育、百人一首、伝統文化、香道、源氏物語、文献学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105008/105008_Researcher.html
http://www.i.kyushu-u.ac.jp/~takeda/FukudaHP/

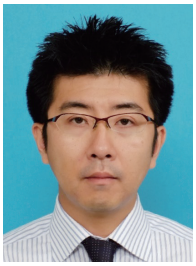
ハタノ　ケンジ
波多野　賢治

Kenji HATANO

講演
研修
学術調査
コメンテーター
共同研究

所属・職名	文化情報学部文化情報学科／文化情報学研究科　教授
研究分野	データベース、ディジタルライブラリ、情報検索、情報抽出、図書館情報学、ユーザインタラクション
研究活動	高度情報化社会である今日、膨大なデータが氾濫しているだけではなく、データ自体も単なるテキストからより複雑な形式をとるようになってきています。人間はこうしたデータから情報を収集、利活用して新しい知識を得ることでさまざまな問題を解決しているが、そのためにはデータの効果的、効率的な格納と、高性能なデータ検索およびその検索結果の利活用をすることができるシステムが必要不可欠となります。 我々の研究室ではこうした情報システムを利用し、データの高度利用および効率的なデータ処理に関する研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	- Takamitsu Shioi and Kenji Hatano: “Query Processing Optimization using Disk-based Row-store and Column-store”, Proc. iiWAS2015, pp.524-532, 2015. - Atsushi Keyaki, Jun Miyazaki, and Kenji Hatano: “Applying XML Element Retrieval Techniques to Web Documents”, DBSJ Journal, Vol.13, No.1, pp.64-70, 2015.
社会活動・その他	G-XML プロトコル拡張検討小委員会 Working Group 委員
所属学会	ACM, IEEE Computer Society, 情報処理学会, 電子情報通信学会, 日本データベース学会
キーワード	データベースシステム、情報検索技術、ディジタルライブラリ、ヒューマンコンピュータインタラクション

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/106005/106005_Researcher.html
http://www-ilab.cis.doshisha.ac.jp/



イシオカ　マナブ
石岡　学

Manabu ISHIOKA

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文化情報学部文化情報学科　助教
研究分野	教育社会学、歴史社会学
研究活動	中心的な問題関心として、学校が社会的地位配分の正当なエージェントとして成立していることの意味について考えています。 具体的には、近代日本における「試験をめぐる言説」の歴史社会学的分析を通して、この問題に取り組んでいます。 現在は特に、戦後の大学入試に導入された「進学適性検査」や、1960年代の「高校全入運動」などに照準して、研究を進めています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	・石岡学『「教育」としての職業指導の成立』勁草書房、2011年 ・石岡学「1920年代日本の中等学校入試改革論議における「抽籤」論にみる選抜の公正性」『教育社会学研究』第94集、2014年 ・石岡学「1920年代の新聞報道における中学生・女学生スポーツの表象」（小山静子編『男女別学の時代』柏書房、2015年）
所属学会	日本教育社会学会、日本社会学会、日本教育学会、教育史学会
キーワード	教育社会学、近代日本、試験、学歴、学校、受験、就職、能力

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115131/115131_Researcher.html

イトウ　ノリコ
伊藤　紀子

Noriko ITO

コンサルティング
コメンテーター

所属・職名	文化情報学部文化情報学科／文化情報学研究科　准教授
研究分野	言語学、日常のことばでコミュニケーション可能なコンピュータシステムの研究開発
研究活動	PC初心者ユーザの問題解決を支援するための対話システムを研究開発しています。対話システムが適切な助言を行えるようにするため、ソフトウェアに付属の取扱説明書に対して言語学的な分析を施し、より分かりやすい文章に言い換えることができる仕組みについて研究してきました。言語学の専門知識を活かして各種取扱説明書の分析・評価・助言を行うことで、企業や行政とのコラボレーションができればと思っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『テクニカルライターフォーラム2007:情報の「提供」から「想像」へ～テクニカルライターの役割を問う～』にて「言語学的な知見を取り入れたスマートヘルプシステム」という題目で講演し、開発中の対話型ワープロ操作支援システムの説明を行いました。
社会活動・その他	ロータリー財団国際親善奨学生
所属学会	日本機能言語学会、英語コーパス学会、言語処理学会、関西言語学会など
キーワード	テキスト理解、言語知識、日本語

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105006/105006_Researcher.html
http://www.cis.doshisha.ac.jp/staff/n_12/index.html

キン　メイテツ
金　明哲

Meitetsu KIN

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文化情報学部文化情報学科／文化情報学研究科　教授
研究分野	統計科学およびデータサイエンスの手法に基づいた人文社会科学の諸問題の分析と解明
研究活動	統計科学や機械学習などの科学的技法に基づいてテキスト型データについて学術および応用研究を行っています。近年主に日本語・中国語・韓国語の文章における特徴データの抽出方法やそのデータの解析方法について研究を行い、その研究成果と開発したツールを文体分析、文章のゴーストライターの問題の解明、製品やサービスに関連するブログや日誌の分析、犯行声明文、成りすましメールの書き手の識別、社会調査における自由回答文分析、コーパス言語学の研究と教育、感情心理学研究などの領域に応用を展開しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	金 明哲著:テキストデータの統計科学入門,岩波書店, 244ページ,ISBN-10: 4000057022,ISBN-13: 978-4000057028(2009/4/28) 金 明哲著:Rによるデータサイエンス, 320ページ,森北出版,ISBN-10: 4627096011,ISBN-13: 978-4627096011(2007/10/13) 金明哲編:シリーズ「Rによるデータサイエンス」全20巻、共立出版 金明哲(2014). 統合的分類アルゴリズムを用いた文章の書き手の識別,行動計量学,第41巻第1号35-46. 金明哲(2013). 文節パターンに基づいた文章の書き手の識別,行動計量学, 第40巻第1号,17-28.
所属学会	日本統計学会、日本行動計量学会、日本計算機統計学会、日本計量国語学会、日本言語処理学会、日本人工知能学会、中国社会言語学会
キーワード	統計科学、データサイエンス、テキストマイニング、文体科学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105007/105007_Researcher.html
http://mjin.doshisha.ac.jp/

シモジマ　アツシ
下嶋　篤

Atsushi SHIMOJIMA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文化情報学部文化情報学科／文化情報学研究科　教授
研究分野	分析哲学、図的推論
研究活動	情報グラフィックスの認知特性について知り、人間の理解、思考、意思決定、コミュニケーションを効果的に促進する手法と、これを効果的に阻害する手法に違いを理解することは、情報グラフィックスの作り手にとっても、受け手にとっても重要であり、グラフィック・デザイナー、テクニカルライター、ビジネスパーソン、学校児童・学生を対象としたセミナーの開催に強い関心があります。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Semantic Properties of Diagrams and Their Cognitive Potentials, CSLI Publications, Stanford, CA, 2015. "An Eye-Tracking Study of Exploitations of Spatial Constraints in Diagrammatic Reasoning," (共著)Cognitive Science, 2013. "The Linguistic-Graphic Distinction: Exploring Alternatives," Artificial Intelligence Review, 1999. "Operational Constraints in Diagrammatic Reasoning." G. Allwein and J. Barwise Eds. Logical Reasoning with Diagrams. 1996.
社会活動・その他	辰口町立宮竹小学校6年生総合学習「言葉のふしぎ」授業担当 辰口町立宮竹小学校5年生総合学習「言葉のふしぎ」授業担当
所属学会	同志社哲学会、日本科学哲学会、日本認知科学会、科学基礎論学会、Cognitive Science Society
キーワード	グラフィック表現、情報グラフィックス、図表現、認知特性、分かりやすさ

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105010/105010_Researcher.html
http://shimo-pro.com/a-pro/About_Me.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~ashimoji/

スギ オ　タケ シ
杉尾　武志

Takeshi SUGIO

学術調査

所属・職名	文化情報学部文化情報学科／文化情報学研究科　教授
研究分野	パターン認知の心理メカニズム
研究活動	近年は図や表といったダイアグラムを刺激材料として用いて心理実験およびfMRIによる脳活動の計測を通して、こうしたダイアグラムの読解における心理メカニズムの解明を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	“Neural mechanisms of global reading”, Sugio, T., T. Dwyer, H. Purchase and A. Delaney Eds., Diagrammatic Representation and Inference: 8th International Conference, LNAI 8578, Springer Berlin, 198-212, 2014. “Psychological evidence of mental segmentation in table reading”, Sugio, T., Shimojima, A., and Katagiri, Y., P. T. Cox, B. Plimmer and P. Rodgers Eds., Diagrammatic Representation and Inference: 7th International Conference, LNAI 7352, Springer Berlin, 124-131, 2012.
所属学会	日本心理学会、日本認知心理学会、日本認知科学会、電子情報通信学会
キーワード	物体認識、パターン認知、図的表現の読解、fMRI、認知的制御

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105013/105013_Researcher.html

タ グチ　テツ ヤ
田口　哲也

Tetsuya TAGUCHI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文化情報学部文化情報学科／文化情報学研究科　教授
研究分野	比較文化論
研究活動	欧米のモダニズム研究を出発点として、東洋と西洋の文化比較や近代化の問題を芸術、文化、哲学・思想、科学史、行動経済学、カルチャル・スタディーズなどの先端理論を援用し、ポスト・コロニアル、ポスト・モダンの観点からの理論構築を行っています。具体的な成果は国内外の学会での講演や発表、あるいは出版や国内外でのテレビ、ラジオ、ネットを通して公表しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文] 「文化情報学部所蔵　マサオ・ミヨシ文庫について（1）――国民国家とエグザイル、知識人の役割などについて――」（同志社大学文化情報学会）8 1 12-23 2012 「ポスト・白人文化の創作原理」（同志社大学文化情報学会）10 1・2 1-9 2015 [著書] 『T.S.エリオットの作品と本質――モダニズム的知性の結晶』音羽書房鶴見書店 2013　『ケネス・レクスロス中心の現代対抗文化』国文社 2015 [研究発表] “Escape from the Food Trap” The 6th SSEASR International Conference 2015
所属学会	日本T.S.エリオット協会、日本アメリカ文学会
キーワード	文化比較、ポスト・モダン、ポスト・コロニアル、文化理論

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/190012/190012_Researcher.html

テイ　ヤクグン
鄭　躍軍

TEI Yakugun

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文化情報学部文化情報学科／文化情報学研究科　教授
研究分野	計量社会学
研究活動	現代社会における人びとの意識や行動パターンを統計的に研究しています。 科研費にて世論調査や市場調査のサンプリング方法を開発しました(2008～2009) 科研費にて日中韓の生活･文化･環境に関する意識調査を実施し、関連性･因果関係･構造の分析を行いました(2009～2012) 科研費にて環太平洋地域価値観国際比較調査を実施し、主観的幸福感指標の開発を行いました(2011～2014) 受託研究にて国際人材適性を調査分析しました(2014) 科研費にて意識と行動の因果モデルの開発を行っています(2014～現在)
主要な業績 (著作・論文・研究発表)	著書『データサイエンス入門』勉性出版　2007 著書『統計的社会調査ー心を測る理論と方法ー』勉誠出版　2008 『地球環境学事典』弘文堂　2010 『社会調査データ解析』共立出版　2011 『統計応用の百科事典』丸善出版　2011
所属学会	国際社会学学会、国際社会学機構、日本世論協会、日本行動計量学会、社会調査協会
キーワード	統計科学、社会調査、社会統計、市場調査、国際比較調査、消費者行動分析、企業文化分析、環境意識調査、環境評価

http://www.cis.doshisha.ac.jp/staff/n_26/index.html
http://rc-ceas.doshisha.ac.jp/
http://cns-ceas.doshisha.ac.jp/

ヤマウチ　ノブユキ
山内　信幸

Nobuyuki YAMAUCHI

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文化情報学部文化情報学科／文化情報学研究科　教授
研究分野	英語学
研究活動	英語･日本語を対象に、デジタル分析が可能な言語資料としてのコーパスを活用し、主に、副詞･形容詞の意味･機能の解明に取り組んでいます。特に、強意表現を中心に、様々な言語表現を研究対象としています。最近では、国立台湾大学で「若者言葉から見る現代日本文化の特質」と題した講演を行い、また、日本テレビの「所さんの目がテン:あげぽよ!!流行語実験」では、企画段階から参画し、流行語が生まれるメカニズムを解明しました。
主要な業績 (著作・論文・研究発表)	Nobuyuki Yamauchi. 2012. “English Looks at Japanese and Vice Versa: A Contrastive Approach to Intensifiers in English and Japanese” 『文化情報学』第7号第2巻, pp.1-12.
社会活動・その他	平成16年度スーパー･イングリッシュ･ランゲージ･ハイスクール研究開発校(滋賀学園高等学校)研究指導委員 平成16年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)ペーパーレフリー 平成19年度大学評価委員会全学評価分科会委員 平成20年度大学評価委員会専門評価分科会委員 京都府明日の国際交流推進プラン(仮称)政策検討委員会委員　座長
所属学会	外国語教育メディア学会、日本比較文化学会、日本英語学会、英語コーパス学会、英語語法文法学会、表現学会
キーワード	語法研究、コーパス言語学、文化情報学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/189005/189005_Researcher.html

ヤナギサワ　エイスケ
柳沢　英輔

Eisuke YANAGISAWA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	文化情報学部文化情報学科　助教
研究分野	音楽人類学、映像人類学、地域研究
研究活動	ベトナム中部高原に居住する少数民族のゴング文化について、フィールドワークをもとに研究を行っています。研究成果は論文だけでなく、現地で撮影した映像をもとに民族誌映画と呼ばれる映像作品を制作して海外の映画祭などで上映する、録音した自然・環境音を編集してフィールド録音作品を制作・出版する等によっても公開しています。近年は京都の魅力を音の観点から探るため、京都の音文化についても研究を進めています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「ベトナム中部高原ゴング演奏の現在 ―演奏形態と旋律に関する一考察―」『アジア・アフリカ地域研究』9(1):65-85、2009年 「ゴングの価値を創る調律師　―ベトナム中部高原の事例から」『民族藝術』26:223-232、2010年 「ベトナム中部高原山岳少数民族の伝統的集会施設「ニャーロン」の現在―コントゥム省，ジャライ省の事例から 」『国立民族学博物館研究報告』37(2):245-275、2013年
社会活動・その他	日本サウンドスケープ協会常務理事
所属学会	日本サウンドスケープ協会、東洋音楽学会、International Association of Sound and Audiovisual Archives
キーワード	ベトナム、ゴング、映像、録音

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115156/115156_Researcher.html
http://otonoha.x0.com

ヨシカワ　ケンイチ
吉川　研一

Kenichi YOSHIKAWA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター
共同研究

所属・職名	生命医科学部医情報学科／生命医科学研究科　教授
研究分野	非線形科学、生命物理学
研究活動	生命現象の本質に迫ることを重視して研究を進めています。生命とは何かといった問題に対しては、生命観、世界観、倫理観が密接に関連しております。また、このような基礎的研究と共に、医学や生物工学分野への応用研究も展開しております。そのなかで、経済活動や集団行動の解析分野なども行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	“The evolution of spatial ordering of oil drops fast spreading on a water surface”, D. Yamamoto, C. Nakajima, A. Shioi, M. P. Krafft and K. Yoshikawa, Nature Comm., 6, 7189 (2015). “生物学は「発見の時代」から「生命の本質に迫る時代」へ”、吉川 研一著, ニュートン, 7月号 (2013) など、 詳しくは、http://dmpl.doshisha.ac.jp/　の論文・出版物を参照ください
社会活動・その他	Chair, Commission of Biological Physics, IUPAP (International Union Pure and Applied Physics): 2013-2014 Guest Professor, Heidelberg University: 2014-2016
所属学会	物理学会、生物物理学会、応用物理学会、化学会、高分子学会
キーワード	生命物理学、非線形科学、物理医学、非平衡統計熱力学、生命観、集団行動、認知科学、ヒト型コンピュータ

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113022/113022_Researcher.html
http://dmpl.doshisha.ac.jp/

フジサワ　ヨシヒコ
藤澤　義彦

Yoshihiko FUJISAWA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科／スポーツ健康科学研究科　教授
研究分野	スポーツ測定評価･方法
研究活動	私は、スポーツ競技選手が「潜在的に秘めている能力」を見つけ出すことを目的に研究を行っています。この研究は、一見スポーツ選手のみに適応できるもののようにみえますが、一般人の健康関連体力に関する判定の基準にも十分に運用できます。そのため、私は、研究成果をスポーツ選手のトレーニング講習会や指導者講習会とともに自治体等の健康作りに関する講習会などで話をさせていただいています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Trabecular and cortical bone separately　assessed at radius with a new ultrasound device,in a young adult population with various physical activities; BONE.pp.1620-1625 2010. Injuries in a Japanese Division I collegiate american football team: a 3-season prospective study. N. Journal of athletic training. Nov-Dec;48(6):818-25p.2013.
社会活動・その他	京都フェンシング協会理事、日本学生フェンシング連盟理事、全国高体連フェンシング専門部顧問、関西学生フェンシング連盟理事、京都府体育協会強化委員会委員、京都府教育委員会“京の子どもダイヤモンドプロジェクト”選手育成専門部会委員
所属学会	日本スポーツ方法学会、日本体力医学会、日本体育学会、日本生理学会
キーワード	競技力向上、トレーニング、資質･身体的特性、骨組成･骨密度

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/188004/188004_Researcher.html

イシ イ　コウ ジ ロウ
石井 好二郎

Kojiro ISHII

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科／スポーツ健康科学研究科　教授
研究分野	運動処方
研究活動	小児から高齢者および競技者までの運動処方の開発･展開
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「新版　これでなっとく使えるスポーツサイエンス」(講談社)2007 「抗加齢医療-その最前線の実際-」(新興医学出版社)2010 「からだと温度の事典」(朝倉出版)2010 「からだの発達と加齢の科学」(大修館書店)2012 「スポーツ生理学」(化学同人)2013 「こどものスポーツ外来-親もナットク! このケア･この説明-」(全日本病院出版会)2015
社会活動・その他	日本肥満学会評議員、日本体力医学会評議員、日本抗加齢医学会評議員、日本運動生理学会評議員、日本健康支援学会理事、日本スポーツ栄養学会評議員、日本臨床運動療法学会評議員、日本サルコペニア･フレイル研究会世話人
所属学会	日本体力医学会、日本肥満学会、日本抗加齢医学会、日本サルコペニア･フレイル研究会
キーワード	応用健康科学、発育発達、エネルギー代謝、肥満、アンチエイジング、加齢、老化、子ども、小児

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108023/108023_Researcher.html
http://ishiilabdoshishauniv.web.fc2.com/

イシクラ　タダ オ
石倉　忠夫

Tadao ISHIKURA

講演
研修

所属・職名	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科／スポーツ健康科学研究科　教授
研究分野	体育心理学、スポーツ心理学
研究活動	京都府綴喜郡宇治田原町広報「運動やスポーツで豊かな生活を築こう!」連載6回 奈良橿原市橿原健康スポーツクラブ健康講座「健康スポーツを楽しく続ける3つのコツ」
主要な業績（著作・論文・研究発表）	論文「タイミング技能学習における情動喚起フィードバックメッセージが学習者の気分と生理心理的指標に及ぼす影響」2015 論文「運動後に指導者から与えられる快／不快感情喚起メッセージと学習者のパーソナリティーとの関連性」2015 論文「パフォーマンス後に快／不快感情を喚起する情意的フィードバックメッセージ」2014 論文「自己調整フィードバックはボール・パッティング学習におけるパッティング動作に作用するか?」2013 「Effects on modeling sequential body movements when viewed from the front or rear」2012
社会活動・その他	宇治田原町生涯スポーツ社会あり方検討委員会委員長 宇治田原町体育協会スポーツ講演会講師 平成11・13・14年度　(財)日本体育協会公認B級スポーツ指導員養成講習会講師 平成11年度　コミュニティースポーツリーダー講習会講師 平成11年度　尼崎市高齢者スポーツ指導者講習会講師
所属学会	北米スポーツ・スポーツ活動心理学会、日本スポーツ心理学会、日本体育学会
キーワード	スポーツ心理学、運動学習

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/198016/198016_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~tishikur/index.html

カミバヤシ　キヨタカ
上林　清孝

Kiyotaka KAMIBAYASHI

講演
研修
学術調査

所属・職名	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科　准教授
研究分野	神経生理学、運動制御
研究活動	ヒトを対象とし、筋電図による筋活動、感覚神経への電気刺激で誘発される脊髄反射、大脳運動野に対する磁気刺激で誘発される運動誘発電位など非侵襲的な電気生理学的実験手法によって、運動生成に関わる脳・脊髄の神経調節メカニズムを研究しています。歩行や立位姿勢などの基本的動作だけでなく、スポーツ場面における巧みな動きも研究対象となります。また、高齢者や中枢神経疾患による運動機能障害者の機能低下に関する神経性の要因や機能回復機序に関する研究も行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『Cybernics: Fusion of human, machine and information systems』 Springer, Sankai Y, Suzuki K, Hasegawa Y(監修), 「Motor control and learning」65-88, 2014 「Locomotor training using a wearable robot in patients with neurological disorders」『J Phys Fitness Sports Med』3(2), 249-253, 2014
社会活動・その他	第24回体力・免疫・栄養学会 事務局長 日本生理人類学会第69回大会 実行委員 ロボティクス・メカトロニクス講演会2013（ROBOMEC2013）プログラム委員
所属学会	日本臨床神経生理学会、SfN、日本運動生理学会、日本バイオメカニクス学会、日本体力医学会、日本体育学会
キーワード	運動生理学、神経生理学、運動制御、運動学習、脊髄、体性感覚、歩行、リハビリテーション、経頭蓋磁気刺激

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113025/113025_Researcher.html

ナカムラ　ヤス オ
中村　康雄

Yasuo NAKAMURA

学術調査

所属・職名	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科／スポーツ健康科学研究科　教授
研究分野	スポーツ・バイオメカニクス
研究活動	・スポーツ・バイオメカニクス 野球の投球動作、サッカーのキック動作を中心に、スポーツ動作を定量的に測定・解析しています。測定には、モーションキャプチャ・システムや高速度カメラなど、さまざまな機器を用います。測定データを多角的に分析し、スポーツのコツの定量評価を試みています。 ・バイオメカニズム 肩関節は、上腕骨、肩甲骨、鎖骨から構成される複雑な関節です。肩関節の運動には、肩甲骨が深く関わっています。この複雑な関節の運動を、モーションキャプチャ・システムやMRIを用いて測定しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文] 「熟練者・未熟練者におけるインステップキック動作解析」(共著), バイオメカニズム, 20, 2010 「Open-MR装置と3D/3D-registrationを用いた鎖骨運動の3次元解析」(共著), バイオメカニズム学会誌, 35(2), 2011 「肩関節筋骨格モデルを用いた棘上筋腱停止部を偏位させた場合の肩関節周辺筋の筋力推定」(共著), 臨床バイオメカニクス, 35, 2014
所属学会	IEEE、バイオメカニズム学会、日本体力医学会、日本体育学会、日本臨床バイオメカニクス学会
キーワード	身体動作解析、肩関節、スポーツ用具

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108025/108025_Researcher.html
http://yanakamu.doshisha.ac.jp/index.html

ニノミヤ　ヒロアキ
二宮　浩彰

Hiroaki NINOMIYA

学術調査

所属・職名	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科／スポーツ健康科学研究科　教授
研究分野	スポーツ・マネジメント、スポーツ・マーケティング
研究活動	「京都マラソン」「奈良マラソン」のランナー調査を実施し、都市型市民マラソンのサービス品質や経済波及効果の研究を行っています。北海道ニセコにおいて調査を実施し、スキーヤー・スノーボーダーおよび自転車レース参加者のスペシャリゼーション、消費支出、観光行動の研究を行いました。bjリーグ「京都ハンナリーズ」「バンビシャス奈良」の観戦者調査を実施し、チケットの価格弾力性やファンの地域愛着についての研究を行いました。沖縄県でフィールドワークを行い、スポーツ・ツーリズムの研究を実施しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『スポーツ産業学研究』「プロスポーツ・ファンの地域愛着とスポーツ観戦行動」、『スポーツ産業論第6版』「スポーツへの社会化と専門化」、『ジェロントロジースポーツ』「レジャー・スポーツの加齢発達」、『スポーツツーリズム・ハンドブック』「スポーツツーリストはどのように行き先を決めているか」
社会活動・その他	京都市スポーツ施設指定管理者選定委員会委員、奈良市指定管理者選定委員会委員、奈良市スポーツ推進計画策定委員会委員、スポーツコミッション関西コーディネーター
所属学会	北米スポーツマネジメント学会、日本スポーツマネジメント学会、日本スポーツ産業学会、日本体育学会
キーワード	スポーツ・マネジメント、スポーツ・マーケティング、スポーツ消費者行動、スポーツ・ツーリズム、地域愛着、デスティネーション、都市型市民マラソン、経済波及効果

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108026/108026_Researcher.html
http://hninomiy.doshisha.ac.jp

ショウジ　ヒロト
庄子　博人

Hiroto SHOJI

コンサルティング
学術調査

所属・職名	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科　助教
研究分野	スポーツビジネス
研究活動	日本のスポーツ産業振興に関する研究を行っています。具体的には以下の研究課題に取組んでいます。 ・国内スポーツ総生産（GDSP）の計測と経年比較 ・大規模スポーツ施設のマネジメントのあり方 ・大規模都市型マラソン大会の参加者増加方策の検討
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『スポーツ白書2014～スポーツの使命と可能性～』,「第5章スポーツ施設」,笹川スポーツ財団,担当箇所pp148-150,第5章.共著. 「まちづくりの観点を踏まえた公共スポーツ施設の社会的機能と便益-直接的利用価値と非利用価値に着目して-」,SSFスポーツ政策研究第3巻1号,2013.
社会活動・その他	日本体育協会公認クラブマネジャー養成講習会講師,2014 福島県会津地区総合型地域スポーツクラブ研修会講師,2014 株式会社日本政策投資銀行「スマート・ベニューR研究会」委員,2014 公益財団法人日本レクリエーション協会「文科省委託高齢者の体力つくり支援事業」ワーキングメンバー,2014 公益財団法人日本スポーツ仲裁機構「スポーツ団体のガバナンスに関する協力者会議」委員,2014
所属学会	日本スポーツ産業学会、日本スポーツ政策学会、日本スポーツマネジメント学会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114017/114017_Researcher.html

ワカハラ　タク
若原　卓

Taku WAKAHARA

講演
学術調査

所属・職名	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科　助教
研究分野	バイオメカニクス、トレーニング科学
研究活動	ヒトの骨格筋を対象として、その形状（大きさや筋線維の配置）と機能（筋力や筋パワー）の関係について、個人間の差・個人内の変化（レジスタンストレーニングによる変化）・部位間（筋間）の差といった観点から研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文] Increase in vastus lateralis aponeurosis width induced by resistance training: implications for a hypertrophic model of pennate muscle. Eur J Appl Physiol 115:309-316, 2015 Nonuniform muscle hypertrophy: its relation to muscle activation in training session. Med Sci Sports Exerc 45:2158-2165, 2013 Association between regional differences in muscle activation in one session of resistance exercise and in muscle hypertrophy after resistance training. Eur J Appl Physiol 112:1569-1576, 2012
所属学会	日本体育学会、日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会、日本トレーニング科学会
キーワード	筋形状、筋力・筋パワー、トレーニング

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113026/113026_Researcher.html

ヤナギタ　マサヒコ
柳田　昌彦

Masahiko YANAGITA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科／スポーツ健康科学研究科　教授
研究分野	公衆衛生学、ヘルスプロモーション、運動疫学
研究活動	『中高年者のメタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームを予防・改善するための運動方法に関する研究』 ①有酸素運動とレジスタンス運動の複合トレーニングにおける順序性が脈波伝播速度や肥満度、生活体力などに及ぼす影響、②「ダンベル体操」のダイエット効果、③「花笠ダンベル体操」や「ふくいイッチョライダンベル体操」などのご当地体操の創作による地域支援体制・社会環境の整備、④後期高齢者が手軽に安全に楽しく行える動的バランス体操の創作、⑤NIPPON DATAに基づく国民のライフスタイルと生活習慣病や要介護の発症・発生との関連性
主要な業績（著作・論文・研究発表）	1)Role of resistance training for preventing frailty and metabolic syndromes in aged adults.　J Phys Fitness Sports Med, 3 (1),35-42,2014. 2)『現場で役立つ子どもの栄養学入門～食育からスポーツ栄養までの基本50講～ 』,ラピュータ,2011. 3)Disability and Depression : Investigating a Complex Relation Using Physical Performance Measures. Am J Geriatr Psychiatry, Vol.14, No.12, 1060～1068,2006.
社会活動・その他	1)京田辺市健康づくり推進協議会　委員長、2)宇治市健康づくり推進協議会　委員、3)京田辺市生涯学習推進協議会　委員、4)京都府エアロビック連盟　理事、5)NPOライフサポート協会　副理事長、6)NPO山形県トレーナー協会　副会長、7)京田辺市松井ヶ丘「おたっしゃ体操クラブ」　指導者
所属学会	日本体力医学会、日本公衆衛生学会、ライフケア学会、日本体育学会、日本健康科学学会、日本疫学会
キーワード	介護予防、ダンベル体操、食生活（食育、ダイエットなど）、ヘルスプロモーション、疫学研究、身体活動

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108027/108027_Researcher.html
http://sports.doshisha.ac.jp/staff/staff.html

ヨコヤマ　カツヒコ
横山　勝彦

Katsuhiko YOKOYAMA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科／スポーツ健康科学研究科　教授
研究分野	スポーツ政策論、スポーツ組織文化論
研究活動	・科学研究費基盤研究（C）採択「スポーツ文化の装置化による社会起業家の育成」 ・同志社大学創造経済研究センター「幸福度とスポーツ政策」研究 ・日本広報学会分科会「日本的経営とスポーツ広報」研究 ・ライフスキル研究会「ライフスキル教育」研究
主要な業績（著作・論文・研究発表）	・『スポーツの組織文化と産業』晃洋書房、2012、 ・『スポーツ政策論』成文堂　2011、 ・『スポーツの経済と政策』晃洋書房、2011 ・『スポーツの法と政策』、ミネルヴァ書房、2001 ・『ライフスキル教育』、昭和堂、2009
社会活動・その他	・文科省「スポーツの推進に関する特別委員会委員」 ・京都府「生涯スポーツ実現検討委員会委員参与」 ・京都市「京都スポーツの殿堂委員会委員長代理」 ・日本広報学会「スポーツ広報とソーシャルキャピタル研究会」主査 ・白馬村まちづくりNPOとの連携事業（よそ者が考える白馬の村づくりセミナー）
所属学会	日本体育・スポーツ政策学会、日本体育学会、日本広報学会、日本武道学会、文化経済学会、
キーワード	スポーツ政策、スポーツ組織文化、スポーツマネジメント、ライフスキル教育、スポーツ広報、ソーシャルキャピタル、幸福度、ソーシャルアントレプレナーシップ

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/186008/186008_Researcher.html

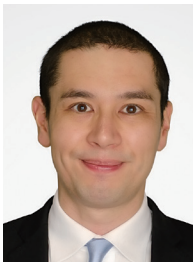
アオヤマ　ケン ジ ロウ
青山 謙二郎

Kenjiro AOYAMA

講演

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　教授
研究分野	学習心理学、行動分析学、食行動の心理学
研究活動	食行動の決定因について実験による検討を実施しています。特に、過去の経験の要因と現在の環境の要因を重視しています。例えば、テレビを見ながら食べることが食行動にどのような影響を与えるか、ゆっくり食べることは本当に食べる量を減少させるのか、友人と一緒に食べることによってよりおいしいと感じるのかといったテーマについて実験を実施しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	著書『食べる 一食べたくなる心のしくみー』二瓶社 2009 研究論文「昼食内容の記録がその後の間食の摂食量に及ぼす影響」山﨑真理子・高木悠哉・齋藤瞳・佐藤豪・青山謙二郎 心理学研究 85 455-463 2014 研究論文「Incubation of saccharin craving and within-session changes in responding for a cue previously associated with saccharin」Aoyama, K., Barnes J. &, Grimm J.W. , Appetite, 72, 114-122. 2014
所属学会	Association for Behavior Analysis、日本動物心理学会、日本行動分析学会、日本行動科学学会
キーワード	セッション内変動、食行動、セルフコントロール

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/193045/193045_Researcher.html
http://psych.doshisha.ac.jp/staff/aoyama/index.html



フジオカ　イサオ
藤岡 勲

Isao FUJIOKA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	心理学部心理学科　准教授
研究分野	臨床心理学
研究活動	主な研究テーマは、多様な文化的背景を持つ人々に対する心理援助です。海外の知見を援用する一方で、日本における多様な文化的背景を持つ人々に対する実践および研究を行いながら、グローバル化が進む日本社会における心理援助のあり方を検討しています。 また、心理援助におけるプロセスも研究テーマとしています。心理援助でどのようなことが実際に展開しているのかについては実証的には充分に明らかになっていない状況において、心理援助のプロセスのあり様を、方法論も含めて検討しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「2つの民族的背景を持つ人々の両背景を統合したアイデンティティ」『質的心理学研究』13, 2014 [論文]「家族への意図的な治療介入を実施した思春期強迫性障害への認知行動療法」(共著)『心理臨床学研究』31(6), 2014 [論文]「文化的マイノリティに対する心理援助再考:コレクティブ・アイデンティティ発達理論による検討」『臨床心理学』13(3), 2013 [論文]「課題分析を用いた実践的研究:クライエントの恋愛／性的感情表出モデル」(共著)『心理臨床学研究』28(5), 2010
社会活動・その他	お茶の水女子大学　教育開発センター FD　講師 JICA集団研修「医療技術スタッフ練成コース」　講師 JICA集団研修「病院薬学」　講師 JICA集団研修「臨床検査技術」　講師 川西市生涯学習短期大学レフネック　講師
所属学会	日本心理学会、日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本質的心理学会、日本社会学会、日本学生相談学会
キーワード	多文化間カウンセリング、プロセス研究、研究法

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114149/114149_Researcher.html

ハタ　トシミチ
畑　敏道

Toshimichi HATA

講演
コメンテーター

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　教授
研究分野	生理心理学、生物心理学、行動学的神経科学
研究活動	専門は生理心理学、つまり「脳科学」や「神経科学」と心理学をつなぐような領域です。行動を脳の働きの観点から説明しようとする分野です。具体的には、秒から分程度の時間の長さが脳の中のどのような働きによって判断されたり、ひずめられたりするのかを研究しています。また、脳内報酬系という、快や行動の頻度を高める働きをする脳部位に関する研究も行ってきました。最近では、他者の労働の成果に"ただ乗り"する個体に利益を与えないでおく行動を、動物を対象として調べることを計画しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	畑敏道　2015　藤田和生(編著)動物たちは何を考えている？　ー動物心理学の挑戦ー　技術評論社 Shinohara, K., & Hata, T.　2014　Post-acquisition hippocampal NMDA receptor blockade sustains retention of spatial reference memory in Morris water maze. Behav Brain Res 259, 261-267. Hata, T. et al., 2011　Intra-VTA or intracerebroventricular orexin-A increases intracranial self-stimulation threshold via activation of the corticotropin-releasing factor system in rats. Eur J Neurosci 34, 816-826.
所属学会	北米神経科学会、日本動物心理学会、日本心理学会、日本生理心理学会、日本神経科学学会、日本行動科学学会
キーワード	時間評価、脳内報酬系

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108041/108041_Researcher.html
https://scholar.google.com/citations?user=j1zH_YoAAAAJ&hl=en

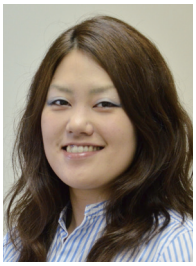
イシカワ　シンイチ
石川　信一

Shinichi ISHIKAWA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　准教授
研究分野	臨床児童心理学
研究活動	子どもを対象とした認知行動療法 学校ベースのメンタルヘルス予防プログラム 児童青年期における異常心理学的研究
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書] 石川信一・佐藤正二　2015　臨床児童心理学:実証に基づく子ども支援のあり方　ミネルヴァ書房. 石川信一　2013　子どもの不安と抑うつに対する認知行動療法:理論と実践　金子書房. [論文] Ishikawa, S. (2015). A cognitive-behavioral model of anxiety disorders in children and adolescents. Japanese Psychological Research, 57, 180-193. Ishikawa, S., Shimotsu, S., Ono, T. et al. (2014). A parental report of children's anxiety symptoms in Japan. Child Psychiatry & Human Development, 45, 306-317.
社会活動・その他	京都市、京田辺市の公立小中学校との連携による社会的スキル教育に関する研究 新潟県精神保健福祉協会こころのケアセンター主催「子ども講演会」講師 公益社団法人神奈川学習障害教育研究会「冬のセミナー2013」講師 財団法人日本臨床心理士資格認定協会主催第71回臨床心理士研修会講師 その他、公立小中学校、教育委員会主催の講演会、指導助言等
所属学会	日本心理学会、日本教育心理学会、日本認知・行動療法学会、日本認知療法学会
キーワード	児童、青年、認知行動療法、予防、不安、抑うつ

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/111010/111010_Researcher.html
http://ishinn.doshisha.ac.jp/index.html



キクタニ　マリコ
菊谷 まり子

Mariko KIKUTANI

講演
学術調査

所属・職名	心理学部心理学科　助教
研究分野	認知心理学、異文化心理学
研究活動	感情や文化が顔の記憶や表情認知に与える影響を調べる研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	学会発表 Kikutani, M. (2015) . Influence of facial expressions and social anxiety on memory of unfamiliar faces. International Convention of Psychological Science. Poster Session V, pp1. 論文 Uskul, A. K., & Kikutani, M. (2014). Concerns about losing face moderate the effect of visual perspective on health-related intentions and behaviors. Journal of Experimental Social Psychology, 55, 201-209.
社会活動・その他	川西市生涯学習短期大学“レフネック”での心理学の講義
所属学会	日本心理学会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113140/113140_Researcher.html

コウヤマ　タカヤ
神山　貴弥

Takaya KOHYAMA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　教授
研究分野	学校現場における予防的･開発的生徒指導に関する取組
研究活動	不登校やいじめなど、学校現場においては様々な子どもの問題行動がみられます。問題を抱えた当該の児童･生徒への対処が必要なことは言うまでもありませんが、こうした問題の抜本的な解決のためには、問題が起こらないような予防的･開発的な取組も不可欠です。そこで、集団力学（グループダイナミックス）等の理論的な枠組みに基づきながら、予防的･開発的見地に立った生徒指導の在り方の検証や提案を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	学級経営とマルチレベルアプローチ　「マルチレベルアプローチ−日本版包括的生徒指導の理論と実践−」　ほんの森出版　月刊学校教育相談（2015年8月号）, 72-77. (2015) 教師が身につけるスキル, グループ活動　「児童･生徒のための学校環境適応ガイドブック−学校適応の理論と実践−」（編著）協同出版　112-117, 128-135. (2009) ピア･サポートの評価−ピア･サポートと実践研究の発展のために−　「ピア･サポート−子どもとつくる活力ある学校−」　ぎょうせい　現代のエスプリ, 502, 200-211. (2009)
社会活動・その他	東広島市／平成21･22年度使用小学校教科図書採択に係る選定委員会委員長 広島市立古田中学校学校協力者会議委員 東広島市／新･学校教育レベルアッププラン推進委員会委員 東広島市／「新･学校教育プラン」検討委員会副委員長 三原市／学校適正配置検討委員会委員
所属学会	日本心理学会、日本教育心理学会、日本社会心理学会、日本ピア･サポート学会、等
キーワード	学校適応、予防的･開発的援助、異年齢交流

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/109010/109010_Researcher.html

ム トウ　タカシ
武藤　崇

Takashi MUTO

講演
研修
コンサルティング

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　教授
研究分野	臨床心理学、行動分析学、高齢者
研究活動	1)行動分析学的な「実証に基づく心理学的臨床実践」確立のための研究方法論の検討 2)認知症ケアに対する行動的コミュニティ心理学および認知・行動療法的アプローチ 3)日本文脈的なアクセプタンス&コミットメント・セラピー(ACT)の開発
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Muto, T. & Mitamura, T. (2015). Acceptance and Commitment Therapy for “Taro,” a Japanese Client with Chronic Depression: A Replicated Treatment-Evaluation. Pragmatic Case Studies in Psychotherapy, 11(2), 117-153. Masuda, A., Muto, T., Tully, E. C., Morgan, J., & Hill, M. L. (2014). Comparing Japanese college students’ and U.S. college students’ disordered eating, distress, and psychological inflexibility. Journal of Cross-Cultural Psychology, 45, 1 -13.
社会活動・その他	放送大学・学部専門科目「認知行動療法」分担協力講師(第7,8,13回担当) 臨床心理士(登録番号: 08398) − (財)日本臨床心理士資格認定協会 「うつ」を再燃させないための復職支援:新世代の認知行動療法が提案する復職支援の「新次元」　(同志社大学心理臨床センター・土曜講座)
所属学会	日本行動分析学会、日本心理学会、日本認知・行動療法学会、日本認知療法学会
キーワード	行動分析学、アクセプタンス&コミットメント・セラピー、ACT、認知・行動療法、うつ病、慢性疼痛、糖尿病、認知症ケア、高齢者

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/110008/110008_Researcher.html

ナカヤチ　カズヤ
中谷内　一也

Kazuya NAKAYACHI

学術調査

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　教授
研究分野	社会心理学、リスク心理学
研究活動	講演タイトルは「リスク認知と信頼の心理学」、「安全と安心の心理学」など。専門家によるリスク評価と一般の人々のリスク認知にどのような齟齬があるのか、リスク管理組織に対する信頼は何によって決まるのか、といった問題にアプローチした心理学研究に従事しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『リスクの社会心理学』有斐閣 2012(編著) 『安全・でも、安心できない』ちくま新書 2008 『リスクのモノサシ』NHKブックス 2006
所属学会	Society for Risk Analysis、日本社会心理学会、日本リスク研究学会、日本心理学会、日本災害情報学会
キーワード	リスク、防災、信頼

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/109009/109009_Researcher.html
http://psych.doshisha.ac.jp/staff/nakayachi/index.html

オイカワ　マサノリ
及川　昌典

Masanori OIKAWA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　准教授
研究分野	社会心理学
研究活動	人間の思考、感情、動機づけ、行動における意識と無意識の働きについて、社会心理学の視点から研究しています。セルフコントロールや精神健康、ステレオタイプや偏見、商品評価や対人印象、自由意志の感覚などを中心に、潜在指標の開発や自己報告との比較、また、意識と無意識への働きかけの国際比較や通文化妥当性の検討を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	著書は、『自己制御における意識と非意識の役割』（単著、風間書房）、『モティベーションをまなぶ12の理論』（分担執筆、金剛出版）、『社会心理学事典』（分担執筆、丸善）など。論文は『Choosing Across Cultures: The Effect of Choice Complexity on Treatment Outcomes』（Journal of Behavioral Decision Making）、『無意識と幸福感』（心理学ワールド）など。
社会活動・その他	日本心理学会国際委員 日本心理学会国際賞選考委員 International Congress of Psychologyプログラム委員
所属学会	Society for Personality and Social Psychology、日本心理学会、日本教育心理学会、日本社会心理学会
キーワード	自己制御、意識と無意識、自由意志、自己と他者、ステレオタイプ、プラシーボ効果

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/110011/110011_Researcher.html

オキツ　マリコ
興津　真理子

Mariko OKITSU

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　教授
研究分野	家族心理学、臨床心理学
研究活動	家族療法の一技法である家族造形法に関する研究を行っています。家族イメージをとらえるために人形やシールの空間配置で表現する方法もありますが、造形法では人間の配置によってイメージを視覚化し、そこでの体験を感じ取れるようにします。この方法による心理臨床事例への介入、事例検討などを行い、その効果について研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	興津真理子・早樫一男　(2012). 家族造形法による空間的距離と質問紙による心理的距離との関連について, 同志社大学心理臨床科学　2, 49-56. 堀江幸代・興津真理子　(2014). 家族造形法を用いた事例検討会　―家族療法家のためのトレーニングとしての有用性　心理臨床科学, 4, 53-61. 興津真理子・堀江幸代・早樫一男　(2015). 家族造形法を用いた事例検討の効果(3)―IP への共感的理解の促進―　家族心理学会第32回大会発表論文集 104.
社会活動・その他	現任者のための家族援助研修会(毎年5月-12月, 月1回) 京都グリーフケア協会　介護・福祉従事者コース上級, 葬儀従事者コース上級講師
所属学会	日本家族心理学会、日本心理学会、日本心理臨床学会、日本感情心理学会、日本精神分析学会他
キーワード	家族心理学、臨床心理学、心理臨床実践、家族造形法、対人関係

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/109008/109008_Researcher.html

サ トウ　スグル
佐藤　豪

Suguru SATO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　教授
研究分野	医療・臨床心理学、健康心理学
研究活動	心と体の相互作用から起こってくるストレス性疾患、特に心臓疾患やガンになりやすい性格（タイプA行動パターン、タイプC行動パターン）などをストレスとの関連性で研究しています。また生活習慣あるいは生活習慣病をどのようにコントロールし健康に向かえるかという研究を行なっています。さらに心理療法の交流分析をベースにした職場、教育現場でのストレスマネジメントや対人関係のありかたについての提言も行なっています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「ストレス、パーソナリティと喫煙行動の関連性について」 「こころの健康教育・感情教育としてのストレスマネジメント教育」 「自己愛人格傾向と養育態度の関連が精神的健康に及ぼす影響について」
所属学会	日本ストレスマネジメント学会、日本交流分析学会、日本健康心理学会、日本心理臨床学会、日本心身医学会
キーワード	タイプA、行動パターン、アレキシサイミア、ストレス

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/197012/197012_Researcher.html

スギワカ　ヒロ コ
杉若　弘子

Hiroko SUGIWAKA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　教授
研究分野	行動臨床心理学、パーソナリティ心理学、健康心理学
研究活動	研究領域は、行動臨床心理学（行動理論を基盤とする実証的な臨床心理学）、パーソナリティ心理学（人と状況の相互作用に注目した個人差の検討）、健康心理学（健康関連行動やポジティブな行動傾向に注目した研究）です。人間ドックにおける心理検査の活用や法律相談場面におけるカウンセリング・スキルの適用などにも関心があります。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]『セルフ・コントロールの実験臨床心理学』　風間書房　2003、『60のケースから学ぶ認知行動療法』（分担執筆）　北大路書房　2012、『機能分析心理療法』（共訳）　金剛出版　2007 [論文]「情動喚起とアサーション」　『同志社心理』, 55, 24-27, 2008、「できない, でも（少しは）できるようになりたい:セルフ・コントロールの臨床心理学」　『心理臨床科学』, 1, 17-20, 2011、「弁護士を対象としたマイクロカウンセリングによるカウンセリング技法習得の有効性」（共著）　『カウンセリング研究』, 45, 209-217, 2012
社会活動・その他	奈良市総合計画審議会委員 日本学校心理士会奈良支部総務担当役員 京都府京田辺市教育委員会コンサルタント 奈良県男女共同参画審議会委員 京都府立医科大学看護実践キャリア開発センタースーパーバイザー
所属学会	日本心理学会、日本認知・行動療法学会、日本健康心理学会、日本カウンセリング学会、日本パーソナリティ心理学会
キーワード	セルフ・コントロール、行動療法、対人関係とストレス、アサーション・トレーニング、ソーシャル・サポート、健康診断と心理検査

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107024/107024_Researcher.html

スズキ　ナオト
鈴木　直人

Naoto SUZUKI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　教授
研究分野	感情心理学、環境心理学、精神生理学
研究活動	これまで筆者は、様々な企業と共同研究あるいは委託研究を行ってきました。感情心理学の分野に関しては、資生堂、花王、NTT、トヨタ自動車、サンヨー電気など、環境心理学に関してはコクヨ、オリンパス、シャープ、そして、近畿各都道府県、東京都などでの校庭の芝生化に関する研究など多義にわたっています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「感情心理学への招待」サイエンス社 2001（共著）、「朝倉心理学講座第10巻　感情心理学」朝倉書店 2007（篇）、「心理学概論」ナカニシヤ出版 2014（共監）, The relationship between fractal dimension and other-race and inversion effects in recognising facial emotions.「Cognition and Emotion」, 27, 2013, 悲しみ場面の分類と構造　[感情心理学研究」20 2013, 主観的な感情と要求される表情表出の違いが生理反応に及ぼす影響　「生理心理学と精神生理学」, 31, 2014,
所属学会	日本心理学会、日本感情心理学会、日本生理心理学会、日本基礎心理学会、日本健康心理学会
キーワード	感情心理学、環境心理学、精神生理学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/184001/184001_Researcher.html

タケハラ　タクマ
竹原　卓真

Takuma TAKEHARA

学術調査

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　教授
研究分野	認知心理学、感情心理学
研究活動	文部科学省科学研究費補助金の助成を受けて実験および調査を行いました。（2004～2006、2009～2011、2012～2013）
主要な業績（著作・論文・研究発表）	論文「The relationship between fractal dimension and other-race and inversion effects in recognizing facial emotions.」2013
所属学会	国際感情学会、心理学カオス理論学会、日本心理学会、日本感性工学会、日本認知心理学会、日本顔学会
キーワード	表情認知、複雑ネットワーク、スモール・ワールド、フラクタル、スケール・フリー、感情連想語、ジップの法則、ベキ乗則

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/110010/110010_Researcher.html
http://psych.doshisha.ac.jp/staff/takehara/index.html

タナカ　アユミ
田中 あゆみ

Ayumi TANAKA

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　准教授
研究分野	心理学
研究活動	個人の能力を最大限に発揮できるような行動がどのように生じるのか、それをどうサポートできるのかを大きなテーマに、より強力な法則を見つけるための基礎研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Tanaka, A. & Murayama, K. (2014). Within-person analyses of situational interest and boredom: Interactions between task-specific perceptions and achievement goals. Journal of Educational Psychology, 106, 1122-1134. 田中あゆみ（2014）. 第6章 動機づけ 動機づけ 第1節 動機づけとは 6-1-1 動機づけとは何か 第3節 社会的動機づけ 6-3-2社会的欲求と達成動機づけ 岡市廣成・鈴木直人（監修）心理学概論（第2版）ナカニシヤ出版 Pp.142-144, 162-167.
所属学会	日本心理学会、日本教育心理学会
キーワード	動機づけ

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103037/103037_Researcher.html

ウチヤマ　イチロウ
内山 伊知郎

Ichiro UCHIYAMA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	心理学部心理学科／心理学研究科　教授
研究分野	心理学
研究活動	ヒトの発達メカニズムの研究に従事しています。交通安全などの社会事象に関して、心理学的な視点からの研究も行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	子どものこころを育む発達科学　北大路書房　内山・青山・田中（共編） マザリーズの理論と実践　北大路書房　内山（監修）
社会活動・その他	京都府交通安全協会理事
所属学会	日本心理学会、日本応用心理学会、日本発達心理学会、日本道徳性発達実践学会、日本行動科学学会
キーワード	心理学、発達、交通

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/194015/194015_Researcher.html

ワタナベ　ヒ　ト　ミ
渡邊 ひとみ

Hitomi WATANABE

講演
学術調査

所属・職名	心理学部心理学科　助教
研究分野	発達心理学　青年期心理学
研究活動	女性のアイデンティティと出産時のライフコース選択の差異(「就業継続」「再就業」「専業主婦」)との関連について主に研究しています。ライフコース選択は、必ずしも自分の思い通りにいくわけではないため、多面的に捉える必要のある難しいテーマではありますが、アイデンティティ特徴やどのような感情を伴う出来事をアイデンティティ形成のきっかけとしているのかなどを検討しています。 また近年では、シャーデンフロイデを他者と共有することが自尊感情にどのような影響を及ぼすのかについても興味をもち、研究を進めています。
主要な業績 (著作・論文・研究発表)	[論文]Identity integration of Japanese married working women with and without children: Relationships between overall and context-specific identities (共著) Identity, 15(3), 188-201, 2015 シャーデンフロイデの共有が自尊感情に及ぼす影響　応用心理学研究, 40(1), 1-9, 2014 独身勤労女性のライフコース選択と生活領域からみたアイデンティティとの関連　(共著)発達心理学研究, 22(2), 189-199, 2011
所属学会	日本心理学会、日本発達心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本応用心理学会、交通科学研究会
キーワード	アイデンティティ、女性のライフコース、シャーデンフロイデ

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112147/112147_Researcher.html

ギャビン　ブルックス
Gavin BROOKS

講演
学術調査

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　助教 Faculty of Global Communications　Assistant Professor
研究分野	TESOL/Applied Linguistics, Second Language Composition, Intercultural Rhetoric, CALL
研究活動	One area that I am researching is how students organize their ideas in a second language compared to how they organize them in their first language. I am also conducting research into into the theoretical foundation behind developing effective computer based materials. I would also like to asses the value and effectiveness of the CALL materials that I have already created and try to improve these materials.
主要な業績（著作・論文・研究発表）	“Assessment and Academic Writing: A Look at the Use of Rubrics in the Second Language Writing Classroom” Gavin Brooks, 関西学院大学 Vol.17, pp.227-240 “Students’ Writing Practices and Their Perception of the Writing Process” Gavin Brooks, 総合政策研究 Vol.49, pp.1-6 “Good Writing From a Student’s Perspective” Gavin Brooks, In P. Clements, A. Krause, & H. Brown (Eds.), JALT2014 Conference Proceedings. Tokyo: JALT pp.565-571.
社会活動・その他	JALT, JALT CUE, TESOL International
キーワード	TESOL、Academic Listening、Academic Presentation、Seminar、Second Language Composition、Academic English

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/english/researchersHtml/115159/115159_Researcher.html

ベティーナ　ギルデンハルト
Bettina GILDENHARD

講演

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　准教授
研究分野	日本とドイツの近現代文学、日本とドイツにおける多文化社会
研究活動	「文化」研究の視点から、ドイツにおける多文化社会と日本における多文化共生の諸相を調べることが目的です。特には「言語教育」と「文化教育」に着眼しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	ベティーナ・ギルデンハルト（渡邉沙代と共著）「政治と教育の狭間―移民国・ドイツの自己像と他者像」　『言語文化』（Doshisha Studies in Language and Culture）第14巻第4号、401-428、2012. ベティーナ・ギルデンハルト（渡邉沙代と共著）「『ムルティクルティ』―ドイツにおける多文化主義の諸相―」　『言語文化』（Doshisha Studies in Language and Culture）第15巻第4号、391-419、2013.
社会活動・その他	異文化理解教育、国際交流
所属学会	日本国際理解教育学会、日本独文学会、日本移民学会
キーワード	多文化社会、多文化共生、異文化理解教育

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/103017/103017_Researcher.html

ハ セ ベ　ヨウイチロウ
長谷部 陽一郎

Yoichiro HASEBE

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　准教授
研究分野	認知言語学、コーパス言語学
研究活動	認知言語学の知見に基づいてヒトの言語の「人工物」としての性質を明らかにしたいと考えています。計算機プログラミングや工業製品デザインにおけるパラダイムとも接点がある領域です。言語学の知識とプログラミングの技能を活かし、言語研究や言語教育に役立つシステム開発も行っています。 ・TED Corpus Search Engine:http://yohasebe.com/tcse 約2,000の英語スピーチのデータを検索しテキストや動画を表示 ・日本語文章難易度判別システム:http://jreadability.net 日本語テキストの難易度を計測し関連情報と共に表示
主要な業績（著作・論文・研究発表）	<論文（単著）> ・“A Cognitive Approach to Compound Kango VNPs in Japanese” 2012 ・“Design and Implementation of an Online Corpus of Presentation Transcripts of TED Talks” 2015 <著書（執筆参加）> ・『認知言語学 基礎から最前線へ』くろしお出版 2013 ・『現代英語学へのアプローチ』英宝社 2013
所属学会	日本英語学会、日本言語学会、日本認知言語学会、英語コーパス学会、表現学会、日本比較文化学会
キーワード	認知言語学、コーパス、自然言語処理、教育工学、語学教育支援

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/106010/106010_Researcher.html
http://www.yohasebe.com

イ セ　アキラ
伊勢　晃

Akira ISE

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　教授
研究分野	20世紀フランス文学
研究活動	フランスの詩人ギョーム・アポリネールを中心にしながら、二十世紀初頭のフランス・モダニズムの本質を多角的に検証することをテーマとしています。最近は、彼の文学・時事評論を研究対象とし、同時代の文学の潮流を明確にすることに関心があります。教育面では、フランス語を快適で効果的に教授するための方法や教材の開発に取り組んでいます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	1.“Le rire comme facteur de desordre” in Apollinaire et les rires 1900, Calliopees, 2011. 「無秩序の要素としての笑い」『アポリネールと1900年の笑い』カリオペ出版 2011 2.『On y va !』（共著）早美出版社 2013
社会活動・その他	日本フランス語フランス文学会渉外委員（2015年6月～現在）、日本フランス語フランス文学会関西支部実行委員（2014年6月～現在）、日本フランス語フランス文学会広報委員（2011年6月～2015年6月）、日本フランス語教育学会理事（2009年6月～2012年6月）、平成23年度科学研究費委員会成果公開部会人文科学系小委員会委員、大学入試センター教科科目第一委員会委員（2007年4月-2009年3月）
所属学会	日本フランス語フランス文学会、Societe internationale des amis de Guillaume Apollinaire
キーワード	アポリネール、フランス文学、フランス語教育、アヴァンギャルド

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/110018/110018_Researcher.html

ミツギ ミチオ
三ツ木 道夫

Michio MITSUGI

コメンテーター

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　教授
研究分野	ドイツ語学・ドイツ文学、翻訳学
研究活動	ドイツの翻訳思想を中心とした言語論研究、ナチ時代にいたるまでの人種差別思想。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	【著書】 『翻訳の思想史』晃洋書房（2011） 『思想としての翻訳』白水社（2008） 【学術論文】 「フリードリヒ・シュライアーマハーの翻訳論 ―通訳者と翻訳者のちがい」『シェリング年報』第18号（2010） 「W.ベンヤミンの翻訳思想」『通訳翻訳研究』9号,pp177-194（2009） 「翻訳思想のドイツ的伝統と変容 ―ゲオルゲ・クライスの翻訳論」『通訳翻訳研究』8号, pp.151-168（2008）
所属学会	日本通訳翻訳学会、ヘルダー学会、シェリング協会、京都ユダヤ思想学会
キーワード	翻訳思想、ユダヤ思想、ドイツ文学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/189003/189003_Researcher.html

ナカムラ ヒサオ
中村　久男

Hisao NAKAMURA

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　教授
研究分野	アメリカ南部小説と社会
研究活動	アメリカ小説、特にアメリカ南部ミシシッピ州出身のウィリアム・フォークナーの小説を研究対象としています。彼の作品の根底には奴隷制を有した南部の過去に対する罪の意識が存在しています。作品の背景となっている人種差別が今も残るアメリカ南部の社会や文化も研究の対象です。19世紀末から20世紀初頭に活動したアフリカ系アメリカ人として最初のプロの作家と言われるチャールズ・チェスナットがもう一つの研究対象です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『フォークナー事典』　松柏社　2008　（共著） 「『行け、モーセ』における閉ざされた空間」、『表象と生のはざまで―葛藤する米英文学』　南雲堂　2004 「カラー・ラインへの挑戦―チャールズ・W.・チェスナットのThe Wife of Hls Youthの編み方」、『言語文化』8号2巻　2005
所属学会	同志社大学英文学会、日本アメリカ文学会、日本ウィリアム・フォークナー協会、日本英文学会
キーワード	ウィリアム・フォークナー、チャールズ・チェスナット、カラーライン

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/181005/181005_Researcher.html

ナカムラ　ツヤ コ
中村　艶子

Tsuyako NAKAMURA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　准教授
研究分野	社会学（女性労働の日米比較）
研究活動	アメリカの女性労働と企業内保育所の調査・研究（フルブライト客員研究員として2009−2010年在外研究、スタンフォード大学社会学研究科およびハーバード大学社会学研究科）
主要な業績（著作・論文・研究発表）	共著『男女協働の職場づくり』ミネルヴァ書房 2004 論文「女子学生の就職活動と企業の対応」『若者の雇用と人材育成』『労務理論学会誌』第21号 晃洋書房 2011 共訳書『最高の職場』ミネルヴァ書房 2012
社会活動・その他	京田辺市次世代育成支援計画策定委員会副委員長 大阪府立JOBプラザ民間事業者選考委員会副会長 京都府立労働政策課　多様な働き方応援モデル推進事業委員会専門委員 京都府ワーク・ライフ・バランス雇用創出会議および「京都モデル」子育て応援中小企業推進会議委員（2010−現在）他
所属学会	アメリカ学会、日本労務学会
キーワード	女性労働、ワーク・ライフ・バランス、育児支援

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/100011/100011_Researcher.html

ナカニシ　ヒロ キ
中西　裕樹

Hiroki NAKANISHI

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　准教授
研究分野	中国の諸言語の記述研究・歴史研究
研究活動	私の研究テーマは言語の記述・歴史・変化です。中国の広東省で使われているショオ語というミャオ・ヤオ系の言語を調査しながら、その歴史や周囲の中国語方言との接触による変化について考えています。いま世界には三千とも一万ともいわれる数の言語が存在していますが、グローバル化等によりその多くが22世紀を迎える前に滅びてしまうのではないかと危惧されています。ショオ語はそのような言語のひとつで現在の話者数は約1,500人です。人類文化の多様性を体現しているこのような少数言語の記述は21世紀前半の言語学で最も重要な仕事と言えるでしょう。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『畲語海豊方言基本詞彙集』（京都大学人文科学研究所）2003年3月 「現代畲語鼻音韻尾的来歴」、『民族語文』第4期（商務印書館）、pp.10-20、2007年8月 「試論苗瑶語“半”類語素的音変」、『語言学論叢』45輯（商務印書館）、pp.336-351、2012年8月 「海豊鰲埠客家話的畲漢口音調値不同的現象」、『開篇』31号（好文出版）、pp.149-157、2012年10月 「ショオ語の所有者表現 -中国南部における地域特徴の残存-」、『高田時雄教授退職記念 東方学研究論集（日英文分冊）』（臨川書店）、pp.164-180、2014年6月
所属学会	日本中国語学会、日本言語学会
キーワード	記述言語学、歴史言語学、言語接触、ショオ語、ミャオ・ヤオ諸語、中国語方言、客家語

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108040/108040_Researcher.html

ナカ タ　ヨシユキ
中田　賀之
Yoshiyuki NAKATA

講演
コメンテーター

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　教授
研究分野	応用言語学・英語教育学（特に、外国語学習における動機づけ、自己調整学習、学習者・教師オートノミー、教室内英語、教師教育）
研究活動	外国語動機づけ、自己調整学習、教師および学習者のオートノミー、教室内英語などを専門に研究をしています。このような研究をする契機となったものは、自身の学習者としての経験や疑問にあります。なぜある学習者は英語が得意で、別の学習者は違うのか。最初つまずいていた学習者が、後に高度な英語力をつけているのはなぜか。さらに、自律的な学習者をどのように育てるのか。これらの課題に取り組んでいます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	(単著書)Motivation and experience in foreign language learning(Oxford: Peter Lang)、『言語学習モティベーション:理論と実践』(リーベル出版) (編著書)『自分で学んでいける生徒を育てる　学習者オートノミーへの挑戦』(ひつじ書房) (共編著書)Mapping the terrain of learner autonomy: Learning environments, learning communities and identities(Tampere, Finland: Tampere University Press)、『学習者オートノミー　—日本語教育と外国語教育の未来のために—』(ひつじ書房)、Researching Language Teaching and Learning: An Integration of Practice and Theory(Oxford: Peter Lang) (共著書)Language learning motivation in Japan(Bristol, UK: Multilingual Matters) 論文が掲載された主な国際学術雑誌　Teaching and Teacher Education(Elsevier), Innovation in language learning and Teaching(Routledge), International Journal of Research & Method in Education(Routledge), Japanese Psychological Research (Wiley), ELT Journal(Oxford University Press), RELC Journal(Sage), TESL Canada Journal(TESL Canada), The Journal of Asia TEFL(Asia TEFL)その他
社会活動・その他	日本学術振興会　科学研究費委員会　奨励研究部会 専門委員(平成26、27年度)、文部科学省 SELHi 企画評価会議協力者(2006-2009)、関西英語教育学会理事(2015-)、全国英語教育学会紀要 編集事務局補佐(2009-2011)、全国英語教育学会紀要 編集委員(2015-)、大学英語教育学会賞・学術出版物選考委員会委員(2015-)、博士論文　外部審査委員(関西大学　外国語教育研究科、英国バーミンガム大学　英語教育研究科)、国際誌論文審査委員(Language Learning, Teaching and Teacher Education, Applied Linguistics, The Modern Language Journal 他)
所属学会	大学英語教育学会、全国英語教育学会、関西英語教育学会、外国語教育メディア学会、AAAL, EuroSLA
キーワード	動機づけ、自己調整学習、学習者オートノミー、教師オートノミー、英語教員教育、教室内英語

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115012/115012_Researcher.html

パンジヤマン　サラニヨン
Benjamin SALAGNON

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　助教
研究分野	日本現代文学、比較文学、フランス語教育
研究活動	・村上春樹の作品における「間テクスト性」 ・村上春樹の作品に対する「読者の反応」 ・アメリカ文学に影響されている村上春樹 ・日本文学の仏訳 ・「日本における大衆文学」対「フランスにおける大衆文学」(予定)
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「論文」“Western References in Murakami Haruki's works : A Literary Reflection of Today's Japan”,The Asian Conference on Arts and Humanities, proceedings, 2010 [Noruwei no mori de Murakami Haruki et la question du flou generique]、『コミュニカーレ』第4号、同志社大学、2015 「博士論文」[L'intertextualite dans l'oeuvre romanesque de Murakami Haruki] 博士論文、2012
所属学会	IETT(Institut d'Etudes Transtextuelles et Transculturelles)
キーワード	日本現代文学、村上春樹、大衆文学、受容美学、フランス語教育

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114134/114134_Researcher.html

スドウ　ジュン
須藤　潤

Jun SUDO

講演
研修
学術調査

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　助教
研究分野	音声コミュニケーション、日本語教育
研究活動	日本語の会話音声の研究、一例として、感動詞・応答詞の「あっ」「うん」等の音声的な特徴と意味の関係などを、実験的な手法で分析しています。 また、(日本語を母語としない人のための)日本語教育に関する研究、特に、音声教育に関する研究にも従事しています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	[論文]　「会話参加者間の社会的関係による感動詞の音声的特徴―応答における「あ」のバリエーション―」『社会言語科学』8(1), 181-193.
社会活動・その他	外国にルーツを持つ人々を対象とした日本語教室にてボランティア・スタッフとして日本語教育に従事しています。
所属学会	日本語教育学会、日本語用論学会、日本音声学会、社会言語科学会
キーワード	日本語、音声学、感動詞、日本語教育、音声教育

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/111007/111007_Researcher.html
http://sudojun.wix.com/nihongo/

スズキ　ミキコ
鈴木 美紀子

Mikiko SUZUKI

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　助教
研究分野	第二言語習得理論、英語教育
研究活動	現在は、英語学習者の英語使用上に発生する誤りに対して、修正フィードバックを与えて学習者がそれに応答することによる英語力向上の方法・度合いを主に研究しています。フィードバックの種類、応答の仕方によっても学習度が変わるとの先行研究をもとに、日本人英語学習者にとって効率のよいフィードバックおよび応答の導き方を探索しています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	“Tapping into Learner Noticing Measured by Stimulated Recall” (単著)In (Eds.), Doshisha Studies in Global Communications, 4, 2015 “Japanese Speakers’ Perception and Production of English /n/: Negative Transfer From Japanese /n/” (単著)In S. Arita, Y. G. Butler, E. Hauser, K. Horie, R. Mazuka, Y. Shirai, & J. Tsubakita (Eds.), Studies in Language Sciences, 10, 2011 “Learner uptake and second language learning” (単著) Saarbrucken, Germany, 2008
所属学会	言語科学会、日本第二言語習得学会、TESOL、AAAL
キーワード	第二言語習得法、英語教授法

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108038/108038_Researcher.html

タケ ダ　ムネツグ
竹田　宗継

Munetsugu TAKEDA

講演
研修

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　准教授
研究分野	異文化ビジネスコミュニケーション
研究活動	グローバルビジネスにおいて異なる文化や言語、価値観を背景に持つ人々とのコミュニケーションを効果的かつ円滑に行うための課題と解決策について研究をしています。文化により異なる言葉や記号の意味、コミュニケーションスタイルやビジネスの慣習などについて理論にもとづく研究と実践面についての分析を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「グローバルビジネスに求められる英語ライティングスキルについて」(同志社大学グローバル・コミュニケーション学会)2　2013 「経済のグローバル化と第二外国語習得の意義について」(同志社大学商学会)65-5 3 2014
所属学会	国際ビジネスコミュニケーション学会、大学英語教育学会、日本比較文化学会
キーワード	異文化コミュニケーション、グローバルビジネス、国際経済

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/111011/111011_Researcher.html

タマ イ　フミ エ
玉井　史絵

Fumie TAMAI

講演
コメンテーター

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　教授
研究分野	19世紀イギリス文化・文学
研究活動	19世紀イギリスの文化・文学、特にチャールズ・ディケンズ、エリザベス・ギャスケル、ジョージ・ギッシングといった小説家を中心に、文学と帝国主義との関係や、文学と教育、ジャーナリズムとの関係について研究しています。またこれとは別に、文学を外国語教育の中でどのように活用できるかについても理論、実践の両面から研究しています。文学とは「非実用的」学問と思われがちですが、文学研究からは現代社会を考えるうえで必要な多くの知見を得ることができます。そうした知見を日々の教育のなかで還元できるよう努めています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	(共著)Mitsuharu Matsuoka ed. *Evil and Its Variations in the Works of Elizabeth Gaskell*(大阪教育図書:2015年) (共著)Eiich Hara, et. al ed. *Dickens in Japan: Bicentenary Essays*(大阪教育図書2013年) (共著)松岡光治編著『ギッシングを通して見る後期ヴィクトリア朝の文化と社会』(渓水社2007年) (共訳)ルーシー・ワースリー著『暮らしのイギリス史――王侯から庶民まで』(NTT出版2013年)
社会活動・その他	特記すべき事項なし
所属学会	日本英文学会、日本ヴィクトリア朝文化研究学会、ディケンズ・フェロウシップ日本支部、大学英語教育学会
キーワード	19世紀イギリス文学、19世紀イギリス文化、チャールズ・ディケンズ、エリザベス・ギャスケル、ジョージ・ギッシング、19世紀イギリス帝国主義と文学、19世紀イギリスにおける教育と文学、19世紀イギリスにおけるジャーナリズムと文学、文学作品を活用した英語教育

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/100009/100009_Researcher.html

ワキタ　リコ
脇田　里子

Riko WAKITA

講演
研修
コンサルティング
学術調査

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　准教授
研究分野	日本語教育、アカデミック・ライティング、多文化理解教育
研究活動	日本語教育の中で、アカデミック・ライティングをテーマにしています。学習者が論理的な文章作成をするために、批判的思考によるクリティカル・リーディングと、思考ツールを使った思考過程の可視化の観点からアプローチしています。 多文化理解教育は、異文化摩擦が生じた時に、さまざまな異文化トレーニングを使って解決を図ることをテーマにしています。異文化トレーニングの新しい試みとして、シナリオ作成を取り上げています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	〔論文〕「リーディングと連携したアカデミック・ライティングの実践研究−学部留学生を対象にした思考ツールの利用−」大阪大学大学院博士論文(2015) 〔論文〕「学部留学生を対象にした『段階的アカデミック・ライティング』の導入」，脇田里子，『コミュニカーレ』第4号, pp.35-61. (2015) 〔論文〕「シナリオ執筆による異文化コミュニケーション力の育成」，脇田里子，『コミュニカーレ』第3号, pp.31-59.(2014)
社会活動・その他	ThinkQuest@JAPAN（インターネットを活用したWeb教材開発コンテスト）審査委員 専門日本語教育学会　学会実行委員
所属学会	日本語教育学会、専門日本語教育学会、異文化間教育学会、日本教育工学会、大学教育学会、豪州日本学研究学会（JSAA）
キーワード	日本語教育、アカデミック・ライティング、多文化理解教育、批判的思考

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104063/104063_Researcher.html

ヤマモリ　ヨシエ
山森　良枝

Yoshie YAMAMORI

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　教授
研究分野	言語学（意味論・語用論）
研究活動	(1)平成14年度−17年度　:談話における名詞句の定・不定と単・複および数量詞による限定と浮遊に関する研究 (2)平成17年度−20年度　:パーフェクトにおける事象の時間構造への写像および参照時の設定に関する研究 (3)平成21年度−24年度　:動的なパースペクトの組織化に関わる言語形式と文脈パラミターに関する研究 (4) 平成25年度−28年度　:重層的パースペクトの組織化と活動動詞「スル」の普遍的意味特性に関する研究
主要な業績（著作・論文・研究発表）	著書:『コミュニケーションの自然誌』(新曜社) (1997.3)(共著)、『日本語の限量表現の研究−量化と前提の諸相−』(風間書房) (2006.2). 、(日本学術振興会助成刊行物)、Japanese Linguistics European Chapter, Kuroshio Publishers (2007.6). (共著)、『パ-スペクティブ・シフトと混合話法』(ひつじ書房) (2015.2). (日本学術振興会助成刊行物) 論文:「接続詞の二類型と談話の情報構造−『つまり』と『だから』を手がかりに−」『日本語学』9-5明治書院 (1990.5)、「否定文中の限定詞のふるまいと論理的特性について」『言語研究』113　日本言語学会:pp.97-128(1998.3)、"The Effect of Present Activity Verbs on Processing Structural Ambiguity in Japanese Garden-path Sentences", In Gabriella Airenti, Bruno G. Bara and Guiulio Sandini (eds) Proceedings of the EuroAsianPacific Joint Conference on Cognitive Science: pp. 526-531. (2015.9)
社会活動・その他	同志社女子大学学芸学部・非常勤講師 同志社大学文学部・非常勤講師
所属学会	日本言語学会、日本認知科学会、関西言語学会
キーワード	言語学、意味論、語用論、コミュニケーション論、日本語教育

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/111003/111003_Researcher.html

ヤマモト　タエ
山本　妙

Tae YAMAMOTO

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科　教授
研究分野	英国文学、文化研究
研究活動	英国モダニズム研究から始めて、第一次世界大戦前後の英国社会。文化について、また現代の作家が第一次世界大戦をどのように表象しているかについて、自伝とメタフィクション、ジェンダー論などを切り口にして研究しています。 また、2008年から2013年の間に、ベンジャミン・ブリテンのオペラのプロダクションに関わり、原語指導や字幕翻訳などをしたのをきっかけに、20世紀英国の音楽文化にも興味をもっています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「自己省察としてのパジェント―『幕間』再読―」『言語文化』10-2 251-278 2007 The Political Implications of Bernard's Monologues in Virginia Woolf's The Waves"『コミュニカーレ』(同志社大学グローバル・コミュニケーション学会)3 105-122 2014 [共訳書]『フランシス・キング傑作短編集』新水社、2013
所属学会	日本ヴァ-ジニア・ウルフ協会、日本英文学会, 日本カナダ文学会
キーワード	モダモズム、ジェンダー論、ナラティブ、音楽

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/190008/190008_Researcher.html

アベ　ノリユキ
阿部　範之

Noriyuki ABE

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　准教授
研究分野	中国映画
研究活動	中華圏で製作されたフィルムの映像上の特徴に注目し、文献調査も行いながら製作者たちの意図、さらには映画をとりまく政治や社会の動きをも読み解き、フィルムに対する新たな視座を提示する、といったやり方で、中国映画史の実像に迫ろうとしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「『舞台の姉妹』の反時代性―中国映画と舞台芸術を巡るアプローチから」『言語文化』第12巻1号 「中華人民共和国映画史における戯曲映画の系譜」『言語文化』第13巻4号 「映画『武訓伝』―フィルムの特徴、独自性を中心に」『野草』89号
所属学会	日本現代中国学会、日本中国学会、中国社会文化学会
キーワード	中華人民共和国映画史

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/106012/106012_Researcher.html
http://fl.doshisha.ac.jp/nabe/home.html

アキヤマ　ヨウ コ
穐山　洋子

Yoko AKIYAMA

講演
研修
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　准教授
研究分野	スイス・ヨーロッパ近現代史
研究活動	スイス近現代史を専門としていますが、ドイツ・ヨーロッパも視野に入れて研究をしています。主な研究関心は、社会の中で排除と包摂がどのように起こるのか、歴史学的に検証することです。具体的には、ユダヤ人やシンティ・ロマのようなマイノリティの排除と包摂の歴史です。特に、国民国家形成期（19世紀）以降に関心があり、どのような論理や思想（反ユダヤ主義、ナショナリズム、優生学、人種論）が影響しているのかを研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	単著:「1893年のシェヒター禁止と19世紀後半スイスの文化的ネーション形成」、『現代史研究』第60号（2014年）21-39頁。 「19世紀スイスのユダヤ人:包摂と排除のはざまで」、『ユダヤ・イスラエル研究』第28号（2014年12月）1-11頁。 共著:黒澤隆文編『中立国スイスとナチズム　第二次大戦と歴史認識』（京都大学学術出版会、2010年）
社会活動・その他	講演 「私の外国語学習の経験と海外滞在経験から得たもの」、国際教育講演会、神奈川県立横浜平沼高校
所属学会	日本西洋史学会、現代史研究会、日本ユダヤ学会、日本ドイツ学会、西洋近現代史研究会
キーワード	ナショナリズム、反ユダヤ主義、市民社会、マイノリティ、外国人政策、優生思想、動物保護、「過去の克服」

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115015/115015_Researcher.html

チヨウ　イツオウ
張　軼欧

CHO Itsuo

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　准教授
研究分野	中国白話小説、俗文学、中国語教育文法、中国語教授法
研究活動	研究の中心となっているのは、小説や様々な題材を通して、古代から現代までの中国人女性像を文化面の視点から浮き彫りにする研究、及び社会学の視点から中国の社会転型期（社会の構造転換、体制移行を行う時期）における一部知識人女性の伝統的な価値観と新しい時代に求められている役割の衝突を論じるなど、社会と女性との関係を一層明確にする研究です。またそれと同時に、大学における中国語教育に関する教授法の質的向上を目指した研究、及び学生の学習意欲を喚起する言語学的研究です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「著書」『明代白話小説『三言』に見る女性観」（単著）中国書店、2007 教科書「『極める中国語』（共著）同学社、2012 『しゃべくり中国語』――場面による中国語会話』金星堂、2014 論文　「小説『中国式離婚』におけるヒロインの人物像について」 （中国文芸研究会）『野草』第82号96～115　2008 「空缺式“得”字补语简析」（日本中国語教育学会） 『中国語教育』第13号169―185　2015
社会活動・その他	日本中国語検定試験委員会　出題委員
所属学会	日本中国語教育学会、日本中国語学会
キーワード	中国俗文学、中国文化、教育文法、教授法

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113132/113132_Researcher.html

マイケル　エドワーズ
Michael Anthony EDWARDS

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　准教授 Faculty of Global and Regional Studies　Associate Professor
研究分野	TESOL、Content-based language instruction、Secondary school second language education
研究活動	My area of research is varied, but all topics to date have been related to English language competency development in Japanese English learners as well as educational comparisons between the United States and Japan. Other academic interests include intercultural communication, the history of ethnic minorities in the United States including; African-Americans, Japanese-Americans, Native-Americans, and the history of Hawaii. All topics which I aim to incorporate in English as a foreign language lectures.
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Japanese Junior High School English Education: Using English as a Medium of Instruction to Promote Communication The Tsuda Review No.46 2001 単著 Japanese and American University Students: A Comparison Through Survey Cross-cultural Business and Cultural Studies Shukutoku University Vol. 14 (No. 2) 2010 単著
所属学会	TESOL、JALT
キーワード	TESOL、Content-based EFL

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115144/115144_Researcher.html

エンドウ　トオル
遠藤　徹

Toru ENDO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　教授
研究分野	アメリカ大衆文化論、身体論、イギリス・ロマン派研究
研究活動	元は文学研究でしたが、現在はプラスチックなどの化学物質の浸透が、文化をどのように変容させてきたのかという研究をひとつの軸にしています。もうひとつの軸は、身体観の変容ということで、ポピュラーカルチャーの中の身体のイメージの変遷とその意味について考えています。現在は理想的身体像としてのスーパーマンを産みだすことになったアメリカの歴史的背景について調べています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『溶解論:不定形のエロス』(水声社、1997)、『ポストヒューマンボディーズ』(青弓社、1998)、『プラスチックの文化史:可塑性物質の神話学』(水声社、2000)、『ケミカルメタモルフォーシス』(河出書房新社、2005)
社会活動・その他	研究の傍ら小説を書いています。主な作品に、『姉飼』(角川書店、2003年)、『弁頭屋』(角川書店、2005年)、『くくしがるば』(角川書店、2007年)、『むかでろりん』(集英社、2007年)、『ネル』(想像力の文学、早川書房、2009年)、『戦争大臣I～Ⅲ』(角川ホラー文庫、2010-11)、『贄の王』(未知谷出版、2014)があります。
所属学会	イギリス・ロマン派学会、日本ポップカルチャー学会、欧米言語文化学会
キーワード	アメリカ大衆文化論、身体論、イギリス・ロマン派研究、文芸創作

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/198006/198006_Researcher.html

フタムラ　タ ロウ
二村　太郎

Taro FUTAMURA

講演
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　助教
研究分野	人文地理学、アメリカ地域研究
研究活動	アメリカ合衆国における「ローカルフード運動」の展開に関する研究(2006～) 農水省補助事業「マルシェ・ジャポン・プロジェクト」の発足とその展開・帰結に関する研究(2009～) 西陣朝市マルシェ(京都市上京区)の支援・ボランティア(2012～) アメリカ合衆国の大都市における都市農業の発展とファーマーズマーケットとの連関に関する研究(2013～)
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「人口減少下のデトロイトにおける都市農業の発展とその課題」『同志社アメリカ研究』51号 pp. 47-65. 2015 「グローバリゼーションと食の権利」内藤・岡野編『グローバル・ジャスティス』ミネルヴァ書房 pp. 117-129. 2013 「ファーマーズマーケットからみたアメリカの地理」新地理 58(3): 50-55. 2010
社会活動・その他	都市住民の「農」のある暮らしをデザインする会主催セミナーにて講演、「アメリカにおけるファーマーズマーケットと東京におけるマルシェの展開」(於:グランフロント大阪カンファレンスルーム)、2014年12月18日. NPO法人食と農の研究所主催交流会にて講演、「アメリカのファーマーズマーケットに学ぶ」(於:大阪市立大学 文化交流センター)(2011年2月22日)
所属学会	日本地理学会、人文地理学会、Association of American Geographers、アメリカ学会
キーワード	地理学、アメリカ地域研究、ローカルフード運動

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114003/114003_Researcher.html

ヒ ゴモト ヨシ オ
肥後本 芳男

Yoshio HIGOMOTO

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　教授
研究分野	アメリカ史、アメリカ研究
研究活動	アメリカ独立革命・建国期の政治、社会文化の変容過程を解明し、その今日的意義を探ります。とりわけ、大西洋世界の思想・経済の変化が奴隷制廃止運動にどのようにかかわったのかに焦点を当てて調査・研究中です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	共著『アメリカ合衆国の形成と政治文化』〈アメリカ史のフロンティア 1〉（昭和堂、2010年）；　共著『アメリカの愛国心とアイデンティティ―自由の国の記憶・ジェンダー・人種』（彩流社、2009年）；　論文「ジャクソン期の反アボリショニズム暴動と『コミュニケーション革命』」『アメリカ史研究』（日本アメリカ史学会）, no. 36, 24-42頁, 2013年。
社会活動・その他	放送大学滋賀学習センター講師「アメリカ史の光と影」（平成18年度）
所属学会	OAH、アメリカ学会、中・四国アメリカ学会、日本アメリカ史学会、日本西洋史学会
キーワード	アメリカ独立革命、環大西洋革命、アボリショニズム、共和主義、奴隷制、ナショナリズム

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/192006/192006_Researcher.html

イ ダ ヒデ ホ
井田 琇穂

Hideho IDA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　教授
研究分野	古代中世英文学、言語学、日本近代文学
研究活動	主に古代中世英文学（14世紀の英国詩人チョーサー）、言語学（意味論）、近代日本文学（寺田透研究）の研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『中世英語、古アイスランド語論文集』（2001）、『近代英語、現代英語論文集』（2002）
社会活動・その他	特にない
所属学会	日本大学英語教育学会、日本中世英語英文学会
キーワード	言語学、英語史、チョーサー、寺田透

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/186010/186010_Researcher.html

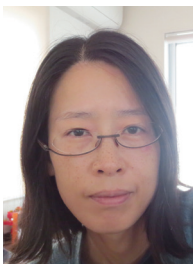
イシイ　カエ
石井　香江

Kae ISHII

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　准教授
研究分野	19世紀～20世紀半ばまでの日独におけるグローバリゼーションと情報通信技術・労働・ジェンダーの関係
研究活動	1. 情報通信技術を通じたジェンダーの変容過程・メカニズムの歴史的解明 2. 戦後西ドイツの家族政策における「両親」概念の変容過程の解明
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Book Review: Daqing Yang, Technology of Empire: Telecommunications and Japanese Expansion in Asia, 1883-1945, in: East Asian Science, Technology and Society: an International Journal 2013、「統制と抵抗のはざまで」『歴史評論』2011、『社会国家を生きる』2008、「コミュニケーション革命」の現場とジェンダー―世紀転換期のドイツ帝国郵便の動向」（『三田学会雑誌』108巻 1号,2015）、訳書にM. グラックスマン『「労働」の社会分析―時間・空間・ジェンダー』（共訳, 法政大学出版局, 2014）
社会活動・その他	DAAD友の会理事 ジェンダー史学会理事
所属学会	ジェンダー史学会、日本ドイツ学会、日本社会学会、日本西洋史学会
キーワード	ジェンダー、労働、家族、日独比較

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112013/112013_Researcher.html



クノ　キヨコ
久野　聖子

Kiyoko KUNO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　助教
研究分野	地域研究
研究活動	スペインのロマ（ヒターノ）を研究対象としています。ヨーロッパに散在しているロマですが、EUが拡大し、東欧と西欧とのあいだでロマたちの移動や移住が増加するなか、15世紀以来スペインに存在するヒターノたちがどのような自己認識を持ち、その自己認識がどのように変容しつつあるのかについて追究しています。また、フラメンコをはじめとする彼らの芸術活動や芸術作品が、ロマとして、ヒターノとして、そして人として、特殊性と普遍性とのあいだをどのように揺れ動いているのかについて探究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	・「『ヒターノであり、スペイン人であること』―ヒターノの土着性についての一考察―」『言語文化』第12巻第1号（2009年）、pp.139-166 ・「言い表せないものの可能性―フラメンコにおける『ドゥエンデduende』をめぐって」『コンフリクトの人文学』5（2012年）、pp.91-115 ・「『ヒターノ』から『ひとりの人間』へ―あるフラメンコ・ギタリストに対する表象についての一考察―」『GR―同志社大学グローバル地域文化学会紀要―』第3号（2014年）、pp.1-30
所属学会	日本社会学会、日本文化人類学会、スペイン史学会、関東社会学会
キーワード	ロマ、マイノリティ、スペイン、ヨーロッパ、芸術・芸能

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105030/105030_Researcher.html

クスハラ　トシ ヨ
楠原　俊代

Toshiyo KUSUHARA

講演
研修
コンサルティング
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　教授
研究分野	中国文学、中国現代史
研究活動	これまで魯迅・聞一多・韋君宜などの文学者を中心とする中国知識人研究に従事してきました。近年は、「韋君宜から見た中国革命史再構築の試み―作家、編集者、革命家の視点から」「当代散文の研究――記憶の中の中国革命史再構築の試み」の研究で、中国では現在も「歴史」の改竄・削除がおこなわれ、「真話を語ること」がきわめて困難であることと、それに抗して「当代人の責任」として、「多くの真実の資料」を残そうとしている知識人がいることを明らかにしました。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]延安文芸整風運動に関する一考察―聞一多に対する統一戦線工作の視点から―　『東方学』101,147-162　2001 当代散文の研究―記憶のなかの中国革命についての覚書『現代中国文化の深層構造』京都大学人文科学研究所　277-295　2015 武漢時期の韋君宜『長江流域社会の歴史景観』京都大学人文科学研究所　383-419　2013 [著書]日中戦争期における中国知識人研究-もうひとつの長征・国立西南聯合大学への道　研文出版　1997
社会活動・その他	H22科学研究費委員会基盤研究等第1段審査委員（書面審査） H23科学研究費委員会基盤研究等第1段審査委員（書面審査）
所属学会	東方学会、日本中国学会、中国文学会、中国社会文化学会
キーワード	中国共産党の文芸政策、中国文学、文化大革命、中共、韋君宜、思痛録、当代散文

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/179004/179004_Researcher.html
http://www.geocities.jp/nanyanjd/

ミヤザキ　カツヒロ
宮嵜　克裕

Katsuhiro MIYAZAKI

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　助教
研究分野	フランス文学
研究活動	ステファヌ・マラルメに関する生成論的研究（独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業　平成27年度～平成29年度挑戦的萌芽研究　課題番号:15K12868　研究代表者）
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「マラルメ詩学における知覚の位相（前篇）――1870年代芸術論における≪vision≫の概念を中心に」,『GR　同志社大学グローバル地域文化学会紀要』,第4号,同志社大学グローバル地域文化学会,2015年,pp.15-43.
社会活動・その他	2009年度～2010年度　独立行政法人大学入試センター教科科目第一委員会委員（外国語・フランス語）
所属学会	日本フランス語学フランス文学会、京都大学フランス語学フランス文学会、日本マラルメ研究会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105028/105028_Researcher.html

ミズタニ　サトシ
水谷　智

Satoshi MIZUTANI

講演
コンサルティング
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　准教授
研究分野	イギリス帝国史、比較植民地主義研究
研究活動	イギリス帝国の歴史が専門で、これまで英領インドにおける「混血問題」や教育政策に関する研究に従事してきました。同時に、イギリス帝国における植民地主義と反植民地主義を、他の帝国との関係性において捉えなおす研究も行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]The Meaning of White: Race, Class, and the 'Domiciled Community' in British India 1858-1930 (Oxford: Oxford University Press, 2011) [論文]"Anti-Colonialism and the Contested Politics of Comparison: Rabindranath Tagore, Rash Behari Bose and Japanese colonialism in Korea in the inter-war period ", Journal of Colonialism and Colonial History, vol. 16, No.1 (2015)
キーワード	帝国主義、植民地主義、アイデンティティー、人種差別、階級、比較の枠組み

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105027/105027_Researcher.html
http://www.dosc.sakura.ne.jp/

モノベ　ヒロミ
物部　ひろみ

Hiromi MONOBE

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　准教授
研究分野	アメリカ研究、ハワイの文化・人種関係、ハワイ日系人史、日米交流史
研究活動	19世紀終わりから20世紀半ばまでのハワイの日系アメリカ人史を研究しています。日本から移民した一世とハワイ生まれの二世に焦点を当て、日系人の政治・経済活動、文化・教育活動、思想、アイデンティティの変遷などを扱っています。最近は、太平洋戦争前に盛んであった日本留学や訪日見学団と呼ばれたスタディツアーに注目し、「逆方向」の日系人の越境経験や、さらには先住ハワイ人・白人の植民者・白人のもたらした西洋のシステムが確立した後に入ってきたアジア系移民の三者をめぐるハワイの人種関係についても調査しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	"From 'Vanishing Race' to Friendly Ally: Japanese American Perceptions of Native Hawaiians during the Interwar Years." The Japanese Journal of American Studies 23 (2012), 73-95. 「熊本県における日系二世の留学―熊本海外協会をめぐる教育ネットワークの形成」吉田亮編『アメリカ日系二世と越境教育』(不二出版、2012)
所属学会	アメリカ学会、日本移民学会、アジア研究学会(AAS)、アジア系アメリカ研究学会(AAAS)
キーワード	ハワイ日系人、ハワイ文化、移民、越境教育

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/106011/106011_Researcher.html

ナカ ノ　ユキ オ
中野　幸男

Yukio NAKANO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部　助教
研究分野	亡命文学、ロシア文学・文化
研究活動	1970年代以降のロシア亡命者を指す「第三の波」について研究し、反体制運動の中心人物でありロシアのリベラル派の首領でもあったアンドレイ・シニャフスキーに関して研究を行ってきました。現在の関心はロシア語話者の作家による英語・ドイツ語などの言語で書かれた文学作品で、仮に「トランスナショナル／トランスリンガル文学」と呼ばれる現象です。またインターネット上での1960年代のロシアの反体制運動の変容や、地下文学であるサミズダートのメタファーとしてのインターネットなどについて研究論文を発表し続けています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	論文・研究ノート ・「B・エロフェーエフ『酔いどれ列車、モスクワ発―ペトゥシキ行』」（水野忠夫編『ロシア文学:名作と主人公』自由国民社、2009、作品解説） ・「亡命ロシア文学研究者　グレープ・ストルーヴェ研究」（『境界研究』第1号、2010、研究ノート） ・“On the History of the Novel We, 1937-1952: Zamiatin’s We and the Chekhov Publishing House.” Canadian-American Slavic Studies 45, 2011 ・翻訳:アンドレイ・シニャフスキー『ソヴィエト文明の基礎』（みすず書房、2013、共訳）
所属学会	日本ロシア文学会、Association for Slavic, East European and Eurasian Studies
キーワード	ロシア文学、亡命文学、トランスナショナル／トランスリンガル文学、ロシアのインターネット

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115024/115024_Researcher.html

オチアイ　アキ コ
落合　明子

Akiko OCHIAI

学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　教授
研究分野	アメリカ合衆国史、アメリカ研究
研究活動	アメリカ合衆国のマイノリティ、特にアフリカ系アメリカ人（黒人）の歴史・文化を中心に研究を行ってきました。最近はマイノリティの歴史を国家や人々がどのように「記憶」しているのかという課題に取り組んでいます。特に公的な記憶が社会的に作られる過程（歴史博物館の設立や展示における表象など）に関心があります。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	［著書］　*Harvesting Freedom: African American Agrarianism in Civil War Era South Carolina*, Praeger, 2004 『新時代アメリカ社会を知るための60章』（編著）明石書店、2013
所属学会	日本アメリカ学会、日本アメリカ史学会、日本西洋史学会、歴史人類学会
キーワード	アメリカ黒人の歴史・文化、記憶の構築、マイノリティと博物館、南北戦争・再建期、黒人研究の発展史

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112012/112012_Researcher.html
http://gr.doshisha.ac.jp/professors/profile_list/america/ochiai.html

オオ キ　サヤ カ
大木　清香

Sayaka OKI

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　助教
研究分野	文学・文化理論、現代文学、カリカチュア、精神分析、ジェンダー研究
研究活動	文学・文化理論を研究の根底にしながら、主に20世紀の文学作品を解釈をしています。文芸学の視点から見たジェンダー研究、精神分析、ポスト構造主義にとりわけ関心があり、それとの関連からグローバル化する現代社会のポップ文学、インターナショナルな比較の視点から見た現代文学の表現可能性を主な研究課題としています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Kommunikationsmedien im Spatwerk Ingeborg Bachmanns, 2015 Mizayawa Kenji: Phantasie einer Reisestrecke, Vom Verreisen in Versen: Zwolf Gedichte aus zwolf Sprachen: Original Ubersetzung Kommentar pp. 74-83, 2013 Anonymity and Signature as a Productive Practive: Ingeborg Bachmann and Jacques Derrida, Transnational Literature vol. 4 no. 2, 2012
所属学会	IVG、At Gender、JGG

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114001/114001_Researcher.html

サキ タ　トモ コ
﨑田　智子

Tomoko SAKITA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　准教授
研究分野	言語学、語用論、認知言語学、英語学
研究活動	伝達言語を多角的視点から研究しています。自己を取り巻く外部世界をどのようにとらえるか、発話行為やコミュニケーションをどう受容し理解するか、の話者の認知様式に加えて、談話・情報構造、スタンス等がどのように言語事象を規定しているかを研究しています。特に、発話内容、言語形式、意味等は、対話の中で文脈に依存してお互いの視点の違いを認識しできるだけ共感し合い相互連携を模索する中で創り出されるものですが、この対話の相互作用における創造的な発話産出メカニズムとその背後にある認知メカニズムを探究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書] Reporting Discourse, Tense, and Cognition. Elsevier Science.（市河三喜賞）2002、『言語運用のダイナミズム:認知語用論のアプローチ』研究社 2010、[論文]"Discourse markers as stance markers." Pragmatics & Cognition 21:1 2013.「対話における発話の創発–認知と対話のインターフェース」『言語の創発と身体性』ひつじ書房 2013. "Parallelism in conversation." Pragmatics & Cognition 14:3 2006. "Discourse perspectives on tense choice in spoken-English reporting discourse." In T. Güldemann & M.V. Roncador, eds. Reported Discourse: A Meeting Ground for Different Linguistic Domains, J. Benjamins, 2002.
所属学会	日本英語学会、日本言語学会、日本語用論学会、日本認知言語学会、全国大学英語教育学会、テキスト談話学会、アメリカ言語学会、国際語用論学会
キーワード	言語運用のダイナミックス、談話情報理論、伝達言語のメカニズム、英語教育、発話構築と認知のしくみ、ジェンダー:教育における性差別と言葉、脳と言語、進化と言語

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/100008/100008_Researcher.html

シミズ　ミノル
清水　穣

Minoru SHIMIZU

講演
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　教授
研究分野	現代芸術論
研究活動	現代の写真論、写真批評。現代美術史、美術批評。日本近代の陶芸史と現代陶芸の批評。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	著書『白と黒で』『写真と日々』『日々是写真』『プルラモン』（現代思潮新社）ほか、展覧会や個展のカタログテキスト、展評、論文、書評、講演など多数。
社会活動・その他	とくになし。
所属学会	日本独文学会
キーワード	写真論、art criticism、シュトックハウゼン、リヒター、森山大道、鯉江良二、現代陶芸

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/192007/192007_Researcher.html
http://www.art-it.asia/u/admin_ed_contri7_j/73A5njI9PBDhxmfc0Two/
http://www.art-agenda.com/reviews/gaku-nakano%E2%80%99s-%E2%80%9Csomehow-the-mosaic-looks-nice%E2%80%9D/

ソエジマ　イチロウ
副島　一郎

Ichiro SOEJIMA

講演
学術調査

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　教授
研究分野	中国古典・日本漢学
研究活動	唐・宋時代の古文復興を軸に、文体と儒教・道教及び社会的変化の関係を研究してきました。近年は江戸時代によく読まれた『古文真宝後集』や『文章軌範』の受容を通して、日本漢学と国学との関係、擬古文文体成立の背景について研究をしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	・『気与士風――唐宋古文的進程及背景』（上海古籍出版社） ・「范仲淹的学問及其振興文教主張中的道教因素」（中国人民大学国学院『国学学刊』） ・「日本江戸時代中国文章論的接受及其展開」（『中華文史論叢』上海古籍出版社）
所属学会	日本中国学会、日本宋代文学学会、東方学会
キーワード	古文、唐、宋、易、道教、日本漢学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105026/105026_Researcher.html

タカ ギ　シゲミツ
髙木　繁光

Shigemitsu TAKAGI

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　教授
研究分野	映像文化論、比較文学
研究活動	20世紀初頭ニーチェ哲学やフロイトの精神分析によって反復、仮面、コピーをめぐる思索が深められ、その影響下にある表現主義芸術では自我の分裂、無意識下の夢遊病などが頻繁にテーマとして取り上げられました。それは映画と結びつき、今日の複製技術時代を考える上で重要な要素となります。映画はリメイク=同じ物語の反復であり、すでに存在しない過去の出来事の再現であり、繰り返されるテイクの寄せ集めです。映画の反復という特性を、ドイツ・ロマン派以降の思想、文学との関係において考察してゆきます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「ファスビンダーとナボコフ　―<似ていない>分身を求めて―」言語文化（同志社大学言語文化学会）第14巻1号、43-68頁、2011年 「植物学的世界文学試論　―林達夫と花田清輝を例として―」比較文学研究（東大比較文学会）第97巻、6-32頁、2012年
所属学会	日本独文学会、東大比較文学会
キーワード	映画、文学、思想

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/196004/196004_Researcher.html

タケウチ　リ　カ
竹内　理樺

Rika TAKEUCHI

講演
学術調査

所属・職名	グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　准教授
研究分野	中国近現代史
研究活動	中華人民共和国建国前後に中国共産党を中心とする民族統一戦線に参加し、新国家の建設に貢献した民主諸党派について研究しています。民主諸党派の組織としての特徴や中国共産党との関係を中心に考察していますが、民主諸党派の女性指導者にも注目し、当時の女性政治家たちの政治活動や家族との関係、社会との関わり、彼女らが果たしたジェンダー的役割など、さまざまな角度からアプローチを試みています。また、中国・台湾における女性史・ジェンダーの問題にも取り組んでいます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	〔論文〕「中国国民党革命委員会の研究―何香凝の活動と思想的変遷を通じて―」（博士学位論文）、神戸大学大学院、2003 「何香凝―家と政治に生きた女性指導者」関西中国女性史研究会編、『ジェンダーからみた中国の家と女』東方書店、2004 「謝雪紅と台湾民主自治同盟―中台関係と評価の変遷―」『言語文化』第13巻第4号、2011 「何香凝の芸術活動―1930年代における美術を通じた抗日救国運動を中心に」『言語文化』第15巻第4号、2013
所属学会	ジェンダー史学会、中国女性史研究会、中国現代史研究会、日本現代中国学会、神戸華僑華人研究会
キーワード	民主諸党派、中国女性史

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/105029/105029_Researcher.html

ウヤル　マキバヤシ
アイスン

ウヤル 槙林 アイスン

UYAR MAKIBAYASHI AYSUN

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名
グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科　准教授

研究分野
国際関係論、国際政治経済、地域主義、地域経済協力、地域環境ガバナンス

研究活動
1. 2011/7-2013/3, 龍谷大学アフラシア多文化社会研究センター、「アジア・太平洋地域における人の移動にともなう紛争と和解についての総合研究―市民社会・言語・政治経済を通してみる多文化社会の可能性―」、メンバー
2. 2012/6-2013/3, 総合地球環境学研究所、「地域環境変化に対する地域環境ガバナンスに向けて―東アジアとヨーロッパにおける環境地域協力の比較研究ワークショップの開催事業」
3. 2013/4-、「アジア太平洋地域の人間環境安全保障―水・エネルギー・食料連環」総合地球環境学研究所、メンバー

主要な業績（著作・論文・研究発表）
1. (with Taniguchi M.), 2013,"Regional Science-Society Interface within Global Environmental and Social Change towards Sustainability", JSIJ, 3(1):36-47.
2. 2013, "Social Sciences in Japan after Fukushima", World Social Science Report 2013: Changing Global Environments, 215-219.
3. 2015, "Interdisciplinary Approaches to 'Region' in International Relations", Doshisha Global and Regional Studies Review 5: 23-51.

社会活動・その他
1.（ゲスト）NHK地球アゴラ「トルコ特集」生放送番組、2010年11月7日、東京
2.「トルコの魚食事情」『食文化誌VESTA―世界の魚食文化特集』2012年10月、88号、pp: 21-24.
3. (Consultant) MOYAI-arche nOva 東北ボランティア プロジェクト、2011年10月―2013年3月、大槌、岩手.

所属学会
国際関係学会（ISA）、日本国際政治学会（JAIR）、アジア政経学会（JAAS）、政治社会学会（ASPOS）、世界政治学会（IPSA）

キーワード
国際関係論、地域主義、地域経済協力、地域環境ガバナンス

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113006/113006_Researcher.html
http://gr.doshisha.ac.jp/professors/profile_list/asian-pacific/uyar.html

キク チ　ケイスケ
菊池　恵介

Keisuke KIKUCHI

講演
コンサルティング
コメンテーター

所属・職名	グローバル・スタディーズ研究科　准教授
研究分野	グローバリゼーション論、レイシズム研究、フランス地域研究
研究活動	もともと哲学や社会思想史を専攻していましたが、近年では次の二つのテーマに取り組んでいます。一つは、世界経済のグローバル化にともなう雇用不安の問題。もう一つは、ヨーロッパにおける移民排斥や人種主義の問題です。戦後のケインズ主義体制から新自由主義への転換にともない、いかに階層格差の拡大と金融部門の肥大化が生じてきたのか。また、サブプライム危機や欧州債務危機を背景に、いかに古い偏見が息を吹き返し、ロマやムスリムといった新たなスケープゴートが生み出されているのかを検討しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	・「岐路に立つヨーロッパ ―― EU議会選挙における極右躍進の背景」「同志社グローバル・スタディーズ」Vol.5, 2015, 99-118頁。 ・「格差社会からグローバル恐慌へ」三宅芳夫・菊池恵介編『近代世界システムと新自由主義グローバリズム』作品社、2014, 50-73頁。 ・「スカーフ問題とは何か」内藤正典・岡野八代編『グローバル・ジャスティス入門』ミネルヴァ書房、2013, 168-178頁。
キーワード	グローバリゼーション、新自由主義、福祉国家、雇用不安、格差社会、レイシズム、イスラムフォビア、ポピュリズム

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/110006/110006_Researcher.html

オカノ　ヤヨ
岡野　八代

Yayo OKANO

講演

所属・職名	グローバル・スタディーズ研究科　教授
研究分野	西洋政治思想・フェミニズム理論
研究活動	北米のフェミニズム運動のなかから生まれたケアの倫理の理論的研究。ケアの倫理と平和・民主主義との理論的関連を探求。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『戦争に抗する――ケアの倫理と平和の構想』（岩波書店、2015年）。 『憲法のポリティカ――哲学者と政治学者との対話』高橋哲也との共著（白澤社、2014年）。 『フェミニズムの政治学――ケアの倫理をグローバル社会へ』（みすず書房、2012年）。
社会活動・その他	日本学術会議政治部会連携会員 NPO法人ウィメンズ・アクション・ネットワーク理事
所属学会	ジェンダー法学会、女性・戦争・人権学会、政治思想学会、日本家族社会学会、日本政治学会、日本法社会学会
キーワード	フェミニズム、思想

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/109016/109016_Researcher.html

オオタ　オサム
太田　修

Osamu OTA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル・スタディーズ研究科　教授
研究分野	朝鮮近現代史、近現代日朝関係史
研究活動	日本の植民地支配から解放された後の朝鮮半島の歴史は、植民地期の歴史に規定されていたため、その連続面に目を向ける必要があります。同時に、分断や冷戦からも大きな影響を受けていたため、東アジアや世界の歴史の中で理解する必要があります。解放後朝鮮半島の政治・経済・社会・文化の変容の過程を、朝鮮半島内部の歴史展開、日本との関係、東アジアの冷戦という観点から明らかにすることが当面の研究課題です。国家の政治、経済だけでなく、人々の暮らしや思いにも立ち入って、多様な視点からの研究をめざしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]『〔新装新版〕日韓交渉―請求権問題の研究』クレイン、2015、『朝鮮近現代史を歩く―京都からソウルへ』思文閣出版、2009 [論文]「朝鮮解放直後におけるある労働者の日常―仁川の電気工I氏の日記から」鄭昞旭・板垣竜太編『日記が語る近代―韓国・日本・ドイツの共同研究』同志社コリア研究センター、2014、「第1次日韓国交正常化交渉における在日朝鮮人の法的地位と処遇―植民地主義、分断、冷戦の交錯」『社会科学』2014.8
社会活動・その他	NGO「日韓会談文書・全面公開を求める会」共同代表
所属学会	朝鮮史研究会、歴史学研究会、在日朝鮮人運動史研究会
キーワード	朝鮮半島、韓国、北朝鮮、日韓・日朝関係、歴史

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/110004/110004_Researcher.html
https://www1.doshisha.ac.jp/~oota/profile/index.html

オヤマダ　エイジ
小山田　英治

Eiji OYAMADA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル・スタディーズ研究科　教授
研究分野	国際開発、ガバナンス、開発政治、国際協力
研究活動	新興国や開発途上国における開発とガバナンス研究が専門分野です。近年においてはASEAN諸国の他、ウクライナ、チュニジア、バングラデシュ等におけるグッド・ガバナンス（国家清廉性や汚職対策問題）に取り組んでおり、フィリピン大学やインドネシアの研究機関と一緒に研究活動を行う他、JICA事業への参加を通じて開発問題に取り組んできております。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	過去1年の業績: “ウクライナが挑むもう一つの戦い”、「国際開発ジャーナル」2015年11月号（2015年11月） “What is the Ukraine’s Way of Combating Corruption?” Газета “День（ウクライナの新聞）（2015年10月6日） “National Integrity, the Next Step for Antigraft Fight”, Jakarta Post, Indonesia（2015年4月1日） “Anti-Corruption MeasuresThe Japanese Way: Prevention Matters” Asian Education and Development Studies, Vol. 4 Iss 1 pp. 24 - 50, Emerald Press, UK（2015年1月）
社会活動・その他	日本国連学会理事（2013年10月～） 広島平和構築人材育成センター評議員（2014年10月～） 平和構築研究会理事（2014年4月～） アジア政経学会書評委員（2015年9月～）
所属学会	国際開発学会、日本国連学会、アジア政経学会、人間の安全保障学会
キーワード	開発、ガバナンス、反汚職、国際関係

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/110002/110002_Researcher.html

ゲン　ゼンヘイ
厳　善平

YAN Shanping

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	グローバル・スタディーズ研究科　教授
研究分野	中国経済
研究活動	中国経済の成長と構造変化に関する総括的な研究を行い、中でも人口転換と経済成長の関係、労働市場と賃金、人口移動と都市化問題について現地調査からの1次情報を駆使し実証分析を進めています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	*「パネル討論　2015年の中国を読む一新常態の行方は一」2015年3月19日　日本経済研究センター（東京） 「戸籍制度改革と都市化政策」2015年2月25日　財務総合政策研究所第3回中国研究会（東京） *「人口・農村問題から中国の「いま」を考える」2014年9月10日　環日本海経済研究所・平成26年度第2回賛助会セミナー（新潟） *「人口動態からみた中国経済の行方」2014年8月29日　日本経済研究センター・「シリーズ　現代中国を知る」セミナー第3回（大阪） *「中国における労働市場の構造変化と経済成長」2014年1月31日　富山大学・極東地域研究センターシンポジウム（富山）
社会活動・その他	中国経済経営学会長（2014～16年）
所属学会	中国経済経営学会、アジア政経学会、日本現代中国学会
キーワード	中国、経済成長、人口転換、労働市場、都市化、戸籍制度改革

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/111001/111001_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~shyan/

アサノ　ユキ
浅野　有紀

Yuki ASANO

講演
コメンテーター

所属・職名	司法研究科　教授
研究分野	法哲学、法多元主義、グローバル化と法
研究活動	不法行為法や契約法などの私法学における自由論、正義論から研究をはじめ、現在はグローバル化における私法学の展開、公私協働、法多元主義などの研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『グローバル化と公法･私法関係の再編』【共編著】、2015年12月18日、弘文堂 原田大樹他8名、第3章「法理論におけるグローバル法多元主義の位置付け」(85-108頁)他第7章、第12章 『現代法哲学講義』【共著】、2009年4月1日、信山社 井上達夫他14名「7社会保障法制度の再構築―不法行為法との比較の観点から」(165-188頁) 『現代法律学を学ぶ人のために』【共著】、2008年3月1日、世界思想社 中川淳他20名、第20章「自然法論と法実証主義」(276-291頁) 『法と社会的権力』【単著】、2002年6月1日、岩波書店 (全416頁)
社会活動・その他	長浜市情報公開審査会委員、個人情報保護審査会委員(過去) 日本法哲学会理事、日本学術会議連携会員、 京都大学医学部医の倫理審査会、長浜0次予防コホート事業審査会員、健康づくり0次予防コンプライアンス委員会委員(現在)
所属学会	日本法哲学会
キーワード	法多元主義、私法の基礎理論、グローバル化と法

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113001/113001_Researcher.html

フカヤ　イタル
深谷　格

Itaru FUKAYA

講演
研修
コンサルティング
学術調査

所属・職名	司法研究科　教授
研究分野	民法
研究活動	民法(特に債権法)の研究が中心ですが、他に、フランス民法典の起草委員ポルタリスに関する研究や、明治前期の裁判に関する研究も行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	相殺の構造と機能【単著】2013年 成文堂、判例にみるフランス民法の軌跡【共著】2012年 法律文化社、判例プラクティス民法Ⅱ債権【共著】2010年 信山社、民法学説百年史【共著】1999年 三省堂、製造物責任の現在【共著】1999年 商事法務研究会、現代民法入門【共著】1997年 一橋出版、不法行為法の現代的課題と展開【共著】1995年 日本評論社、プロテスタントの婚姻に関するポルタリスの鑑定意見書について 2014年 同法65巻5号、明治前期の広島裁判所における条理裁判とフランス民法 2004年 西南37巻1号
社会活動・その他	福岡市固定資産評価審査委員会委員(2004年～2007年)
所属学会	日本私法学会、日本公証法学会
キーワード	民法

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/107014/107014_Researcher.html

ハヤシ　シヨウイチ
林　昭一

Shoichi HAYSHI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	司法研究科　教授
研究分野	民事訴訟法
研究活動	民事訴訟法の基礎理論に関する解釈論的、比較法的研究
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「新・コンメンタール民事訴訟法」笠井正俊＝越山和広編【共著】日本評論社（612-638頁、827-838頁、1087-1115頁） 「基礎演習 民事訴訟法」長谷部由起子＝山本弘＝笠井正俊編【共著】弘文堂（35-46頁） 「企業紛争における戦略的な証拠廃棄とその規制について」商事法務「福永有利先生古稀記念論文集 企業紛争と民事手続法理論」（443-471頁） 「戦前期ドイツ法における証明妨害論の生成と展開-訴訟法的規制と実体法的規制の交錯という視点から（一）（二・完）」民商法雑誌126巻3号（58-100頁）、同4=5号（216-246頁）

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112002/112002_Researcher.html

キノシタ　コウ ジ
木下　孝治

Koji KINOSHITA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	司法研究科　教授
研究分野	商法、保険契約法、保険監督法
研究活動	保険契約法上の解釈問題を広く検討し、保険契約に係るデフォルト・ルールのあり方、保険契約上の条項の解釈のあり方を考察します。 保険監督法上の解釈問題、立法論又は監督政策上の課題について検討します。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	竹濱修、木下孝治、新井修司編『保険法改正の論点』、2009年3月1日、法律文化社 告知義務・危険増加、2008年10月1日、ジュリスト1364号（18-26頁） 保険契約における情報格差の是正と不正請求対策、2007年、商事法務1808号（14-26頁） 保険募集における重要事項説明ルールの考え方について、2005年9月1日、生命保険論集152号（75-120頁） 募集チャネルの多様化と保険募集規制の課題、2005年3月1日、保険学雑誌588号（66-84頁） 日本保険学会シンポジウム報告「国際保険監督規制の現状と課題」（2015年10月25日、於、慶應義塾大学）
社会活動・その他	金融庁・保険商品の販売勧誘のあり方に関する検討チーム委員（平成17年2月～平成18年6月）、法制審議会保険法部会幹事（平成18年9月～平成20年1月）、日本損害保険協会・保険約款のあり方に関する研究会委員（議長）（平成19年9月～平成20年5月）、金融庁・金融審議会第2部会金融分科会、保険の基本問題に関するワーキンググループ委員（平成20年9月～平成23年6月）、金融庁・金融審議会、保険会社のグループ経営のあり方に関するワーキンググループ委員（平成23年6月～平成23年12月）
所属学会	日本私法学会、日本保険学会、金融法学会、消費者法学会、空法学会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104044/104044_Researcher.html

マツモト　テツ ジ
松本　哲治

Tetsuji MATSUMOTO

講演
研修

所属・職名	司法研究科　教授
研究分野	憲法学
研究活動	アメリカとの比較を行いつつ、基本的人権、憲法訴訟論について研究しています。 経済的自由権や自己決定権などに関心があります。 情報公開や個人情報保護については、実務的な活動もしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	毛利=小泉=淺野=松本『Legal quest 憲法2』、2013年、有斐閣『Legal quest 憲法2』、2011年、有斐閣。 「第22条〔居住・移転及び職業選択の自由、外国移住及び国籍離脱の自由〕」、「第29条〔財産権〕」戸松秀典・今井功編『論点体系　判例憲法2』、2013年、第一法規 「職業選択の自由―タクシーの再規制の問題を中心にして―」、2013年、同志社法学64巻7号 「森林法事件判決」、2012年、論究ジュリスト1号
社会活動・その他	滋賀県個人情報保護審議会会長 枚方市情報公開・個人情報保護審査会会長 城陽市情報公開・個人情報保護審査会委員
所属学会	日本公法学会、日米法学会、関西アメリカ公法学会、関西憲法判例研究会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/111013/111013_Researcher.html

モリモト　シゲル
森本　滋

Shigeru MORIMOTO

講演
研修

所属・職名	司法研究科　教授
研究分野	会社法、商取引法、金融商品取引法
研究活動	上場会社に焦点を当てて、コーポレート・ガバナンスとコーポレート・ファイナンス、それに、M&Aに係る会社法と金融商品取引法の立法論的・解釈論的重要問題について、総合的に研究しています。わが国実務の状況に配慮しない観念論的な議論を排し、他方、伝統的な学問的成果に十分敬意を払い、理論的基礎付けに留意しながら、公正かつ経済的に合理的な会社実務をエンカレッジする解釈論を提示することを第一と考えています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	会社法・商行為法・手形法講義［第四版］（成文堂、2014）、「募集株式発行規制の基本的枠組みと改正会社法」旬刊商事法務2070号4～13頁（商事法務研究会、2015）、「平成26年会社法改正の理念と課題」法の支配176号55～66頁（日本法律家協会、2015）、「経営判断と『経営判断原則』」田原睦夫先生古希・最高裁判事退官記念論文集・現代民事法の実務と理論654頁-685頁（きんざい、2013）、「株主平等原則の理念的意義と現実的機能―株主の平等取扱いと公正取扱い」民商法雑誌141巻3号291～332頁（有斐閣、2009）
所属学会	日本私法学会、金融法学会、日本海法学会
キーワード	株主平等原則、会社の健全性確保、CSR

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/109007/109007_Researcher.html

オクムラ　マサ オ
奥村　正雄

Masao OKUMURA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	司法研究科　教授
研究分野	刑法学、被害者学
研究活動	1　刑法学:実行行為論について、不作為犯論、実行の着手論、不能犯論等を通して構成要件理論の中核としての理論的意義と、実践的意義を明らかにすることを目指しています。 2　被害者学:①犯罪被害者等の経済的支援策として犯罪被害者等給付金支給制度、損害賠償命令制度などの現状と課題、②刑事手続上の被害者の権利・利益の擁護の観点から被害者参加制度における被害者の量刑意見の位置づけ、③犯罪被害者等に対する途切れのない支援体制の構築などの理論的・実践的課題の追究を目指しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	1「過失行為と緊急行為」　同志社法学377号(2015年)pp.219-254 2「イギリスにおける犯罪被害者対策の現状と課題」被害者学研究25号(2015年)pp.89−111 3「犯罪被害給付制度の現状と課題」同被害者学研究pp. 131-148 4「犯罪の不阻止と共同正犯」『川端博先生古稀記念論文集』(成文堂, 2014年)pp.635-661 5「イギリスにおける未遂犯の処罰根拠」『曽根威彦先生・田口守一先生古稀記念論文集上巻』(成文堂, 2014年)pp.635-708
社会活動・その他	日本刑法学会監事、日本被害者学会理事、日本法と精神医療学会監事、京都犯罪被害者支援連絡協議会会長
所属学会	日本刑法学会、日本被害者学会、日本法と精神医療法学会
キーワード	実行行為、実行の着手、不能犯、不作為犯、犯罪被害者、損害賠償命令、被害者参加、量刑

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104046/104046_Researcher.html

サ サ キ　ノリ コ
佐々木 典子

Noriko SASAKI

所属・職名	司法研究科　教授
研究分野	民法
研究活動	三者間の法律関係、特に、代理、授権、第三者のためにする契約等に関して、法律行為論及び財産管理権の観点から研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「顕名の意義-民法一〇〇条 但書について-」同志社法学65巻2号 「連体的契約関係-商法五〇四条試論-」椿寿夫・伊藤進編『代理の研究』(2011年、日本評論社) 「スイス法における予約-予約の意義-」椿寿夫編「予約法の総合的研究」(2004年、日本評論社) 「無権代理人の責任についての一考察-ドイツ民法典の制定過程から現在に至るまでの学説の展開を手がかりとして-」姫路法学38号
社会活動・その他	家事調停委員
所属学会	私法学会、比較法学会、独法学会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108028/108028_Researcher.html

ソ ゴウ　タ ロウ
十河　太朗

Taro SOGO

講演

所属・職名	司法研究科　教授
研究分野	刑法
研究活動	主な研究テーマは、共犯論です。複数の人が犯罪に関与した場合に生じる様々な理論的な問題について、わが国のほかドイツやイギリスなどの文献も参照しながら考察し、研究成果を大学の紀要などに発表しています。 また、捜査、起訴、公判、刑罰などの刑事司法作用に対する罪（犯人蔵匿罪、証拠隠滅罪、偽証罪など）の研究にも取り組んでいます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]『身分犯の共犯』成文堂 2009 [論文]「共謀の射程について」川端博ほか編『理論刑法学の探求3』成文堂 73-110 2010 「犯人蔵匿罪と証憑湮滅罪の限界に関する一考察」同志社法学46 5 72-126 1995
所属学会	日本刑法学会、日本被害者学会、法と精神医療学会
キーワード	共犯、共謀、刑事司法作用に対する罪

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104050/104050_Researcher.html

ソノ ダ　ケン ジ
園田　賢治

Kenji SONODA

講演
研修

所属・職名	司法研究科　教授
研究分野	民事訴訟法
研究活動	民事訴訟の判決手続において、当事者主体の審理過程を実現するための条件とはどのようなものか、という視点から、弁論権を中心とした当事者権の保障のあり方を研究しています。現在の中心テーマは、裁判所による釈明権行使の規律と弁論権の保障との関係を明らかにすることです。また、判決手続以外にも、執行手続・倒産手続・ADR（裁判外紛争処理手続）といった民事紛争処理システム全般についても関心を持って研究をしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「弁論権の保障と釈明権」民事訴訟雑誌61号（2015年）157-167頁 「訴えの主観的予備的併合の許否についての覚書―予備的被告の当事者権保障の観点から―」同志社法学66巻3号（2014年）21-46頁 「情報の偏在と訴え提起後の情報・証拠の入手―当事者照会・文書提出命令を中心に」法律時報82巻2号（2010年）23-27頁 「判決による不意打ちとその救済に関する一試論―弁論主義の『仕分け論』の検討を通じて―」井上治典先生追悼論文集『民事紛争と手続理論の現在』（2008年）239-259頁
所属学会	日本民事訴訟法学会、日本法社会学会
キーワード	民事訴訟、民事裁判、民事紛争処理

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/111014/111014_Researcher.html

タカハシ　コウ ジ
髙橋　宏司

Koji TAKAHASHI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	司法研究科　教授
研究分野	国際私法、国際民事手続法、国際取引法、国際投資法
研究活動	ブロックチェーンおよび仮想通貨に関する法の研究
主要な業績（著作・論文・研究発表）	http://www1.doshisha.ac.jp/~tradelaw/indexJP.html　(日) http://www1.doshisha.ac.jp/~tradelaw/index.html (英) 参照
社会活動・その他	国際投資模擬仲裁大会Foreign Direct Investment International Moot Competitionアドバイザリー・ボード委員（2010年から2015年まで）
所属学会	国際商取引学会、国際私法学会、国際経済法学会

http://www1.doshisha.ac.jp/~tradelaw/
http://cryptocurrencylaw.blogspot.jp/

ヤマシタ　トモノブ
山下　友信

Tomonobu YAMASHITA

講演
研修

所属・職名	司法研究科　教授
研究分野	商法、保険法、金融商品取引法
研究活動	現代の企業活動に関して生ずる法律問題を幅広く研究しています。企業活動に関する法律上の規律については、一方で消費者や投資者の保護などの観点からの規制の必要があるとともに、規制は極力少なくし自由な企業活動により経済を活性化することも必要で、両者のバランスを如何にしてとるかを考察するよう努めています。研究の中では、生命保険や損害保険など民間の保険に関するものに最も力を注いでいます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書] 『商事法の研究』有斐閣、2015 『保険法』有斐閣、2005 『現代の生命・傷害保険法』弘文堂、1999
社会活動・その他	中央労働委員会公益委員 法制審議会商法（運送・海商関係）部会委員
所属学会	日本私法学会、日本海法学会、日本空法学会、日本保険学会
キーワード	商法、保険、会社

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115002/115002_Researcher.html

ヨコ タ　コウヘイ
横田　光平

Kohei YOKOTA

コメンテーター

所属・職名	司法研究科　教授
研究分野	行政法、子ども法
研究活動	子どもに関わる法は、憲法、民事法（家族法）、刑事法（少年法）、行政法（学校法、児童福祉法）など法分野ごとにバラバラに論じられてきたため、子どもに関する諸問題の総合的な法的考察が困難となっており、様々な弊害が生じています。この状況を克服するため、総合的「子ども法」の構想を提示することが研究目標です。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『子ども法の基本構造』、40422、信山社 全645頁 『融ける境 超える法① 個を支えるもの』、38596、東京大学出版会 岩村正彦・大村敦志編／横田光平「児童福祉における介入と援助の間」（115-139頁） 「子どもの意思・両親の権利・国家の関与 ― 子の利益とは何か」、40848、法律時報 83巻12号、10-17頁 「「関係」としての児童虐待と「親によって養育される子どもの権利」」、40422、ジュリスト 1407号、87-94頁 「国家による家族への介入と国民の保護 ― 統治構造の変容と個人の権利保障 ― 」、39722、公法研究 70号、117-12 『子ども法』（有斐閣、2015）（共著）
社会活動・その他	社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員 滋賀県情報公開審査会委員
所属学会	日本公法学会
キーワード	子ども法、児童福祉法、子どもの権利、児童虐待、行政法、少年法、いじめ、障害児、社会的養護、子どもの意思

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114002/114002_Researcher.html

イイヅカ　マリ
飯塚　まり

Mari IIZUKA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	ビジネス研究科　教授
研究分野	ウェルビーイング（マインドフルネス）と企業、国連持続開発目標と経営戦略、格差の罠
研究活動	グローバルリーダーや女性リーダーの養成、ウェルビーイングや働く人が幸せを感じるしかけなどについて、グーグル等の開発したマインドフルネスやコンパッションの手法を中心に、脳科学の知見も手がかりにしつつ、実際の企業で使える研究をしています。また、グローバルな問題解決への企業の貢献について、国連グローバルコンパクトを中心に、研究をおこなっています。グローバルMBAには、30カ国以上の社会人学生が集まっており、彼らと企業を結ぶ協働研究も積極的におこなっていければと思っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Kondo, M. (2016)　Globalization and the Inequality Trap: An Ethnography of Philippine Capitalism.　Hambshier, U.K., Palgrave Macmillan (Forthcoming) Kondo, M. (2015)　“The role of business school education for Japanese and non-Japanese women in Japan”in Flynn, Haynes and Kilgour (eds) Integrating Gender Equality into Business and Management Education, Sheffield, U.K., Greenleaf Kondo, M. (2014) “Global Compact Corporations in Japan and Their Reporting: Trends and Issues”in Noronha (ed.) Corporate Social Disclosure: Critical Perspectives in China and Japan. Hampshier, U.K., Palgrave Macmillan.
社会活動・その他	日本能率協会　Kaika Awards 審査委員、国連グローバルコンパクト・アカデミックネットワークJapan (GCAN-J)（2016年設立予定、設立発起人）、同志社大学「ウェルビーイングとSDGs研究センター」（仮称）（2016年度設立申請予定）
所属学会	Academy of Management、International Academy of Management、Academy of International Business and Society、日本マインドフルネス学会
キーワード	リーダーシップ、グローバルコンパクト、女性、マインドフルネス、ウェルネス、格差

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/110022/110022_Researcher.html
http://gmba.doshisha.ac.jp/en/about_us/message.htm

キタ　トシロウ
北　寿郎

Toshiro KITA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター
社外役員

所属・職名	ビジネス研究科　教授
研究分野	①イノベーションマネジメント　②プロジェクトマネジメント　③個人情報保護とプライバシー
研究活動	・前職（NTT）において住民基本台帳ネットワークシステムの構築責任者を務める ・招待講演:Human-centricなものとサービス”のつくり方プロジェクトマネジメント学会関西支部大会シンポジウム 2012年2月21日　大阪大学中之島センター ・企業人材育成:大手自動車会社、電機メーカの人材育成プログラムの策定と実施。SEあるいはコンサル系の情報通信分野人材のスキル評価
主要な業績（著作・論文・研究発表）	1) Human-centric approach of value proposition in new generation digital business, in Advances in the Human Side of Service Engineering, CRC Press (2012) 2)『ケースブック 京都モデル そのダイナミズムとイノベーションマネジメント』白桃書房 2009『ビジネスモデル論―持続的成長のビジネス設計図―』ビジネスモデル学会 2010 3) Describing Knowledge Integration in Innovation Processes, Toshiro Kita and Masaki Ohtsuka, IEEE International Technology Management Conference 2011, San Jose 2011･6
社会活動・その他	ビジネスモデル学会理事 2015年度日本機械連合会研究部会「ものつくり企業におけるビッグデータの利活用に関する研究」　部会長 株式会社ナカヨ　社外取締役（独立役員）
所属学会	AOM、ビジネスモデル学会、プロジェクトマネジメント学会、日本機械学会、経営情報学会、電子情報通信学会
キーワード	イノベーションマネジメント、オープンイノベーション、ビジネス戦略、プロジェクトマネジメント、マイナンバー、住基ネット、住基カード、ICカード、個人情報保護、プライバシー、セキュリティ

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104053/104053_Researcher.html
http://bs.doshisha.ac.jp/prof/kita.html

コ ダマ　トシヒロ
児玉　俊洋

Toshihiro KODAMA

講演
研修
学術調査

所属・職名	ビジネス研究科　教授
研究分野	中小企業、産業クラスター、事業創造
研究活動	「製品開発型中小企業」とは、市場化可能な自社製品を開発できる能力を持った中小企業を見出すために設けた企業類型です。これまで、首都圏西部地域と京滋地域を中心としてこれらの中小企業と産業クラスターに関する実証研究を行ってきました。本学に着任した2012年度以降は、地域の中小企業、ベンチャー企業とともに歩むビジネススクールとしての貢献を目指して活動しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「製品開発型中小企業を中心とする産業クラスター形成の可能性を示す実証研究」藤田昌久・長岡貞男編著『生産性とイノベーションシステム』2011 「地域における理工系人材の雇用の場としての製品開発型中小企業―京滋地域企業の調査結果を用いて」『日本労働研究雑誌』第595号（2010年特別号） “The role of intermediation and absorptive capacity in facilitating university-industry linkages — An empirical study of TAMA in Japan” Research Policy 37, 2008, pp.1224-1240
社会活動・その他	同志社大学大学院ビジネス研究科、公益財団法人京都産業21共同企画「成長のための経営戦略講座」（2014、2015年度）企画、運営 同志社大学大学院ビジネス研究科、京都リサーチパーク株式会社共同企画「中小・ベンチャー企業の事業創造研究会」（2014、2015年度）企画、運営 京都市「中小企業グローバル化対応施策検討委員会」委員（座長）（2013年度）
所属学会	日本ベンチャー学会、研究・イノベーション学会、産業学会
キーワード	中小企業、製品開発型中小企業、中小企業のイノベーション、中小企業の事業創造、産業集積、産業クラスター、地域イノベーション

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112017/112017_Researcher.html

クラモト　カズ ヤ
藏本　一也

Kazuya KURAMOTO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	ビジネス研究科　教授
研究分野	消費者問題、コーポレート・ガバナンス
研究活動	企業の消費者対応部門がコーポレート・ガバナンスに与える影響をテーマに企業の消費者対応部門の役割や企業における社内的地位を詳細に研究することにより、それぞれの企業のコーポレート・ガバナンスにどのように影響を与えているかを研究し、消費者志向の強い企業と弱い企業の違いを明らかにすることにより、ガバンナンスとの連携を明らかにします。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『有事対応コミュニケーション力（生きる技術!叢書）』、2011年（共著）、『お客様相談室」日本能率協会マネジメントセンター』、2011年（共著）、『消費者保護規格のグローバルスタンダード』消費者情報No.419、『二つのレピュテーション・マネジメント』ビジネス インサイトNo.73、『企業の消費者対応の変遷』ビジネスインサイト No.76、『コンプライアンス経営と消費者』消費者情報 No.431、『顧客対応部門にみる公営企業の社会的責任』公営企業2012年、『企業の社会的責任としての消費者対応』国民生活研究第52巻第2号
社会活動・その他	（独）国民生活センター特別顧問及び紛争解決委員会委員 （公財）関西消費者協会理事 明治安田生命保険相互会社消費者委員会委員 関西テレビ放送「オンブズ・カンテレ委員会委員長」 大阪いすみ市民生活協同組合「社会的責任評価委員会委員長」
所属学会	経営倫理学会
キーワード	企業統治、コンプライアンス、コーポレート・ガバナンス、消費者問題

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113016/113016_Researcher.html

ムラヤマ　ユウゾウ
村山　裕三

Yuzo MURAYAMA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	ビジネス研究科　教授
研究分野	経済安全保障、両用技術、伝統産業、文化ビジネス
研究活動	専門分野が、経済安全保障と文化ビジネスの2分野にまたがるため、両分野で研究活動を行っています。経済安全保障分野は、宇宙防衛分野の技術政策のあり方とともに、社会の安全・安心に寄与する技術政策、イノベーションのあり方を研究しています。文化ビジネス分野は、伝統産業の活性化策、文化ビジネスの手法、文化イノベーションなどについての研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『伝統産業から文化ビジネスへ』マリア書房 2012 『京都型ビジネス』NHK出版 2008 『経済安全保障を考える』NHK出版 2003 『テクノシステムの転換』NHK出版　2000 『アメリカの経済安全保障戦略』PHP　1996
社会活動・その他	経済産業省「コンポーネント・部品の技術戦略に関する研究会」委員 科学技術イノベーション政策研究センター「防衛技術に関わる研究開発システム研究会」委員 京都府「現代の名工」選考委員長 京都商工会議所「知恵ビジネス支援チーム」戦略会議委員 京都経済同友会「2020年委員会」アドバイザー
所属学会	国際安全保障学会、日本安全保障貿易学会
キーワード	経済安全保障、両用技術、伝統産業、文化ビジネス

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/104055/104055_Researcher.html

オオクボ　タカシ
大久保　隆

Takashi OKUBO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	ビジネス研究科　教授
研究分野	金融政策論、金融システム論、ファイナンス論、マクロ経済理論
研究活動	○産学連携セミナー「いま日本経済に何が起きているのか」(2012年1月) ○MBA公開講座　「日本経済の動向と企業経営―予期せぬショックの影響とその対応」(2011年7月) ○京都商工会議所MBA入門講座(2012年、2013年)
主要な業績（著作・論文・研究発表）	(単著)「マネーサプライと金融政策」東洋経済新報社1983・10 (共著)「計量経済分析の基礎と応用」東洋経済新報社1985・4、「印刷博物誌」凸版印刷株式会社 2001・6 (寄稿)「日本経済の現状をどうとらえるか」(『牛王』2012・9月号)2012・7、「文化の中の伝統と革新」(『伝統産業から文化ビジネスへ』村山裕三著 マリア書房)2012・3 (論文)「日本の中小企業問題について―　現状における問題の歴史的背景の分析を中心に―」2014.5
社会活動・その他	関西生産性本部人材開発委員会/委員 公益財団法人　大学基準協会　経営系専門職大学院基準委員会委員 私立大学情報教育協会経済学教育FD/ICT活用研究委員会委員
所属学会	日本経済学会、日本金融学会、日本統計学会、行動経済学会、社会経済史学会
キーワード	ファイナンス、中小企業金融、マクロ経済分析

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/102014/102014_Researcher.html

スガイ　フィリップ
須貝 フィリップ

Philip SUGAI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	ビジネス研究科　教授 Graduate School of Business　Professor
研究分野	Marketing, Innovation, Value
研究活動	Prof. Sugai's research originally focused on mobile consumer behavior on wireless and mobile devices. More recently he has expanded his focus to explore issues related to value creation and how products can be created to add value to customers, employees, partners, society and the planet.
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Most Recent Book: The Six Immutable Laws of Mobile Business, Sugai, P., Koeder, M. & Ciferri, L., Wiley-Interscience, New York, NY, pp. 1-224, 2010 Most Recent Paper: Waste vs. Challenge, Sugai, P. and Aroean, L., Kindai Management Review, Vol. 2, 2014, March, pp. 106-117
所属学会	JSICR, ACCJ
キーワード	marketing、value、innovation、marketing research、marketing strategy、shared value、value co-creation、heritage companies、Japanese innovation、eMarketing、mobile marketing

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113028/113028_Researcher.html

イン　ユウ
殷　勇

YIN Yong

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	ビジネス研究科　教授
研究分野	ものづくり経営学 生産システム
研究活動	ものづくり経営について、実践の最高峰はトヨタのような日本企業ですが、学術研究の最先端はウォートンのような米国ビジネススクールです。日本企業が「現場は強いが会社は儲からない」と言われています。私の科目では、最先端の米国分析手法を駆使して、日本企業の経営システムを解析します。特にものづくり製造業およびサービス業において、利益に結びつく経営システムの構築法を探る授業を行っていきます。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「著書」東日本大震災の地域経済への影響：企業経営・雇用・金融, 山形大学人文学部叢書2 2013年3月 「著書」Data Mining: Concepts, Methods and Applications in Management and Engineering Design, Springer-Verlag; 1st Ed. (January 29, 2011). 「論文」生産管理関係、数多くの論文
社会活動・その他	Executive Editor of the *Asian Journal of Management Science and Applications* Senior Editor of the *Operations Management Education Review* Associate Editor of the *Journal of Japanese Operations Management and Strategy* エリアエディタ、日本経営工学会論文誌
所属学会	日本経営工学会　等

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114022/114022_Researcher.html

ハヤシダ　ヒデ キ
林田　秀樹

Hideki HAYASHIDA

講演
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	人文科学研究所　准教授
研究分野	開発経済学　インドネシア経済論
研究活動	インドネシア経済に関する私のそもそもの関心は、ジャワ島等の中央部と、それ以外の地方部の島々との間の経済格差にありました。この問題について調べると、地方がジャワ等の中央部に対して90年代半ば頃より経済格差を若干縮小させていること、そしてそれには地方部のプランテーション作物農業、特にアブラヤシとそれを原料とするパーム油の生産拡大が大きく影響していることがわかりました。近年は、多くの研究仲間とともに、環境と経済のバランスがとれたインドネシアの地方社会のあり方について調査・研究活動を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「インドネシア経済の復興・成長と現局面―地方経済への視点とマクロ的課題」『経済』222, 56-67頁, 2014年 「マレーシア、インドネシアからのパーム油輸出について:仕向地, 精製形態の変化にみる需要増の要因」『社会科学』(同志社大学人文科学研究所) 43 (1), 1-26頁, 2013年 「アブラヤシ生産システムの変容が意味するもの―西カリマンタン州の事例から」同志社大学人文科学研究所編『カリマンタン/ボルネオにおけるアブラヤシ農園拡大とその影響―生産システム・地域社会・熱帯林保護』(人文研ブックレットNo.45) 3-52頁, 2013年
所属学会	アジア市場経済学会、アジア政経学会、日本国際経済学会、日本金融学会、経済理論学会
キーワード	インドネシア、プランテーション開発、アブラヤシ、パーム油、ASEAN

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/194025/194025_Researcher.html

モトオカ　タク ヤ
本岡　拓哉

Takuya MOTOOKA

学術調査
コメンテーター

所属・職名	人文科学研究所　助教
研究分野	人文地理学、都市研究
研究活動	人文地理学の観点から、近現代日本の都市の住宅・居住問題について研究を実施しています。最近は特に戦後都市における「不法占拠」地区や河川敷居住地区をめぐる政治的状況を対象としています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「戦後神戸市における不法占拠バラック街の消滅過程とその背景」『人文地理』第59巻2号、pp.20-40、2007年. 「1950年代後半の東京における「不法占拠」地区の社会・空間的特性とその後の変容」『地理学評論』第88巻1号、pp. 25-48、2015年.
社会活動・その他	2014年度人文地理学会編集委員
所属学会	人文地理学会、日本地理学会、経済地理学会、地理科学学会、日本都市社会学会、都市住宅学会
キーワード	人文地理学、住宅・居住問題、戦後日本、不法占拠、バラック、河川敷

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/111137/111137_Researcher.html

ショウジ　シュンサク
庄司　俊作

Shunsaku SHOJI

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	人文科学研究所　教授
研究分野	近現代日本経済史（農業・農村・農政史）、農業・農村問題、協同組合・自治と地域づくり、町村合併
研究活動	研究成果から見て研究活動は主に6つの柱からなります。①最初に取り組んだ近現代地主制史や小作争議史、土地政策史、経済更生運動等の研究、②次に農地改革史の研究、③近現代農業、農村の通史的著作の取りまとめ、④日本村落史の研究、以上が戦前・戦中・戦後改革期の研究です。現在は⑤戦後の農業・農民史、農政史の研究を行っています。これらの歴史研究と併行して、⑥現状の農業・農村問題、協同や自治・地域づくりの研究、町村合併の研究も行います。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	単著 ①『近代日本農村社会の展開』ミネルヴァ書房、1991　②『日本農地改革史研究』御茶の水書房、1999　③『近現代日本の農村』吉川弘文館、2003　④『日本の村落と主体形成』日本経済評論社、2012 編著書 ⑤『大学の協同を紡ぐ』コープ出版、2012　⑥『京都府政研究 人間的な経済社会をめざして』京都自治体問題研究所、2014　⑦『年報村落社会研究50 市町村合併と村の再編』農山漁村文化協会、2014
社会活動・その他	・京都自治体問題研究所副理事長 ・くらしと協同の研究所運営・企画・研究委員 ・農業・農協問題研究所会員
所属学会	政治経済学・経済史学会、日本農業経済学会、日本農業史学会（会長）、日本村落研究学会、歴史学研究会、日本史研究会等
キーワード	地主制、農地改革、農民と労働者、村落、農政史、町村合併、村・地域づくり

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/181002/181002_Researcher.html

タナカ　トモコ
田中　智子

Tomoko TANAKA

講演
学術調査

所属・職名	人文科学研究所　准教授
研究分野	日本近現代史
研究活動	近代日本の高等教育体制の成立過程を、地域史的な視点から研究しています。人材も財源も足りない時代、「官立」「公立」「私立」の垣根が法的にも緩やかな明治前期にあって、アメリカン・ボードや同志社といった民間勢力の医療・教育活動と文部省による制度形成とをかたわらに、府県という主体がどのように管下の教育態勢を整えようとしたのかをみています。フィールドは主に京阪神一帯に求めています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	『近代日本高等教育体制の黎明　交錯する地域と国とキリスト教界』思文閣出版 2012 「高等中学校制度と地方都市―教育拠点の設置実態とその特質」高木博志編『近代日本の歴史都市　古都と城下町』思文閣出版 2013 「CS確立期における「回顧と展望」」『キリスト教社会問題研究』第63号 2014
社会活動・その他	摂津市史編さん委員
所属学会	日本史研究会、史学研究会、教育史学会、女性史総合研究会
キーワード	高等教育史、近代日本のキリスト教、同志社、アメリカン・ボード

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115023/115023_Researcher.html

ハラ ダ　タカ シ
原田　隆史

Takashi HARADA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	免許資格課程センター/総合政策科学研究科　教授
研究分野	図書館情報学
研究活動	現代社会では、大量の情報を取り扱うために情報技術を用いた使いやすい仕組みが構築されています。図書館の貸し出しは図書と学生証のIDを読み取るだけで完了しますし、Googleのような検索エンジンは今やビジネスにも不可欠の存在となっています。このような大量の情報を取り扱う仕組みについて、小説を感性から検索するシステムとはどのようなものか、地方自治体の条例を横断的に検索するためにはどうしたらよいか、安価で使いやすい図書館システムを提供するためにはどうしたら良いか、など幅広い範囲の研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]『図書館情報技術論』(共著) 樹村房, 2014 [論文]「電子書籍フォーマットの動向と学術情報流通への課題」『情報知識学会誌』20, 4, 383-390, 2010 「進歩する図書館システム」『情報の科学と技術』, 61, 5, 182-186, 2011 「絵本における特徴画像の分析」『教育文化』22, 125-147, 2013 「学校図書館における書誌データの自動取得」『学校図書館』765, 90-94, 2014
社会活動・その他	国立国会図書館非常勤調査員 国立女性教育会館女性アーカイブセンター資料選定委員
所属学会	日本図書館情報学会、三田図書館情報学会、情報知識学会、日本心理学会、情報ネットワーク法学会　など
キーワード	図書館、図書館システム、情報システム

http://www.slis.doshisha.ac.jp/~ushi/
http://www.slis.doshisha.ac.jp/
http://www.slis.doshisha.ac.jp/grad/

ナカ セ　コウイチ
中瀬　浩一

Koichi NAKASE

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	免許資格課程センター　准教授
研究分野	特別支援教育、聴覚障がい教育、教育オーディオロジー
研究活動	聴覚障がい教育を中心とした特別支援教育に関する研究テーマとしています。補聴器や補聴援助システム、きこえに関する評価や音環境の整備などの教育オーディオロジーと、保護者や教員への支援に関する実践的な研究を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]「福祉技術ハンドブック−健康な暮らしを支えるために−」(分担執筆), 朝倉書店, 2013 [論文]「聴覚障がい乳幼児の保護者が抱く聴覚保障に関わる疑問−聾学校聴能担当者に寄せられた質問内容の検討−」, Audiology Japan, 58, 3, 206-213, 2015. 「聴覚特別支援学校(聾学校)による特別支援学校への支援の有用性について」, ろう教育科学, 57, 2, 73-83, 2015.
社会活動・その他	日本教育オーディオロジー研究会副代表理事
所属学会	ろう教育科学会、日本聴覚医学会、日本教育オーディオロジー研究会、日本特殊教育学会
キーワード	聴覚障がい、教育オーディオロジー、特別支援教育

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115162/115162_Researcher.html

オオハシ　タダ シ
大橋　忠司

Tadashi OHASHI

講演
研修
コンサルティング
コメンテーター

所属・職名	免許資格課程センター　教授
研究分野	生徒指導論、特別活動論
研究活動	いじめの未然防止の発想に立った取組、すなわち軽微な行為が深刻ないじめへと発展しない学級づくりについて、生活質問紙の活用に視点を当てて研究しています。子ども達の居場所になり、仲間づくりの基盤となる学級が、一人一人が安心して暮らせる学級となることが大切です。そのため、生活質問紙をすべての教職員で情報を共有し、組織として対応できるような仕組と一人一人を大切にする実践的な取組も研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	①論文名　いじめの未然防止の発想に立った学級づくりと特別活動（学級活動）－生活質問紙（クラスマネジメントシート）の活用による学級経営－ 2015年　同志社大学　教職課程年報第5号
社会活動・その他	日本生徒指導学会関西地区研究会　副会長 クラスマネジメントシート協力者会議 副座長 元　生徒指導提要（文部科学省）の作成に関する協力者会議 協力者 元　京都市立中学校生徒指導研究会 会長
所属学会	日本生徒指導学会
キーワード	生徒指導、特別活動、いじめ、不登校、問題行動

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115161/115161_Researcher.html

サ トウ　ショウ
佐藤　翔

Sho SATO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	免許資格課程センター　助教
研究分野	図書館情報学、人文社会情報学
研究活動	人が情報をどのように利用しているか、その行動はどのような要素に影響されているかについて、多様な手法を用いて研究しています。現在はアクセスログに基づく情報検索システムの利用研究、視線追尾装置を用いた情報閲覧時の人の注視点の研究を主要なテーマとしつつ、図書館の蔵書構築に関する研究や研究評価活動に関しても扱っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「PLOS ONEのこれまで，いま，この先」『情報管理』57（9）607-617　2014年12月 [研究発表]「ブラウジング時に人はどのように書架を見ているのか:視線追尾装置を用いた書架閲覧実験」第62回日本図書館情報学会研究大会 2014年11月29日 [著書]『情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー』（共著）技術評論社 2014年12月
社会活動・その他	国公私立大学図書館協力委員会　国立情報学研究所　連携・協力推進会議　機関リポジトリ推進委員会 委員、ウェブサイエンス研究会　幹事、情報メディア学会　研究大会委員
所属学会	日本図書館研究会、情報知識学会、情報メディア学会、三田図書館・情報学会、日本図書館情報学会
キーワード	計量書誌学、アウトソーシング、機関リポジトリ、学術情報流通、大学図書館、情報行動、書架、アクセスログ分析、視線追尾

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113014/113014_Researcher.html
http://d.hatena.ne.jp/min2-fly/
https://researchmap.jp/min2fly/

ヒラ　ミユキ
平　弥悠紀

Miyuki HIRA

講演

所属・職名	日本語・日本文化教育センター　教授
研究分野	日本語史、日本語教育
研究活動	日本語の擬音語・擬態語を歴史的に明らかにすることを研究テーマとしています。各時代に刊行された辞書やその他の文献によって、各時代の擬音語・擬態語を体系的に見ること、また、日本語の歴史の中でどのように変遷を遂げて現代語が形成されたのか、通時的、共時的な観点から明らかにしたいと考えています。また、日本語学習者にとって、擬音語・擬態語は身につけることが難しいと言われていますが、どのように教えるべきかにも課題として取り組み、研究によって明らかにしたことを、日本語教育の現場に還元することを目標としています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「『リ』を含む現代音象徴語（『日本語学と言語学』明治書院、pp.381-401、2002） 『Aリ』語基の現代音象徴語」（『同志社大学日本語・日本文化研究』第7号、pp.1-16、2009）
所属学会	日本語学会、日本語教育学会
キーワード	擬音語・擬態語（オノマトペ・音象徴語）、国語史、日本語教育、辞書

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/199017/199017_Researcher.html

キタニ　マキコ
木谷　真紀子

Makiko KITANI

講演
研修
学術調査
コメンテーター
華道家元池坊、茶道裏千家の教授資格有

所属・職名	日本語・日本文化教育センター　准教授
研究分野	日本近代文学
研究活動	三島由紀夫を主な研究対象としています。中でも「三島歌舞伎」と称される三島の書いた六作の歌舞伎作品や、『近代能楽集』の諸作など演劇作品を中心に、当時の社会背景をふまえた新たな視点で研究することを課題としてきました。さらに材を得た古典や伝説、口碑など、日本文学を縦断的に捉え、三島がどのように作品化したかという分析や考察も行っております。また夏目漱石など明治の文豪の諸作や、文学による日本語教育についての研究も、今後の目標としています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	〔著書〕『三島由紀夫と歌舞伎』翰林書房、2007 〔論文〕「古典」「演劇」『21世紀の三島由紀夫』翰林書房、2015、274～277頁、294～297頁 「『道草』が描いた<家族>―明治三十年代から大正初期を視座として」『『道草』論集　健三のいた風景』和泉書院、2013 、201～221頁 「三島由紀夫『絹と明察』論」『近代文学の中の〝関西弁〟―語る関西／語られる関西―』和泉書院、40～60頁
社会活動・その他	行定勲監督「春の雪」（東宝系）、浜本正機監督「あかね空」の京ことば指導。公益法人・池坊華道会に2009～2011年まで在職し、高校生のいけばなコンクール「花の甲子園」や京都市教育委員会野外活動施設「花背山の家」における宿泊学習でのいけばなのプログラムに携わっておりました。
所属学会	日本近代文学会、日本文学協会、昭和文学会、芸術至上主義文芸学会、歌舞伎学会
キーワード	日本近代文学、演劇、伝統芸能・文化、映画

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115146/115146_Researcher.html

マツモト　シュウスケ
松本　秀輔

Shusuke MATSUMOTO

研修
コメンテーター

所属・職名	日本語･日本文化教育センター　准教授
研究分野	日本語文法、日本語教育
研究活動	日本語の表現文型･複合助詞･機能語類、特に「によって」「にとって」「にして」「として」など形式および意義の類似するそれらの構文的特徴や意義的特徴について、外国人学習者への教授項目のポイントとなる助詞の役割を中心に、整理･分析を行っています。日頃は主として外国人留学生に対する教育に携わっており、常に日本語教育発展への寄与を念頭に置きつつ、言葉、表現そのものの特徴の解明とともに、日本語教育の現場で生じる様々な課題解決への道を目指しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	「『かわりに』をめぐって」『比較文化研究』91（2010）、「日本語文型表現『によって』『によっては』の意味･用法について」『同志社大学日本語･日本文化研究』8（2010）、「『として』と『に』の交替について」『比較文化研究』94（2010）、「受動文における動作主表示のニ格―働きかけの主を表すということ―」『同志社大学留学生別科紀要』創刊号（2001）、「韓国の初級日本語教材における文化語の選定に関する研究」（共著）『日語教育』14（1997）、『豊富な例文で学ぶ　新中級日本語』（共著）ふくろう出版（2012）
所属学会	日本語学会、日本語教育学会、日本比較文化学会
キーワード	日本語学、文法、助詞、日本語教育、教材開発

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/111021/111021_Researcher.html

バン　ミドリ
伴　碧
Midori BAN

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	研究開発推進機構　特別任用助教
研究分野	発達心理学
研究活動	1.乳幼児の想像力の発達 2.Human-Robot interaction 3.子育て支援
主要な業績（著作・論文・研究発表）	1.大人によるふりシグナルの提示は子どものふり行動を促すか?, 伴碧・内山伊知郎, 心理学研究, 86, pp.333-339, 2015 2.Mothers' adjustment of behavior in pretend play, Ban. M., & Uchiyama. I., North American Journal of Psychology, 17, pp.17-26, 2015
社会活動・その他	1.同志社大学こころの生涯発達研究センター　研究員 2.大阪大学大学院工学研究科知能・機能創成専攻　招へい研究員 3.京都市1歳半検診心理A　非常勤心理士（～2014年）
所属学会	日本心理学会、日本発達心理学会、日本小児保健協会
キーワード	乳幼児の想像力の発達、Human-Robot interaction、子育て支援

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115203/115203_Researcher.html

フジオカ　エミヨウ
藤岡　慧明
Emyo FUJIOKA

講演
研修
学術調査

所属・職名	研究開発推進機構　助手
研究分野	生物音響学、計測工学
研究活動	コウモリの音源定位機構（エコーロケーションシステム）およびそれに関わる行動の工学的応用を指向した研究を行っています。特に、自然環境下におけるコウモリの超音波センシング行動に関して、実験的・数理的に研究しています。具体的には、標的探索および追跡飛行時の三次元音響動態計測、マルチターゲットに対する軌道計画および音響センシングに関する数理モデリング分析、などを行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	“Rapid shifts of sonar attention by Pipistrellus abramus during natural hunting for multiple prey, ” Emyo Fujioka et al., Journal of the Acoustical Society of America, Vol. 136, Issue 6, pp.3389-3400, 2014. “Echolocation and flight strategy of Japanese house bats during natural foraging, revealed by a microphone array system, ” Emyo Fujioka et al., Journal of the Acoustical Society of America, Vol. 129, Issue 2, pp. 1081-1088, 2011.
所属学会	アメリカ音響学会、日本バイオロギング研究会、日本音響学会
キーワード	生物ソナー、コウモリ

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114205/114205_Researcher.html
http://www1.doshisha.ac.jp/~bioinfo/Fujioka.html

ハシ ノ クチ　ミチヒロ
橋之口 道宏

Michihiro HASHINOKUCHI

講演
学術調査
共同研究

所属・職名	研究開発推進機構　特定任用研究員（准教授）
研究分野	電池、燃料電池、表面反応
研究活動	アンモニアを直接燃料とする固体酸化物燃料電池（SOFC）の基本技術の開発を行っています。水素をエネルギーとして利用する水素エネルギー社会では、水素が中心的な役割を果たしているが、水素は貯蔵、輸送の効率が低いという問題点があります。そこで、貯蔵、輸送の点で優れたアンモニアに着目し、アンモニアから直接高効率にエネルギーを取り出すためのSOFC用燃料極触媒の開発しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	［論文］「Enhancement of anode activity at Ni/Sm-doped CeO2 cermet anodes by Mo addition in NH3-fueled solid oxide fuel cells」『Solid State Ionics』（2015）doi:10.1016/j.ssi.2015.07.021.
所属学会	電気化学会、応用物理学会、日本真空学会
キーワード	固体酸化物燃料電池、リチウムイオン電池、表面化学、触媒反応

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114182/114182_Researcher.html

ヒロ ノ　モリトシ
廣野 守俊

Moritoshi HIRONO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	研究開発推進機構　特定任用研究員（准教授）
研究分野	神経生理学、神経薬理学
研究活動	ニューロンの活動電位は脳神経の情報処理を担います。その伝播を制御するチャネルについて脳切片に電気生理学的手法を適用して研究を進めています。 セロトニンによる小脳機能の修飾機構を解明するため、まばたきを画像取得して解析する瞬目反射条件づけシステムを構築しています。またモノアミンによる小脳抑制性シナプス伝達の修飾機構について調べています。小脳依存的な精神疾患の原因究明にかかわるものと考えられます。 「活性アミンに関するワークショップ」の世話人をしています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	論文 1)"BK channels localize to the paranodal …." J Neurosci 2015. 2)"mGluR1-mediated excitation of cerebellar …." PLoS ONE 2014. 3)"Developmental α2-adrenergic regulation …." Neuroscience 2014. 4) "Type 1 inositol trisphosphate receptor regulates cerebellar …." J Neurosci 2013. 5)"Age-dependent impairment of eyeblink …." PLoS ONE 2013. "Cerebellar globular cells receive monoaminergic …." PLoS ONE 2012. 総説「多様なニューロンにより精緻化される小脳神経回路」生体の科学 2011.
所属学会	日本神経科学学会、日本生理学会、日本生物物理学会、日本耳科学会、Society for Neuroscience
キーワード	小脳、小脳運動学習、セロトニン、GABA、瞬目反射条件づけ、モノアミン、神経回路、抑制性シナプス伝達、ニューロン、活動電位、跳躍伝導、チャネル、聴平衡覚器官、有毛細胞

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112210/112210_Researcher.html
http://www.researchgate.net/profile/Moritoshi_Hirono
http://researchmap.jp/m_hirono/

イワツキ　シン ヤ
岩月　真也

Shinya IWATSUKI

講演
学術調査

所属・職名	研究開発推進機構　助手
研究分野	労使関係論、人的資源管理論、教育学
研究活動	現在、日米の教員の給与・人事制度は決定的に何が違うのか、その違いはなぜ生じるのかについて研究しています。主として、給与・人事制度はどのような仕組みで運用されているのか、またそれらの制度がどのような仕組みで設計されているのかに焦点を当てています。日米の教員組合、教育委員会、校長、現場の教員に聞き取りを行い、一歩ずつ明らかにしてくスタイルをとっております。この研究を通して、日米の教員の教育力向上に資する給与・人事制度の構築に寄与したいと考えております。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	論文 「賃金と教員評価との結合の仕組みに関する一考察―東京都の賃金・人事制度を素材に―」『評論・社会科学』、同志社大学社会学会、第112号、pp.15-33、2015年 「勤評闘争下における愛媛県の教師たちの抵抗の源泉―職場の手記を手掛かりに―」、『評論・社会科学』、同志社大学社会学会、第103号、pp.89-113、2012年 「学校現場における秩序と評価の整合性―A県とB県の小学校長による評価を中心に―」、『評論・社会科学』、同志社大学社会学会、第84号、pp.207-241、2008年
所属学会	社会政策学会、日本労務学会、日本教育行政学会、日本教育経営学会、日本教育社会学会
キーワード	労使関係、教員給与、教員評価、国際比較

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115207/115207_Researcher.html

カル ベ　フユ キ
苅部　冬紀

Fuyuki KARUBE

講演
研修
コメンテーター

所属・職名	研究開発推進機構　特定任用研究員（准教授）
研究分野	神経科学
研究活動	解剖学や形態学、あるいは直接神経細胞の電気的活動を記録することにより、脳の神経細胞の間の回路を調べ、その機能的あるいは病理的な意義を考え、医学や生物学に還元したいです。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	1.Morphological elucidation of basal ganglia circuits contributing reward prediction. doi: 10.3389/fnins.2015.00006. eCollection 2015. 総説 2.The micro-circuitry of the basal ganglia in relation to cortical innervation. *Karube F. NIPS International Workshop　招待講演 2015年 3.Anatomical aspect of the basal ganglia circuitry, in relation to cortical projection. *Karube F. and Fujiyama F. 第37回日本神経科学大会シンポジウム招待講演2015年
所属学会	日本神経科学学会;　Society for Neuroscience
キーワード	大脳皮質、大脳基底核、神経回路、パーキンソン病、光遺伝学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112199/112199_Researcher.html
http://ffujiyam.doshisha.ac.jp/

カワグチ　シン ヤ
川口　真也

Shinya KAWAGUCHI

所属・職名	研究開発推進機構　特定任用研究員（准教授）
研究分野	神経生物学
研究活動	神経細胞間の情報伝達に関する研究を行っています。 特に、運動の制御を担う小脳の神経回路に焦点を当てて、電気生理学や蛍光イメージング等の手法を用いて研究しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	論文「Neuron」85 1273-1288 2015 論文「J Physiol.」592 4891-4909 2014 論文「J Physiol.」591 1707-1730 2013
所属学会	日本神経科学学会　日本生理学会

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112196/112196_Researcher.html

キノシタ　ケン
木下　健

Ken KINOSHITA

講演
学術調査

所属・職名	研究開発推進機構　助手
研究分野	現代日本政治、国会、政治コミュニケーション
研究活動	「議会不信は制度か文化か―公共的討議による克服の可能性―」をテーマとして、研究を行っています。議会に対する不信は、代議制民主主義に代わる制度がない以上、重要な問題であるといえます。特に日本は他の先進諸国と比較しても議会に対する不信が強くなっており、政治制度に加えて、政治文化によって懐疑的になっております。この問題に対して、公共的討議の可能性を提示し解決を試みたいと思っております。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[著書]『二院制論―行政府監視機能と民主主義』信山社, 2015年 [論文]「政治討論番組における会話分析ー安倍首相出演時のケース・スタディー」『同志社政策科学研究』第17巻, 第1号, 2015年9月 「国会審議の映像情報と文字情報の認知的差異―政治コミュニケーション論による実証分析」『レヴァイアサン』第56号, 2015年4月 「公共的討議は「代表性」の確保に成功したか-「エネルギー・環境の選択肢に関する討論型世論調査」に関する定量評価」（共著）『同志社政策科学研究』第16巻2号, 2015年3月
所属学会	IPSA、ISPP、公共選択学会、日本公共政策学会、日本政治学会、情報コミュニケーション
キーワード	日本政治、議会、政治コミュニケーション、政治意識、熟議

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114202/114202_Researcher.html

キタムラ　テツ
北村　徹

Tetsu KITAMURA

講演
学術調査
コメンテーター

所属・職名	研究開発推進機構　助手
研究分野	ヘブライ語聖書(旧約聖書)の預言書、特にエゼキエル書
研究活動	ヘブライ語聖書(旧約聖書)の預言書のひとつ、エゼキエル書に関心があります。自らが生きている世界の前提が根底から破壊されるような状況において、その破壊を超越との関わりの中でいかに超えていくのか。このようなテーマについて、バビロニアによる国の滅亡に直面し、また、祭司と預言者の二重の立場に在ったエゼキエルという人物を通して考察を試みています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	(論文) ・「預言者エゼキエルの祭司性 −その再評価と「反ユダヤ主義」という文脈−」『京都ユダヤ思想』第5号、京都ユダヤ思想学会、2015年。 ・「預言者エゼキエルの祭司性 −「再活性化運動」の観点から−」『旧約学研究』第11号、日本旧約学会、2014年。 ・「新生のイスラエルを視た者−内的創造過程としてのエゼキエル理解−」『旧約学研究』第7号、日本旧約学会、2010年。 ・「エゼキエルの律法再考−新しい文化的統一体としての理解−」『基督教研究』第72巻2号、2010年。
社会活動・その他	・日本聖書協会主催の聖書セミナーの講師を担当(2015年、於神戸バイブルハウス、全5回)。
所属学会	日本旧約学会、京都ユダヤ思想学会、日本聖書学研究所、日本基督教学会、「宗教と社会」学会
キーワード	預言とその社会的機能、預言者の心理学、ヘブライ語聖書(旧約聖書)、滅びと新生、俗と超越およびその狭間、伝承

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115204/115204_Researcher.html

コ ニシ　ユク オ
小西　行郎

Yukuo KONISHI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	研究開発推進機構　チェア・プロフェッサー教授
研究分野	赤ちゃん学、小児神経学、発達行動学
研究活動	小児神経科医としてスタートして以来、一貫して子どもの発達について研究を続けています。2001年、ヒトの心の起源に迫るためには異分野の研究者を融合した新しい学問領域が必要であるとの思いから日本赤ちゃん学会を設立しました。最近では胎児期からの発達原理とその障害発生のメカニズムの解明という大きなテーマに向かって、医学・心理学から情報工学や物理学そして当事者までを含めたチームを構築して研究を進め、一方で、講演会や講座を開き、あるいは招聘に応じ、育児や保育・教育の現場に研究成果を分かりやすく伝えています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	“Specific characteristics of spontaneous movements in preterm infants at term age sre associated with developmental delays at age 3 years” (共著) Developmental Medicine & Child Neurology, 55, 2013、“Jerky spontaneous movements at term age in preterm infants who later developed cerebral palsy” (共著)Early Human Development, 90, 2014 著書:『赤ちゃんと脳科学』集英社新書2003、『発達障害の子どもを理解する』集英社新書2011、『今なぜ発達行動学なのか』診断と治療社2013
社会活動・その他	日本学術会議連携会員、日本赤ちゃん学会理事長、一般社団法人日本赤ちゃん学協会代表理事、日本発達神経科学学会理事、日本小児神経学会名誉会員
所属学会	日本赤ちゃん学会、日本小児科学会、日本小児神経学会、日本発達神経科学学会、日本子ども学会
キーワード	赤ちゃん学、発達、発達障害、睡眠

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/108184/108184_Researcher.html
http://akachan.doshisha.ac.jp/index.html
http://devsci.isi.imi.i.u-tokyo.ac.jp/

マ ナベ　ヒロユキ
眞部　寛之

Hiroyuki MANABE

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	研究開発推進機構　特定任用研究員（准教授）
研究分野	神経生理学
研究活動	げっ歯類を用いた行動下電気生理学的手法を主に用いて、匂いを摂食モチベーションに変換する神経回路メカニズムの研究と、睡眠時の脳活動に着目した嗅覚記憶固定化メカニズムを研究しています。嗅覚系をモデル系とし、我々が感覚入力から適切な行動を選択する仕組みを解明することで、我々の「心」の神経回路メカニズムの解明に繋げていきたいと考えています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文] “Olfactory cortex generates synchronized top-down inputs to the olfactory bulb during slow-wave sleep” (共著) Journal of Neuroscience, 31 (22): 8123-8133 2011 [論文] “Sniff rhythm-paced fast and slow gamma oscillations in the olfactory bulb: relation to tufted and mitral cells and behavioral states” (共著) Journal of Neurophysiology, 110: 1593-1599 2013
所属学会	日本神経科学学会、日本生理学会、北米神経科学学会
キーワード	嗅覚、モチベーション、情動、記憶、睡眠、電気生理学、光遺伝学

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115197/115197_Researcher.html

マツカワ　アン ナ
松川　杏寧

Anna MATSUKAWA

講演
研修
コンサルティング
学術調査

所属・職名	研究開発推進機構　特定任用研究員（助教）
研究分野	安全・安心の社会学
研究活動	犯罪予防、防災・減災の2つの側面から、地域コミュニティの安全・安心を推進する方法論の確立とそれを用いた地域住民のエンパワメントです。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	博士論文「社会環境犯罪学の視点から見たソーシャルキャピタルによる地域の安全・安心」 学術論文「すまい方別に見る被災者の生活再建過程の現状とその課題―宮城県名取市での被災者ワークショップのデータをもとに―」 など
社会活動・その他	京都市下京区稚松学区における災害時要援護者福祉マップ作成会議でのアドバイス、GISマッピングおよびGISに関する技術移転 京都市地域自治推進室と共同で地域の安全・安心に関する調査の実施、GIS分析と報告書の作成 「安全・安心若手研究会」会長
所属学会	地域安全学会、犯罪社会学会、社会病理学会、自然災害学会
キーワード	犯罪予防、ソーシャルキャピタル、環境犯罪学、生活再建、災害時要援護者、防災、GIS、安全・安心、社会調査

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113184/113184_Researcher.html

マツモリ　トモヒコ
松森　智彦

Tomohiko MATSUMORI

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	研究開発推進機構　特別任用助教
研究分野	文化情報学、地理情報学、考古学、高性能計算
研究活動	定量的・情報学的手法を用いた人文学研究を行っています。現在の主な研究テーマは以下。データベースと定量分析、地理情報システム(GIS)を用いた、近世・近代の物産誌研究。冷戦時の米軍偵察衛星Coronaが撮影した衛星写真の民族誌調査利用。GISを用いた考古学遺跡の分布・立地分析。人文学的対象への系統学的手法の応用。グラフィックボードを用いた高性能計算(GPGPU)。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	[論文]松森智彦 2015「系統樹による二値データの階層化と共通特性の算出」『文化情報学』第11巻第1号 pp.1-9 松森智彦ほか 2014「『防長風土注進案』の産物記載にみる食品目録(2)—魚介類・海藻類を中心に—」『山口大学教育学部研究論叢』第64巻 pp.83-96 [口頭発表]松森智彦2015 "Use of Aerial Photographs taken by Corona Satellites in an Ethnographic Survey: Amur Region in the Russian Far East" CHAGS11.
社会活動・その他	[依頼寄稿]《巻頭言》「分類と階層化」(3,014字)一般財団法人人文情報学研究所メールマガジン「人文情報学月報」第42号, 松森智彦(2015年1月28日, http://www.dhii.jp/DHM/dhm42-1)。 [新聞取材] 読売新聞「遺跡や文献GISで読む」2011年3月22日 夕刊(3版)7面
所属学会	文化情報学会、日本地理学会、人文科学とコンピュータ研究会、情報処理学会
キーワード	文化系統学、物産学、地理情報システム(GIS)、リレーショナル・データベース、GPGPU

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114197/114197_Researcher.html

ミドリカワ　ミツハル
緑川　光春

Mitsuharu MIDORIKAWA

所属・職名	研究開発推進機構　特定任用研究員(助教)
研究分野	神経生理
研究活動	神経細胞間の情報伝達に重要な役割を果たしているシナプス伝達について、主にシナプス前部側の機能に着目して研究を行っています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	Midorikawa M, Okamoto Y, Sakaba T. (2014). Developmental changes in Ca2+ channel subtypes regulating endocytosis at the calyx of Held. J Physiol. 592(Pt 16):3495-510.

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112197/112197_Researcher.html

ミヤタケ　ヨシユキ
宮武　慶之

Yoshiyuki MIYATAKE

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	研究開発推進機構　助手
研究分野	大燈国師墨蹟、茶の湯文化史、新発田藩溝口家に関する研究、売立目録を活用した研究
研究活動	大徳寺開山である大燈国師の墨蹟研究および、茶の湯文化における受容史の研究。 新発田藩溝口家の蔵帳を起点とした所蔵品の研究と、同家の茶の湯文化研究。 売立目録に掲載される墨蹟図版のデータベース化と、その受容史の研究。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	（論文）「明治期における溝口家の道具移動史」『人文』第13号、「閑極法雲・東澗道順両筆墨蹟について」『アート・リサーチ』第14号 （博士論文）「宗峰妙超墨蹟の研究―茶の湯文化における受容史―」（同志社大学） （研究発表）「溝口家の歴代藩主の収集した茶道具とコレクション形成」、平成26年度茶の湯文化学会大会 （招待講演）「溝口家の歴代藩主の収集した茶道具とコレクション形成―翠濤・溝口直諒に注目して―」、越佐文人研究会総会 （招待講演）「溝口家と小堀家―遠州所持の道具五種を起点として―」平成28年度小堀遠州顕彰会秋季講演会（予定）
社会活動・その他	研究助成 「禅宗文化における大燈国師墨蹟の位置－筆跡の検討を中心に－」、「平成24年度 財団法人髙梨学術奨励基金調査研究助成」（美術史分野） 「売立目録所載の墨蹟画像データベース構築による筆跡の検討」宮武慶之（研究代表者）、財津永次、「平成25年度公益財団法人出光文化福祉財団調査・研究事業」
所属学会	茶の湯文化学会、同志社大学文化情報学会所属
キーワード	大燈国師、美術品移動、売立目録、新発田藩、溝口家、蔵帳、茶の湯、溝口直諒、茶会、墨蹟

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115209/115209_Researcher.html

ミヤザキ　ハル コ
宮﨑　晴子

Haruko MIYAZAKI

講演
研修

所属・職名	研究開発推進機構　特定任用研究員（助教）
研究分野	病態脳科学
研究活動	大脳基底核疾患のひとつであるハンチントン病の発症メカニズムを明らかにするため、モデルマウスを使って遺伝子発現解析を行っています。また大脳基底核の投射線維が無髄線維であることを最近明らかにし、その機能解析を行っています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	Miyazaki H, Oyama F, Inoue R, et al. Singular localization of sodium channel beta4 subunit in unmyelinated fibres and its role in the striatum. Nat Commun. 2014;5:5525.
所属学会	日本神経科学学会
キーワード	ハンチントン病、ナトリウムチャネル、無髄神経

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115199/115199_Researcher.html

オオザワ　カオリ
大澤　香

Kaori OZAWA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	研究開発推進機構　特別任用助教
研究分野	聖書神学、聖書解釈学
研究活動	キリスト教の聖書解釈について、ユダヤ教の聖書解釈との関係、解釈の歴史と現代の解釈との関係などをテーマに研究をしています。これらのテーマをつなぐ視点として、「受容美学」に注目しています。各学会・学術誌を通して研究成果を発信しつつ、聖書翻訳や様々な聖書の「読み」の現場ともつながりながら研究活動を行なっています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	[論文]「『聖霊』の系譜―初期ユダヤ教・キリスト教における異邦人理解とルカの用法―」『基督教研究』第76号第2号 19-38 2014 「トビト記における『統合』と『癒し』への希望―物語を読むことから生まれる力」『旧約学研究』第10号 19-37 2013 「場所としてのテクスト―創世記22章における応答語ヒンネニーの意味とその脱構築を通して」『基督教研究』第72巻第1号 19-34 2010
社会活動・その他	キリスト教牧師
所属学会	日本基督教学会、日本旧約学会、日本新約学会、関西新約聖書学会、京都ユダヤ思想学会、Society of Biblical Literature
キーワード	キリスト教聖書解釈学、初期ユダヤ教、受容美学、聖書の「読み」

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115201/115201_Researcher.html

タカハシ　ススム
髙橋　晋

Susumu TAKAHASHI

所属・職名	研究開発推進機構　特定任用研究員（准教授）
研究分野	システム神経科学
研究活動	脳科学分野や医工連携分野において、神経科学、情報工学、実験心理学を基盤とすることで、(1)海馬の場所細胞活動からエピソード記憶の神経基盤を解明する研究、(2)Brain-machine interfaceと脳深部刺激法を組み合わせたパーキンソン病治療のための革新的手法の開発を実施しています。
主要な業績（著作・論文・研究発表）	論文「Hierarchical organization of context in the hippocampal episodic code」 eLife, 2:e00321, 2013. 論文「Episodic-like memory trace in awake replay of hippocampal place cell activity sequences」 eLife 4:e08105 2015.

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/112198/112198_Researcher.html

タカ ノ　ユウ ジ
高野　裕治

Yuji TAKANO

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	研究開発推進機構　特定任用研究員(准教授)
研究分野	心理学、神経科学
研究活動	“こころ”の仕組みについて、心理学と神経科学の手法を組み合わせながら、研究してきました。“こころ”は実際には目にすることができないので、実験・調査を通じてデータとして研究します。ヒトのみを対象とすると“こころ”の仕組みを脳機能レベルで研究するのに制限があるので、ヒトと類似した脳構造をもつ実験動物のラットでも研究します。最近では、“こころ”の最小単位に興味があり、生まれたばかりの赤ちゃんや、蚕の研究にも着手しています。“こころ”の機能の中では、とくに社会性、情動、記憶、性格について関心があります。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	【論文】 “Receiving of emotional signal of pain from conspecifics in laboratory rats”(共著) Royal Society Open Science 2, 140381, 2015. “An experimental task to examine the mirror system in rats”(共著) Scientific Reports 4, 6652, 2014.
所属学会	日本心理学会、日本神経科学会、日本依存神経精神科学会
キーワード	社会性、情動、記憶、性格、脳、実験動物、依存症、認知症、創薬、ニューロマーケティング

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115183/115183_Researcher.html
http://researchmap.jp/theta

ウ ダ　ヒトミ
宇多　瞳

Hitomi UDA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	研究開発推進機構　助手
研究分野	シュルレアリスム研究、美学思想史、芸術論
研究活動	もともと絵を描くことと見ること、創作行為全般に関心があり、同志社大学大学院でフランス・アヴァンギャルドの芸術理論の研究を始めました。モンペリエ第3大学で修士号(l'esthétique)を取得。博士論文では、シュルレアリスム運動の提唱者であるブルトンと、キュビスム批評で知られる詩人ルヴェルディの芸術理論において「リリスム」が通常理解される「抒情」とは全く異なる意味を与えられていることに着目し、本概念を通して、20世紀初頭の芸術思想における詩・イメージ・主体の相関を考察しました。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	1.「『リリスム〔lyrisme〕』概念の変容とその意義:1910−20年代の芸術諸理論において」、『美學』、第245号、pp 13-22、2014 2.「ブルトンの芸術論とルヴェルディのリリスム概念」、同志社大学課程博士論文、2014 3.「ポエジーとリリスム:文学・絵画の境界なき時代の批評理論」、『美学芸術学』、第28号、pp 16 - 35、2013 4.「誰のものでもない都市:ブルトン『ナジャ』と精神分析的都市論」、『文化学年報』、第61輯、pp 321 - 339、2012
社会活動・その他	美学芸術学会学生幹事(2012-2013)、美学会西部会庶務幹事(2014-2015)、同志社大学人文科学研究所兼担研究員(2013-現在)、国際ロータリー第2650地区財団学友会理事(2012-現在)
所属学会	美学会、美学芸術学会、美術史学会、日本フランス語フランス文学会
キーワード	アンドレ・ブルトン、ピエール・ルヴェルディ、リリスム、詩的主体、イメージ、シュルレアリスム

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114200/114200_Researcher.html

ヤマナカ　トモユキ
山中　智行

Tomoyuki YAMANAKA

講演
研修
学術調査
コメンテーター

所属・職名	研究開発推進機構　特定任用研究員(准教授)
研究分野	神経科学、神経病態学、分子生物学
研究活動	パーキンソン病やハンチントン病などの神経変性疾患について、未だ根本的治療法は開発されておりません。私は、これらの疾患がどのようにして発症するのか、その分子メカニズムについて主に遺伝子発現異常を中心に解析を進めており、治療標的となるような遺伝子、タンパク質を同定することを目指しています。得られた成果は学会、論文、ネットを通じて公表しております。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	1. "NF-Y inactivation causes atypical neurodegeneration characterized by ubiquitin and p62 accumulation and endoplasmic reticulum disorganization." Nat Commun. 2014(共著) 2. "Mutant huntingtin fragment selectively suppresses Brn-2 POU domain transcription factor to mediate hypothalamic cell dysfunction." Hum Mol Genet. 2010(共著) 3. "Mutant Huntingtin reduces HSP70 expression through the sequestration of NF-Y transcription factor." EMBO J. 2008(共著)
所属学会	日本神経科学学会、日本細胞生物学会、日本薬学会
キーワード	脳科学、神経変性疾患、転写因子、遺伝子発現

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115198/115198_Researcher.html

ヨネモト　マサカズ
米本　雅一

Masakazu YONEMOTO

講演
コメンテーター

所属・職名	研究開発推進機構　助手
研究分野	古代ローマ史
研究活動	共和政ローマの政治史、特に広場で行われた政治演説を研究対象としています。 演説の場における演説者と聴衆の関係性や演説というメディアを通した民衆の政治参加に注目することで、共和政の政治の特色を明らかにしていく研究をすすめています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	[論文] 「コンティオの聴衆―共和政ローマの政治文化における政治と民衆―」『文化史学』59号、149-171頁、2003 「共和政末期の立法過程におけるコンティオ―ガビニウス法(前六七年)のコンティオについて―」『文化学年報』55号、119-143頁、2006 「P・クロディウス＝プルケルのコンティオ戦略」『文化史学』64号、49-72頁、2008 「キケロの「コンティオ」と共和政末期ローマの政治文化―修辞学テクストのなかのコンティオ―」『西洋史学』233号、20-38頁、2009
所属学会	文化史学会、西洋史学会
キーワード	古代ローマ、政治史、文化史

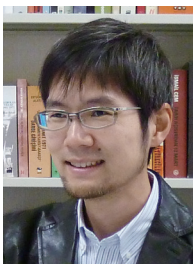
https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/115206/115206_Researcher.html

イデイリス　ダニシマズ
Idiris DANISMAZ

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	高等研究教育機構　特定任用研究員(助教)
研究分野	イスラーム地域研究、イスラーム神学
研究活動	トルコのイスラーム文化、とりわけ、スーフィズム(イスラーム神秘主義)に関心を持っています。18世紀のオスマン朝のスーフィー(神秘主義者)のブルセヴィー(1725年没)思想について研究してきました。最近では、スーフィズムが現代トルコ社会の中で如何に継承され、実践されているかについてトルコをフィールドに研究を続けています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	[単編] An Analytic Framework of "the Turkish Model", The Turkish Model: Reality and Applicability, ed. Idiris Danismaz, Kyoto, 2015. (pp. 8-28) [学術論文] (1)Civil Society Activities in Turkey: the "Hizmet" Movement and Arab Muslims Intelelctual's Increasing Interest in the "Turkish Model", Mediterranean Review, vol.6, no:1, pp. 65-82. (2)「イスラーム世界と教育―トルコの奉仕運動のグローバル的教育支援の理念と実践」『比較教育学研究』第50号(2015年)
社会活動・その他	NPO法人大阪トルコ日本協会の理事長として、文化講座、講演会、交流会などの様々なイベントにおいて行うトルコと日本の文化の双方的な紹介活動を通して、他者への正しい理解と多文化共生に貢献しています。
所属学会	日本中東学会、日本オリエント学会
キーワード	イスラーム地域研究、トルコ文化、イスラーム神秘主義、信仰に基盤を持つ市民社会運動、市民社会運動、イスラーム教育、イスラーム神学、イスラーム諸学、文系博士のキャリア形成

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/113202/113202_Researcher.html
http://www.torukonihon.org/about/



イワサカ　マサミチ
岩坂　将充

Masamichi IWASAKA

講演
研修
コンサルティング
学術調査
コメンテーター

所属・職名	高等研究教育機構　特定任用研究員(准教授)
研究分野	政治学(民主化・政軍関係・対外政策)、中東イスラーム地域研究、現代トルコ政治研究
研究活動	現代トルコ政治、特に民主化や政軍関係、EU・中東諸国などとの対外関係を研究テーマとしています。インタビューを含む定期的な現地調査や情報分析をもとに、刻一刻と変化する政治動向を正確に把握するよう努めています。 近年は、民主化において司法府が果たす役割や執政府の変容を中心に研究しており、国際比較を念頭に置いた共同研究にも積極的に取り組んでいます。また、現在のトルコ情勢ついてのコメント・解説も行っています。
主要な業績(著作・論文・研究発表)	"A Turkish Model of Civilianization?: The Recent Development of Democracy in Turkey," The Turkish Model: Reality and Applicability, Doshisha University 2015 「トルコにおける『民主化』の手法―文民化過程にみる『制度』と『思想』の相互作用」『国際政治』178 2014 「『アラブの春』をめぐるトルコの対外政策―経済・安全保障環境の変化と中東地域秩序の今後」『中東地域秩序の行方―「アラブの春」と中東諸国の対外政策』アジア経済研究所 2013
社会活動・その他	日本中東学会第31回年次大会 公開シンポジウム総合司会 日本中東学会第31回年次大会 実行委員 Chair of the Session "On Turkey", The 10th Asian Federation of Middle East Studies Associations Conference (AFMA) Organizing Committee Member, The 10th Asian Federation of Middle East Studies Associations Conference (AFMA)
所属学会	日本中東学会、日本イスラム協会、日本国際政治学会、日本比較政治学会、日本・トルコ協会
キーワード	トルコ、中東、民主化、政軍関係、対外政策

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/114209/114209_Researcher.html